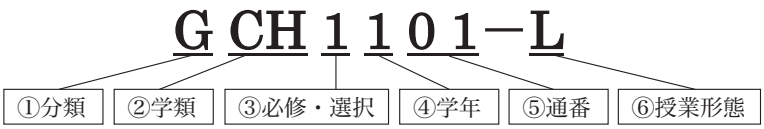
Ⅳ

講義概要

科目ナンバリングについて

本学総合人間学部では、2019年度から科目ナンバリング制度を導入しています。
科目ナンバリング導入の目的は授業科目に特定の番号を付与し分類することで、学修の段階や順序等を示し、教育プログラムにおけるカリキュラムの体系性を明示する仕組みです。
科目ナンバリングを導入することで、学生が科目の水準や専門性に応じて適切な授業科目を選択し、受講する手助けとなります。
2026年度はP86の開講科目表に科目ナンバーを掲載します。科目ナンバリングの構造は以下の通りです。



①分類
一般教養科目 …… G　　総合人間学部専門科目 …… I

②学類
〈一般教養科目〉
導入教育 …… FR（Freshman）
キリスト教教学系 …… CH（Christianity）
人文科学系 …… HU（Humanities）
社会科学系 …… SS （Social Science）
自然・情報科学系 …… NI （Natural Science&Information Technology）
外国語 …… FL （Foreign Language）
健康・スポーツ系 …… PE （Physical Education）
キャリア教育 …… CE （Career Education）
体験学修 …… EL （Experiential Learning
〈専門科目〉
社会福祉学系 …… SW（Social Work）
臨床心理学系 …… CP（Clinical Psychology）
人間学系 …… HS（Human Studies）
スピリチュアルケア科目群 …… SC（Study of Spiritual Care）
子ども支援科目群 …… CF（Child and Family Studies）
専門共通(卒業演習、卒業論文) …… AD(Advanced)

③各分類ごとの必修または選択
必修→1　　選択→2　　選択必修→3

④学年
1：大学1年次レベル
2：大学2年次レベル
3：大学3年次レベル
4：大学4年次レベル

⑤学年ごとの通番
01から始め、学年ごとに通番する。

⑥授業形態
講義 …… L （Lecture）　　演習 …… S （Seminar）
実技 …… P （Practice）　　実習 …… T （Training）

2026年度　開講科目表(2023年度以降1年次入学者、2024年度2年次編入含む)

開講科目表の見方

①必修・選択等欄：　◎印：必修　　○印：選択必修　　無印：選択　　×印：履修不可

教養(Liberal Arts)科目

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
教養科目群	総合人間学序論	2	1	前期1	◎	GFR1101-L	93
	キリスト教概論 I	2	1	前期1	◎	GCH1101-L	93
	キリスト教概論 II	2	1	後期1		GCH1102-L	94
	社会福祉原論 I	2	1	前期1	◎	GSS2101-L	95
	社会福祉原論 II	2	1	後期1		GSS2102-L	96
	心理学	2	1	前期1	◎	GHU1101-L	96
	心理学概論	2	1	後期1		GHU2101-L	97
	コミュニケーションの演習	2	1	前期1	◎	GFR1102-S	98
	データサイエンス入門	2	1	前期1	◎	GNI1101-L	99
	フレッシュマンキャリアデザイン	2	1	前期1		GFR2101-L	100
	社会人キャリアデザイン	1	1・2・3	前期1		GFR2102-L	101
	キャリアデザイン基礎	2	2・3	前期1		GCE2201-L	102
	キャリアデザイン実践	2	3	後期1		GCE2301-S	103
	コンピュータ入門	2	1・2	閉講		GNI2101-P	―
	データサイエンス基礎	2	1	後期1	◎	GNI1102-P	104
	視覚障害者 PC 入門	2	1	閉講		GNI2102-P	―
	英語 Reading	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3101-S	105
	英語 Speaking/Listening	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3102-S	106
	英語 Writing/Grammar	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3103-S	107
	英語 Speaking/Listening 演習	2	2・3	閉講	○〈1〉	GFL3201-S	―
	英語特別演習(Independent Study)	1	2・3・4	閉講	○〈1〉	GFL3202-S	―
	ドイツ語初級 I	1	1・2・3・4	前期1		GFL2101-S	108
	ドイツ語初級 II	1	1・2・3・4	後期1		GFL2102-S	109
	日本語特講(留学生) I	1	1・2	閉講		GFL2103-S	―
	日本語特講(留学生) II	1	1・2	閉講		GFL2104-S	―
	憲法	2	1・2	前期1		GSS2103-L	110
	権利擁護を支える法制度	2	1・2	前期1		GSS2104-L	110
	社会学	2	1・2	前期1		GSS2105-L	111
	社会学 II	2	1・2	後期1		GSS2106-L	112
	環境学→九州ルーテル学院大学の「環境学」を単位互換	2	1・2・3・4	閉講		GNI2103-L	―
	文化史	2	1	前期1		GHU2102-L	113
	文化人類学	2	1・2	後期1		GHU2103-L	113
	中世史との対話	2	1・2	前期1		GHU2104-L	114
	近世史との対話	2	1・2	後期1		GHU2105-L	115
	教育学	2	1・2	後期1		GHU2106-L	115
	教養としての哲学	2	1・2	前期1		GHU2107-L	116
	哲学と論理	2	1・2	後期1		GHU2108-L	117
	スポーツと健康(体育実技を含む)A	2	1・2	前期1		GPE2101-P	117
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	2	1・2	後期1		GPE2102-P	118
	音楽の基礎	2	1・2	前期1		GHU2109-P	119
	音楽の実際	2	1・2	後期1		GHU2110-P	120

教養科目まとめ
・総合人間学序論、キリスト教概論 I 、社会福祉原論 I 、心理学、コミュニケーションの演習、データサイエンス入門、データサイエンス基礎は必修。
・〈1〉英語科目のうち2単位以上を選択必修。
以上の必修、選択必修を含めて30単位以上を履修すること。

専門科目

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
社会福祉学系	社会福祉入門	2	1	後期1		ISW2101-L	121
	社会福祉の基礎	2	2	前期1		ISW2201-L	122
	ソーシャルワーク論 I	2	2	前期1		ISW2202-L	123
	ソーシャルワーク論 II	2	2	前期1		ISW2203-L	124
	ソーシャルワーク論 III	2	2	後期1		ISW2204-L	124

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
社会福祉学系	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	4	前期1		ISW2401-L	125
	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	4	後期1		ISW2402-L	126
	高齢者福祉論	2	2	後期1		ISW2205-L	127
	障害者福祉論	2	2	後期1		ISW2206-L	128
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	前期1		ISW2207-L	129
	児童・家庭福祉論	2	2	後期1		ISW2208-L	130
	地域福祉論Ⅰ	2	2	前期1		ISW2209-L	131
	地域福祉論Ⅱ	2	3	後期1		ISW2301-L	132
	社会保障論Ⅰ	2	2	前期1		ISW2210-L	133
	社会保障論Ⅱ	2	3	後期1		ISW2302-L	134
	公的扶助論	2	3	後期1		ISW2311-L	135
	更生保護制度論	2	3	後期1		ISW2312-L	136
	福祉サービスの組織と経営	2	3	後期1		ISW2303-L	137
	保健医療サービス	2	3	後期1		ISW2304-L	138
	社会福祉調査	2	3・4	後期1		ISW2305-L	139
	精神保健	2	1・2・3・4	後期1		ISW2102-L	140
	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	前期1		ISW2213-L	140
	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	後期1		ISW2214-L	141
	地域支援技法Ⅰ	2	2・3・4	後期1		ISW2215-L	142
	地域支援技法Ⅱ	2	2・3・4	後期1		ISW2216-L	143
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前期1		ISW2103-S	144
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後期1	○〈2〉	ISW3101-S	144
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2・3	前期1		ISW2217-S	145
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	前期1		ISW2306-S	146
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	3	後期1		ISW2307-S	147
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	4	前期1		ISW2403-S	148
	ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	後期1		ISW2404-S	148
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2・3	前期1		ISW2218-S	149
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	2・3	後期1		ISW2208-S	150
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	3・4	前期1		ISW2309-S	151
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	2	3・4	前期1		ISW2310-S	152
	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	1	3・4	後期1		ISW2311-S	153
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3	2・3	前期1		ISW2219-T	153
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	3・4	前期1		ISW2312-T	154
	ソーシャルワーク現場体験実習	4	3・4	通年1		ISW2313-T	155
	社会福祉特講	2	4	後期1		ISW2405-S	156
臨床心理学系	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	後期1	○〈2〉	ICP3101-S	157
	心理学的支援法	2	1	前期1		ICP2101-L	158
	心理学統計法	2	1	後期1		ICP2102-L	159
	臨床心理学概論	2	1・2	前期1		ICP2103-L	160
	カウンセリング実技の基本	2	2・3・4	後期1		ICP2201-L	160
	発達心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2202-L	161
	障害者・障害児心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2203-L	162
	関係行政論	2	2・3・4	前期1		ICP2204-L	163
	心理学研究法Ⅰ（データ解析）	2	2	前期1		ICP2205-S	164
	心理学実験	2	2	後期2		ICP2206-S	165
	心理的アセスメント	2	2・3・4	前期1		ICP2207-L	166
	心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）	2	3・4	集中		ICP2301-S	167
	公認心理師の職責	2	2・3・4	前期1		ICP2208-L	168
	精神疾患とその治療	2	2・3・4	後期1		ICP2209-L	169
	知覚・認知心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2210-L	169
	学習・言語心理学	2	2・3・4	集中		ICP2211-L	170
	感情・人格心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2212-L	171
	神経・生理心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2213-L	171
	社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2214-L	173
	産業・組織心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2215-L	174
	健康・医療心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2216-L	175
	福祉心理学	2	3・4	後期1		ICP2302-L	176
	教育・学校心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2217-L	177
	司法・犯罪心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2218-L	177
	心理演習	2	2	後期1		ICP2219-S	179
	心理実習Ⅰ	2	2	後期1		ICP2220-T	180
	心理実習Ⅱ	2	3	前期2・後期1		ICP2303-T	181
	心理検査技法演習	2	2・3・4	後期1		ICP2221-S	182
	質問紙調査法	2	3	前期1		ICP2304-S	183
	質的研究法	2	2・3・4	集中		ICP2222-L	184
	交流分析	2	2・3・4	前期1		ICP2223-L	185
	精神分析学	2	2・3・4	後期1		ICP2224-L	186
	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	前期1		ICP2225-P	187
	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	後期1		ICP2226-P	188
	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	後期1		ICP2227-P	189
	サイコドラマⅢ演習（2024年度を最後に閉講）	1	2・3・4	閉講		ICP2228-P	—
	卒業演習プレゼミナール	1	3	前期1		ICP2305-S	190
	臨床心理英語論文読解	2	2・3・4	前期1		ICP2229-L	191
	臨床心理特講（大学院進学支援講座）	1	2・3・4	前期1		ICP2230-L	192
人間学系	いのち学序説	2	1・2	後期1		IHS2101-L	192
	人間学フレッシュマンゼミ	2	1	後期1	○〈2〉	IHS3101-S	193
	旧約聖書精読	2	1・2	後期1		IHS2102-L	193
	新約聖書精読	2	2・3	後期1		IHS2201-L	194

	授　業　科　目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
人間学系	キリスト教の人間観 I　（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	後期1		IHS 2202-L	195
	キリスト教の人間観 II　（奇数年隔年開講）	2	2・3・4	2027		IHS 2203-L	―
	人間の尊厳と人権	2	2・3・4	後期1		IHS 2201-L	196
	生命倫理	2	2・3・4	前期1		IHS 2202-L	196
	いのちのキリスト教史	2	2・3・4	前期1		IHS 2204-L	198
	聖書に見るジェンダー　（偶数年隔年開講）	2	3・4	後期1		IHS 2301-L	198
	人間・いのち・世界　※前・後期リピート授業	2	3・4	前期 1・後期1	◎	IHS 1301-L	199
	食といのちと環境	2	1・2	前期1		IHS 2101-L	200
	日本の宗教	2	1	後期1		IHS 2102-L	201
	世界の宗教	2	2・3	前期1		IHS 2203-L	201
	民俗学	2	2・3	後期1		IHS 2204-L	202
	美術史	2	2・3・4	閉講		IHS 2205-L	―
	キリスト教美術特講（2026年度を最後に閉講）	2	2・3・4	前期1		IHS 2206-L	203
	キリスト教音楽実技 I	2	1・2・3・4	通年		IHS 2103-P	204
	キリスト教音楽実技 II	1	2・3・4	前期1		IHS 2206-P	205
	キリスト教音楽実技 III	1	2・3・4	後期1		IHS 2207-P	205
（スピリチュアルケア科目群）	現代スピリチュアルケア序論	2	2・3	後期1		ISC 2201-L	206
	現代日本人のスピリチュアリティ	2	3・4	前期1		ISC 2301-L	207
	キリスト教とスピリチュアルケアの実際	2	4	後期1		ISC 2401-L	207
	ターミナルケアとグリーフワーク	2	2・3・4	閉講		ISC 2202-L	―
	子どものグリーフワークとプレイセラピー（奇数年隔年開講）	2	2・3	2027		ISC 2201-L	―
（子ども支援科目群）	保育原理と保育士の専門性	2	2	前期1		ICF 2201-L	208
	保育士特講 I	2	1・2・3・4	前期1		ICF 2101-L	209
	保育士特講 II	2	1・2・3・4	後期1		ICF 2102-L	209
	子どもと家族の心理福祉の諸課題	2	2	前期1		ICF 2202-L	210
	小児と高齢者の栄養	2	2・3・4	前期1		ICF 2203-L	211
	野外活動とキャンピング（2025年度を最後に閉講）	2	1・2・3・4	閉講		ICF 2103-P	―
（卒業演習）	卒業演習 I	2	3	後期1		IAD 2301-S	212
	卒業演習 II	2	4	前期1		IAD 2401-S	213
	卒業演習 III	2	4	後期1		IAD 2402-S	214
（卒業論文）	卒業論文	4	4	通年 1		IAD 2401-S	215

専門科目まとめ
・人間学系の人間・いのち・世界を必修とする。
〈2〉社会福祉学系のソーシャルワーク演習 II、臨床心理学系の臨床心理フレッシュマンゼミ、人間学系の人間学フレッシュマンゼミのうち1科目2単位を選択必修とする。
以上の選択必修を含めて、72単位以上を取得すること。

卒業要件
教養科目から必修、選択必修を含めて30単位以上
専門科目から選択必修を含めて72単位以上
以上を含めて124単位以上を取得することが必要

2026年度　開講科目表(2021年度以降1年次入学者、2023年度編入学、2024年度3年次編入生含む)

開講科目表の見方

①必修・選択等欄：　◎印：必修　　○印：選択必修　　無印：選択　　×印：履修不可

教養(Liberal Arts)科目

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
教養科目群	総合人間学	2	1	前期1	◎	GFR1101-L	215
	聖書を読む　(2023年度を最後に閉講)	2	1	閉講	◎	GCH1101-S	―
	キリスト教概論Ⅰ	2	1	前期1	◎	GCH1102-L	93
	キリスト教概論Ⅱ	2	1	後期1		GCH2101-L	94
	社会福祉原論Ⅰ	2	1	前期1	◎	GSS1101-L	95
	社会福祉原論Ⅱ	2	1	後期1		GSS2101-L	96
	心理学	2	1・2	前期1	◎	GHU1101-L	96
	心理学概論	2	1・2	後期1		GHU2101-L	97
	現代生命科学Ⅰ　(2023年度を最後に閉講)	2	1・2・3・4	閉講		GNI2110-L	―
	現代生命科学Ⅱ　(2023年度を最後に閉講)	2	1・2・3・4	閉講		GNI2111-L	―
	スポーツと健康(体育実技を含む)A	2	1・2	前期1		GPE2101-P	117
	スポーツと健康(体育実技を含む)B	2	1・2	後期1		GPE2102-P	118
	地球と宇宙Ⅰ→九州ルーテル学院大学の「環境学」を単位互換	2	1・2・3・4	閉講		GNI2112-L	―
	中世史との対話	2	1・2	前期1		GHU2102-L	114
	近世史との対話	2	1・2	後期1		GHU2103-L	115
	憲法	2	1・2	前期1		GSS2102-L	110
	法学　(2023年度を最後に閉講)	2	1・2	閉講		GSS2103-L	―
	社会学	2	1・2	前期1		GSS2104-L	111
	社会学Ⅱ	2	1・2	後期1		GSS2105-L	112
	教養としての哲学	2	1・2	前期1		GHU2105-L	116
	哲学と論理	2	1・2	後期1		GHU2106-L	117
	教育学	2	1・2	後期1		GHU2107-L	115
	音楽の基礎	2	1・2	前期1		GHU2108-P	119
	音楽の実際	2	1・2	後期1		GHU2109-P	120
	コミュニケーションの演習	2	1	前期1	◎	GFR1102-S	98
	コンピュータ入門Ⅰ　(2023年度を最後に閉講)	2	1・2	閉講		GNI2114-P	―
	コンピュータ入門Ⅱ　(2023年度を最後に閉講)	2	1・2	閉講		GNI2115-P	―
	視覚障害者 PC 入門	2	1	閉講		GNI2116-P	―
	英語 Reading	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3104-S	105
	英語 Speaking/Listening	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3101-S	106
	英語 Writing/Grammar	2	1	前期2	○〈1〉	GFL3105-S	107
	英語特別演習(Independent Study)	1	2・3・4	閉講	○〈1〉	GFL3201-S	―
	英語 Speaking/Listening 演習	2	2・3	閉講	○〈1〉	GFL3204-S	―
	ドイツ語初級Ⅰ	1	1・2・3・4	前期1		GFL2101-S	108
	ドイツ語初級Ⅱ	1	1・2・3・4	後期1		GFL2102-S	109
	ドイツ語講読Ⅰ　(2023年度を最後に閉講)	1	1・2	閉講		GFL2104-S	―
	ドイツ語講読Ⅱ　(2023年度を最後に閉講)	1	1・2	閉講		GFL2105-S	―
	日本語特講(留学生)Ⅰ	1	1・2	閉講		GFL2111-S	―
	日本語特講(留学生)Ⅱ	1	1・2	閉講		GFL2112-S	―

教養科目まとめ
・総合人間学、聖書を読む、キリスト教概論Ⅰ、社会福祉原論Ⅰ、心理学、コミュニケーションの演習は必修。
・〈1〉英語科目のうち2単位以上を選択必修。
以上の必修、選択必修を含めて30単位以上を履修すること。

専門科目

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
総合人間学コア科目群	キリスト教の人間観Ⅰ　(2023年度を最後に閉講)	2	2・3・4	閉講	○〈2〉	ICS3203-L	―
	キリスト教の人間観Ⅱ　(2023年度を最後に閉講)	2	2・3・4	閉講	○〈2〉	ICP3201-L	―
	社会福祉の基礎	2	2	前期1	○〈2〉	ISW3201-L	122
	ソーシャルワーク論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ISW3202-L	123
	ソーシャルワーク論Ⅱ	2	2	前期1	○〈2〉	ISW3203-L	124
	障害者福祉の諸問題	2	2	閉講	○〈2〉	ISW3204-L	―
	高齢者福祉の諸問題	2	2	閉講	○〈2〉	ISW3205-L	―
	地域福祉論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ICD3201-L	131

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
総合人間学コア科目群	地域福祉論Ⅱ	2	3	後期1	○〈2〉	ICD3302-L	132
	社会保障論Ⅰ	2	2	前期1	○〈2〉	ICD3203-L	133
	児童福祉の諸問題	2	2	前期1	○〈2〉	ICF3201-L	216
	発達心理学	2	2・3・4	後期1	○〈2〉	ICF3203-L	161
	カウンセリング実技の基本	2	2・3・4	後期1	○〈2〉	ICP3202-L	160
	心理学研究法Ⅰ　（データ解析）	2	2	前期1	○〈2〉	ICP3203-L	164
	心理的アセスメント	2	2・3・4	前期1	○〈2〉	ICP3204-L	166
	心理学実験	2	2	後期2	○〈2〉	ICP3205-S	165
総合人間学キリスト教といのち科目群	いのち学序説	2	1・2	後期1	○〈3〉	ICP3101-L	192
	人間の尊厳と人権	2	2・3・4	後期1	○〈3〉	ICP3206-L	196
	キリスト教と生命倫理（奇数年隔年開講）（2023年度を最後に閉講）	2	2・3・4	閉講	○〈3〉	ICP3207-L	―
	人間・いのち・世界Ⅰ※前・後期リピート授業	2	3・4	前期1・後期1	○〈3〉	ICP3301-L	217
	人間・いのち・世界Ⅱ　（2024年度を最後に閉講）	2	3・4	閉講	○〈3〉	ICP3302-L	―
	キリスト教の倫理　（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	前期1	○〈3〉	ICP3208-L	218
国際プログラム科目群	英語特別プログラム（ESP: English for Special Purposes）	1	1・2	閉講		IAD2101-S	―
	多文化ソーシャルワーク	2	2・3・4	後期1		IAD2201-L	141
	社会福祉と国際協力	2	2・3・4	前期1		IAD2203-L	140
	海外研修A（アジア）	2	1・2・3・4	休講		IAD2103-T	―
	海外研修B（欧米）	2	1・2・3・4	休講		IAD2104-T	―
	海外インターンシップ前ゼミ	2	3	閉講		IAD2301-S	―
	海外インターンシップA（アジア）	2	3	閉講		IAD2302-T	―
	海外インターンシップB（欧米）	2	3	閉講		IAD2303-T	―
総合人間学科外国語原典講読科目群	ヘブル語Ⅰ　（2023年度休講）	4	2	閉講		ICS2201-S	―
	ヘブル語Ⅱ　（2023年度休講）	4	2	閉講		ICS2202-S	―
	ギリシア語Ⅰ	4	3	閉講		ICS2301-S	―
	ギリシア語Ⅱ	4	3	閉講		ICS2302-S	―
	ラテン語Ⅰ	2	3・4	閉講		ICS2303-S	―
	ラテン語Ⅱ	2	3・4	閉講		ICS2304-S	―
	臨床心理英専門書講読A	2	2・3・4	閉講		ICP2201-S	―
	臨床心理英語論文読解Ⅰ	2	2・3・4	前期1		ICP2203-S	219
総合人間学総合演習科目群	キャリアデザイン基礎	2	2・3	前期1	○〈4〉	IAD2204-L	102
	キャリアデザイン実践	2	3	後期1	○〈4〉	IAD2304-S	103
	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	1	前期1		ISW2101-S	144
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2	1	後期1		ISW2102-S	144
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2	2・3	前期1	○〈4〉	ISW2201-S	145
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2	3	前期1		ISW2301-S	146
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2	3	後期1		ISW2302-S	147
	ソーシャルワーク演習Ⅵ	2	4	前期1		ISW2401-S	148
	ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ	2	4	後期1		ISW2402-S	148
	キリスト教フレッシュマンゼミ	2	1	後期1		ICS2101-S	220
	キリスト教特講ゼミⅠ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2203-S	220
	キリスト教特講ゼミⅡ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2204-S	221
	キリスト教特講ゼミⅢ	2	2・3・4	前期 or 後期		ICS2205-S	221
	臨床心理フレッシュマンゼミ	2	1	後期1		ICP2101-S	157
	卒業演習プレゼミナール	1	3	前期1		ICP2301-S	190
	卒業演習Ⅰ	2	3	後期1		IAD2305-S	212
	卒業演習Ⅱ	2	4	前期1		IAD2401-S	213
	卒業演習Ⅲ	2	4	後期1		IAD2402-S	214
	卒業論文	4	4	通年1		IAD2403-S	215
総合人間学実践科目群	食といのちと環境Ⅰ	2	2・3	前期1		ICS2205-L	222
	食といのちと環境Ⅱ　（2023年度を最後に閉講）	2	2・3	閉講		ICS2206-L	―
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	2	前期1		ISW2202-S	149
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	2	2・3	後期1		ISW2203-S	150
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2	3・4	前期1		ISW2304-S	151
	ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	2	3・4	前期1		ISW2305-S	152
	ソーシャルワーク実習指導Ⅴ	1	3・4	後期1		ISW2303-S	153
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅰ	2	3	閉講		ISW2308-S	―
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅱ	2	4	閉講		ISW2403-S	―
	ソーシャルワーク演習（専門）Ⅲ	2	4	閉講		ISW2404-S	―
	精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	2	3	閉講		ISW2306-S	―
	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	2	4	閉講		ISW2405-S	―
	精神保健福祉援助実習指導Ⅲ	2	4	閉講		ISW2406-S	―
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	3	2	前期1		ISW2209-T	153
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	3・4	前期1		ISW2307-T	154
	上級ソーシャルワーク実習　（2024年度のみ開講）	3	4	閉講		ISW2407-T	―
	ソーシャルワーク現場体験実習	4	3・4	通年1		ISW2313-T	155
	精神保健福祉実習	4	4	閉講		ISW2408-T	―
	心理実習Ⅰ	2	2	後期1		ICP2205-T	180
	心理実習Ⅱ	2	3	前期2・後期1		ICP2302-T	181
総合人間学キャリア形成科目群（キリスト教人間学系）	世界の宗教Ⅰ	2	2・3・4	前期1		ICS2207-L	223
	文化史	2	1・2・3	前期1		ICS2102-L	113
	比較文化論　（2024年度を最後に閉講）	2	3・4	閉講		ICS2307-L	―
	いのちのキリスト教史	2	2・3・4	前期1		ICS2209-L	198
	日本における死生学　（2025年度を最後に閉講）	2	4	閉講		ICS2403-L	―
	キリスト教と死生学	2	4	閉講		ICS2404-L	―
	キリスト教カウンセリング	2	3・4	後期1		ICS2308-L	224
	キリスト教の歴史Ⅰ　（2023年度を最後に閉講）	2	2	閉講		ICS2209-L	―
	キリスト教の歴史Ⅱ　（2024年度を最後に閉講）	2	2	閉講		ICS2210-L	―
	旧約聖書精読	2	3・4	後期1		ICS2311-L	193

	授業科目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
総合人間学キャリア形成科目群（キリスト教人間学系）	新約聖書精読　（偶数年隔年開講）	2	3・4	後期1		ICS2312-L	194
	旧約聖書の人間観	2	3	後期1		ICS2313-L	225
	新約聖書の人物像　（奇数年隔年開講）	2	3・4	2027		ICS2314-L	—
	聖書に見るジェンダー　（偶数年隔年開講）	2	3・4	後期1		ICS2315-L	198
	美術史	2	2・3・4	閉講		ICS2212-L	—
	キリスト教美術特講　（2026年度を最後に閉講）	2	2・3・4	前期1		ICS2213-L	203
	キリスト教音楽実技Ⅰ	2	1・2・3・4	通年		ICS2104-P	204
	キリスト教音楽実技Ⅱ	1	2・3・4	前期1		ICS2214-P	205
	キリスト教音楽実技Ⅲ	1	2・3・4	後期1		ICS2215-P	205
	日本の宗教Ⅰ	2	2・3	後期1		ICS2216-L	225
	キリスト教の信仰	2	4	閉講		ICS2405-L	—
総合人間学キャリア形成科目群（福祉相談援助系）	社会福祉入門	2	1	後期1		ISW2103-L	121
	ソーシャルワーク論Ⅲ	2	2	後期1		ISW2204-L	124
	ソーシャルワーク論Ⅳ	2	4	前期1		ISW2410-L	125
	ソーシャルワーク論Ⅴ	2	4	後期1		ISW2411-L	126
	ソーシャルワークの理論と方法（専門）　（2023年度を最後に閉講）	2	3・4	閉講		ISW2310-L	—
	高齢者福祉論	2	2	後期1		ISW2205-L	127
	障害者福祉論	2	2	後期1		ISW2206-L	128
	保健医療サービス	2	3	後期1		ISW2311-L	138
	精神保健福祉の原理	2	2	閉講		ISW2207-L	—
	精神保健福祉制度論	2	2	閉講		ISW2208-L	—
	精神障害リハビリテーション論　（2023年度を最後に閉講）	2	3	閉講		ISW2315-L	—
	権利擁護と成年後見制度	2	1・2	前期1		ISW2105-L	226
	公的扶助論	2	3	後期1		ISW2314-L	135
	更生保護制度論	2	3	後期1		ISW2312-L	136
	人体の構造と機能及び疾病	2	2	前期1		ISW2213-L	129
	精神保健	2	1・2・3・4	後期1		ISW2106-L	140
	精神疾患とその治療	2	2・3・4	後期1		ISW2214-L	169
	ターミナルケアとグリーフワーク　（偶数年隔年開講）	2	2・3・4	閉講		ISW2215-L	—
	聴覚障害者のコミュニケーション	2	1・2・3・4	閉講		ISW2107-L	—
	社会福祉特講A	2	4	後期1		ISW2412-L	227
	社会福祉特講B	2	4	閉講		ISW2413-L	—
総合人間学キャリア形成科目群（地域福祉開発系）	社会保障論Ⅱ	2	3	後期1		ICD2305-L	134
	地域支援技法Ⅰ	2	2・3・4	後期1		ICD2203-L	142
	地域支援技法Ⅱ	2	2・3・4	後期1		ICD2204-L	143
	福祉サービスの組織と経営	2	3	後期1		ICD2306-L	137
	社会福祉調査	2	3・4	後期1		ICD2307-L	139
	地域開発総論	2	4	閉講		ICD2403-L	—
	社会福祉特講C	2	3	閉講		ICD2309-L	—
総合人間学キャリア形成科目群（子ども支援系）	保育原理と保育士の専門性	2	2	前期1		ICF2201-L	208
	児童・家庭福祉論	2	2	後期1		ICF2202-L	130
	レクリエーションとグループリーダー　（2023年度を最後に閉講）	2	2	閉講		ICF2203-S	—
	障害者・障害児心理学	2	2・3・4	前期1		ICF2204-L	162
	家族心理学　（2024年度を最後に閉講）	2	2・3・4	閉講		ICF2205-L	—
	子どもと教育	2	3	閉講		ICF2301-L	—
	子どもと家族の国際問題と支援	2	3	閉講		ICF2302-L	—
	プレイセラピーの理論と実際　（奇数年隔年開講）	1	3・4	2027		ICF2303-L	—
	子どものグリーフワーク　（奇数年隔年開講）	1	3・4	2027		ICF2304-L	—
	教育・学校心理学	2	2・3・4	前期1		ICF2206-L	177
	小児と高齢者の栄養	2	2・3・4	前期1		ICF2208-L	211
	子ども支援キャリアデザイン	2	1・2・3	閉講		ICF2101-S	—
	野外活動とキャンピング	2	1・2・3・4	閉講		ICF2102-P	—
	保育士特講Ⅰ	2	1・2・3・4	前期1		ICF2103-L	209
	保育士特講Ⅱ	2	1・2・3・4	後期1		ICF2104-L	209
総合人間学キャリア形成科目群（臨床心理系）	心理学的支援法	2	1	前期1		ICP2102-L	158
	公認心理師の職責	2	2・3・4	前期1		ICP2206-L	168
	青年心理学	2	1・2・3・4	閉講		ICP2103-L	—
	心理学統計法	2	1	後期1		ICP2104-L	159
	質的研究法	2	2・3・4	集中		ICP2208-L	184
	質問紙調査法	2	3	前期1		ICP2303-S	183
	心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）	2	3・4	集中		ICP2304-S	167
	心理検査技法演習	2	2・3・4	後期1		ICP2209-S	182
	学習・言語心理学	2	2・3・4	集中		ICP2210-L	170
	知覚・認知心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2211-L	169
	神経・生理心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2213-L	171
	臨床心理学概論	2	1・2	前期1		ICP2105-L	160
	サイコドラマⅠ	1	2・3・4	前期1		ICP2214-L	187
	サイコドラマⅡ	1	2・3・4	後期1		ICP2215-S	188
	サイコドラマⅢ	1	2・3・4	後期1		ICP2216-S	189
	サイコドラマⅢ演習　（2024年度を最後に閉講）	1	2・3・4	閉講		ICP2217-S	—
	感情・人格心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2218-S	171
	交流分析	2	2・3・4	前期1		ICP2219-L	185
	社会・集団・家族心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2220-L	173
	産業・組織心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2221-L	174
	精神分析学	2	2・3・4	後期1		ICP2222-L	186
	健康・医療心理学	2	2・3・4	前期1		ICP2223-L	175

	授　業　科　目	単位	履修年次目安	開講状況	必修選択等	科目ナンバー	掲載ページ
総合人間学キャリア形成科目群（臨床心理系）	福祉心理学	2	3・4	後期1		ICP2305-L	176
	司法・犯罪心理学	2	2・3・4	後期1		ICP2224-L	177
	関係行政論	2	2・3・4	前期1		ICP2225-L	163
	心理演習	2	2	後期1		ICP2226-L	179
	臨床心理特講 A（大学院進学支援講座）	1	2・3・4	前期1		ICP2227-L	228

専門科目まとめ
・〈2〉総合人間学コア科目群から8単位以上を選択必修とする。
・〈3〉総合人間学キリスト教といのち科目群から4単位以上を選択必修とする。
・〈4〉総合人間学総合演習科目群の「キャリアデザイン基礎」「キャリアデザイン実践」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」より
　1科目2単位選択必修
以上の選択必修を含めて、72単位以上を取得すること。

卒業要件
教養科目から必修、選択必修を含めて30単位以上
専門科目から選択必修を含めて72単位以上
以上を含めて124単位以上を取得することが必要

総合人間学序論

科目ナンバー	GFR1101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
原島　博、ジャン・プレゲンズ、上村　敏文、加藤　純、石居　基夫、田副　真美、髙山　由美子、山口　麻衣	

[到達目標]
(1)人間とは何か、人間の尊厳とは何かを多面的に考察し理解することができる。
(2)地域、日本、世界を構成する私たちはどのような社会づくりをめざすべきなのか。それを学際的に考察し理解することができる。
(3)大学の理念、総合人間学部、アプローチ、連携のシステムを理解し、自らの職業選択などに活かすことができる。

[履修の条件]
総合人間学部の必修科目です。

[講義概要]
人間を魂とこころと生活、家族や地域社会と関わる存在として総合的に理解し、対人援助に関わる高度専門職業人としての基礎を培う。そのために、キリスト教の人間理解と世界への洞察を軸として、人間存在を包括的・総合的に理解する。特に、「いのち」を巡る諸問題を探求する力と人間の存在を重んじる心を涵養し、他者との関係性に生きること、その倫理について学ぶ。さらに、総合人間学としての学びを具体的なキャリアに結びつけながら、学びをふかめていく。

■授業計画

第1回　総合人間学とは
第2回　キリスト教における人間理解
第3回　宗教・文化と人間理解
第4回　福福祉と人間
第5回　地域と人間
第6回　臨床心理から見た人間理解
第7回　こころと人間
第8回　言語習得とコミュニケーション
第9回　総合人間学　演習①
第10回　総合人間学　演習②
第11回　総合人間学　演習③
第12回　総合人間学　演習④
第13回　総合人間学　演習⑤
第14回　総合人間学　演習⑥
第15回　総合人間学をふりかえって　　レポート・テスト

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
「その他の評価方法」とは、毎回提出するリアクションペーパーの内容や、授業時における質疑応答などの内容により評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定テキストの各単元の要約と重要語句について、また、毎回配布される講義資料により予習・復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として次回の講義内容において行う。また、授業内での質問等はその都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、3.総合的・実践的な学習能力、4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。宗教、生活、子ども、こころ、いのち、言語、文化など学際的に人間理解を進めることにより、人間を包括的にとらえることができる価値・知識・技術を身につける。

[テキスト]
授業の中で担当教員によって配布資料が配布される。

[参考文献]
授業の中で担当教員によって参考文献が紹介される。

キリスト教概論 I

科目ナンバー	GCH1101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
高村　敏浩	

[到達目標]
①「キリストの心を心とする」という建学の精神に基づいて教育を進める本学において、専門的な学びをはじめる前に基盤となるキリスト教の概要を理解する。
②聖書を中心に学びを進めます。その他にも歴史など、様々な面からキリスト教を学び、今の私たちの生活に影響を与えているキリスト教についての知識を深めていきます。

[履修の条件]
必修。特に条件はなし。キリスト教に関心を持って授業に臨むことを期待します。

[講義概要]
毎時間の授業は、授業ごとにテーマを定め、概論として聖書をはじめて読む学生にもわかりやすくキリスト教を紹介していくことになります。小グループでのディスカッションも取り入れて進めます。

■授業計画

第1回　ミッションスクールとしてのルーテル学院
オリエンテーション　テキスト(聖書)の紹介と課題の説明　ルーテル学院の礼拝、宗教活動、ミッションステートメントについて学ぶ
第2回　教会と聖書
教会について、また、テキストとして用いる聖書について学ぶ
第3回　身近にある様々な教会とカルトとの違い
小冊子『カルトって知っていますか?』を用いて、カルトと教会の違いについて学ぶ

第4回　社会に生きるキリスト者
　　信仰者として社会奉仕をされている方の講演を聞く
第5回　旧約聖書①
　　被造世界の創造
第6回　旧約聖書②
　　アダムと罪
第7回　旧約聖書③
　　カインとアベル−最初の殺人
第8回　旧約聖書④
　　ノアの箱舟とバベルの塔
第9回　旧約聖書⑤
　　アブラハムと神の約束
第10回　旧約聖書⑥
　　モーセと出エジプト
第11回　旧約聖書⑦
　　ダビデ王とイスラエル・ユダ、預言者
第12回　新約聖書①
　　イエス・キリストとその公生涯
第13回　新約聖書②
　　イエス・キリストとその十字架と復活
第14回　教会−この世への派遣と奉仕
　　授業をふまえて、ルーテル学院で学ぶということについて再度考える
第15回　---

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに次回の授業内容テーマを予告するので、指定された聖書箇所、関連の図書などをあらかじめ読むこと。復習としては、授業内容と関連した事柄を調べ、ノートにまとめる。各授業回におよそ200分の準備学習（予習、復習など）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
提出されたレポートや課題には、次の授業の中で取り上げるなど、適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学ディプロマポリシーの「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。聖書をテキストに「神が愛しておられるいのち」について学び、互いのいのちの尊厳のため仕え合う人間性を養っていく。

[テキスト]
聖書協会共同訳聖書（日本聖書協会発行）。代わりに、新共同訳聖書や新改訳聖書、口語訳聖書などでも構いません。

[備考]
授業では毎回、聖書を必ず持ってきてください。
原則として、毎授業回に出席することが求められます。欠席の場合（公欠も含めて）も、課題は行ってください。課題については、最初の授業の時に説明をします。

キリスト教概論 II

科目ナンバー	GCH1102-L
2単位：後期1コマ	1年
高村　敏浩	

[到達目標]
①聖書から特にイエス・キリストの生涯を学び、罪ある人間を救おうとされる神の愛と人々に奉仕する生き方について理解します。
②現代社会のさまざまな問題を、キリスト教的な考え方からも捉えていくことができる程の基礎的知識を得ます。
③福祉やカウンセリング、地域社会や子どもなどの専門分野での学びにどのようにキリスト教の教えが関わっているかを学び、専門的な学びの土台とします。

[履修の条件]
条件ではないが、キリスト教概論Ⅰを履修済みであることが望ましい。また、キリスト教に関心を持って積極的な発言を期待します。

[講義概要]
毎時間の授業は、聖書から学ぶことが中心です。聖書に親しんでいない学生にもわかりやすく聖書の言葉を解説します。キリスト教活動に関わる特別講師を招き、講義をすることがあります。随時、質問を受け付け、丁寧に学びを進めます。小グループでのディスカッションも取り入れて進めます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　課題やレポートについての説明
第2回　宗教概念について　神・信仰・宗教
第3回　宗教概念について　被造世界・人間
第4回　キリスト教について　イエス・キリスト、十字架の啓示
第5回　主の僕の歌（イザヤ書）と仕える王（ヨハネによる福音書）
第6回　山上の説教（マタイによる福音書）
第7回　イエスのたとえ①
　　善いサマリア人（ルカによる福音書）
第8回　イエスのたとえ②
　　見失った羊と無くした銀貨（ルカによる福音書）
第9回　イエスのたとえ③
　　いなくなった息子たち（ルカによる福音書）
第10回　イエスのたとえ④
　　ファリサイ派の人と徴税人（ルカによる福音書）
第11回　コイノニア・教会（使徒言行録）
第12回　マルティン・ルターとルーテル教会
第13回　この社会に市民として生きる−倫理
第14回　この世に隣人の隣人として生きる−ディアコニア
第15回　---

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業ごとに次回の授業内容テーマを予告、その授業内容に関連の本などを予め読む。また授業内容についてノートを作成する。各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習など）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
提出されたレポートや課題には、次の授業の中で取り上げるなど、適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学ディプロマポリシーである「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。特にキリスト教の中心であるイエスの言葉とその生涯を学ぶ中で、隣人への愛とされを表す生き方について深く学ぶ。

[テキスト]
聖書協会共同訳聖書（日本聖書協会発行）。代わりに、新共同訳聖書や新改訳聖書、口語訳聖書でも構いません。

[備考]
授業では毎回、聖書を必ず持ってきてください。
原則として、毎授業回に出席することが求められます。欠席の場合（公欠も含めて）も、課題は行ってください。課題については、最初の授業の時に説明をします。

社会福祉原論Ⅰ

科目ナンバー	GSS2101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
髙山　由美子、福島　喜代子、山口　麻衣、原島　博	

[科目補足情報]
教養科目の必修科目である。また、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目である。

[到達目標]
社会福祉の原理をめぐる思想・哲学、理論をふまえ、現代の社会問題について理解する。また、福祉政策の課題と動向をふまえ、関連する施策や包括的支援、福祉サービス利用のプロセスや権利擁護について理解する。さらに福祉政策の国際的動向についても理解を深める。

[履修の条件]
教養科目の必修科目であるため、単位未取得者は必ず履修すること。社会福祉士国家試験受験資格取得を目指す者は、「社会福祉原論Ⅱ」（後期）も併せて履修すること。

[講義概要]
「社会福祉」は何のためにあるのかについて、様々な社会問題を通して学ぶ。授業では、受講生の問題関心を深めるために、新聞記事や視聴覚教材等を適宜活用しながら、ディスカッションも取り入れて進める。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　社会福祉の原理・思想・哲学
第3回　社会問題と社会構造（1）
第4回　社会問題と社会構造（2）
第5回　社会問題と社会構造（3）
第6回　社会問題と社会構造（4）
第7回　福祉政策の動向と課題
第8回　福祉政策と関連施策（1）
第9回　福祉政策と関連施策（2）
第10回　福祉政策と関連施策（3）
第11回　福祉政策と関連施策（4）
第12回　福祉サービスの供給と利用過程
第13回　福祉政策の国際比較
第14回　まとめとふりかえり
第15回　※定期試験は実施しない

[成績評価]
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
・前半と後半に2回のレポートを課す（詳しくは授業で説明する）。
・定期試験は実施しない。
・「その他の評価方法」については、毎回の授業時に提出を課すリアクションペーパー等により評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。授業で取り上げるテーマや関連するできごと（社会問題等）に関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。前半のレポートについては授業内で返却し、個別にフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
〔2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性〕及び「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。

[テキスト]
特定のテキストは使用しない。資料や参考文献等は適宜授業時に提示する。

[参考文献]
『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座④社会福祉の原理と政策』（中央法規出版）

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーク実践者としての経験を活かして、講義やディスカッションを行う。

社会福祉原論 II

科目ナンバー	GSS2102-L
2単位：後期1コマ	1年
浅野　貴博	

[科目補足情報]
社会福祉士受験資格取得のための指定科目であり、2年次以降の「ソーシャルワーク実習 I 及び II 」の履修を希望する者は、本科目を一定以上の成績で単位取得する必要がある。

[到達目標]
1）日本および欧米における社会福祉の歴史を概観した上で、「社会福祉」は何のためにあるのかについて、その思想と理論を踏まえて学びを深める。
2）福祉政策の基礎を学んだ上で、近年の社会福祉制度の動向と課題について学びを深める。

[履修の条件]
・本講義では下記のテキストを用いるため、第2回の授業までに各自で購入すること。
・社会福祉士の受験資格取得を目指す者は、同じく指定科目である「社会福祉原論 I 」（前期）と併せて履修すること。

[講義概要]
「社会福祉原論 I 」で学んだ「人権」を中心とした社会福祉の理念を踏まえた上で、社会福祉の歴史や社会福祉制度を学ぶことを通して、「社会福祉」は何のためにあるのかについて考える。授業はテキストを用いた講義形式が中心であるが、受講生の問題関心を広げ深めるために、新聞記事等も適宜活用しながら、小グループでのディスカッションも取り入れて進められる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　社会福祉の歴史：欧米の歩み（1）
第3回　社会福祉の歴史：欧米の歩み（2）
第4回　社会福祉の歴史：欧米の歩み（3）
第5回　社会福祉の歴史：日本の歩み（1）
第6回　社会福祉の歴史：日本の歩み（2）
第7回　社会福祉の歴史：日本の歩み（3）
第8回　社会福祉の思想と理論（1）
第9回　社会福祉の思想と理論（2）
第10回　社会福祉の思想と理論（3）
第11回　福祉政策の基礎（1）
第12回　福祉政策の基礎（2）
第13回　福祉政策の基礎（3）
第14回　福祉政策の基礎（4）
第15回　※定期試験は実施しない

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（50%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
・レポートに加えて、小テスト（※3回）を実施する。なお、小テストは、授業で習った知識を確認する穴埋め式の記述問題とする（詳しくは授業で説明する）。
・「その他の評価方法」については、毎回のフィードバックにより評価する。なお、欠席および遅刻については減点の対象となるため注意すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。小テストに備えて復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テスト（3回）の実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
〔2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性〕及び「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することにより、社会福祉の歴史や社会福祉制度等を学ぶことを通して、ソーシャルワーカーとして「社会福祉」は何のためにあるのかについて考える力を身に付けることができる。

[テキスト]
（ISBN 978-4-8058-8234-4）『〔最新社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座〕④社会福祉の原理と政策』（中央法規出版）定価2,900円（税別）

[参考文献]
授業において、適宜参考文献を紹介する。

心理学

科目ナンバー	GHU1101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
入口　真夕子	

[到達目標]
本講義では，心理学の基本的な知識の習得を目標としている。また，日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について，授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

[履修の条件]
特になし
※後期の「心理学概論」と連続した内容である。

[講義概要]
心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。前期の心理学では，「錯視はなぜ起きるのか?」「どうしたら効率的に記憶できるのか?」といった人間の情報処理についての内容や，「どのように経験によって行動を変容させていくのか?」「人は生涯にわたりどのように発達していくのか?」といった学習と発達についての内容を中心に，心理学を広く概観していく。
各授業の中では，それぞれのテーマについて概説するとともに，簡単な実験や調査を入れながら，心理学の知見を確認する。
今年度の授業はオンデマンド形式で実施する。週1回配信される授業を期間内に視聴し、リアクションペーパーをメールにて提

出することで出席とみなす。

■授業計画

第1回　オリエンテーション，講義の進め方，心とは?
第2回　心理学とは何か?（心理学の歴史）
第3回　知覚：感覚器官と視覚の仕組み①
第4回　知覚：視覚の仕組み②、注意
第5回　記憶
第6回　学習：古典的条件づけ
第7回　学習：オペラント条件づけ、その他の学習
第8回　言語
第9回　思考
第10回　情動
第11回　自己と動機づけ
第12回　社会的認知
第13回　発達①
第14回　発達②
第15回　ー

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（100%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

［ 成績評価（備考） ］
出席が講義回数の2/3を満たさない場合には単位取得を認めない。各回のリアクションペーパーの提出をもって出席とする。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業後に配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業やレポート課題についての質問はメールで随時受けつける。可能な限りレポート課題のフィードバックを行う予定である。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで，他者理解が深まり，より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

［ テキスト ］
特になし

［ 参考文献 ］
①内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学（第16版）」　金剛出版　2015年　（本体価格：22,000円+税）
②無藤隆他「心理学（New Liberal Arts Selection）」　有斐閣　2004年　（本体価格：3,700円+税）
③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門--人の心を知る科学（有斐閣ストゥディア）」　有斐閣　2015年（本体価格：1,800円+税）
④青木紀久代・神宮英夫　「カラー版　徹底図解　心理学」新星出版社　2008年　（本体価格：1,500円+税）

［ 備考 ］
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。

心理学概論

科目ナンバー	GHU2101-L
2単位：後期1コマ	1年
西里　美菜保	

［ 到達目標 ］
本講義では，心理学の基本的な知識の習得を目標とする。また，日常生活場面や対人援助場面における人間の行動について，授業で紹介する内容と結びつけて考えることができるようになることを目標とする。

［ 履修の条件 ］
特にないが、前期の「心理学」と連続した内容であることを念頭に授業を受けてください。

［ 講義概要 ］
心理学は人間の「心」を理解しようとする学問である。本講義では，「心理学の成り立ち」について，心理学の歴史と応用について紹介する。また，「人の心の基本的な仕組み及び働き」について，生物学的基礎，知能，パーソナリティ，社会，臨床の各領域の知見や理論について広く概観していく。
各授業の中では，それぞれのテーマについて概説するとともに，簡単な実験や調査を入れながら，心理学の知見を確認する。
授業はパワーポイントを用いて行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション，講義の進め方，授業に使用する参考文献の紹介
第2回　心理学の成り立ち
第3回　心の生物学的基盤：脳の構造と機能，自律神経系・内分泌系，遺伝
第4回　知能：知能の理論，知能検査
第5回　パーソナリティ：パーソナリティの理論，パーソナリティの発達
第6回　社会①：対人関係：印象形成，対人魅力
第7回　社会②：社会的認知：原因帰属，ステレオタイプ，対人認知
第8回　社会③：集団：他者の存在，同調，服従
第9回　臨床①：心の健康と不適応
第10回　臨床②：精神障害
第11回　臨床③：心理アセスメント
第12回　臨床④：心理療法
第13回　心理学の展開①：産業・組織心理学
第14回　心理学の展開②：教育心理学・犯罪心理学
第15回　試験

［ 成績評価 ］
試験（60%）、レポート（0%）、小テスト（40%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
出席が講義回数の2/3を満たさない場合には単位取得を認めない。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業後に，配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで，他者理解が深まり，より円滑な人間関係の構築に必要な知識を習得することができる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
①内田一成（監訳）「ヒルガードの心理学（第16版）」 金剛出版 2015年 （本体価格：22,000円+税）
②無藤隆他「心理学（New Liberal Arts Selection）」 有斐閣 2004年 （本体価格：3,700円+税）
③金沢創・市川寛子・作田由衣子「ゼロからはじめる心理学・入門--人の心を知る科学（有斐閣ストゥディア）」 有斐閣 2015年（本体価格：1,800円+税）
④青木紀久代・神宮英夫 「カラー版 徹底図解 心理学」新星出版社 2008年 （本体価格：1,500円+税）

[備考]
授業の進度などに応じて，授業内容を変更することがある。

コミュニケーションの演習

科目ナンバー	GFR1102-S
2単位：前期1コマ	1年 必修
田中 雅幸	

[到達目標]
1.日本語の表記、特質について理解し正しい文章（レポート、小論文等）を書けること。
2.自分の探求すべきテーマ・問題を発見すること。
3.探求すべきテーマ・問題について適切な方法を用いて情報を収集できること。
4.探求すべきテーマ・問題について適切に資料や情報を探し出し、それらを論理的な文章としてまとめることができること。

[履修の条件]
講義には当然継続性があるので、コミュニケーション能力を高めるためにできるだけ欠席せずに参加することが必要である。小テストも継続的に行うので欠席を避ける。講義には国語辞書（携帯に便利なもので可、電子辞書も可）を必ず持参のこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習復習等）を必要とする。
同一年度内の再履修はできません。

[講義概要]
現在、情報技術の飛躍的な発展によって、コミュニケーションのあり方は実に多様化している。そのような状況の中で、自分に必要な適切な情報を取捨選択し、それを自分の思考に生かすことは非常に難しくなっている。本講義では、このような情報の洪水の中で自分の必要な情報や知識を探し出し、レポートや論文を作成するための基礎的な能力を身につけることを目標とする。
授業は基本的にパワーポイントを用いた講義と演習（文章作成やグループワークなど）を組み合わせて実施する。また、講義の冒頭に基礎的な語彙力養成のため毎回漢字の小テストを実施する。

■授業計画
第1回 オリエンテーション--講義概要の説明、文章に関するアンケートの実施、自己紹介文を書く。
第2回 文章表現①：日本語の文字の特性、表記上のルールを理解する。
第3回 文章表現②：文章表現上のレトリックおよび文体について理解する。
第4回 文章表現③：悪文の特性を理解し、わかりやすい文章を書けるようにする。
第5回 文章表現④：賛否型小論文を書く
第6回 テーマ・問題の探求：自分の探求すべきテーマ・問題の発見方法を理解する。
第7回 文章・文献の読み方①：速読の方法を理解する。
第8回 文章・文献の読み方②：精読の方法・要約の方法を理解する。
第9回 文章・文献の読み方③：テキスト批評の方法を理解する。
第10回 文章・文献の読み方④：テキスト批評を実践する。
第11回 社会調査：質的研究の方法を理解する。
第12回 社会調査：データの読み取り方を理解する。
第13回 社会調査：量的調査の方法を理解する。
第14回 映像鑑賞：映像から問題を発見する方法を理解する。
第15回 --

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（30%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
欠席した場合の小テストの再試験は実施しないので欠席は極力避けること。授業への参加度が重要。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
小テストは必ず事前学習をして受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内で課した課題については適宜授業時にコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力及び総合的・実践的な学習能力に該当する。文章表現能力を身につけることにより他の人々との協働作業を創り、社会に貢献できる。また文章で表現をすることで自己を対象化でき、自分の思いや考えを深めることができる。

[テキスト]
『漢検　2級　漢字学習ステップ』(改訂四版)日本漢字能力検定協会　1320円+税、
ISBN-13 ： 978-4890964017
その他の教材はすべて担当者で作成する。

[参考文献]
※参考文献は随時講義内で提示する。

[備考]
毎回国語辞書を持参すること。電子辞書可。

データサイエンス入門

科目ナンバー	GNI1101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
岸　洋子	

[到達目標]
①データサイエンスとは何か、なぜデータサイエンスが必要なのか、といった基本的なデータリテラシーを学ぶ。
②社会においてどのようにデータが活用されているかを理解する。
③データを可視化して適切に読み解くことや説明することを学ぶ。
④データ利用に関する倫理の問題について理解する。

[履修の条件]
特にありません。

[講義概要]
現在、教育や保育、福祉の現場や企業などには、その分野が抱える課題などを示すさまざまなデータが溢れています。こうしたデータは、私たちの日常生活に関わりのあるさまざまな領域でも活用されています。たとえば、医療の分野では疾病の早期発見や進行予測にデータが利用され、道路・交通の分野では渋滞の予測や自動運転技術などにもデータが活用されています。本授業では、将来、皆さんがデータをわかりやすく表現したり、データの示すことを正しく理解するための基礎知識をできる限りわかりやすく丁寧に教えます。また、本授業では、実社会においてデータがどのように活用されているのかを体感し、データを身近に感じる機会となることも目的としています。このことは、教育や保育、福祉の現場や企業などを目指す履修者にも役に立つものと思います。データは社会の抱えるさまざまな課題を解決する手がかりとすることができる一方、その使用にあたっては、知的財産やプライバシーの尊重など、留意しなければいけないことがあります。本授業では、こうした情報倫理についての理解を深めることも目的としています。
基本的にはオンデマンドで講義動画を視聴する形式の授業になります。
●講義日(金曜日)の昼を目安にメールで URL をお知らせしますので、時間割に記載の通り、毎週金曜5限を目安にしてオンデマンドでビデオ講義を受講してください。
●各回の講義動画の公開期限は、講義の翌週金曜午前中までの予定です(最新の講義動画と入替制)。そのため、複数回の講義をまとめて一気に受講することはできません。毎週一つずつ受講するようにしましょう。
●なお、本授業を履修するに際して、基礎知識は一切、不要です。成績は毎回のリアクションペーパーとレポートで評価します。
※リアクションペーパー提出期限：毎週月曜24時(遅れた場合も受付けますが、減点の対象となります)

■授業計画

第1回　オリエンテーション(講義の概要と進め方について)
データサイエンスとは①：
・社会で起きている変化とデータサイエンスの必要性について学ぶ
第2回　データサイエンスとは②：
・データサイエンスの考え方を学ぶ
・データサイエンスによる問題解決の手順(PPDAC サイクルの活用)
・事例紹介
第3回　データサイエンスと情報倫理：
・個人情報、プライバシー保護、著作権
・事例紹介
第4回　データサイエンスと AI：
・AI の活用事例と留意点
第5回　データの種類：
・世の中には様々なデータがあることを知ろう
・事例紹介
第6回　データの可視化：
・集計されたデータを可視化する(さまざまなグラフ)
・事例紹介
第7回　データを読む：
・代表値(平均、中央値、最頻値、ヒストグラム)、分散
・事例紹介
第8回　データの集計方法の基本：
・単純集計
・事例紹介
第9回　関係をみる①：
・クロス集計
・事例紹介
第10回　関係をみる②：
・散布図、相関、相関と因果の違い
・事例紹介
第11回　データ分析の事例①：
・実際にどのようにデータサイエンスが活用されているのかを学ぶ
第12回　オープンデータの活用：
・データ収集の方法を学ぶ
・公表されている統計データを探してみる
・事例紹介
第13回　データ分析の事例②：
・実際にどのようにデータサイエンスが活用されている

のかを学ぶ
第14回　これまでのふりかえり
・まとめ
・事例紹介
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
毎回の講義動画を受講後に、リアクションペーパーを提出（提出方法は初回の講義後に別途メールにて案内します）。
※リアクションペーパーの提出期限：毎週月曜24時（遅れても受け付けますが、減点の対象となります）

レポートは、期末レポートの他に、学期中に小レポートを課す可能性があります。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、社会でどのようにデータが活用されているか、どのような点に留意するべきかについても学びます。講義で取り上げたトピックについて、ニュースなどを意識して見たり、自分でも調べてみる習慣をつけましょう。また、毎回の講義内容を理解した上で次回の講義に臨むようにしてください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回のビデオ講義を受講後に提出してもらうリアクションペーパーについては、受講者全体で共有することで理解が深まるような視点や新たな視点があった場合は、適宜紹介します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。データを通して、ものごとを客観的に把握し、問題点の発見や、分析、解決策の提言をすることができるということを学ぶ。

[テキスト]
使用しません。

[参考文献]
必要に応じて適宜紹介します。

[備考]
・現代の社会で様々なデータがどのように活用されているのかを紹介しながら授業を進めて行きます。
・毎回の授業動画の受講後にリアクションペーパーの提出を求めます（提出方法は初回の講義後にメールで指示します）。
※提出期限は毎週月曜24時（遅れた場合も受け付けますが減点の対象となります）
・なお、授業計画については、クラスの様子をみながら修正をする可能性があります。

フレッシュマンキャリアデザイン

科目ナンバー	GFR2101-L
2単位：前期1コマ	1年
加藤　純	

[科目補足情報]
2023年度以降の1年次入学者対象です。大学での学習を計画するための1年生対象の科目なので、2027年度は開講しない可能性があります。

[到達目標]
1）生活課題や心理的課題について支援する施設や機関の機能や、働く職員の役割・専門性などについて具体的なイメージを持ち、各自が将来の進路を現実的に描けるようになることを目指します。
2）将来の進路希望に向けて、身につけるべき専門性や目指したい資格について具体的に考え、本学の科目をどのように組み合わせて履修するか計画を立てられることを目指します。

[履修の条件]
社会福祉や臨床心理の進路や資格について理解を深め、大学での学習の目標を定め、履修計画を建てたい1年生を対象とする科目です。
2023年度以降のカリキュラムに該当する社会人は「社会人キャリアデザイン」を履修してください。

[講義概要]
1）生活課題や心理的課題に関する支援をする仕事や資格について解説します。
2）生活課題や心理的課題に関する支援についてイメージを作るために映像資料をみます。
3）まとめとして、具体的な仕事の内容を理解するために各自が調べた成果をレポートにまとめます。
ゲストスピーカーの都合により、下記の日程や内容を変更することがあります。

■授業計画
第1回　1. オリエンテーション（授業の目標、方法、課題など）
2. 総合的支援とは何か、生物心理社会的アプローチの視点から考えてみましょう
3. 将来の目標（関心度チェック）
第2回　専門職の役割・専門性・資格
1. 専門性とは何でしょう?
2. 資格とは何でしょう?
3. 専門性を身につけるために大切な学習とは何か考えてみましょう。
第3回　臨床心理と社会福祉の専門職の共通点と相違点：スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー
第4回　映像を通して学ぶ：社会福祉施設でのソーシャルワーク
第5回　支援が必要な課題の例（喪失、トラウマ、ストレス）
第6回　野外活動やレクリエーションによる支援
第7回　本を通して学ぶ：臨床心理や社会福祉の仕事が分かる本
第8回　理論と実践のつながりを学ぶ：課題を理解するため

の理論
第9回　理論と実践のつながりを学ぶ：支援過程に関する理論
第10回　体験を通して学ぶ：在学中のアルバイトやボランティア
1. どのような体験ができるのか?
2. どのような力が養われるのか?
3. 将来にどのように役立つのか?
第11回　社会福祉施設での心理職の仕事
第12回　社会福祉施設での生活支援の仕事
第13回　地域の相談機関での仕事と資格
第14回　将来の目標と卒業までの学習計画
1.改めて将来の目標（関心度チェック）
2.資格取得の目標
3.　学習計画
第15回　まとめ（レポート）：目指す仕事について調べたこと。将来の進路設計と大学での学習計画。

［成績評価］
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（30%）

［成績評価（備考）］
レポートは2種類です。レポート1は授業の前半、レポート2は授業の後半に取り組みグーグル・フォームを通して提出してください。
「課題」は毎回の授業へのフィードバックです。
その他の評価方法は授業への参加状況と自己評価です。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
臨床心理やソーシャルワークの仕事について具体的なイメージが思い浮かべられるように本を読んだり、テレビやDVDを観たりしてください。また、ボランティアなど体験を通して学ぶ機会を作ることをお勧めします。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

［試験・レポート等のフィードバック］
レポートはグーグル・フォームを通して提出してください。承諾を得られた範囲で、インターネットにレポートの内容を紹介して、履修している学生の間で共有したいと思います。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に特に関連する科目です。この科目を履修することにより、各自が目指す専門職のイメージを描き、大学において学習すべき専門性とは何かを明確にすることを目指します。

［テキスト］
特になし。

［参考文献］
社会福祉や臨床心理の仕事について、分かりやすい文章で（短く）紹介している本です。図書館でリザーブブックとして利用できます。
宮本節子（2013）『ソーシャルワーカーという仕事』（ちくまプリマー新書）（ISBN：978-4480688941）880円
木下大生・藤田孝典（2015）『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事（岩波ブックレット）（ISBN：978-4002709246）693円
内田利広・内田純子（2022）『スクールカウンセラーという仕事』青弓社（ISBN：978-4787235114）1,980円
奥田知志・原田正樹（編）（2021）『伴走型支援：新しい支援と社会のカタチ』有斐閣（ISBN：978-4641174665）2,200円
汐見稔幸（2011）『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書683号（ISBN：978-4005006830）1,034円
その他、良い本を知っていたり見つけたりしたら、ぜひ知らせてください。

［備考］
実務経験のある教員による科目。児童養護施設、教育委員会、児童相談所などでの職務経験を活かして、子どもを支援する様々な職員の役割と専門性について指導します。

社会人キャリアデザイン

科目ナンバー	GFR2102-L
1単位：前期1コマ	1〜3年
加藤　純	

［科目補足情報］
2023年度以降のカリキュラム該当の社会人・編入生が対象です。編入学した年度に大学での学習を計画するための科目なので2027年度は開講しない可能性があります。

［到達目標］
1）生活課題や心理的課題について支援する施設や機関の機能や、働く職員の役割・専門性などについて具体的なイメージを持ち、各自が将来の進路を現実的に描けるようになることを目指します。
2）将来の進路希望に向けて、身につけるべき専門性や目指したい資格について具体的に考え、本学の科目をどのように組み合わせて履修するか計画を立てられることを目指します。

［履修の条件］
この科目は2023年度以降のカリキュラムに該当する社会人・編入生対象です。
社会人入学・編入学以外の学生は「フレッシュマンキャリアデザイン」を履修してください。

［講義概要］
「社会人キャリアデザイン」は1単位の科目です。2単位の科目として実施する14回の授業の内、ご自身の関心に応じて7回以上の授業に出席してください。
1）生活課題や心理的課題に関する支援をする仕事や資格について解説します。
2）生活課題や心理的課題に関する支援についてイメージを作るために映像資料をみます。
3）まとめとして、具体的な仕事の内容を理解するために各自が調べた成果をレポートにまとめます。

■授業計画

第1回　1. オリエンテーション（授業の目標、方法、課題など）
2. 総合的支援とは何か、生物心理社会的アプローチの視点から考えてみましょう
第2回　専門職の役割・専門性・資格
1. 専門性とは何でしょう?
2. 資格とは何でしょう?
3. 専門性を身につけるために大切な学習とは何か考えてみましょう。
第3回　本を通して学ぶ：臨床心理や社会福祉の仕事が分かる本
または
映像を通して学ぶ：社会福祉施設でのソーシャルワーク
第4回　体験を通して学ぶ：在学中のアルバイトやボランティア
1. どのような体験ができるのか?
2. どのような力が養われるのか?
3. 将来にどのように役立つのか?
第5回　「社会福祉施設での生活支援の仕事」または「社会福祉施設での心理職の仕事」
第6回　理論と実践のつながりを学ぶ：課題を理解するための理論
第7回　理論と実践のつながりを学ぶ：支援過程に関する理論
第8回　まとめ：目指す仕事について調べたこと。将来の進路設計と大学での学習計画。

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］
レポートは2種類です。レポート1は授業の前半、レポート2は授業の後半に取り組みグーグル・フォームを通して提出してください。
その他の評価方法は授業への参加状況と自己評価です。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
臨床心理やソーシャルワークの仕事について具体的なイメージが思い浮かべられるように本を読んだり、テレビやDVDを観たりしてください。また、ボランティアなど体験を通して学ぶ機会を作ることをお勧めします。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
レポートはグーグル・フォームを通して提出してください。承諾を得られた範囲で、インターネットにレポートの内容を紹介して、履修している学生の間で共有したいと思います。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に特に関連する科目です。この科目を履修することにより、各自が目指す専門職のイメージを描き、大学において学習すべき専門性とは何かを明確にすることを目指します。

［ テキスト ］
特になし。

［ 参考文献 ］
社会福祉や臨床心理の仕事について、分かりやすい文章で（短く）紹介している本です。図書館でリザーブブックとして利用できます。
宮本節子（2013）『ソーシャルワーカーという仕事』（ちくまプリマー新書）（ISBN：978-4480688941）880円
木下大生・藤田孝典（2015）『知りたい！ソーシャルワーカーの仕事（岩波ブックレット）（ISBN：978-4002709246）693円
内田利広・内田純子（2022）『スクールカウンセラーという仕事』青弓社（ISBN：978-4787235114）1,980円
奥田知志・原田正樹（編）（2021）『伴走型支援：新しい支援と社会のカタチ』有斐閣（ISBN：978-4641174665）2,200円
汐見稔幸（2011）『子どもにかかわる仕事』岩波ジュニア新書683号（ISBN：978-4005006830）1,034円
その他、良い本を知っていたり見つけたりしたら、ぜひ知らせてください。

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目。児童養護施設、教育委員会、児童相談所などでの職務経験を活かして、子どもを支援する様々な職員の役割と専門性について指導します。

キャリアデザイン基礎

科目ナンバー	GCE 2201-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
鈴木　喜子	

［ 到達目標 ］
自らが社会で活躍している姿を描き、社会人として求められる「基礎力」を習得することを目指します。また、併せて就職活動で活用できる知識・ノウハウの獲得を目指します。

［ 履修の条件 ］
将来を考えること、また、社会人として求められる基礎力の獲得を目的としていますので、一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者を対象とします。原則として2・3年生を対象とします。

［ 講義概要 ］
ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。
進め方：講義よりもワークを中心に進め、自分の意見・考えを伝え、他者の意見・考えを聴く機会を設けます。
（1）社会人として働いている方にインタビューを行い、自分の生き方や働き方を考えるきっかけを提供します。その上で、社会人として求められる力、学生生活で必要な経験等を考えます。
（2）社会人として求められる「コミュニケーション力（聴く、話す、書く）」について、具体的な方法を理解した上で実践します。
（3）自己理解を深め、「自分がどのように社会と関わるのか」を考えます。
（4）個人及びグループワークを通じて、自己に対する気づきを得

る機会を提供します。
(5)就職活動において、自分自身をしっかりと表現する方法を学びます。
状況により授業の順番や内容が一部変更になる場合があります。(担当講師：小風泰子)

■授業計画

第1回　オリエンテーション、今後の進め方の確認、大学生の基本姿勢について
第2回　コミュニケーションを学ぶ
第3回　自己紹介
第4回　自己理解を深めよう
第5回　伝わる話し方、話法
第6回　プレゼンテーションを学ぶ
第7回　社会人インタビュー
第8回　伝わる書き方、就職活動の基礎知識
第9回　インターンシップについて学ぶ(就職関連情報)
第10回　社会・企業を知る
第11回　グループディスカッション
第12回　マナー・働く価値観
第13回　ビジネスマナー(面接編)
第14回　復習と振り返り
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業態度(積極性、主体性、発言内容など)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
【予習】企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料の振り返りを行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、社会人として働いている方のお話を聞いたり、各種グループワーク等を実践したりすることで他者を理解していく力が身に付きます。また、社会人として求められる「コミュニケーション力(聴く、話す、書く)」について具体的な方法を理解した上で自分自身をしっかりと表現することができるようになります。

[テキスト]
毎回必要な教材を配布します。配布した教材が散在しないよう、専用ファイルの準備をお願いします(資料のサイズは、A4を予定)。

[参考文献]
授業内で告知

[備考]
受講人数によっては、カリキュラム内容が一部変更になる可能性があります。

キャリアデザイン実践

科目ナンバー	GCE2301-S
2単位：後期1コマ	3年
鈴木　喜子	

[到達目標]
就職活動において求められる自己分析、応募書類、業界研究、企業研究、グループディスカッション、面接、ビジネスマナー等の各種対策やテクニックを実践的に学び、自身が思い描く将来を具体化しつつ、それを実現するための自信と考え方及びスキルを身に付けます。

[履修の条件]
一般企業の就職に希望・関心がある者、自らのキャリアデザインに関心がある者で、「実際に就職活動を行う予定である者」を対象とします。2年生の履修も可能ですが、原則として3年生を対象とします。前期の「キャリアデザイン基礎」を受講していなくても履修可能であり、授業に問題なくついていくことができる設計になっています。なお、第11回目以降はより実践に即すため、リクルートスーツの着用を必須とします。

[講義概要]
ねらい：人との関わりの中で自分らしさを発揮し、主体的な行動につながるマインドやスキルを身につける。
進め方：講義と個人ワークを中心に進めます。自分自身と向き合う時間を多く設けます。
(1)自己理解を深めるため、職業興味検査やワークシートを元に自己分析を行い、強み等を言語化します。
(2)応募書類のポイントを理解し、必須となる項目を実際に記入していきます。
(3)業界・企業研究の方法を理解し、具体的に調べていきます。
(4)グループディスカッション、面接の対策法を学び、実際に体験をしていきます。
(5)ビジネスマナーの基本を理解し、実践的なスキルを学びます。
状況により授業の順番や内容が一部変更になる場合があります。(担当講師：小風泰子)

■授業計画

第1回　就活キックオフ(心構え、進め方、必要な準備の理解)
第2回　自己分析　～StepⅠ～(職業興味検査)
第3回　自己分析　～StepⅡ～(自分の強みを言語化する)
第4回　応募書類対策　～StepⅠ～(卒業論文・ゼミ・実習、趣味・特技の記入)
第5回　応募書類対策　～StepⅡ～(学生時代に力を入れたことの記入)
第6回　応募書類対策　～StepⅢ～(自己PRの記入)
第7回　業界研究
第8回　職種研究
第9回　応募書類対策　～StepⅣ～(志望動機の記入)

第10回　グループディスカッション
第11回　ビジネスマナー
第12回　面接対策　集団面接
第13回　面接対策　個人面接Ⅰ
第14回　面接対策　個人面接Ⅱ
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業態度(積極性、主体性、発言内容など)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
【予習】企業選択の幅を広げ、業界・企業情報の収集をするために、ニュース、経済に関心を持つこと。【復習】配布資料やテキストの振り返りを行うこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。この科目を履修することで、グループディスカッションや面接、各種グループワーク等を通じて他者を理解したり、社会やビジネスで通じる実践的な自己表現を獲得できるようになります。

[参考文献]
授業内で告知

[備考]
受講人数によっては、カリキュラム内容が一部変更になる可能性があります。

データサイエンス基礎

科目ナンバー	GNI1102-P
2単位：後期1コマ	1年　必修
市吉　伸行	

[到達目標]
Excelは手軽に使える表計算ツールで、データサイエンスの基本的な処理を行うことができます。
本講義では、解説と演習問題取り組みを通して、Excelの基本的な使い方を習得し、基本的なデータ分析ができるようになることを目標とします。
(皆さんがどのような進路に進んでも、Excelが使えることは仕事の役に立ちます。)

[履修の条件]
1年前期の「データサイエンス入門」(必修)を履修、単位取得していることが望ましい。

[講義概要]
本講義では、講師が教科書に沿ってExcelの機能を説明し、各自がノートパソコンを使用して演習を行います。
演習時間中は講師が教室内を回って、取り組み状況を確認したり、質問に答えたりします。
演習結果は授業の終わりに提出してもらいます。

■授業計画
第1回　データサイエンスとは?(データサイエンスの概要、事例)
第2回　Excelの基本操作(1)～起動・終了、データの入力、四則演算など
第3回　Excelの基本操作(2)～簡単な関数、行/列の挿入と削除、書式設定など
第4回　グラフの作成～棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフなど
第5回　演習(復習)
第6回　統計関数と数学関数～最大・最小・合計など
第7回　公開データと簡単な分析～オープンンデータの紹介、＊レポート課題の提示
第8回　Excelを使った統計(1)平均値・中央値・分散・標準偏差、度数分布表、*レポートテーマ相談
第9回　Excelを使った統計(2)相関係数、散布図、*レポートテーマ相談
第10回　演習(復習)、*レポート取り組み
第11回　IF関数と使い方、*レポート取り組み
第12回　条件を満たすデータの抽出、*レポート取り組み
第13回　レポートの仕上げ
第14回　レポートの発表(各自)、まとめ
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(35%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(65%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法：授業態度(30%)、演習結果(35%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習：テキスト(教科書)の指定されたページ範囲を通読し、何を学ぶか、何ができるようになるか理解しておくこと。(約30分)
復習：テキストと演習結果を振り返り、学んだことを思い出すこと。(約30分)
別途時間を取って、レポート課題の取り組みをしてください。

[試験・レポート等のフィードバック]
ー

[ディプロマポリシーとの関連性]
・ディプロマポリシー(『講義概要』p7)の「3.総合的・実践的な学習能力」に該当します。
この科目を学ぶことで、社会や心理学における問題や仮設をデータから発見し、分析・検証するスキルの基本を身に着けることができます。

[テキスト]
ISBNコード：9784296050796　森夏節、常見ひろこ『100題で

学ぶ表計算～基礎からデータサイエンスまで（第5版）』（日経BP）

［参考文献］
ISBNコード：9784534061218　田島貴裕、奥田和重『新入生のためのアカデミック・リテラシー～一からわかるレポートの書き方』（小樽商科大学出版会）

［備考］
・講義にはUSBメモリを持参すること。

英語 Reading

科目ナンバー	GFL3101-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

［到達目標］
英語の文書のレトリック（文書の構造）を把握して、読解力をたかめる。また、語彙を増やす方法も教える。

［履修の条件］
(1)授業は、前期2コマ。
(2)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(4)授業で課せられる課題（assignment）は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

［講義概要］
○　この授業では、常に辞書に頼ることなく、英文を効果的に英語で読んでいくためのスキルを習得することを目指している。接頭辞、接尾辞ラテン語を起源とする語幹の学習を中心としたreadingに必要な語彙力の増強が授業の中心となる。
○　語彙力の増強と並行して、Scanning（特定の情報を読み出す読み方、拾い読み）、Skimming（文の大意を読みとる読み方、斜め読み）に加えて、文の複数の主題をまとめるスキル、段落の中心概念（main idea）を読みとるスキル等の習得にも強調がおかれる。時事英文にも取組む。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画

第1回　Reading Faster Introduction/ Diagnostic Test/ Parts of speech（Jabberwocky）
第2回　Word study
History of the English language
第3回　Latin Stems/ Prefixes/ Introduction to extensive reading
Keeping a Vocabulary Notebook
第4回　Unit 1, Lesson 1
第5回　Unit 1, Lesson 2
第6回　Unit 1, Lesson 3
第7回　Quiz on A,B, Unit 2, Lesson 1
第8回　Unit 2, Lesson 2
第9回　Quiz on C, D,
Unit 2, Lesson 3（Review）
第10回　Unit 3, Lesson 1
第11回　Quiz on E, F
Unit 3, Lesson 2
第12回　Unit 3, Lesson 3
第13回　Quiz on G, H
Unit 4, Lesson 1
第14回　Unit 4, Lesson 2
第15回　Quiz on I, J, K, L
Unit 4, Lesson 3（Review）
第16回　Unit 5, Lesson 1
Understanding Topics
第17回　Quiz on M
Introduction to Reading Projects/Authentic materials
Vocabulary Notebooks Part 1
第18回　Reading Patterns
The Listing Pattern
第19回　Quiz on N, O
The Time Order Pattern
第20回　Unit 5, Lesson 2
第21回　Quiz on P
Unit 5, Lesson 3
第22回　The Comparison Pattern
第23回　Quiz on Q.R,S
The Cause/Effect Pattern
第24回　Unit 6 Lesson 1
第25回　Quiz on T-Z
Unit 6 Lesson 2
第26回　Unit 6 Lesson 3（Review）
Vocabulary Notebooks Part 2
第27回　Unit 7 Lesson 2
第28回　Reading Projects
第29回　Reading Projects
第30回　-

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（50%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回の宿題は不可欠。特に毎週のVocabulary　Quizの復習がもとめられています。本科目では、各授業100分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
二回、単語のノートのチェックで、学生一人ひとりと指示します。
Reading Projectは個人的指導、フィードバック。

［ディプロマポリシーとの関連性］
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力

コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［テキスト］
Patricia Ackert et.al, Reading and Vocabulary Development 1, Fact and Figures, Fourth Edition. National Geographic Learning（Cengage）￥3340（ISBN　9789814896535）

［参考文献］
特になし

英語 Speaking/Listening

科目ナンバー	GFL 3102-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

［到達目標］
英語の発音、発声、Formulaic　expressions（挨拶など、）communication strategies,実用的な会話の訓練と習得。

［履修の条件］
(1)語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
(2)この授業では、単に出席するだけでなく、積極的に授業に参加する（active　participation）ことが求められ、評価の大切な要因となります。
(3)本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い、単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
(4)授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。

［講義概要］
○　授業は、充実した指導を徹底させるために2グループに分かれ、2グループがほぼ同じ内容の学習ができるように努める。
○　英語のSpeakingとListeningのスキル（技能）のダイナミックスを習得することに重きが置かれる。
○　主に、自然なスピードの英語の発音・リズム・アクセント・イントネーション・発音上の省略形の学習を通して聴解力の増強に努める。実際の内容のある練習・演習も織り込んで、英語によるこの授業では、学生が今まで習ってきた英語を用いて話していくスキルとしてのSpeakingとListeningを促進するための実際的な方策についても学びを行う。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入して受講してください。テキストなく受講しても単位がみとめられません。

■授業計画

第1回　1）Introduction to Course
　　Communication Strategies
第2回　1）Introductions/c
　　Communication strategies
　　2）Phonetics Test
第3回　1）Practice/Communication Strategies
　　2）Clear Speech：Vowel sounds
第4回　1）Lesson 1A
　　2）Clear Speech：Vowel and Consonant sounds
第5回　1）Lesson 1A
　　2）Clear Speech, pp. 2–6
第6回　1）Lesson 1B
　　2）Clear Speech, pp. 7–9
第7回　1）Lesson 1B
　　2）Clear Speech, Unit 2
第8回　1）Lesson 2A
　　2）Clear Speech, Units 2–3
第9回　1）Lesson 2A
　　2）Clear Speech, Unit 4
第10回　1）Lesson 2B
　　2）Clear Speech, Unit 4
第11回　1）Lesson 2B
　　2）Clear Speech, Unit 5
第12回　1）Lesson 3A
　　2）Clear Speech, Unit 5
第13回　1）Lesson 3A
　　2）Clear Speech, Unit 6
第14回　1）Lesson 3B
　　2）Clear Speech, Unit 7
第15回　1）Lesson 3B
　　2）Clear Speech, Unit 7
第16回　1）Review
　　2）Midterm Test（Phonetics/Lexicarry）
第17回　1）Review
　　2）Clear Speech, Test, pp. xiii-xv
第18回　1）Lesson 4A
　　2）Clear Speech, Unit 8
第19回　1）Lesson 4A
　　2）Clear Speech, Unit 8
第20回　1）Lesson 4B
　　2）Clear Speech, Unit 9
第21回　1）Lesson 4B
　　2）Clear Speech, Unit 10
　　Pronunciation Review
第22回　1）Lesson 5A
　　2）Clear Speech, Unit 11
第23回　1）Lesson 5A
　　2）Clear Speech, Unit 11
第24回　1）Lesson 5B
　　2）Clear Speech, Unit 15
第25回　1）Lesson 5B
　　2）Clear Speech, Unit 15
第26回　1）Lesson 6A
　　2）Clear Speech, Unit 15
第27回　1）Lesson 6A
　　2）Clear Speech Test
第28回　1）Lesson 6B/Review
　　2）Review
第29回　Speaking Test
第30回　-

［成績評価］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（30％）、課題提出（40％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
教科書のCDを復習する。本科目では、各授業100分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
試験の結果、中間テストで一人一人を評価する。

［ディプロマポリシーとの関連性］
4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

［テキスト］
Judy B. Gilbert, Clear Speech（4rd Edition）,（Cambridge University Press）定価¥3,135 ISBN：9781108659338
Angela Buckingham, et al., Get Real 1（New Edition）,（Macmillan）定価¥3,003（ISBN： 9780230447080）

［参考文献］
特になし

英語 Writing/Grammar

科目ナンバー	GFL 3103-S
2単位：前期2コマ	1年
ジャン・プレゲンズ	

［到達目標］
英語の文書の種類、段落（paragraph）の構造を学ぶ。

［履修の条件］
（1）語学の学習では、日頃の規則的な予習・復習が不可欠である。
（2）本授業の出席については、欠席数が総授業回数の1/4以上となった場合は、学期末の定期試験の受験資格を失い単位認定が受けられなくなるので、注意が必要である。
（3）授業出席が極端に悪い場合、履修の中止を命じられることもあるので、注意が必要である。
（4）授業で課せられる課題（assignment）は、定められた期日に提出することが必要である。定められた提出期限に遅れた課題については、1/2の課題としてしか評価されないので注意が必要である。

［講義概要］
○　英語のGrammarのポイントをふまえながら、Writingの力をつけていくための学習をする。
○　授業では、個人的及びビジネス上の手紙文を書く等の実際的な書く練習も豊富に含まれる。
受講には最新版のテキストが必要です。必ず購入し受講してください。テキストなく受講しても単位が認められません。

■授業計画
第1回　Class rules/ Common mistakes in English
第2回　Unit 1. The Paragraph, Topic Sentences
第3回　Unit 1. Paragraph form, More on Topic Sentences
第4回　Unit 1. Supporting sentences, Concluding sentences
第5回　Unit 1. Unity, Coherence
第6回　Unit 1 Run-on sentences, Review
第7回　Unit 1 Review
第8回　Unit 2 Descriptive paragraphs, use of the articles
第9回　Unit 2. Descriptive paragraphs, specific details
第10回　Unit 2. Adjectives, adjective order
第11回　Unit 2. The Be Verb, Review
第12回　Unit 3 Example paragraphs, sentence type
第13回　Unit 3. Examples as supporting details, Clustering
第14回　Unit 3. Simple present, review of sentence type, developing an outline
第15回　Unit 3. Review
第16回　Unit 4. Process paragraphs,
第17回　Unit 4. Time-order words in process paragraphs
第18回　Unit 4 Imperative sentences, advice, necessity, prohibition modals
Review
第19回　Personal letter/ Giving directions
第20回　Unit 5. Narrative paragraphs
第21回　Unit 5. Narrative paragraphs, sensory details, order of events
第22回　Unit 5 The simple past, past continuous
Review
第23回　Business letters
第24回　Unit 6. Opinion paragraphs
第25回　Unit 6. Opinion paragraphs, facts and opinions
第26回　Unit 6. Mechanics：there is/are; because/because of
Review
第27回　Final writing composition：brainstorming, outlining
第28回　Final composition：sentences, organization
第29回　Final Composition
第30回　-Final Composition

［成績評価］
試験（0％）、レポート（20％）、小テスト（0％）、課題提出（80％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
毎回の宿題の提出、復習が必要。宿題のなおし、2回目のチェック。本科目では、各授業100分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
宿題の個人的指導、説明。学生は宿題を一回書きなおして、もう一度チェックを受ける。課題ごとに Outline を事前に提出。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力
コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること。

[テキスト]
Alice Savage and Masoud Shafiei, Effective Academic Writing, The Paragraph
Second Edition, Oxford¥3696 ISBN：9780194323468 （10-digit ISBN：0194323463）

ドイツ語初級 I

科目ナンバー	GFL 2101-S
1単位：前期1コマ	1〜4年
古川　高子	

[科目補足情報]
この授業は対面式の授業です。

[到達目標]
ドイツ語をできるだけ理解し、自らドイツ語が話せるようなることを目標とします。

[履修の条件]
指定の教科書と独和辞書を用意してください。
後期の「ドイツ語初級 II」を履修するには、この「ドイツ語初級 I」を履修しておくこと。「ドイツ語初級 I」と「ドイツ語初級 II」は連続した講義を行います。

[講義概要]
ドイツは「ルーテル」の始まりの地、マルティン・ルターの生まれ故郷です。ルターのような神学者をはじめとして作曲家や作家、彼らの作品あるいはサッカー選手などを通じてドイツに少しでも関心を持ったみなさんが、例えばドイツ語圏を旅行する際に、言葉で困らないようドイツ語の文法や語彙を学ぶと共に、ドイツの人びとや大学に学ぶ学生たちの生活や慣習についても併せて勉強していきます。講義では基礎文法を習得しながら、ドイツ語を話すこと、聞くこと、そして書くことに力をいれ、楽しくドイツ語が身につくよう進めます。

■授業計画

第1回　イントロダクション：ドイツ語のアルファベット、発音、地名、挨拶の仕方などを学びます。
第2回　1回目の復習+Lektion 1「人と知り合う」を参照にしながら、ドイツ語の動詞,sein 動詞や疑問文・平叙文の作り方を学びます。
第3回　2回目の復習+Lektion 1「人と知り合う」を参照にしながら、ドイツ語の動詞と5W+1H の疑問文や前置詞、数字、を学び、語彙を増やして、練習問題を行います。
第4回　3回目の復習+Lektion 2「国、言語、専攻」を参照にしながら、ドイツ語の動詞を増やし、名詞・性・冠詞を学ぶとともに、地名や出身地を訪ねるドイツ語を覚えます。
第5回　4回目の復習+Lektion 2「国、言語、専攻」を参照にしながら、大学での専攻や履修科目、曜日などを学ぶとともに、ドイツ語の冠詞の変化・人称代名詞、よく使われる不規則動詞を勉強します。
第6回　5回目の復習+Lektion 3「食事」を参照にしながら、好物、外国料理や食事に関する名詞や動詞を学び、併せて接続詞を勉強します。
第7回　6回目の復習+Lektion 3「食事」を参照にしながら、冠詞の使い方、「〜がある es gibt」などを学びながら、疑問文に対する解答の仕方、前置詞などを勉強し、ドイツと日本の食習慣についてドイツ語で学びます。
第8回　7回目の復習+Lektion 4「余暇と趣味」を参照にしながら、不規則動詞の種類を増やして会話が少しずつできるようにしていきます。併せて趣味に関するドイツ語を学びます。
第9回　8回目の復習+Lektion 4「余暇と趣味」を参照にしながら、不規則動詞を増やし、話法の助動詞を勉強するとともに、ドイツの若者の余暇活動を学びます。
第10回　9回目の復習+Lektion 5「家族と職業」を参照にしながら、家族、職業、性格、兄弟、年齢などについてのドイツ語を学ぶとともに、名詞の複数形を学びます。
第11回　10回目の復習+Lektion 5「家族と職業」を参照にしながら、冠詞の使い方や形容詞、疑問詞を勉強します。
第12回　11回目の復習+Lektion 6「物と買い物」を参照にしながら、所持品について尋ねたり、答えたりする言い方を学びます。
第13回　12回目の復習+Lektion 6「物と買い物」を参照にしながら、指示代名詞の1格と4格をべんきょうし、不定冠詞と定冠詞などを学びます。
第14回　前期のまとめと総合テスト
第15回　-

[成績評価]
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（40％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した事柄は毎回復習し、次の回の授業開始時に行われる簡単なクイズ（=小テスト）に備えましょう。
教科書にはドイツ語音声のダウンロード用 URL が付いていますので、日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎授業のはじめに、前回の授業で習ったことを復習するための簡単な小クイズ（=小テスト）を行い、その場で回答を示すとともに、フィードバックを兼ねて前回の授業を復習します。総合テストについては赤を入れ、点数を入れた答案を PDF 化して各人に送ることでフィードバックとします。夏休みに復習してください。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当しま

す。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

[テキスト]
Shuko Sato/Kyoko Shimoda/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver, "Szenen 1 heute aktuell".(Sansyusha, 2022)【佐藤修子/下田恭子/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver『新・スツェーネン1　場面で学ぶドイツ語』(三修社, 2022). 本体2600円+税260円=2860円
ISBN：9784384123081

[参考文献]
授業中に指示する。

[備考]
語学の講義は、読む、書く、聞く、話すという要素で構成されていますが、視覚や聴覚に障がいがあり教材の利用が難しい場合は、申し出てください。別の方法を考えます。

ドイツ語初級 II

科目ナンバー	GFL2102-S
1単位：後期1コマ	1〜4年
古川　高子	

[科目補足情報]
この授業は対面式の授業です。

[到達目標]
ドイツ語を少しでも理解し、自らドイツ語が話せるようなることを目標とします。

[履修の条件]
指定の教科書と独和辞書を用意してください。
この秋学期の「ドイツ語初級 II」を履修するには、春学期の「ドイツ語初級 I」を履修しておくこと。「ドイツ語初級 I」と「ドイツ語初級 II」は連続した講義を行います。

[講義概要]
春学期に引き続き、少しでも関心を持ったみなさんが、ドイツ語圏を旅行する際などに、言葉で困らないようドイツ語の文法や語彙を学ぶと共に、ドイツの大学に学ぶ学生たちの生活や習慣も併せて勉強していきます。講義では基礎文法を習得しながら、ドイツ語を話すこと、聞くこと、そして書くことに力をいれ、楽しくドイツ語が身につくよう進めます。

■授業計画
第1回　教科書 Lektion7「休暇の後」を参照にしながら、過去についての表現の仕方を学び、メールを読んで書く練習をします。
第2回　1回目の復習+Lektion7「休暇の後」を参照にしながら、ドイツ語の現在完了形、過去分詞などを増やします。
第3回　2回目の復習+Lektion8「住居」を参照にしながら、ドイツ語で、前置詞を学び、住宅、部屋、家具の位置、家賃や広さについて話せるようにします。
第4回　3回目の復習+Lektion8「住居」を参照にしながら、前置詞、定冠詞類、疑問詞について学びます。
第5回　4回目の復習+Lektion9「時刻と日付」を参照にしながら、時刻、時間、一日の生活、日付、誕生日、予定などのドイツ語を勉強します。
第6回　5回目の復習+Lektion9「時刻と日付」を参照にしながら、非人称動詞の es、前置詞、分離動詞、序数や疑問詞について学びます。
第7回　6回目の復習+Lektion10「街と大学」を参照にしながら、前置詞を増やすとともに、街と大学の建物、道案内、交通手段、大学生活に関するドイツ語を学びます。
第8回　7回目の復習+Lektion10「街と大学」を参照にしながら、命令形や前置詞、疑問詞を勉強します。
第9回　8回目の復習+Lektion10「街と大学」を参照にしながら、前置詞の総復習を行うとともに、教科書の写真を説明できるようにします。
第10回　9回目の復習+Lektion11「休暇の前」を参照にしながら、話法の助動詞を増やし、休暇の予定やはがきの書き方を学びます。
第11回　10回目の復習+Lektion11「休暇の前」を参照にしながら、前置詞、疑問詞を増やします。
第12回　11回目の復習+Lektion12「体験と経験」を参照にしながら、過去形について勉強し、過去の体験や経験を話す練習をします。
第13回　12回目の復習+Lektion12「体験と経験」を参照にしながら、過去形の形を応用していきます。
第14回　後期のまとめと総合テスト
第15回　-

[成績評価]
試験(60%)、レポート(0%)、小テスト(40%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
学習した事柄は毎回復習し、次の回の授業開始時に行われる簡単な小テストに備えましょう。小テストのフィードバックを兼ねて前回の授業を行います。教科書にはドイツ語音声のダウンロード用 URL 付いていますので、日頃から耳も慣らすよう心がけましょう。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回の授業のはじめに、前回の授業で習ったことを復習するための簡単な小クイズを行います。その場で回答を示すとともに、フィードバックを兼ねて前回の授業の復習を行います。総合テストについては赤を入れ、点数を入れた答案を PDF 化して各人に送ることでフィードバックとします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当します。ドイツ語を学ぶことによりコミュニケーションの可能性を広げ、アクセスできる情報を増やすとともに、ドイツ語圏諸国の文化や歴史への理解を深めます。

[テキスト]
Shuko Sato/Kyoko Shimoda/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver, "Szenen 1 heute aktuell".(Sansyusha, 2022)【佐藤修子/下田恭子/Heike Papenthin/Gesa Oldehaver『新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語』(三修社, 2022). 本体2600円+税260円=2860円
ISBN：9784384123081

[参考文献]
授業中に指示する。

[備考]
語学の講義は、読む、書く、聞く、話すという要素で構成されていますが、視覚や聴覚に障がいがあり教材の利用が難しい場合は、申し出てください。別の方法を考えます。

憲法

科目ナンバー	GSS2103-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
金子 和夫	

[到達目標]
国の最高法規である日本国憲法について理解できる。社会福祉士国家試験、各種公務員採用試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士の受験資格を希望する者は、「権利擁護を支える法制度」とあわせて履修すること。それ以外の者もそうしてほしい。

[講義概要]
本講義は国民主権、平和主義、基本的人権の尊重という基本原理を中心に、具体的事例をあげながら講義する。中でも基本的人権を中心に、その一般理論、自由権、社会権の内容について判例をあげながら紹介する。さらに、三権分立や地方自治についても講義する。

■授業計画
第1回 ガイダンス授業(法の一般理論・憲法の基本原理)
第2回 国民主権
第3回 平和主義
第4回 基本的人権の一般理論(幸福追求権)
第5回 基本的人権の一般理論Ⅱ(平等権)
第6回 自由権Ⅰ(精神的自由)
第7回 自由権Ⅱ(人身の自由)
第8回 自由権Ⅲ(経済的自由)
第9回 社会権Ⅰ(生存権)
第10回 社会権Ⅱ(生存権に関する判例)
第11回 社会権Ⅲ(教育権、勤労権、労働基本権)
第12回 三権分立(その抑制と均衡)
第13回 財政(政教分離原則、公私分離原則)
第14回 地方自治(自治体の事務、条例)
第15回 試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
憲法に規定される基本的人権を始めとした理念・原則・条文に関し、新聞記事やＴＶニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけることができる。

[テキスト]
テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

[参考文献]
憲法に関する文献は、専門的な研究書から受験参考書まで数多くあるので、自分で使いやすい文献を利用すること。
渋谷他『憲法1・2・3』<有斐閣アルマ>(有斐閣)
初宿他『いちばんやさしい憲法入門』<有斐閣アルマ>(有斐閣)
芦部信喜『憲法』(有斐閣)など

[備考]
授業はキャッチボール形式です。教員の質問に対し多くの学生に答えてもらう形式で進めます。

権利擁護を支える法制度

科目ナンバー	GSS2104-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
戸井 宏紀	

[到達目標]
1.権利擁護を支える法の基礎を理解するとともに、成年後見制度の手続きについて具体的に説明できる。
2.権利擁護の意義と支える仕組みについて理解し、その主な担い手の活動と特徴、および専門職の役割について説明できる。

3.社会福祉専門職としてどのように権利擁護活動にかかわるか、自らの視点を述べられる。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、国家試験受験希望者は「憲法」とあわせて必ず履修すること。

[講義概要]
権利擁護とは、判断能力が不十分な人や意思や権利を主張することが困難なため、社会的に不利益を被っている人の自己決定や権利の主張を支援したり代弁したりすることにより、本人の権利を擁護することである。具体的には、成年後見制度やオンブズマン、日常生活自立支援事業などを通して行われる実践活動である。
本科目では、権利擁護と成年後見制度に関する基本的な知識を習得するとともに、社会福祉専門職として権利擁護実践上必要となる、視点を身につけることを目標とする。

■授業計画
第1回　コース概要、ソーシャルワークと権利擁護実践

第2回　法の基礎および日本国憲法の理解
第3回　行政法の理解
第4回　民法の理解
第5回　成年後見制度(1)　成年後見制度の概要
第6回　成年後見制度(2)　成年後見
第7回　成年後見制度(3)　保佐・補助
第8回　成年後見制度(4)　任意後見制度
第9回　成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業、および意思決定支援
第10回　権利擁護にかかわる組織・団体
第11回　権利擁護にかかわる専門職の役割1(弁護士、司法書士、医師等)
第12回　権利擁護にかかわる専門職の役割2(社会福祉士：新たな倫理綱領と行動規範から)
第13回　権利擁護の意義と支える仕組み1(障害福祉事例)
第14回　権利擁護の意義と支える仕組み2(高齢福祉事例)
第15回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やＴＶニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得ることができる。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得ることができる。

[テキスト]
テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

[参考文献]
『権利擁護を支える法制度』(中央法規)
その他参考文献は、授業内にて紹介します。

社会学

科目ナンバー	GSS2105-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
西下　彰俊	

[到達目標]
我々の人生を社会学の基礎概念の一つである「ライフコース」という観点から捉える。ライフコースとは何かについて受講生に理解してもらう。
社会学では、このライフコースの前半に焦点を当てる。特に、子ども、女性を中心にしつつ、日本社会ではどのような社会問題があるかを理解する。比較の準拠点としてスウェーデンを選び、スウェーデンと日本を比較する。

[履修の条件]
特になし。

[講義概要]
ライフコースの前半に焦点を当て、現代社会で生起している様々な問題を素材に社会学的の観点から捉えることとする。取り上げるトピックスは、いじめ、ひきこもり、モラトリアム、失業、フリーター、派遣社員などである。これらの社会問題を、「家族の小規模化」、「核家族化」、「家族の個人化」、「産業化」、「少子化」、「ＩＴ化」等の社会変動という背景要因と関連づけて、分かりやすく説明する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　社会学の基礎概念その1　地位と役割、属性と業績
第3回　社会学の基礎概念その2　ライフコース、役割変動
第4回　社会学の基礎概念その3　マージナルマン
第5回　社会学の基礎概念その4　核家族化、家族変動
第6回　何故、晩婚化・非婚化が進むのか

第7回　晩婚化と非婚化は社会問題ではない
第8回　何故、いじめがなくならないのか
第9回　いじめと福沢諭吉
第10回　何故、ひきこもりとニートが増えたのか
第11回　ひきこもる自由とその危うさ
第12回　健康を害するライフスタイルとしてのタイプ A
第13回　性別役割分業とは何かー平等社会スウェーデンと比較する
第14回　全体のまとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

[成績評価（備考）]
毎回のリアクションペーパーの内容から積極的な参加度の程度を調べ、成績評価に加味する（25％）。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
オリエンテーションで配付する資料を参考にする。配付資料には、各回の授業で取り上げる資料・文献のリストを載せるので、毎回当該文献・資料を予習しまた復習する。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。なお、リモート授業の場合には、毎回配布教材をポータルに添付し、毎回2本（各30分）の動画教材の URL をポータルに掲載する。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回授業内容に関する問いを1問ないし2問設定し、リアクションペーパーに記述してもらう。そのリアクションペーパーに対するフィードバックを後日の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
社会学は社会関係学であるし、人間関係学でもある。本講義を通じて、全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を身に付けることが到達目標である。

[テキスト]
テキストは使用しない。レジュメを配布する。

[参考文献]
第1回のオリエンテーションで配付する資料を参考にする。加えて、授業内で適宜紹介する。

社会学 II

科目ナンバー	GSS 2106-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
西下　彰俊	

[到達目標]
人生後半のライフコースに焦点を当て、家族関係、定年退職、介護といったトピックスを中心に社会学の概念を用いながら学ぶ。加えて要介護高齢者、認知症高齢者の介護に焦点を当て、韓国の介護政策のあり方と比較しながらグローバルなセンスも身につけることを目標に掲げる。特に介護に関しては、社会全体の課題であると同時に、受講生一人ひとりの老後問題として感得するセンスを身につけることを学ぶ。最終的には、認知症フレンドリーコミュニティ構築に向けて、我々一人一人に何ができるのかを考える。

[履修の条件]
社会学Ⅱを履修するには、社会学Ⅰが履修済みであることが望ましい。

[講義概要]
個人のライフコースの後半部分において、家族や社会と関わる部分について学ぶ。特に介護（ケア）が重要なライフイベントになるので、要介護高齢者、認知症高齢者をめぐる介護問題、地域福祉問題について、韓国と比較しながらグローバルな視点から詳しく論じる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念、サクセスフルエイジングの説明（その1）
第3回　人生後半のライフコースと関連する社会学のキー概念、生きがいの説明（その2）
第4回　日本社会の高齢化のマクロな将来予測を、スウェーデン・韓国・台湾と比較
第5回　日本の要介護高齢者・認知症高齢者と介護保険
第6回　日本の在宅ケアサービス
第7回　日本の施設ケアサービス
第8回　韓国の在宅サービスと施設サービス
第9回　日本と韓国の在宅ケアサービスの比較
第10回　日本と韓国の施設サービスの比較
第11回　台湾の在宅ケアサービス
第12回　台湾で一般的な住み込み型外国人ケア労働者
第13回　日本と台湾の在宅ケアサービスの比較
第14回　韓国・台湾・日本の介護システムの比較分析
第15回　試験

[成績評価]
試験（60％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（40％）

[成績評価（備考）]
毎回のリアクションペーパーの内容から授業に対する積極的参加度を把握し、評価に加味する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストで扱う章及び論点について予習および復習をすること。毎回の授業で、次回で扱う内容の予告をする。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回2問前後のクイズを出し受講生の知識や意見をリアクションペーパーに解答してもらう。そのフィードバックを次回の授業の冒頭で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
社会学は、人間関係学であり、社会関係学である。授業内容の理解を通じて、2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性を習得することが本講義の到達目標である。

[テキスト]
西下彰俊『東アジアの高齢者ケア：韓国・台湾のチャレンジ』（新評論, 2022年）
ISBN 978-4-7948-1218-6

[参考文献]
適宜、授業中に紹介する。

[備考]
なし。

文化史

科目ナンバー	GHU 2102-L
2単位：前期1コマ	1年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
日本文化を中心に概説的に、また大陸、外国との関係、交流にも関心を持ちつつ学んで行きます。総合的な文化的、国際的見地を養う事ができることを目標としています。

[履修の条件]
特にありませんが、広く文化に興味を持つことを希望します。積極的に講義に参加するために、一度は、各自が最も関心のある領域で課題を提出していただきます。内容は文化に関することであればテーマは問いません。事前に内容について個別に協議します。

[講義概要]
日本文化史を中心に学びつつ、古代においては朝鮮半島、中国との関係、あるいはシルクロードを通りはるかペルシア等、中東との関係を、国風文化においては、源氏物語や日記文学を取り上げつつ平安の世界を学び、中世の武家文化は特に折形の殿中礼法の初歩を実技とともに取り上げます。また、近現代においては欧米文化との交渉、交流史を学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：
　　全体構造と日本の文化概説
第2回　古代文化史　縄文と弥生　新しい考古学の成果等をふまえて
第3回　古代文化史　大陸、朝鮮半島との交渉
第4回　中古文学の世界（1）万葉集と日本文化
第5回　中古文学の世界（2）源氏物語にみられる音楽、文化
第6回　中古文学の世界（3）日記文学　女流文化の中核
第7回　香の文化　その起源と発展について
第8回　武家文化　武家礼法（折形）　伊勢流と小笠原礼法
第9回　茶道の世界とキリスト教
第10回　能楽の世界（1）　能の起源と思想
第11回　能楽の世界（2）　キリシタン能の歴史とその可能性
第12回　道の文化　武士道とキリスト教
第13回　歌舞伎、文楽の世界　庶民の文芸の勃興について
第14回　日本文化とは何か。講義の後にリアクションペーパーなどで簡単にまとめをします。
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（30%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
発表、質問、自由課題提出など、積極的講義の参加。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
日本史を高校時代に選択していない場合は、高校レベルの教科書、参考書で各時代について復習をしておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義に関してのフィードバックを次回に反映させる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。いろいろな文化を学ぶことにより、より他者を理解することが出来る。キリストの心を文化の視点から、とくに日本文化の中でどのような可能性があるかを共に考察してゆく。

[テキスト]
特に指定しません。講義中に適宜参考文献を紹介します。

[参考文献]
講義で適宜紹介します。

文化人類学

科目ナンバー	GHU 2103-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
上村　敏文	

[科目補足情報]
視聴覚教材を必要に応じて使用致します。

[到達目標]
世界の様々な文化、宗教を人類学的視点で理解を深めていきます。近隣のフィールドワークを行います。

[履修の条件]
意欲的に講義に参加できる学生の履修を求めます。フィールドワークを推奨しますので、自分自身でフィールドを設定して調査してもらいます。

[講義概要]
文化人類学方法論や概論を座学で講義中心で実施しますが、講義を受けて自分の住んでいる地域、あるいは出身地の簡単なフィールドワークをすることにより、理解を深めていきます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　文化人類学の歴史と方法論
第2回　文化人類学とフィールドワークについて
第3回　人類と民族　人類学の基本概念
第4回　人間と文化、言語　記憶と記録
第5回　文化の進化と伝播論　東アフリカを中心として
第6回　民話と神話の実像と虚像
第7回　ミクロネシアにおける調査と日本
第8回　言語学からのアプローチ　音声の知覚と日本語系統論
第9回　婚姻、家族、親族について
第10回　超自然の世界　宗教と文化、儀礼
第11回　アニミズムとアニマティズム
第12回　呪術とシャーマニズムの世界
第13回　無文字民族の心理学　文化類型論
第14回　まとめ　文化変容について
第15回　_

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（30%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
講義したことを受けて、しっかりと復習をすると同時に各自でフィールドワークを行い、必ずフォローしていくこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習、復習）を必要とする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めてゆく。

[テキスト]
祖父江孝男『文化人類学入門』中公新書560、880円（税込）
ISBN 976-4-12-190560-4

中世史との対話

科目ナンバー	GHU 2104-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
原島　博、石居　基夫、上村　敏文	

[到達目標]
中世ヨーロッパの成立とキリスト教の歴史、中世ヨーロッパ時代における日本の伝統文化とキリスト教的視点、ヨーロッパの中世の時代とアフリカ、ラテンアメリカ、アジアとの関係を歴史的経緯から理解する。

[履修の条件]
歴史学は過去を学ぶ学問であるため、過去の出来事に関心をもっていることが重要である。

[講義概要]
この授業では3つの視点から学ぶ。第一に、中世のヨーロッパの成立とキリスト教はどのような関係にあるか、歴史的出来事から理解し、人々の日常生活に根付いたキリスト教的文化を学ぶ。第二に、中世の日本に視点を移し、日本文化とキリスト教文化の融合した姿をから歴史的考察を行う。第三に、中世のヨーロッパとアフリカ、ラテンアメリカ、アジアとの関係を歴史的視座から理解し、世界への影響を考察する。なお、取り上げる事柄は状況により変更することがある。
授業は講義中心で配布するプリントに沿って進める。また、関連する地図、画像、動画などを活用する。授業の中で学んだことの確認や振り返りのためのレポート課題に取り組んでもらう。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
第2回　中世の成立とキリスト教
第3回　西方のキリスト教的一体世界
第4回　修道院、十字軍
第5回　中世のキリスト教的文化
第6回　折り方（礼法）
第7回　能楽とヴァチカン
第8回　狂言と遊び
第9回　茶道とキリスト教
第10回　中世のヨーロッパ
第11回　中世のヨーロッパとアフリカの関係
第12回　中世のヨーロッパとラテンアメリカの関係
第13回　中世のヨーロッパとアジアの関係
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
授業のレポート課題に取り組み、また授業中やその後に積極的に発言したり質問したかなど、授業に臨む姿勢を重視する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
配布したプリントなどをよく見て、前回の授業内容の復習をしてくることが望ましい。登場する人物についてはそれぞれが何をしたか、歴史学上の概念についてはそれぞれが何を意味するのかといったことを確認し、整理してもらう。本科目では、各回の授業に4時間の準備学習（予数・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の中でミニレポートを3回提出してもらう。授業を振り返り、学んだことを整理し、考察や感想を書いてもらう。提出してもらったものにコメントをつけ返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当します。総合的・実践的な学習能力を養ううえで、基本となるのは、文献や資料を見て、そこから何が読み取れるのかを的確に理解し整理することと考える。歴史学はそのようような学問の基本を身につけるのに役立つ。

[テキスト]
指定しない。プリントを配布する。

[参考文献]
神崎忠昭『新版　ヨーロッパの歴史』(慶応大学出版界、2022年)3000円。

近世史との対話

科目ナンバー	GHU2105-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
五十嵐　成見	

[到達目標]
①近世史成立の端緒の一つである宗教改革全般に関する理解を持つ。
②キリスト教史が現代史に与えた影響を適切に理解する。
③キリスト教観点を基軸とした現代思想を把握する。

[履修の条件]
積極的に講義に参加すること。

[講義概要]
本講義では、まず近代史の成立において重要な契機となった宗教改革の歴史を前半で取り上げます。その後、主にキリスト教史の観点から、近代史がどのように変遷を遂げてきたかを、各国の歴史を踏まえながら考察し、現代史とのつながりについても検討します。後半では、著名なキリスト教思想家の思想に触れつつ、現代社会のあり方を考察するきっかけを提供します。

■授業計画
第1回　イントロダクション
第2回　宗教改革史−ルターとドイツ−
第3回　宗教改革史−カルヴァンとスイス−
第4回　宗教改革史−アグリコラとフィンランド−
第5回　宗教改革史−ヘンリー8世とイギリス−
第6回　ピルグリムズとアメリカ形成史
第7回　カトリックによる改革運動
第8回　近世史の二つの流れ−啓蒙主義と敬虔主義
第9回　ウェスレーとメソディズム、信仰覚醒運動
第10回　教派の坩堝としてのアメリカ
第11回　福音派の出現及び現代への影響
第12回　ボンヘッファーと第二次世界大戦
第13回　ニーバーとキリスト教現実主義
第14回　キング牧師と公民権運動
第15回　−

[成績評価]
試験(0%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(10%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
参考資料にあらかじめ目を通しておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
コメントシートによる返答。

[ディプロマポリシーとの関連性]
近代史の包括的知見を、キリスト教史の観点から考察することにより総合的教養を身に着ける。

[テキスト]
参考資料にあらかじめ目を通しておく(凡そ1時間程度)こと。

[参考文献]
・土井健司監修『1冊でわかるキリスト教史』日本キリスト教団出版局、2018年
・フスト・ゴンザレス『キリスト教史　下巻』新教出版、2018年
・アリスター・マクグラス『プロテスタント思想文化史』教文館、2009年
・アリスター・マクグラス『キリスト教思想史入門』キリスト新聞社、2008年
・ティム・ダウリー『地図で学ぶ宗教改革』、いのちのことば社、2017年

教育学

科目ナンバー	GHU2106-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
橋本　憲幸	

[到達目標]
本講義の目標は、「教育」とは何かについて、さらには「よい教育」とはどのようなものかについて、教育論議やこれまでの自身の被教育体験に囚われすぎず、また、教育学の諸理論を踏まえながら、自ら考えられるようになることです。それは、これが教育だ、教育はこうあるべきだとすぐに解を出すということでは必ずしもありません。たしかに教育に関する答えを求める姿勢も必要です。しかしそれ以上に重要なことは、教育に関する問いを自ら立て、その事柄について自ら吟味し続けられるようになることです。自らいったん出した解を疑えるようになることも大切です。

[履修の条件]
履修希望者は可能なかぎり初回の講義に出席してください。そこで講義の進め方や課題などについて説明します。やむをえない事情で初回に出席できない場合や出席できなかった場合は必ず早めに申し出てください。

[講義概要]
私たちは、これまで教育を受けてきた体験があることから、「教育」とは何かについて、そして「よい教育」とはどのようなものかについて、自分なりの見方を持つようになります。しかし、それは本当に「よい」ものでしょうか。また、それは本当に「教育」なのでしょ

うか。別の角度から捉えたとき、それは「教育」とも「よい教育」とも呼べないものかもしれません。それは「学習」と呼ばれるべきものかもしれませんし、「教育」ではなく「福祉」なのかもしれません。本講義では、「教育」とはどのようなものなのか、それは他者にどのように関与することなのか、人間をどのようにしようとすることなのかを改めて根底から考えるための契機を提供します。自分がどのような教育観を有しているのかを自覚し、それを教育学の諸理論を踏まえて自省することが重要です。その過程で、教育には答えがない、教育には答えしかない、教育について考えても仕方がない、と開き直りたくなることがあるかもしれません。その前で踏みとどまり、教育について粘り強く省察し続けていくことを強く期待します。

■授業計画

第1回　教育学は何をするのか
第2回　「教育」とは何か
第3回　教育に本質があるとすればそれは何か
第4回　教育にとって他者とはどのような存在か
第5回　教育とは他者をケアすることか
第6回　なぜ他者を教育できるのか
第7回　教育に学校は必要か
第8回　教育は社会を変革できるか
第9回　教育は社会のためにあるのか
第10回　教育は子どものためにあるのか
第11回　なぜ学校で教育するのか
第12回　教育で社会を変革してよいか
第13回　教育が目指すべき共生とは何か
第14回　よい教育をできるのは誰か
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
講義内課題（毎時のリフレクションの提出など）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習では、教育に関する文献や報道に目を通し、そこで「教育」がどのように捉えられているのかを理解します。復習では、当該回で言及した文献を実際に読み、講義内容の理解を深めます。本科目では各講義回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
リフレクションのフィードバックを次回講義冒頭で実施します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
とりわけ「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に関連します。教育という他者への関わり方への理解を深めます。教育とは何かを突き詰めることで、教育ではない他者関与の輪郭に触れることにもなり、そのあり方を追究する際の手がかりとなるはずです。

[テキスト]
使用しません。文献を適宜紹介します。

[参考文献]
▼ヘレン・M・ガンター, 2020,『教育のリーダーシップとハンナ・アーレント』末松裕基・生澤繁樹・橋本憲幸訳, 春風社.（3,000円+税）
▼橋本憲幸, 2018,『教育と他者――非対称性の倫理に向けて』春風社.（4,000円+税）
▼末松裕基編, 2016,『現代の学校を読み解く――学校の現在地と教育の未来』春風社.（2,300円+税）

[備考]
講義内課題やレポートにおいて生成 AI の使用は認めません。

教養としての哲学

科目ナンバー	GHU2107-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
白井　雅人	

[到達目標]
(1) 魂をめぐる哲学的議論について、大まかな理解を得る。
(2) 哲学的な概念に対して、自分なりに説明できるようになる。
(3) 自分自身の考え方に対して、批判的な視座を得る。

[履修の条件]
履修に当たって、条件は課さない。

[講義概要]
「位牌」を手がかりに、魂についての伝統的な理解を探っていく。位牌への礼拝は、死者の魂との交流を意味する。位牌にまつわる葬祭儀礼を手がかりに、インドや中国において展開された「魂」に関する哲学的議論を見ていきたい。最後に、西洋の古代哲学においても、「魂」をめぐる考察が同じように展開されたことを明らかにしていく。
魂に関わる日常的な儀礼から、魂の哲学的な考察へと深めていくことによって、哲学的に考えることの意味と意義が理解できるようになるだろう。

■授業計画

第1回　イントロダクション：位牌とは何か
第2回　孔子の生涯と「君子のあり方」
第3回　儒教の葬祭儀礼と朱子の理気二元論
第4回　王陽明の「心学」
第5回　古代インドの思想と魂
第6回　ブッダの生涯と教え
第7回　初期仏教における「魂」
第8回　大乗仏教と魂の救い
第9回　中国における禅宗と「魂」の行方
第10回　天台教学と浄土思想
第11回　日本仏教と「魂」
第12回　ソクラテスにおける「魂の世話」
第13回　見える世界と見えない世界
第14回　プラトンのイデア説
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
授業終了後課題として、ポータルサイトを通じてリアクションペーパーを提出してもらう。レポートは学期末に提出。レポートにウェブサイトからの無断引用があった場合、不合格となる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
配布プリントをよく読み返し、理解を定着させることが望ましい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、哲学的な視座で人間を捉え、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

[テキスト]
毎回プリントを配布する

哲学と論理

科目ナンバー	GHU2108-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
白井　雅人	

[到達目標]
(1)言葉と人間の問題について、大まかな理解を得る。
(2)哲学的な概念に対して、自分なりに説明できるようになる。
(3)自分自身の考え方に対して、批判的な視座を得る。

[履修の条件]
履修に当たって、条件は課さない。

[講義概要]
言葉と人間について考えながら、哲学的な考え方を身につけていくことを目指す。予備知識なしで、哲学的な考え方に親しむことができるようにしていきたい。まず、「自己」と「言語」の問題について見ていき、次いで薬物依存の問題を見ていく。これらによって「自分で何とかする」ということの困難さを学び、人間は言語や環境に大きな影響を受けながら生きているということを哲学的に見ていく。

■授業計画
第1回　イントロダクション：自己を物語ること
第2回　自己のありかをめぐって：夏目漱石とデカルト(1)
第3回　自己のありかをめぐって：夏目漱石とデカルト(2)
第4回　自己のありかをめぐって：夏目漱石とデカルト(3)
第5回　ヴィトゲンシュタインの前期言語哲学
第6回　ヴィトゲンシュタインの言語ゲーム理論
第7回　コミュニケーションの前提
第8回　討議倫理
第9回　薬物依存からの「回復」(1)：薬物依存と共助組織
第10回　薬物依存からの「回復」(2)：回復のステップ
第11回　薬物依存からの「回復」(3)：回復を支える社会へ
第12回　名付けること・物語ること
第13回　人間の尊厳は何にあるのか?
第14回　近代的主体の病
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(60%)、小テスト(0%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
授業終了後に課題として、ポータルサイトを通じてリアクションペーパーを提出してもらう。レポートは学期末に提出。レポートにウェブサイトからの無断引用があった場合、不合格となる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
配布プリントをよく読み返し、理解を定着させることが望ましい。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーへのフィードバックは、次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することで、哲学的な視座で人間を捉え、人間の好ましいあり方について検討し、人間を多面的にとらえ総合的に考えることができる。

[テキスト]
毎回プリントを配布する

[参考文献]
相良翔『薬物依存からの「回復」：ダルクにおけるフィールドワークを通じた社会学的研究』、ちとせプレス、2019年

スポーツと健康(体育実技を含む)A

科目ナンバー	GPE2101-P
2単位：前期1コマ	1〜2年
有働　晃太	

[到達目標]
生涯にわたり健康で豊かな生活をおくるためには、日常的な運動・スポーツの実践が重要であり、自身の体調を管理する方法や栄養学的な知識の習得が必要不可欠である。この講義では、自身と運動との関わり方について体験的に学習し、生活習慣病の予防、運動を介した体調管理、日常的に運動に親しむような

態度や知識を獲得することを目的とする。

[履修の条件]
履修の条件
①運動・スポーツや身体トレーニングなど体を動かすことに興味・関心があること
②他者とのコミュニケーションをとることができること
③実技が可能であること
④実技は様々な学生と一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

[講義概要]
健康で豊かな日常生活を過ごすためには運動に対する理論的な知識や技術、態度といったものが不可欠になります。そのような運動に対する知識を学び、簡単な運動を行うことで自分の身体の調子を整えることや生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学んでいきます。

■授業計画

第1回　「ガイダンス」 授業の目的と進め方について概説する
第2回　(実技①)「体つくり運動」動くことを楽しむための体つくりの運動を実践する
第3回　(実技②)「体つくり運動」動くことを楽しむための体つくりの運動を実践する
第4回　(実技③)「体つくり運動」動くことを楽しむための体つくりの運動を実践する
第5回　(実技④)「なわとび①」長なわとびの実践
第6回　(実技⑤)「なわとび②」様々ななわとび運動の応用の実践
第7回　(実技⑥)『球技』ボールを使った簡単な運動
第8回　(実技⑦)「球技」バスケット3VS3
第9回　(実技⑧)「球技」バスケット6VS6
第10回　(実技⑨)「球技」ウォーキングフットサル
第11回　(実技⑩)「球技」ウォーキングフットサル
第12回　(講義①)運動と栄養
第13回　(講義②)運動と心
第14回　(講義③)生活習慣病とその予防
第15回　-

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(70%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
講義全体の2/3以上の出席をしていること。
毎回授業の小レポートの提出をすること(1回5点×14回分)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

[テキスト]
テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

[参考文献]
なし

[備考]
第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束事などの大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようにしてください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようにしてください
各自運動着およびランニングシューズを用意すること。
実技授業の際には、アクセサリー類や貴金属は外して臨むこと。
本授業は天候や授業理解度, 用具や道具によって、講義内容が変更になることがあります

スポーツと健康(体育実技を含む)B

科目ナンバー	GPE2102-P
2単位：後期1コマ	1〜2年
有働　晃太	

[到達目標]
健康な生活を生涯にわたり営むには、運動の実践やスポーツ活動への参加が必要不可欠である。日常的な運動・スポーツの実践は身体に様々な適応と変化をもたらす。生活習慣病の予防や減量などのポジティブな適応や、突然死や熱中症などのネガティブな側面も有する。本講義では、運動に対する知識を学び、自分の身体の調子を整えることや生涯にわたって運動に親しむ態度を身につける方法を学ぶことを目的とする。本講義は座学と実技を融合して行う。

[履修の条件]
履修の条件
①運動・スポーツや身体トレーニングに関心があること
②他者とのコミュニケーションをとることができること
③実技が可能であること
④実技は男女一緒に行うが、その点を理解してこの授業に積極的に参加できること

[講義概要]
講義にて、運動が身体に与える生理的な適応を概説する。それぞれの体力や年齢に合わせて運動が健康に与える影響について学び、生涯にわたり実践できるポピュラーなスポーツ・運動を実践する。

■授業計画

第1回　ガイダンス、オリエンテーション（講義の進め方および実技に対する注意事項等の説明）
第2回　（実技）スポーツ実践①ウォーキングフットサル
第3回　（実技）スポーツ実践②ウォーキングフットサル
第4回　（実技）スポーツ実践③ポートボール
第5回　（実技）スポーツ実践④バスケット
第6回　（実技）スポーツ実践⑤バスケット
第7回　（実技）スポーツ実践⑥ドッチビー
第8回　（実技）スポーツ実践⑦ドッチビー
第9回　（実技）スポーツ実践⑧アルティメット
第10回　（実技）スポーツ実践⑨アルティメット
第11回　（実技）スポーツ実践⑩まとめ
第12回　（講義）「運動と栄養」運動後の食事の影響について
第13回　（講義）「運動との関わり」青年期・壮年期・高齢期の各時期において運動とどのように関わるべきかを理解する
第14回　（実技）スポーツ実践⑪まとめ
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（70％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

［ 成績評価（備考） ］
講義全体の2/3以上の出席をしていること。
毎回授業の小レポートの提出をすること（1回5点×14回分）。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
実技においては着替え、運動用の靴について準備してください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
レポートやリアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
ディプロマポリシーとの関連性
3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
3総合的・実践的な学習能力に関連する。自分の健康、体力、コンディショニングを把握し、健康な生活や高い体力を獲得するための方法論を理解し、実践する能力を養う。また、運動を通じて他者との積極的に関わりを持ち能動的に活動できる能力を養う。

［ テキスト ］
テキストについてはとくに購入はしないが、各講義概要についての資料を適宜配布することとします。

［ 備考 ］
第1回のオリエンテーションでは、本講義の進め方や成績、約束事などの大変重要なことを説明します。そのため必ず出席するようにしてください。もし欠席する場合には、担当者と事前に連絡を取るようにしてください。また、本授業に関し欠席した場合には、欠席分のプリントを特別に配布することはありませんので自助努力で補うようにしてください。
各自運動着およびランニングシューズを用意すること。
実技授業の際には、アクセサリー類や貴金属は外して臨むこと。
本授業は天候や授業理解度，用具や器具によって、講義内容が変更になることがあります。

音楽の基礎

科目ナンバー	GHU 2109-P
2単位：前期1コマ	1〜2年
渡邉　公実子	

［ 到達目標 ］
1.音楽の基礎知識（楽典）を身につける。音程の判別ができるようになる。2.リズム創作を行い、楽譜に書き表して他者と共有し、演奏を楽しむ。3.イングリッシュ・ハンドベルの演奏体験をする。

［ 履修の条件 ］
音楽の美しさに興味があること。授業内容を復習し、知識・技術の習得・理解に、楽しみつつ努力できること。

［ 講義概要 ］
音楽は古来、人間の身体と魂に調和をもたらし、また、豊かな人間形成を促す教養として重んじられてきた。本講義では、多様な文化の中で育まれ、受け継がれてきた音楽を、楽譜から正しく読み取り、表現へと繋げるための「音楽的な基礎力」を養うことを目的とする。前期は基礎的な音楽理論（楽典）の習得と並行して、音楽実技（リズム打ち・ボディーパーカッションなど）に取り組み、イングリッシュ・ハンドベルの演奏体験も予定する。前期の学びは、後期の「音楽の実際」の授業へと継続され、1年間で楽典の基礎知識が習得できるよう計画している。履修者の人数などにより、授業内容は部分的に変更されることがある。希望があれば、保育士試験の受験対策にも配慮する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション・講義内容の説明
読譜スピードトライアルについて・基礎知識チェック・音名について
第2回　楽譜の基礎知識/読譜スピードトライアル1/音名と音程Ⅰ
第3回　楽譜の歴史/音名と音程Ⅱ
第4回　リトミックについて/音楽用語/リズム導入
第5回　音程（全音階的音程）Ⅰ/リズム創作Ⅰ
（基本となるリズムパターンを使用）
第6回　倍音について/リズム創作Ⅱ
第7回　リズム創作Ⅲ/リズム表現（実技）
第8回　楽典復習/リズム創作Ⅳ/リズム表現（実技）
第9回　小試験Ⅰ/読譜スピードトライアル2
第10回　音階Ⅰ（長音階）/呼吸と発声Ⅰ
第11回　呼吸と発声Ⅱ/声帯の動き・喉の仕組みについて（DVD鑑賞）
第12回　音階Ⅱ（長音階15種）/楽典のまとめ
第13回　小試験Ⅱ/読譜スピードトライアル2/リズム演奏
第14回　音階Ⅲ（短音階）/リズム創作作品の演奏

第15回　試験　リズム創作実技発表

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法：実技試験の評価

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテストを実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、解説を書き込み添削して返却する。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
主に、「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。音楽の学びを通してその背景にある思想や文化に関心を持ち、理解を深め、豊かな教養を身につけることは、他者を理解し支え、共に生きることを喜ぶことができる人間性を養う。音楽は自己表現の他、他者と共感し、思いを交わすことができるコミュニケーションツールの一つであり、人の身体と心を調和させる。また、自分自身を見つめ、真理に目を向ける人を育む。ミュージック・リテラシーを得ること、高めることは、より深く音楽作品を読み解き、味わえることへつながる。楽典など音楽のルールの学びは、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析をし、判断・解決へと実行する訓練であり、「3.総合的・実践的な学習能力」にも該当する。

[テキスト]
改訂『音楽通論』教育芸術社1,027円(934円+消費税)ISBN 978-4-87788-421-5(＊テキスト必携)
その他、適宜プリントを配布。

[参考文献]
必要に応じて授業内で紹介

[備考]
毎回、次の3点を持参すること。
1.テキスト　2.配布したプリント　3.筆記用具(楽譜を書く時には鉛筆使用が望ましい)
(※テキストは早めに購入・準備をして、毎回必ず持参すること)
4. 時間計測できるもの(携帯可)

音楽の実際

科目ナンバー	GHU2110-P
2単位：後期1コマ	1〜2年
渡邉　公実子	

[到達目標]
1.楽譜から音楽を読み取るために必要な知識を学びつつ、イングリッシュ・ハンドベルの演奏体験を通して、実際の演奏で音楽知識が活用できることを目指す。2.基本的な音楽理論を一通り理解する。3.指揮法の基礎を学び、実践できるようになる。

[履修の条件]
前期の学習内容から継続して後期の学びが始まるため、前期に学んだ項目のうち、特に音名の理解・全音階的音程の判別については、第3回目の授業時まで前期の学習内容の復習を行うので、この期間に習得する必要がある。

[講義概要]
本講義は、「音楽」を自分自身の力で正しく読み取り、表現へと繋げる基礎力を養い、実践することを目標とする。前期から継続して音楽理論(楽典)を学び、実技は、実践に役立つ指揮法の基礎を学び、簡単な楽曲の指揮ができるようになることを目指す。また、リズム打ちや視唱、書き取りなどの他、履修者の人数にもよるが、クリスマス時期に向けてイングリッシュ・ハンドベルによるキャロルの演奏体験も予定する。講義内容は、履修者人数などにより、部分的に変更されることがある。前期同様に、希望があれば、保育士試験の受験対策にも配慮する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション・講義内容の説明
基礎知識チェック・前期学習内容の復習Ⅰ/リズム復習1
第2回　前期学習内容の復習Ⅱ/音名と音程(全音階的音程)
ハンドベル体験1
第3回　前期学習内容の復習Ⅲ/音程Ⅰ(半音階的音程)/リズム復習2
第4回　音程Ⅱ(半音階的音程)/指揮法の基礎と実践Ⅰ(DVD鑑賞)
ハンドベル体験2
第5回　音階の仕組み(長調)/指揮法の基礎と実践Ⅱ/5度圏について
第6回　音階の仕組み(長調・短調)Ⅰ/調性・調名・調号/指揮法の基礎と実践Ⅲ
第7回　音階の仕組み(長調・短調)Ⅱ/関係調Ⅰ/指揮法実践Ⅰ
ハンドベル体験3
第8回　小試験Ⅰ
ハンドベル体験4
第9回　移調・転調Ⅰ/関係調Ⅱ
ハンドベル体験5
第10回　移調・転調Ⅱ/楽典総合問題
ハンドベル体験6
第11回　基礎的な楽典の復習/和音・和声について/指揮法実践Ⅱ

第12回　和音Ⅰ(コードネーム)/音楽用語
第13回　和音Ⅱ(コードネーム)/簡単な和音分析
第14回　小試験Ⅱ/楽典まとめ
第15回　試験　指揮法実技

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(30%)、課題提出(40%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法：実技試験の評価

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義内で行った小テストの答案返却・解説は、原則としてテストを実施した翌週に行う。提出された課題プリント等は、添削して返却。実技発表については、適宜、授業内に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
主に、「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。音楽の学びを通してその背景にある思想や文化に関心を持ち、理解を深め、豊かな教養を身につけることは、他者を理解し支え、共に生きることを喜ぶことができる人間性を養う。音楽は自己表現の他、他者と共感し、思いを交わすことができるコミュニケーションツールの一つであり、人の身体と心を調和させる。また、自分自身を見つめ、真理に目を向ける人を育む。ミュージック・リテラシーを得ること、高めることは、より深く音楽作品を読み解き、味わえることへつながる。楽典など音楽のルールの学びは、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析をし、判断・解決へと実行する訓練であり、「3.総合的・実践的な学習能力」にも該当する。

[テキスト]
改訂『音楽通論』教育芸術社1,027円(934円+消費税)ISBN 978-4-87788-421-5
※必ず購入すること(書き込みのない綺麗なテキストを準備)

[参考文献]
必要に応じて授業内で紹介

[備考]
毎回、次の3点を持参すること。
1.テキスト2.配布プリント3.筆記用具(楽譜を書く時は鉛筆使用が望ましい)
(※テキストは早めに準備し、毎回必ず持参すること)

社会福祉入門

科目ナンバー	ISW2101-L
2単位：後期1コマ	1年
髙山　由美子	

[到達目標]
①我が国の社会福祉制度の成り立ちを理解する。
②社会福祉制度の根幹である社会福祉関係法(特に社会福祉法、生活保護法、児童福祉法)について、それぞれの成り立ちとその内容についての基礎的な知識を習得する。

[履修の条件]
社会福祉士国家試験の受験を希望している学生は必ず履修すること。
2・3年次で「ソーシャルワーク実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績(良)以上で単位取得済みであることが必須条件となる。
編入生で上記について希望している場合は「社会福祉の基礎」を履修済みであること。
欠席が3分の1を超えた場合は、定期試験の受験資格を失うことになるので、注意すること。

[講義概要]
本講義では、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基本的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。具体的には、社会福祉法をはじめとする、社会福祉関係各法・制度の枠組みを学ぶ。さらに、各法制度等の内容を理解し、課題、問題点の考察も試みる。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/到達目標、講義概要、評価について
　　社会福祉入門を学ぶための準備
第2回　社会福祉法制度の歴史についての理解
第3回　社会福祉法制度の背景と社会福祉の定義についての理解
第4回　社会福祉法の理解①
第5回　社会福祉法の理解②
第6回　社会福祉法の理解③
第7回　社会福祉法の理解④
第8回　社会福祉法の理解⑤
第9回　社会福祉法の理解⑥
第10回　社会福祉法の理解⑦
第11回　生活保護法の理解①
第12回　生活保護法の理解②
第13回　児童福祉法の理解①
第14回　児童福祉法の理解②
第15回　定期試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(30%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
実習及び実習関連科目を履修するための必須科目であるた

め、授業への積極的な参加態度等も重視する。なお実習及び実習関連科目履修の可否については、成績をはじめ、授業態度等を勘案し、社会福祉領域の会議にて審議し最終的に決定する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。授業で取り上げる法制度に関連する出来事（ニュースや法制度の動向等）などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

[テキスト]
必要な資料は適宜配布する。
いずれの出版社のものでもよいが、必ず『社会福祉小六法』の最新版を購入すること。
配付資料（すでに授業で取り上げたものも含めて）と『社会福祉小六法』は毎回の授業に必ず持参すること。

[参考文献]
『国民の福祉と介護の動向2025/2026年版』（厚生統計協会）

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する講義を行う。

社会福祉の基礎

科目ナンバー	ISW2201-L
2単位：前期1コマ	2年
岸　千代	

[科目補足情報]
3・4年次で「ソーシャルワーク実習Ⅱ」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する学生は、本科目を一定の成績（※「良」以上）で単位取得済みであることが必須条件となる。」

[到達目標]
①社会福祉関係法制度それぞれの成り立ちと内容についての基礎的な知識を習得する。
②ソーシャルワーク実践活動がどのような法制度の枠組みで行われているかを理解する。
※本科目を通し、実習の履修に向けて受け身ではなく、"主体的に"学ぶ姿勢を身に付けることが強く望まれる

[履修の条件]
[履修の条件]
・「社会福祉入門」を履修済みであること。但し「社会福祉入門」が単位取得できていなくても「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の履修を希望する場合は必ず履修すること。
・編入生で「ソーシャルワーク実習Ⅱ」「精神保健福祉援助実習」の履修を希望する場合は、この「社会福祉の基礎」から履修すること。

[講義概要]
本講義では、実習に臨むにあたって必要とされる、社会福祉関係法制度及びこれに基づく社会福祉施設・機関等に関する基礎的な知識を習得することを目的として講義を中心に進める。
具体的には、障害者総合支援法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、老人福祉法、介護保険法について学ぶ。受講生の問題関心を深めるために、適宜参考文献・資料を紹介したり、新聞記事等を教材として活用し小グループでの討議も行う。

■授業計画

第1回　・オリエンテーション：授業の概要と方針について、社会福祉法制について
第2回　障害者福祉法制度の歴史と今日的動向①
第3回　障害者福祉法制度の歴史と今日的動向②
第4回　障害者総合支援法の理解①
第5回　障害者総合支援法の理解②
第6回　身体障害者福祉法の理解
第7回　知的障害者福祉法の理解①
第8回　知的障害者福祉法の理解②
第9回　精神保健福祉法の理解①
第10回　精神保健福祉法の理解②
第11回　老人福祉法の理解①
第12回　老人福祉法の理解②
第13回　介護保険法の理解①
第14回　介護保険法の理解②
第15回　定期試験

[成績評価]
試験（70％）、レポート（10％）、小テスト（10％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（10％）

[成績評価（備考）]
実習及び実習関連科目を履修するための必須科目であるため、授業への積極的な参加態度等も重要視する。なお、実習及び実習関連科目履修の可否については、成績をはじめ、授業態度等を勘案し、社会福祉領域の会議にて審議し最終的に決定する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定された参考資料・文献は、授業後に復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計14回の授業で90時間となる。定期試験に備えて復習を欠かさないようにすること

[試験・レポート等のフィードバック]
試験の成績内容について疑問などがある者は、既定の事務手

続きに従って開示請求する事。ただし、点数のみの問い合わせについては、教員に直接申し出ることができる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目を履修することで、ソーシャルワーカーとして必要な社会福祉関係法制度に関する基本的知識を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

[テキスト]
参考文献に挙げた2点は必須ではないが、受験予定の者は、最低①は、持っておくことが望ましい。購入の際は、最新版を購入すること。(法律の改正が多いため)その他必要な資料は適宜配布する。

[参考文献]
①『社会福祉小六法』(各社から出版されている最新版)
②厚生労働統計協会『国民の福祉と介護の動向2025/2026年版』

ソーシャルワーク論Ⅰ

科目ナンバー	ISW2202-L
2単位：前期1コマ	2年
福島　喜代子	

[到達目標]
①ソーシャルワーク専門職の概念、範囲、求められる役割を理解する。
②ソーシャルワークの基盤となる考え方、価値、倫理について理解する。
③ミクロ・メゾ・マクロレベルにおける総合的かつ包括的な支援を理解する。
④社会福祉士及び精神保健福祉士の法的な位置づけ、多職種連携の必要性を理解する。
⑤ソーシャルワークの形成過程を理解する。

[履修の条件]
社会福祉原論Ⅰを履修しているか並行履修していること。
社会福祉の領域における対人援助の基本的な価値や概念の理解に興味がある者であれば履修してよい。
社会福祉士の指定科目である。「ソーシャルワークの基盤と専門職」への読み替え科目である。

[講義概要]
授業は、講義と演習からなる。継続的な講義、演習により、ソーシャルワークの基盤となる知識を理解し、専門職としての価値と倫理を身につけ、包括的・総合的な支援をする力をつける。

■授業計画
第1回　授業の目的、ソーシャルワークによる総合的包括的な支援とは
第2回　ソーシャルワークの概念：ソーシャルワーク専門職のグローバル定義
第3回　ソーシャルワークの構成要素
第4回　ソーシャルワークの基盤となる考え方①(社会正義、人権尊重、集団的責任、多様性の尊重)
第5回　ソーシャルワークの基盤となる考え方②(権利擁護、ソーシャルインクルージョン他)
第6回　社会福祉士、精神保健福祉士の法的位置づけ
第7回　ソーシャルワークの倫理
第8回　ソーシャルワークの倫理的ジレンマ
第9回　ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲①(行政、教育、司法等)
第10回　ソーシャルワークに係る専門職の概念と範囲②(民間事業所、医療、独立型事務所等)
第11回　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク
第12回　総合的かつ包括的な支援と多職種連携の意義と内容
第13回　ソーシャルワークの形成過程1(ソーシャルワークの歴史)
第14回　ソーシャルワークの形成過程2(ソーシャルワークの歴史)
第15回　-

[成績評価]
試験(30%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価(備考)]
授業での態度、貢献度を積極的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助を行う基盤を身につけることができる。

[テキスト]
【最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座11】「ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)」(2021)　一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集、ISBN 978-4-8058-8241-2、322頁、3,190円(税込)

[参考文献]
適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、ソーシャルワークに関しての理念、倫理、多職種連携などについての講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論 II

科目ナンバー	ISW 2203-L
2単位：前期1コマ	2年
浅野　貴博	

[科目補足情報]
社会福祉士受験資格取得のための指定科目である。3年次以降の社会福祉関連施設・機関における「ソーシャルワーク実習Ⅱ」の基礎として位置づけられる。

[到達目標]
「ソーシャルワーク論Ⅰ」で学んだ（学ぶ）ソーシャルワーカーに必要な知識・技術・価値について、個別援助の方法（ケースワーク）を中心にさらに理解を進める。

[履修の条件]
本科目を履修するには、「社会福祉入門」「社会福祉の基礎」「社会福祉原論Ⅰ」「同Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「同Ⅱ」「ソーシャルワーク論Ⅰ」を履修済みか、並行履修していることが望ましい。

[講義概要]
ソーシャルワーク実践を支える基礎理論、ソーシャルワーク実践のプロセス（展開過程）、相談援助をする上での基礎的な面接技術等を主に学ぶ。授業は講義と演習からなり、講義だけでなく、小グループでのディスカッションやロールプレイ等のワークを適宜取り入れて進められる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：授業の概要と方針について
第2回　ソーシャルワークの形成過程
第3回　ソーシャルワークの機能と構造
第4回　相談援助における援助関係
第5回　人と環境の交互作用
第6回　小テスト①（予定）
　　相談援助の展開過程①
第7回　相談援助の展開過程②
第8回　相談援助の展開過程③
第9回　ソーシャルワークの基本技法：面接技法（DVD 鑑賞）
第10回　小テスト②（予定）
　　ソーシャルワーク実践の基礎理論①
第11回　ソーシャルワーク実践の基礎理論②
第12回　ソーシャルワーク実践の基礎理論③
第13回　ソーシャルワーク実践の基礎理論④
第14回　小テスト③（予定）
第15回　※定期試験は実施しない

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（60%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
・レポートに加えて、小テスト（※3回）を実施する。小テストは、授業で習った知識を確認する穴埋め式の記述問題とする（詳しくは授業で説明する）。
・「その他の評価方法」については、毎回のフィードバックにより評価する。なお、欠席および遅刻については減点の対象となるため注意すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定された参考文献を読んで授業に参加すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。小テスト（※計3回）に備えて復習を欠かさないようにすること。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テスト（3回）の実施後に問題の解説を行い、必要な基礎知識の理解を促す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
〔2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性〕及び「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することにより、ソーシャルワーカーとして必要な基本的な価値・知識・技術を身に付けることができ、実習を履修する上での備えができる。

[テキスト]
特定のテキストは使用しないが、各社から出版されている社会福祉士養成講座の『ソーシャルワークの理論と方法』等を参照のこと。

ソーシャルワーク論 III

科目ナンバー	ISW 2204-L
2単位：後期1コマ	2年
鈴木　喜子	

[到達目標]
①ソーシャルワークの様々な方法を理解する。
②集団（グループ）を活用した支援を理解する。
③スーパービジョンとコンサルテーションについて理解する。
④コミュニティワークの概念と方法を理解する。

[履修の条件]
原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、同Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱを履修しているか並行履修していること。ただし、これらの科目を履修していなくとも、グループやコミュニティへの支援に興味がある者は履修できる。社会福祉士の指定科目「ソーシャルワークの理論と方法」への読み替え科目である。

[講義概要]
ソーシャルワークの主要な援助技術であるグループワーク、スーパービジョンとコンサルテーション、コミュニティワークの概念、意

義、目的、方法を学ぶ。授業は、講義（映像資料等含む）と演習の組み合わせで進める。演習では、グループディスカッションやロールプレイを行う。積極的な参加が求められる。

■授業計画

第1回　授業オリエンテーション（授業内容と進め方、課題や注意事項等の確認）
ソーシャルワークの多様な方法
第2回　グループワークの意義と目的、グループダイナミクス
第3回　グループワークの原則
第4回　グループワークの展開過程①準備期
第5回　グループワークの展開過程②開始期
第6回　グループワークの展開過程③作業期
第7回　グループワークの展開過程④終結期
第8回　セルフヘルプグループ
第9回　SST（ソーシャル・スキルズ・トレーニング）
第10回　スーパービジョンの意義、目的、方法
第11回　コンサルテーションの意義、目的、方法
第12回　コミュニティワークの意義と目的
第13回　コミュニティワークの展開①（地域アセスメント、地域課題の発見）
第14回　コミュニティワークの展開②（住民参加、組織化、社会資源の開発）
第15回　試験

［成績評価］
試験（30%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（40%）

［成績評価（備考）］
参加型授業への貢献度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。授業で紹介するさまざまな事例についてソーシャルワーカーとして支援方法を考える。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題レポートについては、授業の最終回までにコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、包括的・総合的な援助のうち、特にグループワーク、スーパービジョンとコンサルテーション、コミュニティワークを実践できるようになる。また、様々なテーマに基づく演習を通しコミュニケーション能力を高めることができる。

［テキスト］
第12巻『ソーシャルワークの理論と方法[共通科目]』（最新社会福祉士養成講座）中央法規出版、ISBN：978-4-8058-8242-9

［参考文献］
適宜授業内で紹介する。

［備考］
「実務経験のある教員による科目」
児童・女性分野での対人援助職や地域支援の実務経験を活かし、グループワーク、スーパービジョンとコンサルテーション、コミュニティワークに関する実践的な内容の講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論 IV

科目ナンバー	ISW 2401-L
2単位：前期1コマ	4年
髙山　由美子	

［到達目標］
社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
支援を必要とする人との援助関係の形成やニーズの掘り起こしを行うための、知識と技術について理解する。

［履修の条件］
原則として、「ソーシャルワーク論Ⅰ」「同Ⅱ」「同Ⅲ」を履修済みであること。また、社会福祉士の指定科目「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」への読み替え科目であるため、卒業までにソーシャルワーク論Ⅴを履修する必要がある。

［講義概要］
ソーシャルワーカーとして多様化・複雑化する課題に対応するため、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解し、実践できるように学びを深める。授業は、講義と演習の組み合わせで進める。演習では、討議やロールプレイを行う。積極的な参加が求められる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/援助関係の意義と概念
第2回　専門職倫理の概念（ソーシャルワーカーの倫理綱領、倫理的ジレンマを含む）
第3回　ソーシャルワークにおける援助関係の形成、クライエントシステムの関係
第4回　援助関係の形成方法（自己覚知と他者理解、コミュニケーションとラポール）
第5回　面接技術・面接の意義、目的、方法、留意点（面接の場面と構造及び技法）
第6回　アウトリーチとニーズ（意義、目的、方法、留意点、対象）
第7回　ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発（ニーズの集約、提言、計画策定、実施、評価）
第8回　ソーシャルアクションとコーディネーション（意義、目的、方法、留意点）
第9回　ネットワーキング①　意義、目的、方法、留意点、セーフティネットの構築、家族や住民、サービス提供者
第10回　ネットワーキング②　重層的な範囲（ミクロ・メゾ・マクロ）、多様な分野の支援機関

第11回　ソーシャルワークに関連する方法（ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション）
第12回　スーパービジョン　意義、目的、方法、定義/スーパーバイザーとスーパーバイジーの関係
第13回　コンサルテーションの意義、目的、方法、定義/コンサルタントとコンサルティーの関係
第14回　総括
第15回　定期試験

［ 成績評価 ］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして総合的かつ包括的な支援をどのようにすればよいかを考えること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。課題については、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、総合的かつ包括的な支援、分野横断的な支援、家族支援、地域支援、アプローチを活用した支援を実践できるようにする。

［ テキスト ］
『最新　社会福祉士養成講座　ソーシャルワークの理論と方法（社会専門）』（中央法規出版）ISBN：978-4-8058-8249-8
『最新　社会福祉士養成講座　ソーシャルワークの理論と方法（共通）』（中央法規出版）ISBN：978-4-8058-8249-9
『最新　社会福祉士養成講座　ソーシャルワークの基盤と専門職［共通・社会専門］』（中央法規出版）ISBN：978-4-8058-8241-2

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目：
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、総合的かつ包括的な支援、分野横断的な支援についての実践的な講義と演習を行う。

ソーシャルワーク論Ⅴ

科目ナンバー	ISW2402-L
2単位：後期1コマ	4年
福島　喜代子	

［ 到達目標 ］
①社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。
②事例分析、カンファレンスの意義や方法を理解する。

［ 履修の条件 ］
「社会福祉原論Ⅰ」を履修済みであること。
社会福祉の領域における対人援助の方法に興味がある者は履修してよい。
社会福祉士の指定科目「ソーシャルワークの理論と方法（専門）」「ソーシャルワークの理論と方法（共通）」への読み替え科目である。

［ 講義概要 ］
ソーシャルワーカーとして多様化・複雑化する課題に対応するため、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解し、実践できるように学びを深める。授業は、講義と演習の組み合わせで進める。演習では、討議やロールプレイを行う。積極的な参加が求められる。

■授業計画
第1回　授業の方針、ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援
第2回　カンファレンスの意義、目的、カンファレンスの展開、事例分析の意義、目的、事例分析の実際
第3回　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：心理社会的アプローチ
第4回　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：機能的アプローチ
第5回　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：問題解決アプローチ
第6回　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：課題中心アプローチ
第7回　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：行動変容アプローチ
第8回　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：認知再構成アプローチ
第9回　ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ：危機介入アプローチ
第10回　家族支援の実際
第11回　災害時支援の実際
第12回　地域支援の実際
第13回　ソーシャルワークにおける総合的かつ包括的な支援の実際
第14回　分野、領域を横断する支援
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、

その他の評価方法（40％）

［ 成績評価（備考） ］
参加型授業への貢献度を積極的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして援助するためにどのようにすれば良いか考えること。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするために、モデルやアプローチを活用するときどのようにすれば良いか考えること。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
ミニ課題に対するフィードバックは、次回あるいは次々回の講義で行う。レポート課題については、授業の最終回までに必要に応じてコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、社会福祉士等対人援助職として多様化・複雑化する課題に対応し、実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を活用できるようになる。また、事例分析、カンファレンスなどの場で包括的な人間理解をもとに、人々への支援方法を考え、発信できるようにする。

［ テキスト ］
① 「最新　社会福祉士養成講座6：ソーシャルワークの理論と方法［社会専門］」一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集、ISBN 978-4-8058-8249-8、B5、336頁、2021年発行、3,190円（税込）

②「最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座12：ソーシャルワークの理論と方法［共通科目］」、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集、
ISBN　978-4-8058-8242-9、B5、376頁、2021年発行、3,190円（税込）

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、総合的・包括的な相談援助についての実践的な講義と演習を行う。

高齢者福祉論

科目ナンバー	ISW2205-L
2単位：後期1コマ	2年
山口　麻衣	

［ 到達目標 ］
本講義では、福祉にとどまらず社会参加、社会保障、就労、保健・医療等の高齢者福祉政策を理解し、地域における様々な高齢者福祉領域での実践事例からの学びを通して、高齢者福祉政策の課題や高齢者支援のあり方の課題に気づき、どうすべきかの対処策を考察することができるよう知識を得て、考察するスキルを高めることを到達目標とする。

［ 履修の条件 ］
本講義は、社会福祉士国家試験受験のためには必要とされる。

［ 講義概要 ］
地域共生社会における地域包括ケアの推進はどうすべきか。高齢者福祉制度は、高齢者の権利、地方自治体への権限の委譲と格差の拡大、担い手の広がりとセーフティネットの不明確化、保健医療福祉、産業、環境との連携とそれを妨げる現状等の課題をもっており、本講義では、高齢者福祉支援や政策を体系的に包括的に学び、今後の高齢者福祉のあり方を学習する。基本的に講義形式の授業になるが、一部、グループディスカッションを行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　高齢者の暮らしを支える制度や支援の概要を体系的に学ぶ
　　高齢者の生活と社会：高齢化と高齢者の生活実態
第2回　高齢者の生活と社会：人生100年の長寿社会と高齢者の生き方とウェルビーイング
　　高齢者福祉の理念と発展過程：福祉制度老人福祉法制定まで
第3回　高齢者福祉の理念と発展過程：老人福祉法制定以降
第4回　介護保険制度の概要
　　介護保険制度の目的、仕組み、財政
第5回　介護保険制度の概要　現状と課題
第6回　介護保険制度の概要、現状と課題
第7回　介護保険制度の概要、現状と課題
　　市町村の高齢者施策の分析
第8回　地域共生社会と地域包括ケア、地域包括ケア、地域支援事業について理解を深める
第9回　高齢者支援における多職種連携、高齢者に対する保健・医療・福祉の連携
第10回　ケアマネジメントの流れと実際：地域包括支援センターの役割と実際
第11回　高齢者の経済・就労・社会参加に対する包括的な支援、
　　地域における認知症ケアの実際と課題
第12回　高齢者虐待防止の取組み
第13回　高齢者の住まいと住居支援、
　　テクノロジーを活用した高齢者福祉施策
第14回　高齢者をケアする家族等への包括的な支援、終末期ケアと家族等へのグリーフケア
　　全体のまとめ：高齢者福祉の課題
第15回　期末試験

［ 成績評価 ］
試験（50％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
その他の評価としては、毎回の授業でのフィードバック、質問や

討議・発表など積極的な授業参加で評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストの学習は前提とされるが、それだけでなく、授業ごとに配布される資料、視聴覚教材を参照し、関係文献を自主的に学習していくことを望みたい。本科目では各授業回に4時間の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計15回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。介護保険制度の概要を理解し、地域包括ケアシステムの課題は何かを学び、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになるための知識を得る。

[テキスト]
全国社会福祉協議会社会福祉学習双書（2026）『高齢者福祉』
ISBN 9784793514906

[参考文献]
厚生の指標『社会福祉と介護の動向』その他は授業時に示す

障害者福祉論

科目ナンバー	ISW 2206-L
2単位：後期1コマ	2年
髙山　由美子	

[到達目標]
①障害の概念と特性を踏まえ、障害者とその家族の生活とこれを取り巻く社会環境について理解する。
②障害者福祉の歴史と障害観の変遷、制度の発展過程について理解する。
③障害者に対する法制度と支援の仕組みについて理解する。
④障害による生活課題を踏まえ、社会福祉士及び精神保健福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。履修学年の目安は2年次である。3年次以降、障害福祉分野でのソーシャルワーク実習を希望している場合は実習前に必ず履修し、単位取得しておくこと。

[講義概要]
授業は、配布資料やテキスト等を中心とした講義であるが、テーマによっては討議等の意見交換も行いながら、大きな変革期にある障害福祉の全体像について理解を深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　到達目標、講義概要、評価等
　　障害福祉に関するこれまでの学びのふりかえり
第2回　障害福祉の基本理念を理解する①
第3回　障害福祉の基本理念を理解する②
第4回　統計から見る障害者の動向と生活状況
第5回　障害福祉制度の発展過程の理解
第6回　障害者の権利条約と関連する国内法の理解
第7回　障害者総合支援法の理解①
第8回　障害者総合支援法の理解②
第9回　さまざまな障害と関連法制度の理解　身体障害・知的障害・精神障害・発達障害等
第10回　障害者の就労支援
第11回　障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割
第12回　障害者と家族等に対する支援の実際
第13回　障害者虐待防止法と権利擁護の理解
第14回　障害当事者の活動と権利擁護の理解
第15回　定期試験

[成績評価]
試験（70％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。授業で取り上げる出来事（ニュースや法制度の動向等）などにも関心を持ち、その背景を理解するように努めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、以降の授業時に必要に応じて行う。レポートについては授業終了までに返却し解説する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な権利擁護の視点と障害領域の知識を獲得すると同時に、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして高度な専門性と総合的・実践的な学習能力を身につける。

[テキスト]
必要な資料は適宜配布する。
いずれの出版社のものでもよいが、最新版の『社会福祉小六法』を用意すること。
テキスト、配布資料（すでに授業で取り上げたものも含めて）は毎回の授業に持参すること。

[参考文献]
『最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座8　障害者福祉』（中央法規出版）ISBN 978-4-8058-8238-2
『障害者白書（2026年版）』（内閣府編）
『障害福祉サービスの利用について』（全国社会福祉協議会）

［備考］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、障害福祉に関する歴史、理論、制度、支援の実際等に関する講義を行う。

人体の構造と機能及び疾病

科目ナンバー	ISW 2207-L
2単位：前期1コマ	2年
中舘　和彦	

［到達目標］
社会福祉士、精神保健福祉士、及び公認心理師の国家試験を受ける際に必要な医学知識を主に、人体の基本的な構造と働き、重要な疾患や障害、我が国の保健医療対策や統計などについて理解する。また、公認心理師国家試験受験においては、「心身機能と身体構造及びさまざまな疾病や障害」と、「がん・難病等の心理に関する支援が必要な主な疾病」を理解する必要がある。

［履修の条件］
社会福祉士と精神保健福祉士、及び公認心理師を受験する予定の学生と、医学について広く学びたい学生を対象とする。また、テキストは初回から使用するため授業開始までに各自購入すること。テキスト購入が授業開始に間に合わない学生は各自の責任で対応すること。

［講義概要］
社会福祉士及び精神保健福祉士は福祉の専門職として、そして公認心理師は心理の専門職として、医師や看護師などの医療職とともにチーム医療の中で大きな役割を担っている。しかし、疾病や障害を抱えた人と関わっていくため、医学的な基礎知識を持つことは必要かつ重要なことである。また、医療機関のみならず福祉施設やＮＰＯなどで働く場合でも同様のことが言える。将来、そのような分野で働く際に必要な、心身機能と身体構造、そして基本的な医学知識をこの講義で取り扱っていく。しかし、それはまた、一般の日常生活の中でも役立つことも含まれ、将来専門職として働かない場合でも、この講義を受けることによって得るものは多いと考える。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、講義の進め方、テキスト、試験についての説明
　　第1章　ライフステージにおける心身の変化と健康課題
第2回　第2章　健康および疾病の捉え方
　　第3章　身体構造と心身機能1
第3回　第3章　身体構造と心身機能2
第4回　第3章　身体構造と心身機能3
第5回　第3章　身体構造と心身機能4
第6回　第3章　身体構造と心身機能5
第7回　第3章　身体構造と心身機能6
　　第4章　疾病の障害の成り立ちおよび回復過程
第8回　第6章　疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション1
第9回　第6章　疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション2
第10回　第6章　疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション3
第11回　第6章　疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション4
第12回　第6章　疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション5
第13回　第6章　疾病の障害およびその予防・治療・予後・リハビリテーション6
　　第5章　リハビリテーションの概要と範囲1
第14回　第5章　リハビリテーションの概要と範囲2
　　第7章　公衆衛生
第15回　試験

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
授業のスピードがかなり早いため、指定テキストをあらかじめ読んでおくこと。また、覚えることも多いので、自分なりに授業内容をまとめること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
課題および試験の解答と解説については、紙での配布またはオンラインで行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって、人間の体の働きを知り、基本的な医学知識を身につけることができる。

［テキスト］
最新　社会福祉士養成講座　精神保健福祉士養成講座1
医学概論（2021年2月発刊）　中央法規出版
ISBN：978-4-8058-8231-3　税込2750円

［備考］
課題は、講義の進行状況をみながら講義内で行う。
高校までに習う生物の知識は理解しているという前提で授業を進めるので、不安がある場合には市販の参考書などで見直しておくこと。
講義では指定の教科書を参照しながら進めるので、1回目の講義前までに各自で必ず購入しておくこと。

児童・家庭福祉論

科目ナンバー	ISW 2208-L
2単位：後期1コマ	2年
加藤　純	

[到達目標]

1. この授業の目的は、子どもや家族が遭遇する困難に対応できるように支援する時に、法令に関する知識を支援に活用できるようになることです。そのために、

(a)児童福祉に関する法令を自分で調べ理解し、実際の支援場面に結びつける力を身につけます。具体的には、法令の条文の見つけ方と示し方、条文の内容を理解する力を養います。

(b)子どもの権利と幸せを保障するための制度、特に、児童福祉施設や相談機関の機能や、そこで働く職員の資格や役割について学びます。

力を養う方法の一つとして社会福祉士国家試験や保育士試験の過去問題を使います。

[履修の条件]

社会福祉士国家試験受験資格を得るのに必要な指定科目です。

1.「児童福祉の諸問題」を履修していなくても本科目を履修できます。

2.「ソーシャルワーク実習Ⅱ」で児童分野の実習をするためには「児童福祉論」の単位を取得しておく必要があります。

[講義概要]

児童福祉に関する法体系から始まり、児童福祉の主要な課題について制度や機関、職員に関する法令を学びます。

授業初期は、法令の条文を一つ一つ見つけて所在地を示し内容を理解する練習をします。後半になるに従い、要点の説明のみになりますので、各自で条文を見つけて理解するように努めて下さい。

グーグル・フォームで社会福祉士の過去問題などを課題として示します。授業初期は授業中に社会福祉士や保育士の過去問題に取り組み丁寧に解説をしますが、後半は過去問題に各自で取り組むような機会を増やします。

■授業計画

第1回　法令を学ぶ重要性
　　オリエンテーション（授業の目的・内容・日程・課題）
第2回　児童福祉に関する法令の体系（児童福祉六法の名称と制定年、施行令と施行規則）
第3回　法令の条文の所在地の読み取り方と書き方（条・項・号の規則と例外）
　　児童福祉法の対象
第4回　児童福祉法の基本理念（児童福祉法第1条～第3条）
第5回　児童福祉施設、児童福祉の事業（児童福祉法第6条～第7条）
第6回　児童相談所の設置と職員：自治体の設置義務、職員の職種と任用資格（児童福祉法第11条～第13条）
第7回　社会的養護：児童養護施設と乳児院の目的や対象（児童福祉法第37条・第41条など）
第8回　社会的養護：児童養護施設と乳児院の設備・職員・支援（児童福祉施設の設備及び運営に関する基準）
第9回　児童福祉に関する都道府県・市・町村の業務（児童福祉法第10条～第12条など）
第10回　児童福祉施設の利用・入所経路（児童福祉法第22条～第29条など、児童虐待の防止等に関する法律）
第11回　子育て支援（健全育成の理念、児童委員、児童厚生施設の種類と職員、市町村の相談機関）
第12回　子育て支援（母子保健）
第13回　ひとり親家庭への援助（母子及び父子並びに寡婦福祉法）
第14回　ひとり親家庭への援助（母子生活支援施設、児童扶養手当）
第15回　-

[成績評価]

試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]

「課題」は、グーグルフォームにより毎回の授業の内容に合わせた過去問題などを示します。

「その他の評価方法」は授業への取り組みに関する自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は3点、遅刻は1点の減点とします。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

グーグルフォームにより社会福祉士の過去問題を掲載します。『社会福祉六法』またはインターネットの法令検索サイトを活用して課題に取り組み通して提出してください。

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]

課題はグーグルフォームにより提出してください。提出すると正誤の判断や解説が表示されます。

希望する場合は、提出内容を確認する自動返信メールをお送りします。課題を提出する際に、受信用のメールアドレスを記入してください。

[ディプロマポリシーとの関連性]

「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に特に関わる科目です。この科目では、全人的なヒューマン・ケアに必要なソーシャルワークの専門性として、子どもや家族が体験する社会生活の課題を支援する際に必要な法律や制度に関する知識を身につけることを目指します。

[テキスト]

1. インターネット上に授業資料を公開します。希望者には教室で紙媒体で配布します。

2.グーグルフォームにより資料と課題を提示します。

3.紙媒体で法律を調べるためには、ミネルヴァ書房の『ワイド版社会福祉小六法資料付』または『社会福祉小六法』をお勧めします。『社会福祉六法』ではありません。法令の改正が毎年あるので、できる限り最新版を用意してください。インターネットで厚生労働省または e-gov の法令検索ページを利用しても良いです。利

用方法は授業で詳しく説明します。

[参考文献]
政策や統計などの最新の動きを知るために、財団法人厚生統計協会編『国民の福祉と介護の動向』を推薦します（雑誌コード：03854-09）。2,640円。最新版は9月から10月頃に発行されます。

[備考]
実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および児童相談所における子供の権利擁護専門員としての経験を活かして、児童福祉分野での制度と対人援助の方法の指導を行います。

地域福祉論Ⅰ

科目ナンバー	ISW2209-L
2単位：前期1コマ	2年
市川　一宏	

[到達目標]
「ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与できるようになること」を目的とする。そのため、人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂等、地域福祉の基本的考え方を理解する。また、地域福祉の主体と対象、地域福祉に関わる組織、団体、及び専門職や地域住民の役割と実際および地域トータルケアシステムの構築方法について理解する。

[履修の条件]
毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。国家試験受験者以外も、「地域福祉論Ⅰ」受講者は、「地域福祉論Ⅱ」とあわせて履修することが望ましい。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

[講義概要]
毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメを資料として配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画

第1回　総論　地域福祉論を学ぶにあたって
1. 地域社会の概念と理論、2. 地域福祉の視点（福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア・市民活動論・共生社会）
第2回　地域福祉の発展過程Ⅰ（1. 戦前の地域福祉の展開、2. 戦後の地域福祉の展開）
第3回　地域福祉の発展過程Ⅱ（1. 新しい福祉としての地域福祉：地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア、地域共生社会、2. 福祉コミュニティの考え方と地域福祉の主体形成）
第4回　新しい生活課題に対する地域福祉（1. 生活困窮、2. 孤立・ひきこもり、3. 虐待等）
第5回　地域福祉の推進主体（概説：地方自治体、NPO、市民活動組織、中間支援組織、町内会、自治会等地縁組織・民生委員、児童委員、主任児童委員、保護司、当事者団体、社会福祉協議会、共同募金、企業）
第6回　地域福祉の主体と形成（当事者、代弁者、ボランティア、市民活動、住民自治、住民主体、参加と協働、エンパワメント、アドボカシー、福祉教育）
第7回　福祉行財政システム（1. 国の役割、2. 都道府県の役割、3. 市町村の役割、4. 国と地方の関係）
第8回　地域福祉の主体と福祉教育（1. 福祉教育実践の2つの流れ、2. 福祉教育の概念、3. 福祉教育の推進主体）
第9回　地域福祉計画（1. 地域福祉計画の背景、2. 地域福祉計画の内容、3. 課題）
第10回　社会福祉協議会（1. 成立背景、2. 機能、3. 課題）
第11回　社会福祉法人（1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題）
第12回　ＮＰＯ、ボランティア活動（1. 基本的理念、2. 今日のおける意味、3. これからのあり方）
第13回　民生委員児童委員、保護司（1. 成立背景、2. 役割、3. 現状と課題）
第14回　地域福祉と包括的支援体制の課題と展望（1地域福祉ガバナンス①ガバナンスの考え方、②多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性、③社会福祉法における包括的な支援体制づくり、④住民の参加と協働、住民自治、⑤プラットフォームの形成と運営、2. 地域共生社会の構築①地域共生社会、②地域力の強化、包括的支援体制）
第15回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
・期末試験の評価を中心に成績50%
・課題提出の評価20%
・その他、毎回の授業で提出するフィードバックに対する評価30%

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。。

[試験・レポート等のフィードバック]
前期試験に関しては、後期授業の開始時にコメントを行う。課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性
心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間
理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができる
よう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に
貢献できるようになること。

3. 総合的・実践的な学習能力
ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できる
ようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与でき
るようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけるこ
と。

[テキスト]
①社会福祉士養成講座「地域福祉と包括的支援体制」中央法規、ISBN：978-4-8058-8236-8

[参考文献]
授業の中で紹介する

地域福祉論 II

科目ナンバー	ISW2301-L
2単位：後期1コマ	3年
市川　一宏	

[到達目標]
「コミュニケーション能力を身につけ、他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになること」を目的とする。多職種・多機関との連携を含む、地域福祉におけるネットワーキングの意義と方法、及びその実際について理解する。ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法、地域福祉計画と地域福祉活動計画、サービスの評価方法を含む地域福祉の推進方法について理解する。地域での生活を支える地域福祉サービス、災害と地域福祉、地域福祉の財源について理解する。

[履修の条件]
毎回テキスト、過去のレジュメを必ず持参すること。国家試験受験者以外も、「地域福祉論Ⅱ」受講者は、「地域福祉論Ⅰ」とあわせて履修することが望ましいが、まだ「地域福祉論Ⅰ」を履修していない場合は、市川に確認のこと。なお、出席を重視し、4分の3以上の出席を求める。

[講義概要]
毎回の授業は授業計画に沿った詳細なレジュメのパワーポイントを資料印刷し配布し講義を行う。事例などを適宜取り入れ理解しやすくする。

■授業計画

第1回　地域のおける福祉ニーズの把握方法と実際（1. 地域診断の考え方、2. 広義の地域診断の進め方、3. 狭義の地区診断、4. 統計調査によるニーズ把握の方法、5. 質的なニーズの把握方法）
第2回　地域福祉の方法論（1. コミュニティワーク、コミュニティオーガニゼーション、コミュニティソーシャルワークの定義と実践、2. 専門職種のチームアプローチ、3. 専門職と住民の関係）
第3回　住民の参加と方法（1. 住民参加の諸形態と役割、2. 市町村社会福祉行政における住民参加、3. 求められる参加のレベル、4. 参加の具体的な形態）
第4回　地域における社会資源の活用・調整・開発（1. 社会資源と地域ネットワーク、2. 在宅生活を支援する仕組みの検討、3. 具体的検討課題：①インフォーマルな分野とフォーマルな分野の連携、②個別ネットワーク）
第5回　地域における社会資源の活用・調整・開発（1. 社会資源と地域ネットワーク、地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制⑴地域包括ケアシステム（1. 地域包括ケアシステムの考え方、2. 地域包括ケアシステムの展開、3. 精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの展開、4. 子育て世代包括支援センター
第6回　地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制⑵生活困窮者自立支援の考え方（1. 生活困窮者自立支援制度と理念、2. 自立相談支援機関による支援過程と方法、実際、3. 伴走型の支援と対象者横断的な包括的相談支援、4. 個人および世帯の支援、5. 居住支援、就労支援、家計支援、子どもの学習・生活支援）
第7回　地域福祉の推進方法⑴日常生活自立支援事業（1. 背景、2. 現状、3. 課題）
第8回　地域福祉の推進方法⑵地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制　1. 多機関協働による包括的支援体制、2. 住民に身近な圏域における相談支援体制、3. 総合相談、各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会）
第9回　地域福祉の推進方法⑶ボランティアコーディネーション（1. 役割、2. 現状、3. 課題）
第10回　地域福祉の推進方法⑷福祉サービスの評価と質の確保（1. 福祉サービスの評価を必要とする背景、2. 評価の考え方、3. 評価の方法）
第11回　地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制　各種施策1. 多機関協働による包括的支援体制、2. 住民に身近な圏域における相談支援体制、3. 総合相談、各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議、地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会）
第12回　地域共生の実現に向けた多機関協働の仕組み（1. 保健・医療・福祉に関わる多職種連携、2. 生活支援全般に関わるネットワーク、3. 多職種連携等における個人情報保護）
第13回　災害と地域福祉（1. 災害対策基本法、災害救助法、2. 各自治体等の避難計画、
3. 災害時要援護者支援、4.BCP（事業継続計画）、5. 福祉避難所運営）
第14回　総括
第15回　試験

[成績評価]
試験（50％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（30％）

[成績評価（備考）]
・期末試験の評価を中心に成績50％

・課題提出20％
・その他、毎回の授業で提出するフィードバックに対する評価30％

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
後期試験に関しては、解答を送り、結果のふりかえりを行う。
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
本講義は、以下のポリシーに該当する。
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性
心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、深く総合的な人間
理解に立って、個人の痛みを癒し、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができる
よう援助できるようになること。また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に
貢献できるようになること。
3. 総合的・実践的な学習能力
ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できる
ようになること。そのために、必要とされる他の人々との協働作業を創り、積極的に参与でき
るようになること、さらに、それを生涯にわたって伸ばしていける学習能力を身につけるこ
と。

［テキスト］
社会福祉士養成講座「地域福祉と包括的支援体制」中央法規、ISBN：978-4-8058-8236-8

［参考文献］
授業の中で紹介する

社会保障論Ⅰ

科目ナンバー	ISW2210-L
2単位：前期1コマ	2年
金子　和夫	

［到達目標］
社会保障制度の全体像を説明でき、かつ、少子高齢社会の進展と社会保障制度の改正を関連づけることができる。また、社会福祉士国家試験、公務員採用試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

［履修の条件］
本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、受験資格を希望する者は、「社会保障論Ⅱ」とあわせて必ず履修すること。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

［講義概要］
社会保障の歴史を中心に、理念・範囲・機能について概観し、次に、社会保障給付費を中心に社会保障の財政について、また、社会保障の各制度の概要などについても説明するとともに、今日の社会保障制度に大きな影響を与える少子高齢社会の状況を明らかにする。その後、社会保障の各論としての労災保険制度、雇用保険制度、生活保護制度などについて、また、民間保険の概要などについて指摘する。

■授業計画
第1回　ガイダンス（社会保障の全体像）
第2回　社会保障の展開（外国での発展過程）
第3回　社会保障の展開（日本での発展過程）
第4回　社会保障の理念・範囲・体系
第5回　社会保障の財源と費用
第6回　少子高齢社会の動向
第7回　少子高齢社会と労働環境
第8回　社会保険以外の制度（社会手当制度・生活保護制度）
第9回　労災保険制度（概要）
第10回　労災保険制度（保険給付）
第11回　労災保険制度（課題）
第12回　雇用保険制度（概要）
第13回　雇用保険制度（保険給付）
第14回　雇用保険制度（課題）
第15回　試験

［成績評価］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［成績評価（備考）］
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
少子高齢社会や人口減少社会、社会保障財政、労災保険や雇用保険、生活保護や社会手当などについては、新聞記事やＴＶニュースなどで数多く見受けられるので常に関心を持って事前に調べること。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得ることができる。

[テキスト]
テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。

[参考文献]
『社会保障』<新社会福祉士養成講座>(中央法規)
『社会保障』<新社会福祉学習双書>(全国社会福祉協議会)
『保険と年金の動向』(厚生統計協会)
『厚生労働白書』(日経印刷)
『社会保障入門』(中央法規)
『はじめての社会保障』(有斐閣)
上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

[備考]
授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかり行ってください。

社会保障論 II

科目ナンバー	ISW 2302-L
2単位：後期1コマ	3年
金子　和夫	

[到達目標]
少子高齢社会の進展に伴い、制度改正が継続的に行われ、かつ、制度内容が複雑・多岐にわたっている社会保険制度の概要を説明できる。また、社会福祉士国家試験、公務員採用試験などに寄与できるとともに、日常生活にも学んだ知識が活用できる。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、受験資格を希望する者は、「社会保障論Ⅰ」とあわせて必ず履修すること。受験資格を希望しない者もそうしてほしい。

[講義概要]
社会保障制度の中心となる年金保険制度、医療保険制度、介護保険制度の概要およびそれらの問題点・課題について指摘する。年金保険制度は、全国民を対象とする国民年金、民間企業の一般被用者を対象とする厚生年金保険、医療保険制度は、地域住民対象の国民健康保険、民間企業の被用者を対象とする健康保険を中心に、そして介護保険制度について述べる。

■授業計画
第1回　年金保険制度の概要
第2回　国民年金保険制度
第3回　厚生年金保険制度
第4回　その他の年金関連制度
第5回　年金保険制度の動向・課題
第6回　医療保険制度の概要
第7回　健康保険制度
第8回　国民健康保険制度
第9回　高齢者医療制度
第10回　医療保険・医療制度の動向・課題
第11回　介護保険制度の概要
第12回　介護保険制度における保険給付
第13回　介護保険制度の財源と負担
第14回　介護保険制度の動向・課題
第15回　試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でなければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
年金保険、医療保険、介護保険は、少子高齢社会・人口減少社会の進展において重要な政策課題であり、新聞記事やＴＶニュースで取り上げられない日はないので常に関心を持って事前に調べること。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」に該当する。人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できる、また、そのような人生を送ることを可能にする社会の形成に貢献できるために、心と福祉と魂の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を得ることができる。

[テキスト]
テキストは使用せず、毎回講義資料を配布する。

[参考文献]
『社会保障』<新社会福祉士養成講座>(中央法規)
『社会保障』<新社会福祉学習双書>(全国社会福祉協議会)
『保険と年金の動向』(厚生統計協会)
『厚生労働白書』(日経印刷)
『社会保障入門』(中央法規)
『はじめての社会保障』(有斐閣)
上記以外にも文献は多数あるので、自分で使いやすい文献を利用すること。制度改正が頻繁に行われるので、最新版を利用すること。

[備考]
授業中の質問に答えられるよう、復習と予習をしっかり行ってください。

公的扶助論

科目ナンバー	ISW2311-L
2単位：後期1コマ	3年
吉羽　弘明	

[科目補足情報]
本科目では貧困についての概念・諸制度・ソーシャルワークについて学ぶ。

[到達目標]
授業で修得した知識を通して、貧困の概念や貧困を経験している人々の置かれている環境、生活保護制度をはじめとする貧困に関係する諸制度やソーシャルワークの理念・方法、生存権についての理解を深め、公的扶助に関する基礎的な考察を行うことができる。

[履修の条件]
・本科目は社会福祉士の国家試験における「貧困に対する支援」にあたり、受験資格を得ようとする者の必修科目となっている。
・科目の到達目標を達成するためには授業に出席し、提示される課題に取り組むことが必要となる。大学の規程に基づき、規程を超える欠席がなされた場合期末試験を受験できない。
・テキストは初回授業時前に準備をし、毎回持参する。
・授業外で学外でのボランティア活動や生活困窮者支援関係団体の訪問を予定している。参加は任意であり、参加の意欲を評価して成績に加点する。なお、その際の公共交通機関の交通費等が若干必要となる。

[講義概要]
貧困はそれを経験する人の生活の質を低下させ、その人の尊厳を傷つけ、また社会全体をも傷つける。
本科目ではこのような構造と公的扶助制度の役割などを理解できるため、①貧困の概念・政策などの歴史、②貧困を経験する人と置かれている環境、③日本の代表的な公的扶助制度である生活保護制度、④生活保護以外の諸制度・支援と関係する政府・民間組織、について論じる。
テーマに沿ったグループ・全体でのディスカッション、ゲストスピーカーによるお話しなども予定している。また積極的にDVD等の映像・画像を利用し、より一層の学びを深める予定である。

■授業計画
第1回　はじめに（授業内容・方針の確認、公的扶助制度とは何か）
第2回　貧困とは何か
第3回　貧困に対応する制度・実践とその歴史
第4回　日本における近年の生活動向と貧困
第5回　生活保護制度（1）　法の理念：目的と原理・原則
第6回　生活保護制度（2）　生活保護基準
第7回　生活保護制度（3）　保護の種類とその内容
第8回　生活保護制度（4）　生活保護の申請とその課題
第9回　生活保護制度（5）　実施機関の組織、財政、生活保護施設
第10回　生活保護制度（6）　生活保護ケースワーク、自立支援プログラム
第11回　生活保護制度（7）　被保護者の権利及び義務、不服申立と訴訟
第12回　他職種者・機関との連携
第13回　貧困・低所得の人々に関わる諸制度
第14回　まとめ（貧困と向き合うソーシャルワーカーの相談支援活動）
第15回　試験

[成績評価]
試験（60%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
・その他の評価方法：リアクションペーパーの内容・提出度合計10%
・レポートは学期途中に1回提出する。テーマ等は第6回授業時に告知する。なお、レポートの提出は単位認定に必要となる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
・授業前及び授業後に授業の該当箇所に関わるテキストや配布資料を読み、理解する。
・日頃より、貧困を経験している人について、また関係する制度・政策、社会福祉の支援などを社会福祉学のエビデンスに基づいて文献や報道などを通して把握しようとすること。各人の任意ではあるが、ボランティアなどで現場に出向く機会を持つことを推奨する（ボランティア先の相談可能）。
・本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは次回授業時以降に行う。なお、リアクションによって授業内容を入れ替えたり、補足していく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2　全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「3　総合的・実践的な学習能力」「4　他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。
・貧困を経験している人・構造について理解できるようになる。
・貧困を経験している人に対する社会福祉の制度、支援について理解できるようになる。　・社会福祉専門職者として必要な価値・技術、深い人間理解に基づき、人権の保障に根差して個人と社会に働きかけることによって職責を果たすことができる基本的な素養を獲得することができるようになる。　・授業時のグループワークを通して、他者とともに問題点を把握して課題を解決していく方法を学び、またプレゼンテーションの方法を理解できるようになる。

[テキスト]
ISBN　978-4-335-61221-3　『新・社会福祉士シリーズ　16　貧困に対する支援』、福祉臨床シリーズ編集委員会編、弘文堂、2500円（税抜）　（改訂版が出版された場合には当該改訂版を購入すること。）

[参考文献]
適宜、関係する文献を紹介する。

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目　民間支援団体において貧困・低所得者の相談支援の経験を有するソーシャルワーカーとして、経験を通して把握している課題意識やソーシャルワークの方法・技術等を科目の教授に活かす。

更生保護制度論

科目ナンバー	ISW2312-L
2単位：後期1コマ	3年
西原　雄次郎	

［ 科目補足情報 ］
この科目は「刑事司法と福祉」に該当する科目である。

［ 到達目標 ］
①我が国の「刑事司法と福祉」全般に関する基本的な知識を身に付ける。
②歴史的な経緯も含めて、更生保護制度の概要を理解し、その中でソーシャルワーカーがどの様に貢献しているかを知り、今後のあるべき方向について一定の意見を形成する事が出来るようにする。

［ 履修の条件 ］
①3～4年生で各自の履修プランにしたがって自由に履修可能である。
②社会福祉士・精神保健福祉士共通の国家試験の出題範囲の科目である。

［ 講義概要 ］
①司法における福祉活動の全体を概観する。
②犯罪・司法統計や犯罪事例等を活用して、巷間に流布されている間違った常識ではなく、出来るだけ正確な知識の習得に資することを前提に講義を展開する。
③新聞や雑誌に掲載されている関連情報を積極的に活用する。
④国試には出題されない範囲（特に歴史的経緯等）についても学習する。

■授業計画
第1回　刑事司法と福祉の概略　オリエンテーション
　‥司法福祉の中の「刑事司法」「更生保護」の基本的な概念を整理し、規範的解決と実体的解決等という考え方について概説する。
第2回　刑事司法と福祉の歴史的経緯　先駆者の実践から学ぶ①
　‥諸制度の全く整備されていない時代に、開拓的な事業を行った先達の事績を2回にわたって概説する。
第3回　刑事司法と福祉の歴史的経緯　先駆者の実践から学ぶ②
　‥前回の続きである。個々の先駆者の「熱」と、その「実践力」「持続力」「基本理念」等を皆で考えたい。
第4回　近年の犯罪統計から学ぶ
　‥わが国の犯罪統計から見えてくる現状を理解し、何が課題となっているのかを概説する。
第5回　刑事司法手続の理解と福祉の関わり
　‥罪刑法定主義、適正手続の保障、といった諸概念と、それに基づいた刑事司法手続の基本を学び、「福祉」がどう関わっているのかを概説する。
第6回　少年司法手続の理解と福祉の関わり
　‥更生保護制度の分野で先駆的な役割を果たしてきた少年司法の現状を学び、「福祉」との関わりを概説する。
第7回　施設内処遇と福祉の関わり
　‥刑務所・少年院等の刑事施設内において期待されている福祉職の役割と現状について概観する。
第8回　社会内処遇としての更生保護制度1
　‥「地域共生社会」という概念が不明確な時代から、地域をベースに実践されてきた更生保護の役割を担う機関、団体、担い手等を概説する。
第9回　社会内処遇としての更生保護制度2
　‥更生保護制度運用の実際と、その中で、福祉事業者や福祉職にはどのようなことが期待されているのかを皆で考えたい。
第10回　更生保護制度と累犯高齢者・累犯障がい者
　‥軽微な犯罪を繰り返す高齢者・障がい者への支援がどうあるべきか、福祉職には何が期待されているのかを概観する。
第11回　医療観察制度の現状と課題
　‥「医療観察法」と、保護観察所に配置されている「社会復帰調整官」の役割と課題について概観する。
第12回　更生保護と犯罪被害者支援
　‥「犯罪被害者基本法」成立の経緯と、「法」の内容を概説し、運用の現状と課題について概説する。
第13回　死刑制度を考える
　‥更生保護とは対極の位置にあると思われる「死刑制度」について、世界の趨勢も紹介しつつ、福祉職としてどう考えるべきか、皆で考えたい。
第14回　総括　民事司法とも関わらせながら全体を総括する
　‥司法福祉は、刑事司法のみならず、民事司法とも関わる部分も多く見られる。そのことにも触れつつ、全体を概観する。
第15回　試験

［ 成績評価 ］
試験（80％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
成績評価の「その他20％」は、各授業時に提出されるリアクション用紙への記入内容や、授業への出欠状況や、授業への参加度を評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
①日常の社会福祉の学習の中には出てこない専門用語が数多く使われるので、授業時に配布する資料類や参考文献を参照して、事前・事後学習をすることが不可欠である。
②本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
③新聞記事（本学図書館の端末の活用や、配架されている各紙の活用を勧める）を積極的に活用する予定である。

④下記テキスト欄にも記載したように、ネット上に公開されている『犯罪白書』他の、行政官庁が発行している白書類も活用する。

[試験・レポート等のフィードバック]
①リアクション用紙に記載された内容に対するフィードバックは、次回の授業時に行う。
②その他の質問等への対応も授業時を中心に行う。
③試験は、講義中に提供された知識・考え方を問うものである。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義を通して、受講者は、本学のディプロマポリシーに記された「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」の一端を身に付けることになる。

[テキスト]
特定のテキストは使用しない。
授業時に適宜配布する資料に基づいて授業を展開するが、参考文献として、主として下記に記載の、中央法規出版　最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座10『刑事司法と福祉』を利用する。

[参考文献]
①中央法規出版　最新社会福祉士・精神保健福祉士養成講座10『刑事司法と福祉』他、各社から出版されている国試対応の文献を参考にする。
②法務省による『犯罪白書』『犯罪被害者白書』等と、最高裁判所、法務省、厚生労働省等のホームページで公開されている各種通知や最新の統計資料を用いる。
③日々の新聞等の犯罪報道に注意し、更生保護・司法福祉の視点で読む努力をしてもらいたい。

福祉サービスの組織と経営

科目ナンバー	ISW2303-L
2単位：後期1コマ	3年
山口　麻衣	

[到達目標]
福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論を学び、福祉サービスに係る多様な組織や団体の経営や連携について理解を深める。

[履修の条件]
原則的には3,4年次の学生を対象とする。

[講義概要]
ソーシャルワークとして働く上で、組織に属しながら、多職種・多機関との連携を含め、組織のマネジメントや人的資源のマネジメントに携わることも多く、マネジメントを理解する重要性が指摘されている。講義では、モチベーション、リーダーシップなどの組織論を学びながら、福祉サービスに係る組織や団体（社会福祉法人、医療法人、特定非営利活動法人、営利法人、市民団体、自治体など）の経営の実際やサービスの質の向上にむけた課題について、学生自身が単に知識を習得するだけでなく、将来、組織で働くことを意識して考えるような授業展開としたい。講義中心だが、一部グループディスカッションも含む。

■授業計画
第1回　講義の目的と意義、福祉サービスにおける組織と経営
講義の目的と意義、福祉サービスにおける組織と経営
福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割（11）法人とは
営利・非営利・社会福祉法人・NPO 法人、一般社団法人、株式会社
第2回　福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割（2）福祉サービスの沿革と概要
第3回　福祉サービスに係る組織や団体の概要と役割（3）
組織間連携と協働、地域連携
第4回　福祉サービスの組織と経営の基礎理論（1）戦略運営に関する基礎理論
組織運営、組織における意思決定、問題解決の思考と手順
モチベーションと組織の活性化
第5回　福祉サービスの組織と経営の基礎理論（2）集団力学に関する基礎理論
チームアプローチと集団力学、チームの機能と構成
第6回　福祉サービス提供組織の経営と実際
第7回　福祉サービスと経営に係る基礎理論（3）リーダーシップに関する基礎理論
リーダーシップ、フォロワーシップ、リーダーの機能と役割
第8回　福祉サービス提供組織の経営と実際（1）経営体制
第9回　福福祉サービス提供組織の経営と実際（2）福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンス
第10回　福祉サービス提供組織の経営と実際（3）適切な福祉サービスの管理
第11回　福祉サービス提供組織の経営と実際（4）情報管理
第12回　福祉サービス提供組織の経営と実際（5）財務管理・会計管理
第13回　福祉人材のマネジメント（1）福祉人材の育成・福祉人材マネジメント
第14回　福祉人材のマネジメント（2）働きやすい労働環境の整備、福祉サービスにおける組織と経営−全体のまとめからわかることー
第15回　期末試験

[成績評価]
試験（50％）、レポート（30％）、小テスト（0％）、課題提出（10％）、その他の評価方法（10％）

[成績評価（備考）]
「課題」としてフィードバックの提出、「その他」として、授業での回答を求める。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習・復習として教科書を読むこと、自分のテーマにあわせて、参考文献を読むことを薦める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義におい

て行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。福祉サービスの組織と経営に関する学びを深めることにより、福祉サービスに関する本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになるための知識を得る。

[テキスト]
日本ソーシャルワーク教育学校連盟編(2021)『福祉サービスの組織と経営』第1版,中央法規. ISBN 978-4-8058-3761-0 2750円

[参考文献]
フィリップ・コトラー&N・リー『民間企業の知恵を公共サービスに活かす　社会が変わるマーケティング』(2007=2007)英治出版.
P.F.ドラッカー『非営利組織の経営』(1990=2007)ダイアモンド社.
P.F.ドラッカー(1993=1995)『非営利組織の自己評価手法』
岩崎夏海(2009)『もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの「マネジメント」を読んだら』ダイアモンド社.
E.H.シャイン(2009)『人を助けるとはどういうことか本当の「協力関係」をつくる7つの原則』
田尾雅夫(1995)『ヒューマン・サービスの組織：医療・保健・福祉における経営管理』法律文化社
その他の参考文献は授業で紹介する。

保健医療サービス

科目ナンバー	ISW2304-L
2単位：後期1コマ	3年
岸　千代	

[科目補足情報]
保健医療サービスとは、医療サービスと社会サービスから構成されたものである

[到達目標]
①社会福祉と保健医療との関係を理解する。
②保健医療サービスの供給システムの概要を理解する。
③保健医療ソーシャルワークの概要を理解する。

[履修の条件]
社会福祉の主要科目、とりわけソーシャルワークの方法論系科目ならびに社会保障論を履修していること。

[講義概要]
現代の社会福祉実践では、保健医療とのかかわり合いが大きくなっており、地域共生社会の拡充に寄与できるソーシャルワーカーは、医療との連携をはかりながら、社会福祉の視点・立場から事象をとらえ考察し、実践していくことが求められる。
授業では、社会福祉士ならびに精神保健福祉士指定科目(共通科目)のシラバスに盛り込まれた内容を網羅しつつ、保健医療の歴史的変遷と基本的性質、保健医療ソーシャルワークの理論、医療福祉に関する課題に触れながら、能動的に保健医療と連携するソーシャルワーカーの姿勢や専門性に関する知識の獲得を目指す。

■授業計画
第1回　保健医療分野の課題をもつ人の理解
第2回　医療倫理
第3回　保健医療の動向(1)
第4回　保健医療の動向(2)
第5回　保健医療領域における支援の実際(1)：事例1・2
第6回　保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスの関する知識(1)
第7回　保健医療領域に必要な政策・制度およびサービスの関する知識(2)
第8回　保健医療領域における支援の実際(2)：事例3・4
第9回　保健医療領域における専門職の役割と連携(1)
第10回　保健医療領域における専門職の役割と連携(2)
第11回　保健医療領域における支援の実際(3)
第12回　保健医療領域における支援の実際(4)：事例5・6
第13回　保健医療領域における支援の実際(5)：事例7・8
第14回　保健医療サービスのまとめ・医療福祉に携わるということ
第15回　試験

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(15%)、その他の評価方法(15%)

[成績評価(備考)]
その他の評価方法には、受講姿勢やグループワークへの参加態度が含まれる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
講義前に指定テキストを読んでおくことを勧める。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートについては、授業内に適宜口頭でコメントする。
試験は、最終回にテキスト全範囲を対象に実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。わが国における保険医療サービスを学ぶとともに、保険医療を必要とする利用者や家族への支援方法を身に付けることができる。そのために、個人・社会の環境を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言や実行できるようになること。

[テキスト]
1)【ISBN】978-4-8058-8248-1　日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)『最新・社会福祉士養成講座«5»保健医療と福祉第2版』中央法規　2,700円(税別)

[参考文献]
小山秀夫・堀越由紀子・笹岡真弓編(2016)『保健医療サービス(改訂版)』ミネルヴァ書房

[備考]
実務経験のある教員による科目
福祉医療現場での経験を活かして、対人援助の方法を指導する。毎回、テキストを持参すること。ISBN が同じであれば、中古でも問題はない。

社会福祉調査

科目ナンバー	ISW2305-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
山口　麻衣	

[到達目標]
①社会福祉に従事する専門家に必要な社会福祉援助技術の一つである社会福祉調査に関する基礎知識を養い、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。
②社会福祉調査と社会福祉の歴史的関係について理解する。
③社会福祉調査における倫理や個人情報保護について理解する。
④社会福祉調査における量的調査法と質的調査法ついての具体的な調査方法や分析方法の習得する。
⑤ソーシャルワークにおける評価の意義と方法について理解する。

[履修の条件]
原則的には3、4年次の学生を対象とする。

[講義概要]
本講義では、まず、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。次に、社会福祉分野における調査の目的、意義、課題を理解する。次に、歴史的関係や統計法を学ぶ。さらに、社会調査における倫理や個人情報保護について理解する。社会福祉調査における量的調査法と質的調査法ついて、具体的な調査方法や分析方法を学ぶとともに社会福祉実践に社会福祉調査を活用し、社会福祉調査に実践知を反映するための学びを深める。

■授業計画
第1回　社会福祉調査の概要（目的・意義・課題、社会福祉調査と歴史的関係
第2回　統計法の概要、社会調査における倫理、個人情報の保護
第3回　社会福祉調査のデザイン、調査における考え方・論理、目的と対象、データ収集と分析
社会福祉調査のプロセス
第4回　社会福祉調査における量的調査法の概要、調査の種類と方法
第5回　量的調査における測定、変数と尺度測定の信頼性と妥当性、質問紙作成方法と留意点
第6回　変数と尺度測定の信頼性と妥当性、
質問紙の配布と回収、量的調査の集計と分析（単純集計・記述統計）
第7回　量的調査におけるデータ分析；質的データの関連性（クロス集計）
量的データの関連性（散布図、相関と回帰）社会調査実施にあたっての IT の活用方法
第8回　社会福祉調査における質的調査法の概要、観察法、面接法
第9回　質的調査の方法：質的調査のサンプリング、質的調査のデータ収集法・観察法、面接法多様な調査手法を実践にいかすために、ニーズ調査、アクションリサーチ、参加型調査、ミックス法
第10回　質的調査のデータ分析方法（1）
事例研究、ナラティブアプローチ、ライフストーリー法、エスノグラフィー
第11回　質的調査のデータ分析方法（2）
TEM,グランデッドセオリーアプローチ
第12回　アクションリサーチ、実験計画法、集団比較実験計画法ソーシャルワークにおける評価の構造（ストラクチャー）・過程（プロセス）・結果（アウトカム）・影響（インパクト）プログラム評価
第13回　シングル・システム・デザイン
第14回　社会福祉調査の展望、全体のまとめ
第15回　期末試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
「課題」としてフィードバックの提出、「その他」として授業での積極的な参加

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テキストの予習・復習を薦める。本科目では各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題レポートについては、レポート返却時に個別にコメントし、授業時に全体的なコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。社会福祉に関する調査方法の基本を学ぶことにより、福祉ニーズや実態の把握し、実証的に分析し、実践の解決策への示唆を提言できるようになるための知識を得る。

[テキスト]
日本ソーシャルワーク学校連盟編（2021）『社会福祉調査の基礎』中央法規、2750円　ISBN 978-4-8058-8235-1

[参考文献]
ハンス・ロスリング（2019）『FACTFULNESS：10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣』日経 BP 社、統計の威力（『ニュートン』2013,33巻第12号 p50-）
『地域の〈実践〉を変える社会福祉調査入門』, 春秋社, 2,625円.　その他の参考文献は授業で紹介する。

精神保健

科目ナンバー	ISW2102-L
2単位：後期1コマ	1〜4年
廣瀬　圭子	

[到達目標]
精神保健に関する基礎的な知識と技術を身につける。適宜、事例を使用し、総合的・包括的な福祉的なとらえ方を理解することを目標とする。福祉的なとらえ方とは、単に答えを出すための知識・技術ではなく、対人援助の専門職として、支援を必要とする方の心の健康を考え続ける初歩的な知識や初歩的な考え方やスキルを身に付けるを身に付けることである。

[履修の条件]
履修登録を行った者

[講義概要]
精神保健は、心の健康保持・増進を目指す学問と実践です。「心の健康とは何か」を深く考察するために、自分の心の健康を増進するための国試対策用に講義だけではなく、自分の心の健康増進を図るための手法を参加型・協働型で学んでいきます。福祉職はもちろん、心理職を目指す方にもぜひ知っておいて欲しい福祉制度についても学びます。

■授業計画
第1回　精神保健の概要
第2回　現代の精神保健分野の動向と基本的考え方1
第3回　現代の精神保健分野の動向と基本的考え方2
第4回　家族に関連する精神保健の課題と支援1
第5回　家族に関連する精神保健の課題と支援2
第6回　精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ1
第7回　精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ2
第8回　精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ
第9回　精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ1
第10回　精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ2
第11回　精神保健に関する発生予防と対策1
第12回　精神保健に関する発生予防と対策2
第13回　精神保健に関する専門職種と国、都道府県、市町村、団体等の役割及び連携
第14回　地域精神保健に関する偏見・差別等の課題と諸外国の精神保健活動の現状及び対策
第15回　定期試験

[成績評価]
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
授業中の発言や貢献度

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
「本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。」

[試験・レポート等のフィードバック]
試験については、大学の所定の手続きがあった場合に行う。課題については、次回以降の講義においてコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。精神保健に関する基本的なコミュニケーション方法を学ぶとともに、包括的な知識を得る。

[参考文献]
1）【ISBN】978-4-8058-8253-5　一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟=編集『最新　精神保健福祉士養成講座2　現代の精神保健の課題と支援』2021年発行、3,300円（税込）
2）【ISBN】9784798172743　心理教科書公認心理師完全合格テキスト第2版単行本―2022年発行、3,520円（税込）

[備考]
・テキストは指定しない。授業が配布プリントにて実施する。
・参考文献は、1）を社会福祉士を目指す者、2）は、公認心理師を目指す者に推奨する。

社会福祉と国際協力

科目ナンバー	ISW2213-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
原島　博	

[到達目標]
本科目は、国際協力を実践する上で必要な社会・経済開発理論、知識や価値感を習得します。また、国境を越えた社会福祉における社会開発課題の解決への取り組みについて事例検討することで、ワーカーの役割を理解することができるようになります。

[履修の条件]
授業では、資料、ビデオなどの視聴覚教材以外に、人数を考慮してワークショップ形式を取り入れていくので、グループ活動への積極的な参加を条件とします。国際協力の実践を社会福祉の視点から学びたいと考えている学生諸君の参加を期待します。海外インターンシップで実習を考えている場合は、必ず履修してください。

[講義概要]
「社会福祉と国際協力」では、対象社会の単位を地球社会（Global Society）と位置づけています。地球社会では、一日1ドル以下の収入で生活する家族、ストリートチルドレン、児童労働、予防できる感染症による死亡、民族紛争、環境破壊など反福祉的状況が存在しています。世界人口70億人の内、3分の2を占める人々は開発途上国に暮らしています。雇用、保健、栄養、教

育、居住環境など、基本的な生活ニーズを満たせないこれらの人々の福祉は、国境を越えて暮らす先進国社会の私達の課題でもあります。いくつかのテーマを取り上げ、現場での取組みと日本の国際協力のあり方について NGO スタッフの講義も含まれています。21 世紀の福祉は「国家」という枠組みから「世界」という枠組みに移行し、国際主義を再構築することが人類には求められています。是非、「福祉国家」を超え、「福祉世界」の思想と国際協力の在り方を一緒に考えてみましょう。

■授業計画

第1回　授業の概要及び進め方
第2回　「開発」とは何か
第3回　「国際協力」とは何か
第4回　人間の安全保障の概念
第5回　持続可能な開発目標と国際協力政策
第6回　国連と国際協力
第7回　国連と国際協力
第8回　政府と国際協力
第9回　NGO/NPO と国際協力
第10回　NGO/NPO と国際協力
第11回　国際協力としての国際ソーシャルワーク(1)
第12回　国際協力としての国際ソーシャルワーク(2)
第13回　国際協力としての国際ソーシャルワーク(3)
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テーマに関連する参考文献を読み、テーマの理解を深めてください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対してコメントするとともに、授業の中でフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
グローバルな課題に対して、人間の尊厳、相互理解、地球規模の共生社会を国際福祉の視点から考える。事例検討を通して問題、分析、解決の方法を学び、国際協力の理解を深める。グループワークを通じて、参加者同士のコミュニケーション能力を高める機会を提供する。

[テキスト]
授業毎に資料を配布すると同時に、個別に参考文献を紹介します。

[参考文献]
適宜紹介します。

多文化ソーシャルワーク

科目ナンバー	ISW 2214-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
原島　博	

[到達目標]
日本社会のなかで定住化する異文化を背景にもつ難民、移民が増加している現状を理解し、生活課題の特徴および課題への対応に必要な初歩的な多文化ソーシャルワークの知識、価値、技術を身につけることを目標とします。

[履修の条件]
本講義は、日本国内で増加する難民、移民の生活に関心があり、多文化ソーシャルワークの視点を大切にして、現場の実践から学ぼうとする意欲があることを条件とします。

[講義概要]
第二次世界大戦前に、日本の経済は貧しく、日本人を移民として海外に送り出していた時代がありました。戦後には、日本に残留した在日コリアンや中国の残留日本人孤児とその家族が来日したたため、受け入れのあり方が問われました。1980年代から1990年代にかけては、インドシナ地域からの難民を受入れ、また、日本経済の繁栄によるアジアからの多くの出稼ぎ労働者が日本にやって来ました。その過程で、労働、医療、在留に関わる人権や生活問題が生じました。現在では、オールドカマーと呼ばれる在日コリアンの高齢化、他方、労働や結婚でニューカマー(新たに来日した人々)と呼ばれるアジア及び南米出身の人々が日本の地域社会で暮らしています。今後、発展途上国内の失業と日本の少子高齢化により労働力不足が要因となり、外国人労働者とその家族が地域社会に入って来ます。すでに、2019年4月より、特別技能という在留資格により日本で働く外国人が増えることになります。このような政策の流れによって日本社会はますます多文化・多民族化していくことでしょう。民族や国籍を超えて日本社会は多様化に対応しなければなりません。日本社会が異文化社会からやってくる人々とどのように多文化共生を進めるべきか考えたいと思います。現場での実践家による講義も含まれていますので、有意義な学習ができます。

■授業計画

第1回　授業の概要と進め方
第2回　多文化社会論：オールドカマー
第3回　多文化社会論：ニューカマー
第4回　多文化社会：外国人の定住化の現状
第5回　多文化社会の課題①
第6回　多文化社会の課題②
第7回　多文化ソーシャルワーク理論①
第8回　多文化ソーシャルワーク理論②
第9回　多文化ソーシャルワークのアプローチ
第10回　演習①
第11回　演習②
第12回　演習③
第13回　演習④
第14回　多文化ソーシャルワークのまとめ
第15回　期末レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(70%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
テーマに関する文献を読むことを通して、基本的理解を発展させてほしい。本科目では各授業回に200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対する補足説明を次回の講義時に行う。課題レポートにコメントを付して返却を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシー1～4に該当する。異文化社会から様々な理由で来日して生活している難民、移民の生活課題を理解し、多文化共生を実践する支援者に求められる人間性、知識を身に付ける。

[テキスト]
授業毎に資料を配布します。

[参考文献]
適宜紹介します。

地域支援技法Ⅰ

科目ナンバー	ISW2215-L
2単位：後期1コマ	2～4年
山口　麻衣、和田　敏明、岸　千代	

[科目補足情報]
2年次から履修可能。地域支援技法ⅠとⅡは連続授業のため両方受講する。地域活動に関心があれば、コースを問わず履修できる。

[到達目標]
地域住民とともに地域の課題について考え調査しまとめるプロセスを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

[履修の条件]
①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
②原則、地域支援技法ⅠとⅡ両方受講すること。
③現場フィールドワーク(オンライン面接など含む)を行う。授業すべてに出席できること。
④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業を目指している、もしくは子どもや高齢者、障がい者、外国人などを対象にした地域活動に関心があること。
⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

[講義概要]
本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、4市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を学生としての受講しながら、地域支援技法について学ぶものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域活動団体への現地フィールドワークも実施する。小グループに分かれて、地域の社会資源や福祉課題について考え、学ぶ。

■授業計画
第1回　(1)これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割
第2回　地域支援技法とは、地域を支える支援者の役割
第3回　(2)自分の地域について知る方法と地域の社会資源
第4回　(3)地域活動を実践するうえで活用できる制度やサービス
　　グループワーク(1)地域課題を考える
第5回　(4)地域でサポートするときの人との関わり方
第6回　(5)地域で展開されている活動を知る、実践交流
第7回　フィールドワーク等(実際の地域活動への訪問調査など)(1)
第8回　フィールドワーク等(実際の地域活動への訪問調査など)(2)
第9回　(6)地域の問題解決のためのニーズ把握の方法と計画の立て方
第10回　(7)グループワーク(地域活動にむけて)(2)
第11回　(8)グループワーク(地域活動にむけて)(3)
第12回　(9)グループワーク(地域活動にむけて)(4)
第13回　(10)プレゼンテーション：
　　「私(達)が解決したい福祉課題と取り組みたい地域活動」
第14回　(11)福祉のまちづくりを協働して推進する：地域福祉ファシリテーターへの期待
第15回　学びの振り返り、レポート報告

[成績評価]
試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
その他の内訳：フィールドワーク参加10%、授業への貢献度10%、リアクションペーパー等による学び10%である。課題はフィールドワークの記録としてまとめる。
なお、4回以上授業を欠席した場合は、原則として不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の4市の福祉行政および社会福祉協議会の事業について事前に学んでおくとよい。本科目では各授業回におよそ200分(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーなどの援助者としての知識と技術を体験的に学ぶ。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

地域支援技法 II

科目ナンバー	ISW 2216-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
山口　麻衣、和田　敏明、岸　千代	

[科目補足情報]
2年次から履修可能。地域支援技法ⅠとⅡは連続授業のため両方受講する。地域活動に関心があれば、コースを問わず履修できる。

[到達目標]
地域住民とともに地域の課題について考え調査しまとめるプロセスを通じて、地域福祉の推進に欠かせない「住民参加」の意義と手法を学ぶ。

[履修の条件]
①「地域福祉論Ⅰ」および「地域福祉論Ⅱ」の両方を履修済みまたは並行履修すること。
②原則、地域支援技法ⅠとⅡ両方受講すること。
③現場フィールドワーク（オンライン面接など含む）を行う。授業すべてに出席できること。
④地域支援に関心があり、将来、社会福祉協議会など、地域福祉推進にかかわる職業を目指している、もしくは子どもや高齢者、障がい者、外国人などを対象にした地域活動に関心があること。
⑤小グループでの演習において積極的に発言し役割を果たすことを求める。

[講義概要]
本学が三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の自治体及び社会福祉協議会と共催で、4市の市民の方を対象に開催している「地域福祉ファシリテーター養成講座」を学生として受講し、地域支援技法を学ぶものである。講義を聴くだけでなく、小グループに分かれて市民の方とともに演習を受ける参加型の授業である。地域活動団体への現地フィールドワークも実施する。小グループに分かれて、地域の社会資源や福祉課題について考え、学ぶ。

■授業計画

第1回　(1)これからの社会福祉と地域福祉ファシリテーターの役割
第2回　地域支援技法とは、地域を支える支援者の役割
第3回　(2)自分の地域について知る方法と地域の社会資源
第4回　(3)地域活動を実践するうえで活用できる制度やサービス
　　グループワーク(1)地域課題を考える
第5回　(4)地域でサポートするときの人との関わり方
第6回　(5)地域で展開されている活動を知る、実践交流
第7回　フィールドワーク等（実際の地域活動への訪問調査など）(1)
第8回　フィールドワーク等（実際の地域活動への訪問調査など）(2)
第9回　(6)地域の問題解決のためのニーズ把握の方法と計画の立て方
第10回　(7)グループワーク（地域活動にむけて）(2)
第11回　(8)グループワーク（地域活動にむけて）(3)
第12回　(9)グループワーク（地域活動にむけて）(4)
第13回　(10)プレゼンテーション：
　　「私（達）が解決したい福祉課題と取り組みたい地域活動」
第14回　(11)福祉のまちづくりを協働して推進する：地域福祉ファシリテーターへの期待
第15回　学びの振り返り、レポート報告

[成績評価]
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
その他の内訳：フィールドワーク参加10%、授業への貢献度10%、リアクションペーパー等による学び10%である。課題はフィールドワークの記録としてまとめる。
なお、4回以上授業を欠席した場合は、原則として不可とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
三鷹市・小金井市・武蔵野市・調布市の4市の福祉行政および社会福祉協議会の事業について事前に学んでおくとよい。本科目では各授業回におよそ200分（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。課題については、授業時にコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。市民の方とともに地域の福祉課題について調査することを通じて、地域福祉を推進するソーシャルワーカーなどの援助者としての知識と技術を体験的に学ぶ。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
その都度、資料を提供する。

ソーシャルワーク演習Ⅰ

科目ナンバー	ISW2103-S
2単位：前期1コマ	1年
岸　千代、鈴木　喜子	

[到達目標]
社会問題と社会福祉について考える。人々が直面する課題を、個人的な課題としてだけではなく、社会的な課題として理解する力を習得する。具体的な事例等を用いて、ソーシャルワークの場面と過程を想定した演習を行う。

[履修の条件]
社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。

[講義概要]
少人数の演習で、次に掲げる具体的な事例等を活用し、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について実践的に習得すること。事例の背景を理解し、地域福祉の基盤整備や開発について考察する。毎回の課題について、グループダイナミクスを活用したグループ討議を行う。また、自分で調べ学習を行い考察を深める。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/授業のねらいとグループダイナミクスの活用
第2回　虐待（児童・障害者・高齢者等）とソーシャルアクション
第3回　虐待（児童・障害者・高齢者等）とソーシャルワークの展開過程
第4回　ひきこもりとアウトリーチ
第5回　ひきこもりとソーシャルワークの展開過程
第6回　貧困と地域アセスメント
第7回　貧困とソーシャルワークの展開過程
第8回　認知症とネットワーキング
第9回　認知症とソーシャルワークの展開過程
第10回　終末期ケアとチームアプローチ
第11回　終末期ケアとソーシャルワークの展開過程
第12回　災害時のソーシャルワークと地域住民の組織化と地域福祉計画
第13回　災害時のソーシャルワークと社会資源の活用・調整・開発
第14回　全体のまとめと記録
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業内での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。毎回の課題について、社会問題としてとらえることを意識して、自分で調べ学習を行うこと。授業後に、討議内容、講義内容を復習し、ソーシャルワーカーとしてどのように社会資源の基盤整備を行い、調整し、開発できるかについて考察すること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、ものごとの本質を把握し解決策を目指す姿勢をとおして総合的・実践的な学習能力を身につける。また、他者との意見交換等をとおして他者への理解と自身の思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
授業時に示す。

[参考文献]
授業時に示す。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会問題と社会福祉の関係についての課題提起とグループ学習の指導を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅱ

科目ナンバー	ISW3101-S
2単位：後期1コマ	1年
原島　博、福島　喜代子、山口　麻衣	

[到達目標]
相談援助に係る基礎的な知識と技術を身につける。具体的な相談事例について、総合的・包括的な援助の過程を理解する。

[履修の条件]
社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク演習Ⅰを履修済みであること。ソーシャルワーク実習Ⅰ開始前に履修することが求められる。

[講義概要]
少人数の演習で、具体的な課題別の相談援助事例等をもとに、総合的・包括的な援助について考察し、具体的なソーシャルワークの場面及び過程を想定した実技指導を行う。ファリシリテーションを行い、グループダイナミクスを活用しながら学びを深める。そして全体発表会においてプレゼンテーションを行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/グループダイナミクスの活用とファシリテーション
第2回　ソーシャルワークの展開過程、自己覚知、自己理解と他者理解
第3回　ケースの発見、アウトリーチ、基本的なコミュニケーション技術、言語的技術、非言語的技術
第4回　インテーク、契約、面接技術、面接の構造化、場の設定、ツールの活用
第5回　アセスメント
第6回　プランニング、ネゴシエーション
第7回　支援の実施、コーディネーション
第8回　モニタリング、支援経過の把握と管理（記録）
第9回　チームアプローチ、ネットワーキング
第10回　支援の終結と事後評価
第11回　アフターケア
第12回　個人プレゼンテーション
第13回　グループプレゼンテーション
第14回　全体のまとめ
第15回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（60%）

［成績評価（備考）］
毎回、授業の内容と感想を記して提出することを求める。授業での発言・発表・質問、レポート等の提出状況と合わせて総合的に評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。前期に履修するソーシャルワーク演習Ⅰの終盤で、ソーシャルワーク演習Ⅱの担当テーマが定まる。テーマを担当する教員のもと、前期の終盤に集まるので、出された夏休みの課題に取り組むこと。後期の授業開始後も、グループごとに、メンバー全員で役割分担し、自分の分担（調べ学習、整理、まとめ、集約など）を責任をもって果たすこと。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて次回以降の授業時に行う。レポートについては、発表時にコメントを行う。発表時のコメントをもとに最終レポートの提出を求める。

［ディプロマポリシーとの関連性］
3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することで、他者理解を深め、自己表現のためのコミュニケーション能力を伸ばし、最終的にグループとして人前で学んだことを発表する能力を身につける。

［テキスト］
授業時に示す

［参考文献］
授業時に示す

［備考］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する基本的な知識・技術等についての講義と演習、グループ学習の指導を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅲ

科目ナンバー	ISW2217-S
2単位：前期1コマ	2〜3年
髙山　由美子、福島　喜代子、岸　千代、鈴木　喜子	

［到達目標］
ソーシャルワーカーとして、必要となる相談援助の基礎技術を身につける。特に、コミュニケーション技術及び面接技術、マッピング技法を習得する。また、自己覚知と他者理解を深め、自分が将来活動する分野を選択し、必要な基礎知識を得る

［履修の条件］
原則として、社会福祉士の取得を目指す者が履修する科目である。
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅱ開始前に履修することが求められる。
ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、社会福祉入門の3科目を、「良」以上の成績で履修ずみであること。
社会福祉原論Ⅰを良以上の成績で履修ずみであるか、並行履修中であること。社会福祉原論Ⅱを良以上の成績で履修ずみであるか、後期履修予定（良以上の成績）であること。社会福祉の基礎を良以上の成績で履修済みであるか、並行履修中であること。ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰを並行履修中、もしくは履修ずみであること。なお、本科目履修後、並行履修している社会福祉の基礎、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰが「良」以上で履修できなかった場合、後期に履修予定となっているソーシャルワーク実習指導Ⅱの履修はできない。

［講義概要］
少人数の演習で、相談援助の基礎となる技術について、ロールプレイなどの実技指導を中心に学ぶ。講義、アンケート、個別面接などを通して実習分野や将来活動する分野を決定する支援を行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/ソーシャルワーク実習と実習指導の理解
第2回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その1）
第3回　実習分野ごとの施設・機関と利用者の理解（その2）
第4回　実習希望アンケートに基づく面談①
第5回　自己覚知（自己理解と他者理解）
第6回　基本的なコミュニケーション技術の習得（自己紹介と実習目的の説明）
第7回　基本的なコミュニケーション技術の習得（生活施設で利用者と関わる）
第8回　基本的な面接技術の習得（傾聴、共感、言語的技術、非言語的技術）

第9回　実習希望アンケートに基づく面談②
第10回　基本的な面接技術の習得（面接の構造化、家族関係図の記入）
第11回　基本的な面接技術の習得（場の設定、エコマップの記入）
第12回　ソーシャルワークの記録（支援経過の把握と管理）と実習記録
第13回　基本的な面接技術の習得（ツールの活用、時間の流れの中で利用者を理解する）
第14回　まとめとふりかえり　「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」に向けた準備
第15回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［成績評価（備考）］
参加型授業における発言、発表、毎回のリアクションペーパーの内容等で総合的に評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
コミュニケーション技術、面接技術などについて、授業後にふりかえりを行い、そのポイントを復習しておくこと。『実習の手引き』を読むこと。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［テキスト］
『実習の手引き』ルーテル学院大学
履修者全員に配布する。

［参考文献］
授業の中で適宜紹介する。

［備考］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、実習及び相談援助の技術に関する講義と演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅳ

科目ナンバー	ISW2306-S
2単位：前期1コマ	3年
髙山　由美子、福島　喜代子、岸　千代	

［到達目標］
社会福祉の現場で、相談援助の専門家であるソーシャルワーカーの卵として、支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対し、総合的かつ包括的な支援ができる知識と技術を身につける。

［履修の条件］
社会福祉士の受験資格取得を目指す学生が履修する科目である。社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、社会福祉入門、社会福祉の基礎、ソーシャルワーク演習Ⅰ、同Ⅱ、同Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱのいずれもが「良」以上の成績で履修済みであること。社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、同Ⅳを並行履修すること。授業はすべて出席すること。

［講義概要］
少人数（概ね10人～15人）の演習形式の授業を行う。個別指導並びにグループ指導を通して、実技指導（ロールプレーイング等）を行う。支援を必要とする人が抱える複合的な課題に対する総合的かつ包括的な支援について学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/実習評価表について
第2回　実習指導とは、実習指導を受けるとは
第3回　個人を対象としたソーシャルワーク（アウトリーチ、インテーク、アセスメント）
第4回　個人を対象としたソーシャルワーク（プランニング、支援の実施、モニタリング）
第5回　観察訓練、観察したものを伝達する訓練
第6回　感染症について学ぶ
第7回　グループを対象としたソーシャルワーク（グループワークの構成、ファシリテーション）
第8回　グループを対象としたソーシャルワーク（グループワークの展開過程<準備期、開始期、作業期、終結期>）
第9回　チームアプローチとネットワーキング（会議のコーディネートとマネジメント）
第10回　チームアプローチとネットワーキング（会議のコーディネートとマネジメント）
第11回　地域福祉の基盤整備と開発（地域アセスメント、地域福祉の計画）
第12回　地域福祉の基盤整備と開発（組織化、社会資源の活用・調整、開発）
第13回　記録の書き方（実習記録及び支援の経過の把握と管理）
第14回　児童、高齢、障害分野における利用者理解とソーシャルアクション
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(40%)

[成績評価(備考)]
参加型授業への貢献度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業ごとに、さまざまなテーマで話し合いが行われる。テーマに沿って出された課題の予習・復習を行うこと。授業で紹介するさまざまな事例について、ソーシャルワーカーとして包括的・総合的な援助をするためにどのようにすれば良いか考えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に行う。課題については、授業の最終回までにコメントを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。この科目を履修することで、高度な専門性を有するソーシャルワーカーとして、個人への援助、グループへの援助、ケアマネジメント、ネットワーキングやチームアプローチ等を実践できるようにする。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。履修者には配布する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、相談援助に関する実践的な演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅴ

科目ナンバー	ISW2307-S
2単位：後期1コマ	3年
加藤　純、原島　博、髙山　由美子、山口　麻衣	

[到達目標]
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する。ソーシャルワークの理論と実践を統合し、ソーシャルワーク実践をより適切に行えるようになる。支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について理解し、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程、実践モデルとアプローチについて実践的に理解する。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ履修後に履修する。本演習は「ソーシャルワーク演習Ⅵ」と連続して履修しなければならない。なお、3年前期にゼミ(演習)の所属希望調査を行うのでポータルサイトのメッセージや掲示等に注意すること。卒業論文を執筆する者は、原則として指導教員のゼミ(演習)に所属する。

[講義概要]
少人数の演習で、グループおよび個別に指導する。各演習のテーマに基づき、各自調べてきたことをもとに発表し、討議する。ソーシャルワークの理論と実践の統合化を図るために、事例研究、事例検討、スーパービジョン等を行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/ソーシャルワークの理論と実践の統合
第2回　支援を必要としている人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援
第3回　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開過程
第4回　実践モデルとアプローチ
第5回　アウトリーチ、ケースの発見、インテーク
第6回　アセスメント、プランニング、支援の実施
第7回　モニタリング、支援の終結と事後評価、アフターケア
第8回　チームアプローチ、ネットワーキング
第9回　ソーシャルアクション、ネゴシエーション
第10回　ファシリテーション
第11回　コーディネーション
第12回　ソーシャルワークの価値、倫理的な判断
第13回　ソーシャルワーク理論と実践の統合化
第14回　プレゼンテーション
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
授業の中で適宜紹介する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理論と方法、技術等に関する総合的な演習を行う。

ソーシャルワーク演習Ⅵ

科目ナンバー	ISW2403-S
2単位：前期1コマ	4年
加藤　純、原島　博、髙山　由美子、山口　麻衣	

[到達目標]
ソーシャルワークに係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的かつ学術的な知識及び技術として習得する。ソーシャルワークの理論と実践を統合し、ソーシャルワーク実践をより適切に行えるようになる。地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みを理解し、支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。原則として、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習Ⅱ履修後に履修する。本演習は「ソーシャルワーク演習Ⅴ」に引き続き履修しなければならない。卒業論文を執筆する者は、原則として指導教員のゼミ(演習)に所属する。

[講義概要]
少人数の演習で、グループおよび個別に指導する。各演習のテーマに基づき、各自調べてきたことをもとに発表し、討議する。ソーシャルワークの理論と実践の統合化を図るために、事例研究、事例検討、スーパービジョン等を行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/ソーシャルワークの理論と実践の統合
第2回　支援を必要としている人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援
第3回　ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開過程
第4回　実践モデルとアプローチ
第5回　地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握
第6回　地域アセスメント、地域福祉の計画
第7回　組織化、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価
第8回　虐待事例の事例検討、スーパービジョン
第9回　貧困事例の事例検討、スーパービジョン
第10回　認知症、終末期ケアに関する事例検討、スーパービジョン
第11回　災害時の事例検討、スーパービジョン
第12回　危機状態にある事例への権利擁護活動
第13回　ソーシャルワーク理論と実践の統合化
第14回　プレゼンテーション
第15回　－

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
授業での発言、発表内容、貢献度等によって評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習(予習・復習等)が必要となる。授業内で提示される課題や議論のテーマに基づき、先行研究などを調べ、授業に備えること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
授業の中で適宜紹介する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助の理論と方法、技術等に関する総合的な演習を行う。

ソーシャルワーク・キャリアアップゼミ

科目ナンバー	ISW2404-S
2単位：後期1コマ	4年
山口　麻衣、市川　一宏、金子　和夫、加藤　純、原島　博、岸　千代、鈴木　喜子、戸井　宏紀	

[到達目標]
大学生活の最終学期において、これまで一般教養科目、専門科目、実習関連科目で学んだ思想・理論・知識・技術等を、卒業後の実践の場に活かせるようにすることを目標とする。

[履修の条件]
社会福祉士の国家試験受験資格取得予定の学生は「ソーシャ

ルワーク演習Ⅴ「同Ⅵ」」から引き続き履修すること。「ソーシャルワーク演習Ⅴ「同Ⅵ」」を履修し、国家試験受験資格取得を目指さない学生は、履修しなくてもよいが、キャリア形成ゼミの回は必ず出席すること。日程、教室などは掲示を行うので注意して従うこと。

[講義概要]
本講義は、大学生活の最終学期において、社会福祉の理論と実践の統合、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験準備、就職支援、キャリア形成などを行う。4年生全体を対象とした講義形式の授業と卒業ゼミを単位としたグループ授業の組み合わせで展開する。

■授業計画
第1回　心理学と心理的支援
第2回　キャリア形成ゼミ①
第3回　社会福祉調査の基礎〔社会福祉調査〕
第4回　福祉サービスの組織と経営
第5回　社会福祉の原理と政策①〔社会福祉原論Ⅰ〕
第6回　キャリア形成ゼミ②
第7回　保健医療と福祉〔保健医療サービス〕
第8回　社会福祉の原理と政策②〔社会福祉原論Ⅱ〕
第9回　貧困に対する支援〔公的扶助論〕
第10回　社会保障論
第11回　社会学
第12回　権利擁護と成年後見制度
第13回　地域福祉と包括的支援体制〔地域福祉論〕
第14回　キャリア形成ゼミ③
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
成績評価の「その他」は、特に「理論と実践の統合」や「キャリア形成ゼミ」等においてフィードバックが求められるので、その内容で評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。これまで学んだ専門科目や実習関連科目等の内容をあらためて学習し、さらに、卒業後の進路・分野に関する.研究を自ら行うこと。そして、本講義で再確認したこと、理解できなかったこと、あらたに発見したこと等についても自ら研究し、その上で必要に応じて教員と質疑応答を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパーに対するフィードバックを必要に応じて次回以降の講義内において行う。
・講義内における小テストへの解答
・解説は授業内に行なう。
・発表やレポートについて、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3「総合的・実践的な学習能力」に該当する。これまでに学んできた科目を振り返り、実践力を高めることと就職支援やキャリア形成等に一体的に取り組むことにより、総合的・実践的な力を習得する

[テキスト]
テキストは使用しない。

[参考文献]
参考文献は、これまでの講義課目あるいは実習先等で提示された文献を参照すること。さらに、国家試験関係では、多くの出版社から「講座」としてテキストが出版されている。また、卒業後の進路関係についても、進学・就職に向けた専門的な文献が数多く出版されており、自分で使いやすいものを利用すること。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、これまで学んできた科目の講義と実践力を高めること及びキャリア支援に関する指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ

科目ナンバー	ISW2218-S
2単位：前期1コマ	2〜3年
髙山　由美子、福島　喜代子、原島　博、山口　麻衣	

[到達目標]
実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
ソーシャルワーク演習Ⅰと同Ⅱが良以上で単位できていること。社会福祉原論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門については単位取得できていること。ソーシャルワーク実習Ⅰを履修すること。ただし、社会福祉士受験資格を目指す場合は、社会福祉原論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門は要件が異なるため、ソーシャルワーク演習Ⅲを履修する際には注意すること。

[講義概要]
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において1か所目の実習（30時間以上、概ね4日〜8日間）を行うための準備を行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）
第2回　実習を行う機関に関する基本的な理解と地域アセスメント
第3回　実習先の施設・機関の理解
第4回　実習先機関における職員の専門性や業務および地域住民やボランティア等に関する基本的な理解
第5回　ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解

第6回　実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者による三者協議を踏まえた実習計画の作成
第7回　実習記録への記録内容及び記録方法
第8回　実習先で、地域住民やボランティア等と基本的なコミュニケーションを行い、適切に関わり、円滑な人間関係を形成する
第9回　実習内容の振り返り
第10回　実習内容の振り返り
第11回　実習記録を踏まえた課題の整理
第12回　実習報告書（総括レポート）の作成
第13回　実習生、実習担当教員、実習指導者の三者による実習後の評価
第14回　全体の総括とプレゼンテーション
第15回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［成績評価（備考）］
実習準備の達成度等を総合的に評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。
実習の準備として必要なことを調べ、課題に取り組む。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［テキスト］
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

［参考文献］
授業の中で適宜紹介する。

［備考］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅱ

科目ナンバー	ISW2208-S
2単位：後期1コマ	2〜3年
髙山　由美子、岸　千代、鈴木　喜子、下ノ本　直美、関根　裕恵、篠塚　利別香	

［到達目標］
実習を通してソーシャルワーカーの知識と技術を身につける。実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

［履修の条件］
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。
社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。

［講義概要］
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習（ソーシャルワーク実習Ⅱとして28日間以上、210時間以上）を行うための準備を行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/実習の目的の理解
第2回　実習及び実習指導の意義（スーパービジョン含む。）
第3回　実習を行う実習分野の理解
第4回　実習を行う施設・機関の法的位置づけの理解
第5回　実習先のソーシャルワーカーの専門性や業務に関する基本的な理解
第6回　実習先の他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解
第7回　実習を行う実習分野の利用者の理解
第8回　ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解
第9回　実習目標の設定
第10回　実習身上書の作成
第11回　実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
第12回　実習記録への記録内容及び記録方法に関する理解
第13回　実習を行う施設・事業所のある地域アセスメント
第14回　多様な施設・機関における現場体験学習や見学実習
第15回　－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［成績評価（備考）］
参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。
実習の準備として必要なことを調べ、課題に取り組む。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅲ

科目ナンバー	ISW2309-S
2単位：前期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、岸　千代、鈴木　喜子、 下ノ本　直美、関根　裕恵、篠塚　利別香	

[到達目標]
ソーシャルワーク実習の準備が完成する。ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

[講義概要]
ソーシャルワーク実習Ⅱと並行して履修する。週に1回帰校して、少人数（概ね10人前後）の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画
第1回　実習目標と実習計画の確認
第2回　実習指導、スーパービジョン
第3回　実習分野と地域社会の理解
第4回　実習先の施設・機関の理解
第5回　実習先の利用者の理解
第6回　実習先で関わる他の職種の専門性に関する基本的理解
第7回　実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術
第8回　ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解
第9回　実習記録への記録内容及び記録方法
第10回　利用者の支援計画とその実施、評価
第11回　巡回指導
第12回　実習分野における相談援助と自己覚知
第13回　実習の振り返りと自己評価
第14回　実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　−

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜指示する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅳ

科目ナンバー	ISW2310-S
2単位：前期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、岸　千代、鈴木　喜子、 下ノ本　直美、関根　裕恵、篠塚　利別香	

[到達目標]
ソーシャルワーク実習の準備が完成する。
ソーシャルワーク実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
ソーシャルワーク実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と統合させて理解を深められる。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。ソーシャルワーク実習Ⅱ、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。

[講義概要]
ソーシャルワーク実習Ⅱの履修と並行して履修する。週に1回帰校して、少人数（概ね10人前後）の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画
第1回　実習目標と実習計画の確認
第2回　実習指導、スーパービジョン
第3回　実習分野と地域社会の理解
第4回　実習先の施設・機関の理解
第5回　実習先の利用者の理解
第6回　実習先で関わる他の職種の専門性に関する基本的理解
第7回　実習先で必要とされるソーシャルワークの知識及び技術
第8回　ソーシャルワークの価値、倫理、個人のプライバシーの保護と守秘義務の理解
第9回　実習記録への記録内容及び記録方法
第10回　利用者の支援計画とその実施、評価
第11回　巡回指導
第12回　実習分野における相談援助と自己覚知
第13回　実習の振り返りと自己評価
第14回　実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習報告書（総括レポート）の作成
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
参加型授業であるため、実習の振り返りの言語化、他の学生へのフィードバック等の発言、毎回のリアクションペーパーの記述内容を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におおよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行っている他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題や疑問点については適宜コメントをフィードバックする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、適宜授業の中で指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜指示する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

ソーシャルワーク実習指導Ⅴ

科目ナンバー	ISW2311-S
1単位：後期1コマ	3〜4年
髙山　由美子、岸　千代、鈴木　喜子、 下ノ本　直美、関根　裕恵、篠塚　利別香	

［到達目標］
ソーシャルワーカーとしての高度な知識と技術を理解する。
自身の課題について深く理解し、適切に対処することができる。
ソーシャルワークの理論と実践を統合させて理解できる。

［履修の条件］
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅳを全て「良」以上の成績で履修済みであること。

［講義概要］
少人数（概ね10人前後）の演習形式で討議を行う。また、実習指導教員からグループ指導及び個人指導を受ける。理論と実践の統合を行う。

■授業計画

第1回　実習の達成度の確認
第2回　利用者の支援計画の作成と評価
第3回　実習内容の振り返り
第4回　実習記録を踏まえた課題の整理
第5回　実習報告書（総括レポート）の作成
第6回　実習生、実習担当教員、実習指導者の三者による実習後の評価
第7回　実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習報告書（総括レポート）の作成
第8回　全体の総括とプレゼンテーション
第9回　-
第10回　-
第11回　-
第12回　-
第13回　-
第14回　-
第15回　-

［成績評価］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［成績評価（備考）］
実習を振り返っての言語化、提出された実習報告書の内容等を含めて総合的に評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では、各授業回におよそ50分の準備学習（予習・復習等）が必要となる。
授業ごとに、同じ分野で実習を行った他の学生と討議を行い、さまざまなテーマで話し合いが行われる。出された課題の復習を行うこと。
実習や実習指導を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックは、次回以降の授業時に必要に応じて行う。課題については適宜コメントをフィードバックする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［テキスト］
『実習の手引き』ルーテル学院大学。
その他、授業の中で適宜指示する。

［参考文献］
授業の中で適宜紹介する。

［備考］
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習の振り返りと総括を行う。

ソーシャルワーク実習Ⅰ

科目ナンバー	ISW2219-T
3単位：前期1コマ	2〜3年
髙山　由美子、福島　喜代子、原島　博、山口　麻衣	

［到達目標］
住民やボランティア、施設・機関、支援を必要とする人やその家族等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成を行えるようになる。
地域や支援を必要とする人の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。
総合的かつ包括的な支援における多職種・多機関、地域住民等との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。
実習を通して気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになり、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく実践を行えるようになる。

［履修の条件］
ソーシャルワーク演習Ⅰと同Ⅱが良以上で単位できていること。社会福祉原論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門については単位取得できていること。同時にソーシャルワーク実習指導Ⅰを履修すること。ただし、社会福祉士受験資格を目指す場合は、社会福祉原

論Ⅰと同Ⅱ、社会福祉入門は要件が異なるため、ソーシャルワーク演習Ⅲを履修する際には注意すること。

[講義概要]
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において1か所目の実習（30時間以上、概ね4日～8日間）を行う。実習中は、毎回実習記録を作成、提出し、実習指導を受ける。

■授業計画

第1回　実習のオリエンテーション
第2回　地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションをとる
第3回　地域住民やボランティア等と円滑な人間関係を形成する
第4回　実習先施設・機関が地域社会の中で果たす役割の理解
第5回　実習先施設・機関による具体的な地域社会への働きかけの理解
第6回　ソーシャルワーク実践におけるネットワーキングの実践的理解
第7回　地域における分野横断的・業種横断的な関係形成の理解
第8回　地域における社会資源の活用・調整・開発に関する理解
第9回　ソーシャルワーク実践におけるアウトリーチの実践的理解
第10回　ソーシャルワーク実践におけるファシリテーションの実践的理解
第11回　ソーシャルワーク実践におけるネゴシエーション、ソーシャルアックションの実践的理解
第12回　利用者等の権利擁護、エンパワメントの実践的理解
第13回　社会福祉士としての職業倫理と責任の理解
第14回　実習報告書の作成とプレゼンテーション
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
実習目標の達成度等を総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行うこと。これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、次回の実習指導の授業及び実習日には提出をして、実習指導を受けること。実習後は実習報告書を書くこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習を行う。

ソーシャルワーク実習Ⅱ

科目ナンバー	ISW2312-T
4単位：前期1コマ	3～4年
髙山　由美子、岸　千代、鈴木　喜子、下ノ本　直美、関根　裕恵、篠塚　利別香	

[到達目標]
実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができるようになり、ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく実践を行えるようになる。支援を必要とする人やその家族の状況を理解し、その生活上の課題（ニーズ）について把握する。生活上の課題（ニーズ）に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及びその評価を行う。施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解する。

[履修の条件]
社会福祉士の受験資格取得のための指定科目である。社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、社会福祉原論Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、ソーシャルワーク演習Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅲ、ソーシャルワーク実習Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅰ、ソーシャルワーク実習指導Ⅱ、全てを「良」以上の成績で履修済みであること。ソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク実習指導Ⅳ及びソーシャルワーク演習Ⅳを並行履修すること。そして、ソーシャルワーク実習指導Ⅴを後期に履修登録すること。

[講義概要]
社会福祉士資格取得のために指定された施設・機関において現場実習を行い、理論と実践の統合を図る。履修者は、28日、210時間以上の実習を行う。ソーシャルワーク実習Ⅰと合わせ、機能の異なる2カ所以上の実習施設で実習を行う。実習中は、毎回実習記録を作成、提出し、現場の実習指導者から実習指導を受ける。

■授業計画

第1回　実習のオリエンテーション
第2回　利用者やその関係者との基本的なコミュニケーションと、円滑な人間関係の形成

第3回　実習先施設・機関のスタッフ等との基本的なコミュニケーションを行い、円滑な人間関係を形成し、必要な指導を受ける
第4回　施設・機関の機能・サービス及び地域で果たす役割の理解
第5回　施設・機関の経営やサービスの管理運営（チームマネジメントや人材管理）の理解
第6回　多職種の連携・協働、チームアプローチ、ネットワーキングの実際を学ぶ
第7回　社会福祉士としての職業倫理の理解
第8回　ソーシャルワーカーの役割と責任の理解
第9回　利用者やその関係者との援助関係の形成
第10回　利用者を理解し、ニーズの把握し、支援計画を作成し、その実施及び評価
第11回　権利擁護、エンパワメント、ネゴシエーション、ソーシャルアクションの理解
第12回　地域社会へのアウトリーチ、分野横断的・業種横断的な関係形成の理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習報告書の作成とプレゼンテーション
第15回　－

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
実習目標の達成度等を総合的に評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。実習後は実習報告書を書くこと。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

［ テキスト ］
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

［ 参考文献 ］
授業の中で適宜紹介する。

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目

ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習を行う。

ソーシャルワーク現場体験実習

科目ナンバー	ISW 2313-T
4単位：通年1コマ	3〜4年
髙山　由美子	

［ 到達目標 ］
ソーシャルワーカーに必要な知識と技術を理解できる。
実習を通じて気づいた自身の課題について理解し、対処することができる。
実習を通じて得られた社会福祉現場の実情について理論と実践を統合させて理解できる。

［ 履修の条件 ］
社会福祉士受験資格取得の指定科目に該当しない実習をする者。
履修のためには、原則として、社会福祉入門、社会福祉の基礎、社会福祉原論Ⅰ、Ⅱ、ソーシャルワーク演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの履修をしていること。ソーシャルワーク実習指導Ⅴに履修登録し、実習報告書を作成すること。

［ 講義概要 ］
原則として、福祉系の施設や機関において28日、210時間以上の実習を行う。実習中は、現場の実習指導者から実習指導を受ける。大学において、事前学習、実習中・実習後の指導を受ける。

■授業計画
第1回　実習のオリエンテーション
第2回　利用者との援助関係の形成
第3回　実習先施設・機関のスタッフ、地域住民やボランティア等と適切な人間関係を形成する
第4回　利用者を理解し、支援計画を作成する
第5回　利用者やその関係者との援助関係を形成する
第6回　利用者の権利擁護、エンパワメントを理解する
第7回　多職種の連携、チームアプローチの実際を学ぶ
第8回　ソーシャルワーカーとしての職業倫理を学ぶ
第9回　組織の一員としての役割と責任を学ぶ
第10回　施設機関の経営やサービスの管理運営の実際を学ぶ
第11回　地域における施設・機関の位置づけの理解
第12回　アウトリーチ、ネットワーキングの理解
第13回　社会資源の活用、調整、開発に関する理解
第14回　実習報告書の作成と自己評価
第15回　－

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（60%）

［ 成績評価（備考） ］
実習目標の達成度などを総合的に評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
実習を通して生じた疑問や、調べ不足な点について、文献調査等を行い、これまでの授業の復習を行うこと。実習中は毎日実習記録を書いて実習の振り返りを行い、翌日には提出をして、実習指導を受けること。

[試験・レポート等のフィードバック]
実習記録及び実習内容について実習先指導者及び実習指導教員が実習スーパービジョンとして適宜フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」3「総合的・実践的な学習能力」4「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することによって、人間のいのちと価値を尊ぶ社会福祉専門職に必要な価値、知識、技術、問題発見や解決策を提起する力、他者理解と共感、自己理解と思いを言語化する力を身に付ける。

[テキスト]
『実習の手引き』ルーテル学院大学。授業の中で適宜指示する。

[参考文献]
授業の中で適宜紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、相談援助に関する実習指導を行う。

社会福祉特講

科目ナンバー	ISW2405-S
2単位：後期1コマ	4年
山口　麻衣、福島　喜代子、岸　千代、鈴木　喜子、西原　雄次郎、浅野　貴博	

[到達目標]
社会福祉士国家試験受験科目のうち、主に専門科目についての必要な知識を獲得する。

[履修の条件]
社会福祉士国家試験の受験を予定していること。

[講義概要]
社会福祉士国家試験の受験に必要な知識を獲得することを目的として、社会福祉士の国家試験科目の中から、主に専門科目を取り上げる。なお、取り上げる科目の順序は変更する場合がある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション/社会福祉士国家試験受験の心構え
第2回　小テスト(模擬試験)①
第3回　ソーシャルワークの基盤と専門職①
第4回　ソーシャルワークの基盤と専門職②
第5回　ソーシャルワークの理論と方法①
第6回　ソーシャルワークの理論と方法②
第7回　高齢者福祉
第8回　児童・家庭福祉
第9回　福祉サービスの組織と経営
第10回　社会福祉調査の基礎
第11回　小テスト(模擬試験)②
第12回　小テスト(模擬試験)③
第13回　小テスト(模擬試験)④
第14回　小テスト(模擬試験)⑤
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(50%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(50%)

[成績評価(備考)]
評価は授業内に実施する小テストと授業時の応答によって行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習)が必要となる。社会福祉士国家試験に合格するためには講義以外での自主的な学びが不可欠であるので、自身の受験勉強計画をしっかりと立て、継続的な学びをすることを前提に出席すること。次回取り上げる科目については、必ず予習をしておくこと。研究を自ら行うこと。そして、本講義で再確認したこと、理解できなかったこと、あらたに発見したこと等についても自ら研究し、その上で必要に応じて教員と質疑応答を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業時の質問等については適宜対応し、フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識と技術、課題解決力を身につける。

[テキスト]
テキストは使用しない。

[参考文献]
参考文献は授業で紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉士国家試験の受験に必要な科目に関する講義を行う。

臨床心理フレッシュマンゼミ

科目ナンバー	ICP3101-S
2単位：後期1コマ	1年
笹尾　千津子	

[到達目標]

1）自らの関心や疑問から心理学研究としてのテーマを設定する方法を身につける。
2）設定したテーマにしたがって文献を調査し、その内容をレポートとしてまとめるまでの過程を体験的に理解する。
3）自分のテーマや考えを適切に文章として表現することができる力を養う。
以上を通して、文献研究を進める力を身につける。

[履修の条件]

臨床心理コース必須科目である（2023年度以前に入学の学生）。
臨床心理分野を軸に学びを深める学生は、必ず履修すること（「人間学フレッシュマンゼミ」「臨床心理フレッシュマンゼミ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」のいずれかを選択必修）。

[講義概要]

大学では、知識を与えられる学習ではなく、自ら調べる学習が大切になる。この授業では、自らの心理学的関心や疑問を研究可能なテーマとして設定し、文献研究を経てレポートを作成するまでの過程を体験的に学ぶ。図書館でコンピュータを用いた文献検索を行うが、スマートフォンでも文献検索が可能である。
レポートはコンピュータを用いて作成することを推奨する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　研究の必要性（研究はどのような役に立つのか）
　　文献研究とは何か。
第2回　自分の疑問を研究につなげよう。
　　研究論文の構成を理解する。
第3回　インターネットで研究論文を見つける方法（1）
　　CiNii（サイニー）を使って研究論文を検索する方法を学ぶ。
第4回　インターネットで研究論文を見つける方法（2）
　　検索した論文の書誌情報を記録する（論文の著者・出版年・題名・掲載箇所）。
第5回　研究論文の読み方と研究論文の内容をレポートに書く方法
第6回　選んだ研究論文のまとめ作業とレポートの書き方（複数の教員による少人数のグループ指導　＊受講者人数により変更する可能性がある）
第7回　図書館で本を検索する方法
　　a）書籍のいろいろ。
　　b）OPACを使って図書館で本を検索する方法。
第8回　★　第1回レポート提出　★
　　文章表現のテクニック①：先行研究の引用
第9回　文章表現のテクニック②：論文の構成・問い
第10回　文章表現のテクニック③：裏づける・まとめる
第11回　選んだ研究論文のまとめ作業と第2回レポートの書き方（複数の教員による少人数のグループ指導　＊受講者人数により変更する可能性がある）
第12回　文章表現のテクニック④：論文の表現方法
第13回　★　第2回レポート提出　★
　　文章表現のテクニック⑤：論文の表現方法
第14回　第2回レポートへのコメントとまとめ。
第15回　最終レポート

[成績評価]

試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]

1つの研究論文をまとめた第1回レポート，複数の研究論文をまとめた第2回レポートの提出を求める。
さらに、第2回レポートに対するコメントをふまえて加筆修正し、最終レポートとして提出を求める。
課題提出としては、文献検索の結果まとめなどを課す。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

毎回の授業の内容をふまえて、各自、文献研究を進めること。毎回の課題を終えて教室に持参していることを前提に授業を進める。レポートに使用する文献はプリントして毎回の授業に持参すること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

第1回レポートと第2回レポートは必要に応じて、コメントを記して返却する。
第1回レポートは再提出を求める場合がある。

[ディプロマポリシーとの関連性]

3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。この科目では、支援が必要な課題や支援方法について自分自身で問を設定し、文献を調べ、調べた結果を他者に伝える力を養うことを目指す。

[テキスト]

特に定めない。
下記の参考文献の中から自分に合うと思うものを身近なところに置き、授業の進行に合わせて関連する箇所を読むこと。その他、レポートや論文の書き方に関する書籍を探してみても良い。

[参考文献]

田中共子編（2009）『よくわかる学びの技法』ミネルヴァ書房
石黒　圭（2012）『この1冊できちんと書ける！論文・レポートの基本』日本実業出版社
河野哲也（2002）『レポート・論文の書き方入門　第3版』慶応義塾大学出版会
梅棹忠夫（1969）『知的生産の技術』岩波新書
浜田麻理他（1997）『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

[備考]

授業の進度や状況の変化などに応じて，授業内容を変更することがある。
第6回と第11回は別の曜日・時限に各教員が担当する教室に

分かれて実施する場合がある。ただし、受講者人数により変更の可能性がある。
詳細については、授業内で説明を行う。

心理学的支援法

科目ナンバー	ICP 2101-L
2単位：前期1コマ	1年
青木　絢子	

[到達目標]
①臨床心理学と心理学的支援に関する基本的知識と考え方を身につける
②人間関係や社会における臨床心理学的視点の重要性について考えを深める
③受身的に講義を聞くだけにとどまらない、主体的な学びのスタイルを身につける
④臨床心理学に対する関心を広げ、自身の今後の学習や研究の方向性を考える基盤として本講義で身につけた知識を活用する

[履修の条件]
①公認心理師資格取得に必要な科目である。公認心理師資格を目指す学生は必ず受講すること
②ディスカッションやグループ課題などコミュニケーションと体験を重視した科目であるため、受講生の積極的な参加を求める

[講義概要]
臨床心理学の基本的内容を概観するとともに、公認心理師・臨床心理士の職務とその支援について理解を深める。臨床心理学の知見や視点は公認心理師・臨床心理士として活用する以外にも非常に有用である。よって、心の健康に関する知識を身につけ、それぞれが卒業後を含めた人生の中で臨床心理学の考え方をどのように役立てていけるかについても考えていきたい。
基本的に講義形式の授業になるが、毎回の授業の中でグループディスカッションや質疑応答、毎回のリアクションペーパーへの記入とフィードバックを実施することによって、学生の理解を丁寧に進めていく。また、一部の題材についてはグループ課題とし、グループごとに研究テーマの設定、文献調査および発表を経験することによって主体的な学びのスタイルを習得する。
本講では以下の内容を扱う。
1.代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
2.訪問による支援や地域支援の意義
3.良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法
4.プライバシーへの配慮
5.心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援
6.心の健康教育

■授業計画
第1回　本講の目的、内容、評価に関するオリエンテーション
　　コミュニケーション実習①
第2回　臨床心理学とは何か
　　その定義と歴史
第3回　臨床心理士と公認心理師
　　①求められる役割と活動の実際
第4回　臨床心理士と公認心理師
　　②資格の倫理的問題とプライバシーへの配慮
第5回　心理学的支援に必要なコミュニケーション
　　コミュニケーション実習②
第6回　心理学的支援の方法
　　心理査定①‥心理査定とはなにか、心理査定面接の理解
第7回　心理学的支援の方法
　　心理査定②‥心理検査の基本とその考え方
第8回　心理学的支援の方法
　　臨床心理面接①‥その基本と考え方
第9回　心理学的支援の方法
　　臨床心理面接②‥代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
第10回　心理学的支援の方法
　　臨床心理面接③‥代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界
第11回　心理学的支援の方法
　　臨床心理学的地域援助‥訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、心の健康教育
第12回　心理学的支援の対象（グループ課題）
　　心の問題に関するグループ課題
第13回　心理学的支援の対象（グループ課題）
　　心の問題に関するグループ課題
第14回　心理学的支援の対象（グループ課題）
　　心の問題に関するグループ課題
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0％）、レポート（60％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（20％）

[成績評価（備考）]
レポートは最終課題のレポート提出を指す。
課題提出は毎回のリアクションペーパー、および授業中に実施するワーク、グループ課題の発表資料の提出を指す。
その他の評価とは、授業およびディスカッション、グループ課題への参加に関する評価を指す。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
予習では、各単元で学ぶ理論や概念について文献や辞典などを用いた学習、および臨床心理士・公認心理師資格について各自あらかじめ調べておくことを勧める。
復習として、その日の単元で扱った内容の復習と課題に対する考察、授業時間外でのグループ課題への取り組みを求める。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。
課題レポートについては、次の授業の際、あるいは授業時にコメントを行う。
グループ発表については、授業内に適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本学ディプロマポリシーにおける「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。本科目を習得することにより、臨床心理学的支援の基本的な理論と方法に関する理解を深める。またグループによる文献調査と発表を通して、現在の心の問題に関する課題の発見と分析、解決への提言といった学習能力を身につけることができる。さらに、授業内でのコミュニケーション実習、ディスカッション、グループワークを通して、他者理解と自己表現のコミュニケーションを体験的に習得する。

[テキスト]
特に定めない。必要に応じて授業内でテキストを配布する。

[参考文献]
下山晴彦他(監修)2023 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 15 心理学的支援法ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08625-2 \2400 E
杉原保史他(編著)2024 公認心理師標準テキスト心理学的支援法北大路書房 ISBN 978-4-7628-3056-3 \2700

[備考]
「実務経験のある教員による科目」臨床心理士/公認心理師としての経験を活かして心理職の実際について講義・指導を行う。受講生と教員との対話を重視するため、毎回授業終了後にリアクションペーパーの提出を求める。

心理学統計法

科目ナンバー	ICP 2102-L
2単位：後期1コマ	1年
谷井　淳一	

[科目補足情報]
この科目の単位が必要な人は、必ず、履修したいかなどについて、最初の時間に相談したいので、最初の時間には必ず出席してください。

[到達目標]
①心理学の論文を読んだり書いたりする際に必要な心理統計の初歩的知識を理解する。
②統計的検定の考え方を理解して、統計的に有意かどうかを判断できる。
③統計的検定についての基本的な例題に関して、適切な計算によって、有意な違いがあるかどうかを判断する力を養う。

[履修の条件]
臨床心理コースのコース必修科目であり、1年生の後期に必ず履修するように。心理学的研究手法を用いて卒論を書きたいと思っている場合は必ず履修してほしい。2年生の心理学研究法Ⅰや心理学実験はこの科目の履修を前提にしている。また、授業には簡単な電卓を持ってきてほしい。公認心理師の指定科目でもある。

[講義概要]
心理学は実証科学として発展してきた。つまり、何らかの方法を用いてデータを得、人間の行動や心をめぐるいろいろな現象やメカニズムを明らかにしてきた。データを得る方法には質問紙法、観察法、実験法、面接法等がある。
そして、これらの方法で得られたデータを適切に分析するためには、心理学統計法の理解が必要となる。初年度の科目として、記述統計並びに推測統計の初歩的な内容をゆっくり丁寧に講義していく。
なお、本科目では各授業回におよそ 200 分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

■授業計画
第1回　半年間の授業計画を相談する
　　名義尺度・順序尺度・間隔尺度・比率尺度
第2回　統計手法の選び方・
第3回　シグマの計算方法
第4回　正規分布と標準得点
第5回　帰無仮説
第6回　標本分布・標準誤差
第7回　z 検定
第8回　t 検定
第9回　小テスト・対応のある t 検定
第10回　相関
第11回　相関の意味の考察
第12回　ノンパラメトリック検定・カイ二乗検定
第13回　信頼性と妥当性(第 1.5 回動画)
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業中の参加度を評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
復習を中心にして、授業で解説した例題は、4時間程度の学習をし、繰り返し練習して完全にマスターしてほしい。本科目では各授業回におよそ 200 分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。動画視聴も含む。

[試験・レポート等のフィードバック]
小テストは返却時にフィードバックを行う

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目の理解を前提にして、2年生以降、データ解析や心理実験での統計処理が可能になる。

[テキスト]
「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著　北大路書房。
ISBN 978-4-7628-2295-7

[参考文献]
授業で指示をする。

[備考]
レポートを4回提出してもらう。

臨床心理学概論

科目ナンバー	ICP 2103-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
植松　晃子	

[到達目標]
現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解する。精神分析、行動療法、来談者中心療法、システム理論を成り立ちから学びます。

[履修の条件]
心理臨床の基礎となる理論を学ぶ意欲を持った学生であること。地域の方にも開かれた公開講座です。本学の学生で聴講を希望する場合は事前に相談してください。

[講義概要]
臨床心理学が提案する様々な理論やアプローチは、「人の心」を理解するためのものです。この講義では、臨床心理学の理論に焦点を当て、それぞれの理論の背景や核となる考え方を学びます。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することがあります。

■授業計画
第1回　授業についての説明：心理臨床とはどのような支援なのか
第2回　精神分析(1)導入：背景の理解
第3回　精神分析(2)局所論・構造論
第4回　精神分析(3)心理力動論
第5回　精神分析(4)発達論
第6回　精神分析(5)後の展開
第7回　行動療法(1)導入：背景の理解
第8回　行動療法(2)様々な技法1
第9回　行動療法(3)様々な技法2
第10回　来談者中心療法(1)導入：背景の理解
第11回　来談者中心療法(2)理論の展開
第12回　来談者中心療法(3)人格論
第13回　システムズ理論(1)導入：背景の理解
第14回　システムズ理論(2)心理社会的アプローチ
第15回　定期試験

[成績評価]
試験(80%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
毎回授業後に質問の時間を設けます。分からないことはクラスの為にも積極的に質問してください。その他の評価方法とは、質問を含め授業への積極的参加となります。

※遠隔授業になった場合は、毎回の授業後の小レポートと、期末レポートの提出が定期試験の代わりの課題となります。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
積極的な予習・復習を勧めます。授業で扱う内容を1回ですべて理解しようとせず、各自復習することを勧めます。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業内容についての質問や授業で掴んだことのフィードバックの時間を毎回設ける。
定期試験では、配布資料や自分で作成したノートのみ、持ち込みを可としています(教科書や辞書は不可)。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。現在の様々な心理療法の基盤となる理論を理解し、臨床心理学を学びを深める。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
授業時に適宜紹介する

[備考]
実務経験のある教員による科目。臨床心理士として実践経験のある教員が、人の心の理解のために臨床心理学の各理論がどのような視点を提供しているのかを講義する。

カウンセリング実技の基本

科目ナンバー	ICP 2201-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
植松　晃子	

[到達目標]
カウンセリングによって人をサポートするとはどういうことなのか、実践において重要なことは何か、知識を整理し、頭と身体を動かしながら、体験的にカウンセリング実技に必要な基礎を学びます。

[履修の条件]
2年生以上が履修可能です。授業内で小グループを作り、役を演じることで学ぶロールプレイなどのワークショップを取り入れています。初回に授業の概要や体験授業のルールなどを説明します。体験型の授業ですので、授業のルールを守りながら、人と関り、ロールプレイやグループディスカッションの体験から学ぶことができる人、基本的に全ての授業に出席し、積極的な参加ができる人を求めます。
※体験型授業は安全に進めるためのルールがありますので、教員から提示された場合は順守してください。

[講義概要]
カウンセリングについて、具体的な体験も含め、専門家がどのように人と関わっていくのかを理解します。グループディスカッションやワークショップ体験があります。前半は討論を交えた知識の整理、後半はロールプレイを用いた体験学習を中心に授業を構成しています。基本的に授業計画に沿って進みますが、適宜変更することもあります。基本的にシラバス通りに進みますが、適宜変更することがあります。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の説明・ルールの説明
第2回　カウンセリングとはどのような援助なのか(1)心の構造と機能
第3回　カウンセリングとはどのような援助なのか(2)欲動
第4回　カウンセリングとはどのような援助なのか(3)神経症のメカニズム
第5回　カウンセリングを成り立たせるもの(1)治療的環境
第6回　カウンセリングを成り立たせるもの(2)臨床的態度1
第7回　カウンセリングを成り立たせるもの(3)臨床的態度2
第8回　カウンセリングを成り立たせるもの(4)臨床的態度3
第9回　カウンセリングの技術(1)心理療法の環境をつくる1
第10回　カウンセリングの技術(2)心理療法の環境をつくる2
第11回　カウンセリングの技術(3)主訴を聴くとは1
第12回　カウンセリングの技術(4)主訴を聴くとは2
第13回　カウンセリングの技術(5)主訴を聴くとは3
第14回　カウンセリングの技術：まとめのロールプレイ
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(80%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業体験をまとめるワークシートとレポートによって評価する。体験学習を重視した授業であり、欠席は減点になるので注意してください。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
カウンセリングについての理解を深めるために、各自ノートやワークシート、また参考文献による予習と復習を薦めます。ワークシートには授業で掴んだこと、また次の授業で取り組みたいことを記入します。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回の授業で、各自が作成したワークシートをもとに、質問やフィードバックをする時間を設ける。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性に該当する。カウンセリングに関する知識や臨床的態度とは何かを学ぶことにより、カウンセリングの基礎を学ぶ。

[参考文献]
適宜、授業内で紹介する。

発達心理学

科目ナンバー	ICP 2202-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
青木　絢子	

[到達目標]
(1)発達心理学の基本概念を理解する
(2)日常生活や臨床現場における現象を発達心理学の視点から理解する基礎を身につける

[履修の条件]
与えられることを待つのでなく、自らの好奇心と探究心を持って心の発達について理解しようとする熱意のある学生の履修を期待する。「心理学」「心理学概論」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
生涯発達の観点から発達心理学の基本概念や理論について学ぶ。
社会構造が大きく変化し、人間の発達に関わる現象も変化を呈してきている現代において、臨床現場や生活場面における発達に関わる現象をどのように理解することができるのか、ディスカッションをしながら学びを深める。

本講義は、以下の内容を含む。
①認知機能の発達及び感情・社会性の発達
②自己と他者の関係の在り方と心理的発達
③誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達
④発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方
⑤高齢者の心理

■授業計画
第1回　オリエンテーション：発達心理学とは何か
第2回　乳児期①
第3回　乳児期②
第4回　幼児期①
第5回　幼児期②
第6回　児童期①
第7回　児童期②
第8回　青年期①
第9回　青年期②
第10回　成人期
第11回　老年期
第12回　発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方①
第13回　発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方②
第14回　支援への発展：発達心理学の現代的問題、発達心理学の知見を活かした支援
第15回　試験

[成績評価]
試験(55%)、レポート(0%)、小テスト(35%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価（備考）]
ディスカッションへの参加を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。
発達心理学に関連する基本的事項の理解ならびに自分が関心を持ったテーマを、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・中間試験の解答・解説は、原則としてテストが実施された翌週に行う。
・期末試験のフィードバックを希望するものは、個別で担当教員にコンタクトを取ること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
主に、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、発達心理学に関する基本的知識および、現代の日本社会における人間の発達を理解する能力の基礎が身に付く。

[テキスト]
特に指定しない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

[参考文献]
藤村宣之 2019 発達心理学〔第2版〕ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08463-0 ¥2500 E
秦野悦子他（編）2020 公認心理師カリキュラム準拠 発達心理学 医歯薬出版 ISBN 978-4-263-26621-2 \3000 E
下山晴彦他（監修）2023 公認心理師スタンダードテキストシリーズ 12 発達心理学 ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08622-1 \2400 E
その他、適宜クラス内で紹介する。

[備考]
「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、発達心理学に関わる具体的内容に関する教育を行う。

障害者・障害児心理学

科目ナンバー	ICP 2203-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
緒方　亜文	

[到達目標]
(1) 身体障害、知的障害、発達障害、精神障害について概説できる。
(2) 障害者（児）の心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。
(3) 障害と自己を関係づけて論じることができる。

[履修の条件]
テキストについては初回授業で説明をします。オリエンテーションまでに準備をする必要はありません。

[講義概要]
障害者と関わる施設における実習や将来障害者と関わる仕事に就く際に必要となる、障害（児・者）に関する知識と理解を深めることを目指します。障害理解に終わりや正解はなく、立場や歴史文化の違いによって著しくその捉え方も異なります。そこで、今後のキャリア発達の中で障害とは何かについて学び続けるための、基礎的な知識や態度を身につけることが求められます。毎回30〜40分程度のグループディスカッションの時間やビデオの視聴等の時間を設けます。文献を読んで考える課題を2回程度出題します。

■授業計画

第1回　【オリエンテーション】
本科目の進め方や評価の仕方，障害者・障害児心理学を学ぶことの目的や意義について説明します。
キーワード：国際生活機能分類（ICF），障害者権利条約，合理的配慮

第2回　【障害児・者をめぐる教育の歴史（1）】
明治から現在までの日本の障害児教育の歴史について議論を行います。
キーワード：就学の猶予と免除，養護学校義務化

第3回　【障害児・者をめぐる教育の歴史（2）】
明治から現在までの日本の障害児教育の歴史について議論を行います。
キーワード：特別支援教育，インクルーシブ教育

第4回　【障害児・者の支援のための基礎理論】
障害児・者心理学の基盤となる理論について議論を行います。
キーワード：行動主義，認知心理学，認知行動療法，ナラティヴ・アプローチ，コミュニティ心理学，社会構築主義

第5回　【視覚障害の理解と支援】
視覚障害の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：視覚機構と視機能，弱視と盲，墨字と点字，情報アクセシビリティ

第6回　【聴覚障害の理解と支援】
聴覚障害の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：聴覚機構と聴機能，難聴と聾，口話と手話

第7回　【肢体不自由の理解と支援・病弱児の理解と支援】
前半で，肢体不自由の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。後半で，病弱の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：脳性まひ，進行性筋ジストロフィー，医療的ケア，院内学級

第8回　【知的障害の理解と支援】
知的障害の定義，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：知能，学習，ダウン症，認知発達，言語発

達
第9回　【重複障害の理解と支援】
重複障害の定義と種類，ニーズに応じた支援について議論を行います。
キーワード：重複障害，重症心身障害，盲ろう
第10回　【発達障害の理解と支援①】
発達障害の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。特に限局性学習症を扱います。
キーワード：限局性学習症，ディスレクシア，ユニバーサルデザイン
第11回　【発達障害の理解と支援②】
発達障害の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。特に注意欠如・多動症を扱います。
キーワード：注意，多動性・衝動性，ワーキングメモリ
第12回　【発達障害の理解と支援③】
発達障害の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。特に自閉スペクトラム症を扱います。
キーワード：自閉スペクトラム症，心の理論，社会的スキル訓練
第13回　【精神障害の理解と支援】
精神障害の定義と種類，ニーズに応じた支援の在り方について議論を行います。
キーワード：統合失調症，うつ病，双極性障害，当事者研究
第14回　【障害当事者と家族/まとめと振り返り】
前半で，障害者と家族への支援の在り方についての議論を行います。後半で，講義全体のまとめと振り返りを行います。
キーワード：障害観，親，きょうだい
第15回　【レポート】

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（0%）

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
最終試験のフィードバックは行いません。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することによって、将来的に障害児・者に対する理解や支援を進んで行うことができるための基礎となる知識や態度を習得することができる。

［テキスト］
・授業で配布する課題プリント
・本郷一夫・大伴潔編著　公認心理師スタンダードテキストシリーズ『障害者・障害児心理学』ミネルヴァ書房、ISBN：9784623086238

［参考文献］
各回の授業のテーマに沿って、授業内で紹介します。

関係行政論

科目ナンバー	ICP 2204-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

［科目補足情報］
なし

［到達目標］
(1) 公認心理師の活躍が期待される5分野（保健医療・教育・福祉・産業労働・司法犯罪等の5分野）に関しての、法制度を理解する。
(2) 5分野の法制度の理解を前提に、関係他職種や地域の中で、心の問題に関する連携の中心的役割を担える存在になるための基礎を会得する。

［履修の条件］
公認心理師の指定科目の1つであり、公認心理師を目指している人は必ず履修してください。

［講義概要］
今後、公認心理師の活躍が期待される関係5分野（保健医療・教育・福祉・産業労働・司法犯罪等の5分野）に関しての、法制度を理解する科目である。YouTube に20分から30分程度の動画を準備しているので、授業ごとにそれを視聴してもらう。そののち、動画にはしにくかったことについて授業を行う。
5分野の法制度について簡単なレポートを5回分提出してもらう予定である。

■授業計画
第1回　授業の進め方と課題の提出の仕方
公認心理師法と日本における関連法規
第2回　司法・犯罪分野に関係する法制度（1）
第3回　司法・犯罪分野に関する法制度（2）
第4回　保健医療分野に関係する法制度（1）司法分野レポート提出
第5回　保健医療分野に関係する法制度（2）
第6回　保健医療分野に関係する法制度（3）
第7回　教育分野に関係する法制度（1）保健医療分野レポート提出
第8回　教育分野に関係する法制度（2）
第9回　産業・労働分野に関係する法制度（1）教育分野レポート提出
第10回　産業・労働分野に関係する法制度（2）
第11回　産業・労働分野に関係する法制度（3）
第12回　福祉分野に関係する法制度（1）産業分野レポート提出
第13回　福祉分野に関係する法制度（2）
第14回　福祉分野に関係する法制度（3）
第15回　まとめ　福祉分野レポート提出

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
成績評価の「その他」20%は、授業への参加度を評価する。5分野あるが、1分野について1回ずつレポートを提出してもらう(福祉と産業は選択して1つレポートとするので、実際のレポート数は4つである。)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各分野の法制度についてはこの授業でしか扱わない分野もある。各授業ごとに200分間の予習復習の時間が必要である。動画の視聴もこの中に含まれる。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートやその他の質問等への対応は授業時を中心に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義を通じて、本学のディプロマポリシーに示されている、「2. 全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」の一端を身に着けることになる。

[テキスト]
基本的にはプリントと動画を用意する。以下の参考文献の書籍を参考にしてほしい

[参考文献]
公認心理師の基礎と実践23関係行政論　元永拓郎編(遠見書房)
ISBN 978−4−86616-073-3

[備考]
谷井は保護観察所保護観察官や公立高校教員の経験があり、その経験を生かした講義を行っている。

心理学研究法Ⅰ(データ解析)

科目ナンバー	ICP 2205-S
2単位：前期1コマ	2年
有宗　和紀	

[科目補足情報]
公認心理師の資格試験の受験資格を得るためには,心理学研究法Ⅰ(データ解析)と心理学研究法Ⅱ(観察法・面接法・実験法)の両方を履修する必要がある。

[到達目標]
①表計算ソフトウェアを用いて,適切な要約統計量の選択や図表の作成を行い,得られたデータの性質を把握し,説明することができる。
②統計解析ソフトウェアを用いて,代表的な有意性検定を行い,その結果を報告し,定量的に評価することができる。
③心理学的な測定によって得られた変数を用いてデータ解析の演習を行うことにより,データに基づいた実証的な思考法並びに心理学における実証的な研究法の基礎を習得する。
④心理学的な変数を測定し,取り扱うことに伴う侵襲性や諸リスクについて学び,心理学研究に要する倫理観を涵養する。

[履修の条件]
心理学統計法を履修済みであることが望ましい。2年次後期に開講される心理学実験で必要となるデータ処理技法を実習するものであるため,2年次前期で履修すること。

[講義概要]
オープンアクセスのデータセットや担当教員が提供するデータセットに対して,各自の興味・関心に基づいて自由に分析を行い,その結果と考察を報告するという演習課題(最終レポート1報)を課す。演習課題の様式と評価基準は初回授業にて示す。その演習課題に取り組む上で必要となる種々の心理学統計のテクニックを各回の授業にて学ぶ。また途中経過を適宜チェックし,相談とフィードバックを行う。演習課題の取り組みを通じて実践的なデータ分析の技術を習得する。
受講生の理解に応じて,シラバスの内容や順番を変更する可能性がある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/心理学統計・心理測定学・心理学研究法の関係性
第2回　記述統計①：データの中心性を表す代表値の記述とその視覚化
第3回　記述統計②：データの散らばりを表す代表値の記述とその視覚化
第4回　記述統計③：2変数の共変関係の記述とその視覚化
第5回　記述統計④：様々なグラフのプロット法による変数の特徴の分析
第6回　有意性検定①：有意性検定の仕組みと報告の仕方
第7回　有意性検定②：t検定(2群間の平均値の差の検定)
第8回　有意性検定③：1要因分散分析・多重比較法
第9回　有意性検定④：2要因分散分析
第10回　有意性検定⑤：単回帰分析・重回帰分析
第11回　有意性検定⑥：効果量の点推定・区間推定とその報告
第12回　研究倫理①：心理学研究に求められる法と倫理
第13回　研究倫理②：心理学研究の実践における倫理
第14回　授業と演習課題の振り返り

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験は行わない。演習課題(最終レポート)は初回授業にて評価基準と共に提示し,途中経過の持参によって授業期間中はいつでもフィードバックを受けることができる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。ものごとの本質を把握し，問題点の発見，分析，事態の改善，解決策の提言をし，実行できるようになることを目指し，自らデータを分析し，その分析結果について考える作業を行っていく。

[テキスト]
購入を必須とする書籍はない。

[参考文献]
授業の進行や受講生の要望などにより，適宜オープンアクセスの資料を紹介する。ただし他の講義で Word や Excel,SPSS といったソフトウェアの使用方法について十分に習熟できていない者は，各自の到達度に応じた参考書の入手を検討すること。他の講義で購入した参考書などがあれば，持参すると良い。
SPSS で分析を行いたい者は，使用する SPSS のバージョンと参考書で解説されているバージョンが一致しているか確認すること。バージョンは異なっていても操作方法や考え方は概ね同じだが，デザインやレイアウト，あるいは分析オプションの細部が異なる場合がある。

[備考]
・演習科目ですので，みなさんの主体的な授業参加や積極的な質問・コメントを期待します。
・成績評価中の「レポート（80％）」とは演習課題（最終レポート）のことです。指定する最終的な期日までは何度でも提出してかまいませんので，早めに取り組んでフィードバックを受けることをお勧めします。「課題提出（20％）」は授業中の確認あるいはポータルへの提出によって，この最終レポートの途中経過を確認するためのものです。最終レポートについて困ったことがあればいつでも相談してください。
・この授業では SPSS と HAD の両方の使用をサポートします。受講生のみなさんはどちらを使用しても構いません。

心理学実験

科目ナンバー	ICP 2206-S
2単位：後期2コマ	2年
西里　美菜保、有宗　和紀	

[到達目標]
①客観的に計測できる「行動」を指標として，人間の心の働きを科学的に捉える方法を理解する。
②心理学の代表的な実験を実施・体験することにより，実験の計画立案ができるようになる。
③小グループおよびペアで，実験データの実施・収集，統計的検定によるデータ処理，結果の適切な解釈および実験レポートの作成という過程を経験することによって，科学論文を作成する技能を身につける。

[履修の条件]
①「心理学研究法Ⅰ（データ解析）」「心理学統計法」「臨床心理フレッシュマンゼミ」を履修済みであることが望ましい。
②第2に回目から実験回になるため、必ず初回から受講すること。また，全ての授業への出席，積極的な授業参加を求める。やむを得ない事情がある場合は，担当教員に相談すること。

[講義概要]
本授業では，代表的な心理学実験をいくつか取り上げて，小グループ，またはペアで実際に実験を行い，データを集計し，統計ソフトでデータ解析を経て，結果を読み取る力を身に付ける。また、レポート作成するまでの流れを体験的に学ぶ。
なお，本授業は毎週2コマ連続で開講しており，授業計画は2コマで1回分としている。
～取り扱う予定の実験～
実験1：短期記憶
実験2：ストループ課題
実験3：随伴性課題
実験4：錯視
実験5：触2点閾
実験6：パーソナルスペース

■授業計画
第1回　オリエンテーション，レポートの書き方，講義の進め方・参考文献の紹介
第2回　短期記憶：実験の手続き説明，実験，データ集計
第3回　短期記憶：実験結果の分析，解説
第4回　ストループ：実験の手続き説明，実験，データ集計
第5回　ストループ：実験結果の分析，解説
第6回　随伴性判断：実験の手続き説明，実験，データ集計
第7回　随伴性判断：実験結果の分析，解説
第8回　ミュラー・リヤー錯視：実験の手続き説明，実験，データ集計
第9回　ミュラー・リヤー錯視：実験結果の分析，解説
第10回　触2点閾の測定：実験の手続き説明，実験，データ集計
第11回　触2点閾の測定：実験結果の分析，解説
第12回　パーソナルスペース：実験の手続き説明，実験，データ集計
第13回　パーソナルスペース：実験結果の分析，解説
第14回　授業の振り返り
第15回　（最終レポート提出）

[成績評価]
試験（0％）、レポート（100％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（0％）

[成績評価（備考）]
各実習のレポート提出によって評価を行う。また，提出された各実習のレポートは教員が添削して返却するので，添削された点を修正したレポートを最終レポートとして提出してもらい，評価の対象とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
心理学統計法・データ解析の知識，心理学分野におけるレポートの書き方の知識が必須となるため，必ず復習しておくこと。また各実験実施後には，次週までにデータ入力が課題となる場合がある。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。また，レポートのフィードバックに関しては，授業内で適宜コメントしたり，添削したレポートを返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで，論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

[テキスト]
特に定めない。授業内で必要に応じてテキストを配布する。

[参考文献]
①B.フィンドレイ著「心理学実験・研究レポートの書き方　学生のための初歩から卒論まで」北大路書房　1996年（本体価格：1,300円+税）
②西口利文・松浦均編「心理学実験法・レポートの書き方」ナカニシヤ出版　2008年（本体価格：2,200円+税）
③日本心理学会認定心理士資格認定委員会（編集）「認定心理士資格準拠実験・実習で学ぶ心理学の基礎」　金子書房　2015年（本体価格：2,500円+税）
④小河妙子・斉藤由里・大澤香織「心理学実験を学ぼう！」金剛出版　2010年（本体価格：2,200円+税）
⑤宮原英種・宮原和子監修「心理学実験を愉しむ」ナカニシヤ出版　2003年（本体価格：2,400円+税）

[備考]
①詳細はオリエンテーションで伝えるが，授業内で実験の実施・データ収集を行う関係上，遅刻・欠席は厳禁である。
②全ての課題に対してレポートを提出しないと単位は認められない。
③受講者数などによって、実験種目を変更する場合がある。

心理的アセスメント

科目ナンバー	ICP 2207-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
田副　真美	

[科目補足情報]
公認心理師指定科目である

[到達目標]
1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. さまざまな心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）の理解
3. 保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野における心理的アセスメントについての理解
4. 心理検査の背景にある理論、配慮項目の理解
5. 検査者および被検査者の体験を通し自己理解を深める
6. 心理検査結果におけるアセスメントとフィードバックの仕方の理解
7. 適切な記録及び報告の方法を学ぶ

[履修の条件]
1. 心理的アセスメントに関する知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
2. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分に理解できること
3. 検査結果や事例に関するすべてのレポート提出が可能なこと

[講義概要]
この講義では理的アセスメントの目的及び倫理および心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を学ぶ。また、様々な領域における心理的アセスメントについて学ぶ。心理検査では、医療や教育現場および研究等で使用されている質問紙法、作業検査法、知能検査を取り上げる。

■授業計画
第1回　1.オリエンテーション
　　授業のねらい、授業の進め方、授業に使用するテキスト等の紹介
　　2.心理的アセスメントの目的及び倫理
第2回　1.心理的アセスメントの観点
　　2.さまざまな心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）
第3回　保健医療分野、福祉分野、教育分野、司法・犯罪分野、産業・労働分野における心理的アセスメント
第4回　心理検査の目的と留意点
　　心理検査の概要
第5回　パーソナリティの検査①　体験と解説
第6回　パーソナリティの検査②　体験と解説と事例
第7回　状態や症状の検査①　体験と解説
第8回　状態や症状の検査②　体験と解説と事例
第9回　内田クレペリン精神検査の体験と解説
第10回　知能検査総論
　　WISC-Ⅳ：解説と事例
第11回　WISC-Ⅳ・WAIS-Ⅲ：DVD 視聴
第12回　田中ビネー知能検査Ⅴ：解説、DVD 視聴
第13回　1.テストバッテリー
　　2.事例
第14回　適切な記録及び報告の方法
第15回　期末レポートの提出

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
授業参加態度、小レポート、レポート試験により評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術ををを身に付けることができる。

[テキスト]
必要な資料を適宜配布する。

[参考文献]
沼　初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版（第2版）　2,310円
願興寺礼子、住吉隆弘（編）「心理検査の実際の初歩」ナカニシヤ出版　2,860円

[備考]
「実務経験のある教員による科目」公認心理師および臨床心理士として、特に医療領域等における心理臨床経験を活かして心理的アセスメントの指導を行う。

心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）

科目ナンバー	ICP2301-S
2単位：集中	3〜4年
松田　崇志	

[科目補足情報]
公認心理師の資格試験の受験資格を得るためには，心理学研究法Ⅰ（データ解析）と心理学研究法Ⅱ（観察法・面接法・実験法）の両方を履修する必要があります。

[到達目標]
1）心理学研究における実証的な研究法である面接法・観察法・実験法それぞれの特徴を理解する。
2）面接法・観察法・実験法の計画，実施，分析，まとめまでの一連の手続きを理解し，データを用いた実証的な思考方法ができるようになる。
3）研究における倫理を理解する。

[履修の条件]
発展的な内容であるため、「心理学実験」，「心理学統計法」，「心理学研究法Ⅰ（データ解析）」を履修済みであると望ましい。

[講義概要]
心理学はこれまで幅広い研究領域をカバーするため，さまざまな方法論を発展させてきた。したがって，心理学研究を行う際には，自らの研究課題にもっとも適した方法を選択することが必要になる。本講義では，心理学の代表的な研究法のうち「面接法」「観察法」「実験法」を取り上げる。それぞれの特徴をふまえた上で，計画から実施，分析，まとめまで一連の手続きを学んでいく。

■授業計画

第1回　オリエンテーション，心理学における研究とは
第2回　心理学研究のリサーチデザイン，量的研究と質的研究
第3回　研究倫理
第4回　面接法①：種類と方法論
第5回　面接法②：特徴の理解
第6回　調査法①：種類と方法論
第7回　調査法②：特徴の理解
第8回　観察法①：種類と方法論
第9回　観察法②：特徴の理解
第10回　実験法①：種類と方法論
第11回　実験法②：特徴の理解
第12回　実験法③：工夫と注意点
第13回　検査法
第14回　研究成果の公開
第15回　最終レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
それぞれの方法（①面接・質問紙調査，②観察，③実験）に該当する授業内課題と最終レポートによって成績評価を行う。出席が講義回数の2/3を満たさない場合には単位取得を認めない。各回のリアクションペーパーの提出をもって出席とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
事前予習：統計の基本的な知識を復習しておくこと。
復習：授業内で示す参考文献などを読んで，理解を深めること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目習得することで，論理的・客観的な視点でものごとをとらえることができるようになる。

[テキスト]
特になし。

[参考文献]
①中澤潤・大野木裕明・南博文（編著）「心理学マニュアル観察法」 北大路書房　1997年　（本体価格：1,300円+税）
②村井潤一郎（編著）「Progress & Application 心理学研究法」 サイエンス社　2012年　（本体価格：2,200円+税）
③サール，アン（著）宮本聡介・渡辺真由美（訳）「心理学エレメンタルズ　心理学研究法入門」 新曜社　2005年　（本体価格：2,200円+税）
④山田剛史・林　創「大学生のためのリサーチリテラシー入門　研究のための8つの力」 ミネルヴァ書房　2011年　（本体価格：2,400円+税）

[備考]
本講義の内容は受講生の人数や状況に合わせて修正することがある。

公認心理師の職責

科目ナンバー	ICP 2208-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
石川　与志也	

[到達目標]
フロイトの人生とそこで成された彼の仕事、そしてフロイトに端を発する精神分析学の展開の意味するところを多角的に理解する。その上で、精神分析学が生み出した産物の一端を、現代社会の様々な現象や自身の体験等を踏まえ、実際的に吟味する。

[履修の条件]
「心理学」等の基礎的な科目や「カウンセリング実技の基本」「臨床心理学概論」などを受講した上で履修するのが望ましい。

[講義概要]
精神分析がその根底に有している人間に対する思想、方法、成果を理解し、人間個々人が有する内なる宇宙への関心を高め、その現代的意義を問うことを目的とする。
なお、基本的にはシラバスに沿って進めるが、授業計画は適宜変更することがある。

■授業計画
第1回　オリエンテーション：授業の進め方、精神分析とは何か
第2回　精神分析の歴史
第3回　フロイトの人生
第4回　心のモデル（1）情動外傷モデル
第5回　心のモデル（2）局所論モデル
第6回　心のモデル（3）構造論モデル
第7回　不安と防衛機制
第8回　内的世界の起源（1）エディプス・コンプレックス（Ⅰ）
第9回　内的世界の起源（2）エディプス・コンプレックス（Ⅱ）
第10回　内的世界の起源（3）プレエディパルの心の発達
第11回　転移と逆転移
第12回　夢、象徴、冗談
第13回　フロイトの症例
第14回　改めて精神分析とは何か
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
ディスカッションへの取り組みを評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
参考文献をはじめ自分で関連の文献を探し、読み進めること。
精神分析学の基本的事項の理解を、クラスの講義やディスカッション、文献等を読みながら、自分なりに深めること。

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。
・講義内小テストの解答・解説は、テストが実施された翌週に行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
主に、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。この科目を修得することで、精神分析学の視点から人間存在や社会について理解し、探求する基礎が身につく。

[テキスト]
特に指定しない

[参考文献]
フロイト全集. 岩波書店.
ラプランシュ, J.＆ポンタリス, J.B.〔村上仁監訳〕（1967/1977）精神分析用語辞典. みすず書房.
ベイトマン, A.＆ホームズ, J.（1995/2010）臨床家のための精神分析入門. 岩崎学術出版社.
土居健郎（1956/1988）精神分析. 講談社学術文庫.
土居健郎（1961）精神療法と精神分析. 金子書房.
藤山直樹（2008）集中講義・精神分析（上）. 岩崎学術出版社.
藤山直樹（2010）集中講義・精神分析（下）. 岩崎学術出版社.
ピーター・ゲイ〔鈴木晶訳〕（1997）フロイト1　みすず書房.
ピーター・ゲイ〔鈴木晶訳〕（2004）フロイト2　みすず書房.
ジョージ・マカーリ〔遠藤不比人訳〕（2020）心の革命　みすず書房.
ネヴィル・シミントン（1986/2006）分析の経験. 創元社.
ソフォクレス（1967）オイディプス王. 岩波文庫.
十川幸司（2003）精神分析. 岩波書店.
十川幸司（2019）フロイディアン・ステップ―分析家の誕生ー　みすず書房.
I・ザルツバーガー―ウィッテンバーグ（1970/2007）臨床現場に生かすクライン派精神分析：精神分析における洞察と関係性 岩崎学術出版社.
その他、適宜クラスで紹介する。

[備考]
「実務経験のある教員による科目」精神分析的心理療法の専門家としての実務経験を生かし、実際の臨床現場での現象を踏まえて精神分析学を教える

精神疾患とその治療

科目ナンバー	ICP 2209-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
肥田　裕久	

[科目補足情報]
教科書的な話題だけではなく、生きて生活している人間としての患者さんの理解を学ぶ講義です。そのために多くの事例等を話します。講師は臨床の精神科専門医ですので、興味関心を持てるよう努めます。

[到達目標]
精神科の患者さんの病状や困っているような事についての理解を深めて欲しいと思います。細かな知識の集積よりも、今後の職務や職分に役に立つ実践の知恵を得ることを目的とします。

[履修の条件]
特にはありません。

[講義概要]
教科書も使用しますが、あくまで参考的な使用です。各講義ごとに実臨床の話題を多くいたします。基礎的な講義が一段落ついたあとで、VR 体験もおこない、患者さんの経験している苦労を追体験でき、理解を深めるような授業構成になります。パワーポイントのオリジナル教材を使用します。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　「精神科疾患を学ぶ上で重要な事項」
身体疾患の重要性の理解。
第2回　「精神科症候学」
精神科をむずかしくしているのは用語の煩雑さです。精神科専門用語の解説を行います。
第3回　第2回目講義の継続
第2回講義でわかりにくいような点を質問をうけ、解説。理解を深める
第4回　統合失調症1
疫学　病態生理　症状
第5回　統合失調症2
治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第6回　気分障害1
疫学　病態生理　症状
第7回　気分障害2
治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第8回　神経症性障害
疫学　病態生理　症状　治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第9回　第4−8回目の補足
充分に触れる事のできなかったことを補足・補遺します。この段階で、総括として事前に配布する質問用紙での回答を予定しています。
第10回　当事者の話を聴く機会。
VR の機材を使い、症状を追体験する。
教材は、統合失調症、ADHD を使用します。
第11回　器質性精神障害
疫学　病態生理　症状　治療　薬物療法・精神科リハビリテーション
第12回　児童・思春期の精神障害
自閉症スペクトラム障害　ADHD　知的障害など。概念整理と治療方法
第13回　精神科関連の法制度などの包括的講義
なぜ法律は変わって来たのか。収容主義から現在のリカバリー志向への変遷を追いながら、人権の在り方、精神科医療への変化等を説明します。
第14回　第10回から13回目まで充分に触れる事のできなかったことを補足・補遺します。および総括。
第15回　レポート試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
自分のことば、自分の思考で書かれているものを評価します。書籍・論述の引用ではない
オリジナルな意見を評価します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験・レポート等のフィードバックは講義中などで適宜コメントできるような時間を設ける予定です。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本講義では精神障害を学ぶ事で「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」の涵養を目指します。

[テキスト]
必須ではないが、標準的なテキストとして①を推奨する。

[参考文献]
①「精神医学と精神医療」中央法規出版（2021年）」3,300円（税込））、SBN：978−4-8058−8252−8
②「精神科リハビリテーション　スキルアップのための11講　星和書店」

[備考]
本講座は隔週開講の1・2時間続きの講義となります。

知覚・認知心理学

科目ナンバー	ICP 2210-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
松田　崇志	

[到達目標]
①知覚心理学と認知心理学の基礎的な知識を得る
②人の感覚・知覚，認知・思考の機序及びその障害ついて理解

する
③日常生活の中での知覚や認知の働きについて気づき，専門的な知識を用いて考えることができるようになる

[履修の条件]
「心理学」や「心理学概論」といった基礎的な科目を受講したうえで履修するのが望ましい。

[講義概要]
本授業では，感覚，知覚，注意，記憶，思考といったテーマを中心に取り上げ，知覚や認知の働きに関する基礎的な知識を学んでいく。人の感覚・知覚等の機序及びその障害，人の認知・思考等の機序及びその障害について理解することを目指す。知覚や認知の働きは普段から当たり前のように行われていることであり，我々の日常生活と密接にかかわりあっている。本授業を通してそのことに気づき，専門的な知識を日常生活に活かすことができるようになることも目指す。

■授業計画
第1回　知覚心理学と認知心理学について
第2回　感覚
第3回　視知覚の基礎
第4回　注意
第5回　感覚・知覚の障害
第6回　記憶の仕組み
第7回　記憶術
第8回　日常生活における記憶
第9回　知識の構造
第10回　イメージと表象
第11回　問題解決
第12回　推論
第13回　意思決定
第14回　認知・思考の障害
第15回　試験

[成績評価]
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
出席が講義回数の2/3を満たさない場合には単位取得を認めない。授業終了後の感想や質問の提出をもって出席とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業後に，配布資料を見返す、授業中に紹介する参考文献の該当箇所を読むなどして復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します。本科目を履修することにより，基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
①松田隆夫　『知覚心理学の基礎』　培風館
②箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋　『認知心理学』　有斐閣
③森敏昭・井上毅・松井孝雄　『グラフィック認知心理学』　サイエンス社

学習・言語心理学

科目ナンバー	ICP2211-L
2単位：集中	2〜4年
上田　卓司	

[到達目標]
本授業では「学習」「行動」「言語」にまつわる心的現象や基本的知識を取得する事と同時に，「客観的な事実による裏付け」がどのように得られるのか，どのように「事実」を解釈するかについても見つけることを目標とします.

[履修の条件]
「心理学」等の基礎的な科目を受講した上で履修するのが望ましい. 欠席せずに，毎回参加できる学生に向いた科目です.

[講義概要]
本授業では「学習」「獲得」という観点を元に種々の心理学的現象について考察します. 講義形式を中心としますが，適宜マルチメディア資料を活用したり，実験の体験を行ったりしながら理解を深めてゆきます.

■授業計画
第1回　導入：心理学における「学習」と「言語」の位置付け
第2回　生得的行動と学習
第3回　条件付け（1）：古典的条件付け
第4回　条件付け（2）：道具的条件付け
第5回　般化と弁別：学習の諸要素
第6回　学習における認知的要因と動機
第7回　社会的学習：模倣と観察学習
第8回　行動療法（1）：心理的障害への学習・行動主義的アプローチ
第9回　行動療法（2）：行動療法と認知的変容
第10回　少数事例計画と応用行動分析
第11回　言語とコミュニケーション（1）言語・文章の理解
第12回　言語とコミュニケーション（2）非言語情報の役割
第13回　言語の獲得と発達
第14回　言語の障害と喪失
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（70%）、課題提出（30%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業内容についてノートを整理し，指示した参考文献に目を通します．本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします

[試験・レポート等のフィードバック]
ほぼ毎回行われることになる小テストについては，解説・復習を行い，新たな授業トピックの導入の役割を果たします．

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当します．本科目を履修することにより，基礎的な側面からの人間・心理についての理解が深まることが期待されます．

[テキスト]
特定の教科書は用いません．

[参考文献]
教場で，必要な資料を適宜配布します．参考文献情報は資料に掲載されています．

感情・人格心理学

科目ナンバー	ICP 2212-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
村田　夏子	

[到達目標]
・感情および人格（パーソナリティ）についての主要な理論を学ぶ。
・感情、人格をめぐる問題について、科学的・客観的な視点から考えることができるようになる。
・心理学的知見を学ぶことにより、直接「見る」ことのできない感情・人格について、他者についても自分自身についても、偏見のない建設的なとらえかたをすることを目指す。

[履修の条件]
感情や性格は、他ならぬ自分のことであってさえ、よくわからなかったり持て余したりすることがしばしばある。しかし心理学は、それに対してお告げのように「解決」をもたらすものではない。
本講義で扱う心理学的な研究について意欲的に学び、感情や人格をめぐる諸問題を科学的な観点から主体的に考えることを期待する。

[講義概要]
感情と人格（パーソナリティ）について心理学がどのように研究してきたか、主要な理論をそのアプローチの方法を含めて学ぶ。さらに感情とパーソナリティについて、認知、発達、適応といった視点から多角的に考察する。
各回、関連する今日的な話題に言及しながら解説して課題を出すので、自分の生き方に活かすことを視野に入れつつ主体性を持って授業に取り組んで欲しい。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　この講義で何を学ぶかを概観し、授業の進めかた、評価のしかたなどを説明する
第2回　感情とは何か
第3回　感情と脳・身体
第4回　感情の機能
第5回　感情と認知
第6回　感情と発達
第7回　感情の健康
第8回　パーソナリティとは何か
第9回　類型論と特性論（1）
第10回　類型論と特性論（2）
第11回　個人差をどう測定、記述するか
第12回　パーソナリティの発達
第13回　パーソナリティの成熟
第14回　まとめと展望
第15回　レポートまたは試験

[成績評価]
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題、リアクションペーパーおよび質問に対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修すると、他者理解が深まり、コミュニケーションの取りかたの幅が広がる。

[テキスト]
特に指定しない。毎回資料を配布する。

[参考文献]
授業内で適宜紹介する。

[備考]
授業の内容や進度、評価方法は、状況に応じて変更する場合がある。

神経・生理心理学

科目ナンバー	ICP 2213-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
越智　隆太	

[到達目標]
・脳神経系の解剖学的構造および生理学的機能について理解する（脳神経系の構造及び機能の理解）
・脳をモデルとした認知機能のメカニズムについて理解する（記憶、感情等の生理学的反応の機序の理解）
・脳損傷などの疾患によって生じる脳機能の障害を理解する（高

次脳機能障害の概要と理解）

［ 履修の条件 ］
・この科目を履修するにあたって特別な条件は設けません。
・講義内容の性質上、症候が実感しにくかったり、理解することが難しいと感じることが予想されますが、興味を持って根気よく臨む姿勢が求められます。
・この科目で扱う神経心理学は医学領域と密接に関わる学問分野です。必須ではありませんが、公認心理師養成カリキュラムの必須科目である「人体の構造と機能及び疾病」を履修していると、より理解が深まります。

［ 講義概要 ］
心はどこにあるでしょうか?
神経心理学や生理心理学は、脳を含む神経を心のありかとして研究を行ってきました。特に神経心理学は、脳の損傷や機能の変化によって生じる知覚や行動の障害（高次脳機能障害）を通して、人間の心がもつ機能（高次脳機能）のメカニズムを探求してきました。
この科目では、脳の解剖学的構造や生理学的メカニズムを理解した上で、映像資料も使いながら高次脳機能障害の各種症状、神経心理学的検査の方法など、臨床実践のための基本的知識について理解を深めていきます。また、臨床に限らず基礎研究に関する話題も提供していきます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション・神経心理学の位置付け及び研究方法について
第2回　脳神経系の解剖学的構造、生理学的機能
第3回　視覚機能とその障害
第4回　聴覚機能とその障害/高次脳機能障害の原因となる疾患
第5回　運動・体性感覚とその障害
第6回　言語機能とその障害（1）
第7回　言語機能とその障害（2）
第8回　注意機能とその障害
第9回　記憶機能とその障害
第10回　情動機能とその障害（社会的行動障害）
第11回　遂行機能とその障害
第12回　認知症
第13回　精神疾患・発達障害
第14回　神経心理学的検査の理解と実践
第15回　試験
第16回　予備日

［ 成績評価 ］
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（30%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

［ 成績評価（備考） ］
3回に1回のペースで Google Form を利用した小テストを実施します。
課題提出として、毎回講義終了後にリアクションペーパーの提出が必要です。
小テストならびに課題提出は、期末試験の内容と密接に関わってきますので、主体的に取り組むことを望みます。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
この科目では、脳の領域名や症状名など専門的な用語、様々な認知機能のメカニズムについて理解する必要があります。そのため、それらを自分の知識にできるよう本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
各講義終了後に提出されたリアクションペーパーのうち、全体で共有をした方が良いものついては次回講義時にフィードバックします。試験は後日模範解答を共有します。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
この科目は、ディプロマポリシーに定める「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当し、この科目を履修することにより、高次脳機能障害や精神疾患、発達障害についての知識を身に付け、その知識を当事者やその家族の理解や援助に役立てることができます。これらの能力は、公認心理師に必要な「クライエントへの臨床的支援能力」「他職種の専門家と連携する能力」にあたります。

［ テキスト ］
特に教科書は指定しません。講義回ごとに資料を共有します。

［ 参考文献 ］
以下に挙げる書籍は必ずしも購入する必要はありません。大学内の図書館などでどのような書籍かを確認して、興味があれば購入をお勧めします。
将来的に公認心理師資格の取得を検討している方は、緑川他（編）「臨床神経心理学」を持っていることをお勧めします。
緑川晶他（編）臨床神経心理学［神経・生理心理学］第2版　医歯薬出版（2018）（定価：3,300円、ISBN：978-4-263-26678-6）
石合純夫高次脳機能障害学第3版　医歯薬出版（2022）（定価：4,950円、ISBN：978-4-263-26651-9）
坂爪一幸高次脳機能の障害心理学−神経心理学的症状とリハビリテーション・アプローチ　学文社（2007）（定価：2,530円、ISBN：978-4-762-01650-9）
山鳥重神経心理学入門　医学書院（1985）（定価：7,040円、ISBN：978-4-260-11707-4）
Kandel, E.R.他（宮下保司監修）カンデル神経科学第2版メディカルサイエンスインターナショナル（2022）（定価：15,950円、ISBN：978-4-815-73055-0）

［ 備考 ］
【実務経験】
民間病院脳神経内科もの忘れ外来において、認知機能評価業務を行ってきました。また、公立病院脳神経外科において、覚醒下手術の支援業務も行ってきました。講義ではこれらの経験を踏まえ臨床実践に関する話題も提供していきます。

社会・集団・家族心理学

科目ナンバー	ICP2214-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
松野　航大	

[科目補足情報]
初回のオリエンテーションで重要事項をお伝えします。もし欠席した場合でも，後日再配布される初回の授業資料を必ずご確認いただきますようお願いいたします。

[到達目標]
(1) 人の態度および行動，対人関係並びに集団における人の意識および行動についての心理過程など，社会・集団・家族心理学および家族療法の基礎理論を理解し，説明できる。
(2)家族，集団および文化が個人に及ぼす影響と，現代社会におけるさまざまな社会・集団・家族の問題を理解し，それらを実生活と関連づけることができる。
(3)社会・集団・家族の問題に対するさまざまな支援方法を知り，それらを実生活にいかすことができる。

[履修の条件]
特に条件はありません。

[講義概要]
「社会」・「集団」・「家族」は，我々の生活に密接に関わっており，心理学・臨床心理学においても非常に重要なテーマです。本授業では，社会・集団・家族心理学および家族療法の基礎理論とその応用について概観し，それらの理論と実践に関して学びます。
本年度の本授業は対面形式で実施します（社会情勢によって，オンラインで実施する場合があります）。
また，授業はパワーポイント資料等を用いた講義を中心に構成されますが，動画の視聴，ワーク，グループディスカッション等も実施することがあります。

■授業計画

第1回　オリエンテーション（授業の方法，成績評価の説明など）
第2回　社会とは?集団とは?家族とは?
第3回　社会・集団心理学（1）　対人関係，コミュニケーションなど
第4回　社会・集団心理学（2）　集団における人の意識と行動など
第5回　社会・集団心理学（3）　人の態度，行動など
第6回　家族心理学（1）　独身の若い成人期
第7回　家族心理学（2）　結婚による家族の成立期
第8回　家族心理学（3）　乳幼児を育てる段階・小学生の子どもとその家族療法の実際）
第9回　家族心理学（4）　若者世代とその家族・老年期の家族
第10回　家族療法（1）　家族療法の基礎（家族システム理論など）
第11回　家族療法（2）　さまざまな家族療法（家族療法の歴史，多世代派，構造派，MRIなど）
第12回　家族に関わる問題夫婦関係の危機
第13回　アサーション
第14回　授業総括（まとめと解説）
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
※出席回数が全講義回数の2/3に満たない者は評価の対象になりません。
※不正行為やそれに準ずる行為など，不適切な形での受講があった場合，単位の修得は認められません。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
【事前学習】　各回の授業について，教科書や参考文献の各講義に該当する部分を通読しておいてください。また，各講義のテーマについて，関連書籍等にあたって知識を深めてください。
【事後学習】　各回の授業について，配布資料を復習し，必要に応じて内容要約を行ってください。また，各回の授業のテーマについて，教科書や参考文献などの書籍や論文など読んで理解を深めてください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
・授業内で実施する課題について，講義時間内に適宜口頭でフィードバックを行います。
・その他の方法でフィードバックを行う場合もあります。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当します。本科目を履修することにより，自己や他者を含めたさまざまな人間についての理解を深め，個人や家族を広い視点でとらえることができるようになります。また，個人や家族を支援するための基礎的な知識を身につけることができます。

[テキスト]
【教科書】
中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子（2019）．家族心理学第2版　有斐閣，2750円，ISBN-10：4641184461

[参考文献]
【参考書】
山田一成他（2007）.よくわかる社会心理学　ミネルヴァ書房，2750円，ISBN-10：4623048128
矢澤美香子・松野航大（2020）．役立つ！産業・組織心理学　ナカニシヤ出版，2530円，ISBN-10：4779514495
平木典子・中釜洋子・藤田博康・野末武義（2019）．家族の心理　第2版　サイエンス社，2090円，ISBN-10：4781914489

[備考]
【その他】
※本科目の担当講師は臨床心理士・公認心理師として，集団や家族への心理支援に関わる実務経験を有しています。その経験を踏まえ，授業では集団や家族の心理臨床にも触れていきま

す。
※初回の授業で，本授業の目的・方法・成績評価法等の重要事項を説明します。
※各授業前にお知らせする連絡事項を確認し，必ずそれに従ってください。連絡の確認ミスによる不利益についてはこちらで一切補償できません。
※授業資料は PDF ファイルで配布します。
※質問は授業後に受け付けます。
※学習進度により授業内容を一部変更することがあります。
※緊急時連絡先　educoach628@kurenai.waseda.jp

産業・組織心理学

科目ナンバー	ICP 2215-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
中村　洸太	

[到達目標]
産業社会の激変やグローバル化の進展、ニューノーマル、そして新型コロナ感染症拡大など社会の有様は大きく変化しています。加えて超少子高齢化時代となり、多様化が叫ばれる時代に個人の価値観も大きく変化しています。その意味で講義は非常に身近なテーマを扱っていきます。産業・組織心理学に関する知識や考え方を知り、働く人のストレスの増大からくる心の健康問題、人間関係の希薄さなどによる職場の状況と企業の課題、消費社会における心理などについて理解を深め、広い学識を身につけます。
そのうえで、より良い職業人生を送るためのメンタルヘルス対策、キャリア開発、良好なコミュニケーションづくりについて学習することを目的とします。この目的を達成するために、集団・組織や職場・職業に関わる心理学の理論を学びながら、産業・労働分野についての知識と考え方をバランスよく身につけることを目指します。

[履修の条件]
特定の授業の履修要件などは設けておりません。自分自身で動画などを視聴し、課題等を期限内に提出することが求められます。課題の取り組みなどを計画的に取り組む姿勢が求められます。

[講義概要]
授業はオンデマンドで実施します。必須テキストは設けておりませんが、レジュメを中心に講義します。毎授業の最後には、講義内容と演習を含めた学習課題を設定いたします。課題の提出を持って出席といたします。「レポート」は中間と最終の2回を予定しています。また、時事状況などによって内容が多少変更になる可能性があります。
講義内容が2週にわたる場合もあります。前の会の資料なども適宜参照するようにしてください。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、産業・組織心理学とは
第2回　組織と個人
第3回　集団・モチベーション
第4回　組織とコミュニケーション
第5回　ストレス
第6回　仕事の能率と安全、ダイバーシティ
第7回　キャリア
第8回　リーダーシップ
第9回　人事アセスメント
第10回　消費者行動マーケティング
第11回　消費者の意思決定
第12回　ハラスメント
第13回　法律の理解
第14回　全体のまとめ
第15回　-

[成績評価]
試験(30%)、レポート(20%)、小テスト(20%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価（備考）]
最終試験(レポート)、レポート(第7回時予定)、小テスト、毎回の授業の課題(課題提出)に加えて、授業参加態度の評価も行います。なお、履修ガイドにあるように欠席回数が講義回数の3分の1を超えた場合には、最終レポートを提出した場合においても評価に含まない場合がありますのでご注意ください。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。
予習は、該当する項目を自習しておきましょう。復習は、講義配布資料やノートを整理し、演習(ワーク＆シェア)で実施したワークやディスカッションの内容を振り返っておきましょう。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題やレポートなどのフィードバックは、基本的には、次回の講義において行いますが、数回分をまとめることもあります。発表等については、授業内に適宜口頭でコメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ディプロマポリシーの中でも特に「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」との関連を重要にしています。講義自体はオンデマンドで実施いたしますが、課題などにおいては「自分の意見」を書くことに重きを置きます。自分の意見を言語化していくことの不得手を感じる人は少なくありません。講義を通じて、自分が考えたことを言語化していくことを続けていきます。自己の思索の深化と思いの言語化、人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて適切に行うことができるようになることを研鑽するとともに、専門家としての資格を取得しようとする者は、クライエントを尊重する姿勢を有し、倫理や法を理解し、遵守姿勢と遵守に必要な実践能力を有するよう心構え、目指しましょう。

[テキスト]
毎授業で、参考テキストをベースにしたレジメを配布します。

[参考文献]
参考テキストは次のとおりです(あるとベター)
・経営とワークライフに生かそう！ 産業・組織心理学改訂版(山口裕幸(著),髙橋潔(著),芳賀繁(著),竹村和久(著))有斐閣

その他、適宜、授業で紹介します。

[備考]
毎回、前回のレジメを参照すること。

健康・医療心理学

科目ナンバー	ICP2216-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
田副　真美	

[科目補足情報]
公認心理師指定科目である

[到達目標]
1. 健康心理学の特徴と実際的な活動が説明できる。
2. 医療機関の心理職の役割が説明できる。
3. 保健医療領域におけるチーム医療の一員ある心理職の役割と多職種協働の重要性が理解できる。
4.災害時などに必要な心理に関する支援について理解できる。

[履修の条件]
実践の基礎となる科目（心理学、知覚・認知心理学、学習・言語心理学、発達心理学など）を履修しておくことが望ましい。

[講義概要]
1. 本講義では、健康心理学および医療心理学の概要
2. ストレスと心身の疾病との関係
3. 医療現場における心理社会的問題と必要な支援心理社会的支援
4. 災害時などに必要な心理に関する支援
5. ゲストスピーカーによる心理職の実際についての講義

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　　授業のねらい：健康心理学とは　医療心理学とは
第2回　健康心理学とは
　　健康心理学におけるアセスメントと支援
第3回　健康心理学の実際
　　ストレスとストレスマネジメント
第4回　健康心理学の実際
　　ストレスと心身の疾病との関係
第5回　医療心理学とは
　　①医療現場における心理社会的課題及び必要な支援
　　②保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援
第6回　医療心理学の実際
　　①精神科・児童精神
第7回　医療心理学の実際
　　②院内独立型心理室
第8回　医療心理学の実際
　　③心療内科
第9回　医療心理学の実際
　　④小児科　ゲストスピーカー（小児科医）による講義
第10回　医療心理学の実際
　　⑤緩和医療
第11回　医療心理学の実際
　　⑥産業保健
第12回　地域保健活動とその実際
第13回　災害心理学：災害時等に必要な心理に関する支援
第14回　多職種協働と医療連携
　　まとめ
第15回　期末レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
授業参加態度、授業内で実施する課題レポートおよび 試験レポートにより評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
連続した内容の講義では、必ず前回の資料などに目を通し講義に臨むこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術ををを身に付けることができる。

[テキスト]
公認心理師カリキュラム準拠「健康・医療心理学」第2版
宮脇稔・大野太郎・藤本豊・松野俊夫　編
3,300円　ISBN978-4-263-26577-2

[参考文献]
必要に応じて資料を配布する。

[備考]
「実務経験のある教員による科目」公認心理師および臨床心理士として、医療領域等における心理臨床経験を活かして指導を行う。

福祉心理学

科目ナンバー	ICP 2302-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
加藤　純	

[科目補足情報]
公認心理師に必要な科目です。社会福祉を中心に学んでいる学生にも、ソーシャルワーカーとして心理的な理解や支援をするために役立つ科目です。

[到達目標]
公認心理師に必要な科目に含まれる事項として、下記の3点について理解することを到達目標とします。
1.福祉現場において生じる問題及びその背景
2.福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援
3.虐待や配偶者暴力に関する法律と対応

[履修の条件]
1. 3〜4年生であればどなたでも履修できます。
2.公認心理師に必要な科目です。公認心理師を目指す学生は必ず履修してください。
3.この科目で学ぶ内容を理解するために「子どもと家族の心理福祉の諸課題」(旧科目名「児童福祉の諸問題」)が役立ちます。また、「児童・家庭福祉論」(旧科目名「児童福祉論」)を履修しておくか、または後期に並行履修することが望ましいです。

[講義概要]
福祉分野に関する心理的支援の理論と実際を学びます。
資料に基づく討議や短いロールプレイなどにより、社会生活で生じる問題の現状と社会的背景について理解を深めます。また、事例検討を通して、生物・社会・心理など諸側面から包括的にアセスメントし、多職種と協働して支援する力を養います。
学習内容を公認心理師国家試験と関連付けられるように、公認心理師の出題基準と過去問題を紹介します。

■授業計画
第1回　1.オリエンテーション：授業の目的・進め方・課題
　　2.生物心理社会的アプローチ。社会福祉と臨床心理に求められる専門性
第2回　福祉分野での仕事
　　1.専門性を相談に活かす仕事
　　2.専門性を生活場面に活かす仕事
第3回　福祉分野におけるアセスメント(1)生活課題の把握
　　生物心理社会的アプローチによる包括的アセスメント
　　(子育て家族の事例検討を通して)
第4回　福祉分野におけるアセスメント(2)対象者や対象課題を法令によって定義する意味
第5回　福祉分野におけるアセスメント(3)　社会問題としての把握
　　1.社会問題とは何か
　　2. 社会構築主義から見た社会問題の成立過程
第6回　福祉分野でのアセスメントの特徴(4)アセスメントのまとめ
　　1.アセスメントの過程
　　2.アセスメントにおける抽象化と具体化
第7回　相談機関での支援方法：家族支援と専門職へのコンサルテーション(家族システム論と家族療法)
第8回　入所施設での支援方法(1)入所施設での家族支援
第9回　入所施設での支援方法(2)入所施設での生活場面での支援
　　暴力や喪失の影響、愛着形成、誤学習、生活習慣、2次被害
第10回　入所施設での支援方法(3)入所施設での面接室での支援
第11回　高齢者分野の支援：認知症の理解・診断・支援
第12回　法律的権限に基づく対応(1)児童虐待・高齢者虐待・障害者虐待・ドメスティックバイオレンスの定義と通告先
第13回　法律的権限に基づく対応(2)虐待に関する行政機関の対応
第14回　家族支援におけるリスクアセスメントとリスクマネージメント
第15回　試験

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
「課題」はグーグルフォームにより、毎回の授業前にポータルからお知らせします。
「その他の評価方法」には、授業への出席や課題の取り組みなどの努力に関する自己評価を含みます。授業には全て出席することを原則としますので、欠席は減点材料となります。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目ではおよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。各回の授業の予習または復習として取り組む課題をグーグル・フォームによって提供します。また、文献により授業の内容を深めてください。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題はグーグルフォームにより提出してください。提出すると正誤の判断や解説が表示されます。
希望する場合は、提出内容を確認する自動返信メールをお送りします。課題提出時にメールアドレスを記入してください。

[ディプロマポリシーとの関連性]
この科目では「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」を養成します。対人援助職としての全人的なヒューマン・ケアに必要な専門性として、特に問題理解と支援方法に関する知識を身につけることを目指します。

[テキスト]
ポータルを通して授業資料を提供します。グーグルフォームにより資料と課題を提示します。
授業では、下記の文献の内容を紹介します。下記の文献は図書館でリザーブブックとして閲覧出来ます。
上野加代子・野村知二(2003)『〈児童虐待〉の構築』世界思想社教学社(ISBN978-47907101418)絶版
M. Durrant(1991) "Residential Treatment." W. W. Norton.

(ISBN 978-0393701548)
衣斐哲臣(1997)「体罰習慣がある家族に対する助言指導と保母・教師へのコンサルテーション」『家族療法研究』14巻2号

[参考文献]
公認心理師の資格取得を目指してこの科目を履修する学生は、公認心理師養成のために出版されている『福祉心理学』の教科書を参考にしてください。

[備考]
実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および児童相談所における子供の権利擁護専門員としての経験を活かして、社会福祉分野での心理的支援方法について指導する。

教育・学校心理学

科目ナンバー	ICP 2217-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
北村　英哉	

[到達目標]
教育現場で生じる諸問題とその背景について臨床, 教育, 発達, 社会心理学的知見から理解を深める。主に, 教育相談員, スクールカウンセラーの立場から, 教育現場における子どもの心理社会的課題および必要な支援法についての理解と活用ができるようになることをこの授業の目標とする。

[履修の条件]
資料の復習をし, 内容についての理解を深めること。本科目を履修するには「教育心理学」が履修済みであることが望ましい。

[講義概要]
この授業では, 講義およびグループディスカッションを通して, 教育と学校というものの特徴の把握, 教育相談のごく基礎的な知識についての理解を得ると共に, 教育現場における子どもの理解と関わり, 支援の方法について学ぶ。基本的に講義形式の授業ではあるが, 講義内容を基にグループディスカッションを行うこともある。また, 内容は基本的には講義計画に沿って進むが, 適宜変更されることもある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション, 講義の進め方, 授業に使用する参考文献の紹介
イントロダクション−学校と教育相談とは
第2回　学校の位置づけ：学校とは何か
第3回　学校不適応の種類と支援−集団のはたらき
第4回　カウンセリングマインドと対応の臨床的基礎
第5回　学校不適応の種類と支援−発達障害について1
第6回　学校不適応の種類と支援−発達障害について2
第7回　学校不適応の種類と支援−不登校, いじめ, 暴力行為について　理論編
第8回　学校不適応の種類と支援−不登校, いじめ, 暴力行為について　実践編
第9回　教育相談の方法−心理教育的なアセスメントについて
第10回　教育相談の方法−カウンセリングの基本的な理論と方法1
第11回　教育相談の方法−カウンセリングの基本的な理論と方法2
第12回　教育相談の方法−カウンセリングの基本的な理論と方法3
第13回　教育相談の方法−学校で有効な支援活動について
第14回　予防・開発的な援助・学校内外の連携、地域臨床
第15回　テスト

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。案内した文献に積極的にあたること。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを必要に応じて次回の講義時に全体に向けて行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
この科目はディプロマポリシーに定める「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。
心理および福祉の高度な専門職に必要とされる知識及び技術を学び, 総合的な人間理解から, 対人援助についての知識を身に着けることを目的とする。

[テキスト]
黒田祐二(編著)2014, 実践につながる教育相談, 北樹出版
2100円+税　ISBN：978-4779304071

[参考文献]
伊藤美奈子・平野直己(編)2003学校臨床心理学・入門　有斐閣。春日井敏之・伊藤美奈子(編)2011　よくわかる教育相談　ミネルヴァ書房。石隈他、日本学校心理学会編2016　学校心理学ハンドブック第2版　教育出版。森岡正芳(編著)2012カウンセリングと教育相談：具体事例を通して理解する　あいり出版

[備考]
授業後に講義の内容を見直し, 復習すること。疑問点などはその都度質問すること。取り上げられた事例やディスカッションで共有された情報の取り扱いには十分な配慮をすること。

司法・犯罪心理学

科目ナンバー	ICP 2218-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
室城　順子	

[科目補足情報]
公認心理師資格取得のための指定科目

[到達目標]
(1)犯罪・非行, 犯罪被害及び家事事件に関する基本的知識を身につける。
(2)司法・犯罪分野において必要とされる心理的支援について学ぶ。

[履修の条件]
特にないが、心理学の基本を学んでいることが望ましい。
テキストは、初回から用意されたい。

[講義概要]
・犯罪を通して人間理解を深める機会とし、以下の内容について学習する。
・授業計画に基づき、テキスト及びパワーポイントの講義資料を用いた講義形式の授業を行う。
・参考資料(統計、関係機関資料等)をポータルを通じて提供する。
・テーマに応じて、適宜グループディスカッションを行う。
(1) 犯罪の原因に関する生物学的, 社会学的, 心理学的諸理論と統合的理解
(2) 非行少年・犯罪者の捜査, 司法手続, 処遇・矯正, 犯罪からの立ち直りという一連のプロセス及びその心理的支援
(3) 家庭裁判所における家事事件の内容と心理的支援
(4) 児童虐待、ＤＶ等、家庭内における暴力加害・被害の実態及び心理的支援
(5) 各種犯罪の特徴、犯罪の加害・被害の実情
(6) 犯罪被害者への支援と犯罪の予防

■授業計画

第1回 オリエンテーション
司法・犯罪心理学とは何か～対象と方法
第2回 犯罪の原因論(1)生物学的要因
第3回 犯罪の原因論(2)社会学的要因・心理学的要因
第4回 犯罪の原因論(3)環境との相互作用・犯罪原因の統合的理解
第5回 犯罪捜査と心理的支援
第6回 非行・犯罪に対する司法手続
第7回 非行少年・犯罪者の処遇・矯正(1)非行少年の処遇・矯正
第8回 非行少年、犯罪者の処遇・矯正(2)犯罪者の処遇・矯正
犯罪からの立ち直り
第9回 家庭裁判所の家事事件と心理的支援
第10回 犯罪各論(1)暴力犯罪, 殺人, ＤＶ, 児童虐待
第11回 犯罪各論(2)性犯罪, 放火
第12回 犯罪各論(3)窃盗等の財産犯, その他の犯罪
第13回 犯罪各論(4)少年非行, 少年非行事例検討
第14回 犯罪被害者支援と犯罪予防、グリーフケア
まとめ～司法・犯罪心理学の課題
第15回 試験

[成績評価]
試験(55%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(45%)

[成績評価(備考)]
各講義の終了時に作成、提出する課題(リアクション・ペーパー)で行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
予習では、テキストの該当箇所を読んでおく。復習では、講義資料を読み直し、新たな知見を整理する。
普段から、事件報道や記事等に関心を寄せ、適宜気付きや感想をまとめておく。
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバック及び質問へのコメントを次回の講義内容において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。
この科目を履修することによって, 犯罪や非行の加害者の理解と更生のための援助への姿勢と能力を身につけるとともに, 犯罪や非行の被害者の痛みを癒すための援助への姿勢と能力を身につけることができる。
また, 様々な家庭問題の課題とその解決のための援助の姿勢及び方法を学ぶことができる。特に, 公認心理師に必要となる「臨床心理の専門職としての使命と社会的責任」、「倫理や法令の理解と遵守」、「クライエントへの臨床的支援能力」、「他職種の専門家と連携する能力」の習得を目指す。

[テキスト]
(1)ISBN 978-4-7819-1481-7 『Progress&Application 司 法 犯罪心理学』越智啓太著 サイエンス社 (2,300円+税)
(2)パワーポイント講義資料を配布する。

[参考文献]
ISBN 978-4-641-18451-0 藤岡淳子『司法・犯罪心理学』有斐閣 2,500円+税
ISBN 978-4-563-05883-8 大淵憲一『犯罪心理学』培風館 2,800円+税
ISBN 978-4-623-08719-8 門本泉 『司法・犯罪心理学』ミネルヴァ書房 2,200円+税
ISBN 978—4-7628-2815—7 越智啓太『ケースで学ぶ犯罪心理学』北大路書房 1900円+税

[備考]
実務経験のある教員による科目。公認心理師、臨床心理士であり、司法領域や行政での加害者、被害者への心理支援業務等における実務経験を活かして講義を行う。

心理演習

科目ナンバー	ICP2219-S
2単位：後期1コマ	2年
村上　律子、加藤　純、田副　真美、笹尾　千津子	

[科目補足情報]
受講定員は30名とする。

[到達目標]
心理支援が様々な対人援助場面でどの様に実践されているのか、その実際を学ぶ。
具体的な場面を想定したロールプレイ（役割演技）や事例検討を通して、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能の基本的な水準の習得を目的とする。

[履修の条件]
・公認心理師資格取得のための指定科目
・履修条件として、以下の5点を満たす必要がある
(a)当該年度前期開講科目までで臨床心理系科目（別表参照）を20単位以上の取得
(b)2023年度前期までの全履修科目のGPA 2.40以上
(c)「心理学的支援法」「臨床心理学概論」の2科目に関して「良」以上の成績での単位取得
(d)人物、生活態度が心理実習・心理演習の受講上支障がないと判断されること
(e)心身ともに心理実習・心理演習に耐えうる健康状態であると判断されること
＊詳しくは、本講義概要の「公認心理師の演習・実習について」の項を参照のこと
＊＊なお、当該年度前期集中講義の科目は、上記の(a)(b)に含まれないため注意すること
・上記の5つの条件を満たした者が履修定員の30名を超えた場合は、GPA上位30名を選抜する。よって、上記の条件を満たしていても心理演習が履修できない場合がある
・心理演習と、心理実習Ⅰは同じ年に履修し、履修登録は必ず前期に行なうこと
・体験型の授業であり、すべての授業に出席し、積極的な授業参加を求める

[講義概要]
小人数グループでの体験学習を重視する。
心理支援に必要な基本的な態度、心理療法、心理検査、及び地域支援に関して、実際にはどの様なプロセスで実践されているか、前半は具体的な場面を設定しながらロールプレイ（役割演技）を行い、知識を整理する。後半は医療、教育、産業、福祉、司法等の臨床場面での事例素材により、心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握、現実生活を視野に入れたチームアプローチをグループデスカッションにより検討する。さらに、公認心理師としての職業倫理、及び法的義務の理解を深める。
なお、第1回の授業において第2回以降の体験学習の際のクラス分けを行なうため、履修希望者は必ず出席すること。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　学習の目標と概観、授業の進め方、評価、参考文献の紹介等
　（体験学習の進め方と注意点の説明　及びグループ分け）
第2回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　情報の適切な取り扱い
第3回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　心理アセスメントの意義
第4回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　インテーク面接実習①
第5回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　インテーク面接実習②
第6回　心理に関する支援を要する者等に関する知識及び技能
　インテーク面接実習③
第7回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　教育領域事例検討
第8回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　地域支援事例検討（高齢者）
第9回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　児童福祉事例検討
第10回　心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
　医療事例検討
第11回　多職種連携及び地域連携
　事例検討（司法）
第12回　多職種連携及び地域連携
　産業領域事例検討
第13回　心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームワーク
　グループ体験
第14回　公認心理師としての職業倫理及び法的義務の理解
　まとめ
第15回　試験

[成績評価]
試験（50%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
課題提出：毎回授業後にリアクションペーパー（①授業で興味を持ったところ・感想。②疑問点　③質問・要望等）を提出。
心理演習・心理実習Ⅰの成績が良以上の場合に、心理実習Ⅱの参加を認める。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
毎回授業で扱ったテーマ・事例に関して、自分でその内容を振り返り知識を整理し考察を深めること。心理学的支援や対人援助に関しては様々な文献がある。それぞれ興味のあるところから

自己学習し学びを深めてほしい。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行なう。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することにより、対人援助のあり方を理解し、心理に関する支援を要する者等に関する実践的な知識と技能の基本を身につけることにつながる。さらにロールプレイ（役割演技）、事例検討におけるディスカッション、グループワークを通じて他者理解と自己表現の力を高める。

［ テキスト ］
特に定めない。必要に応じてプリントを配布する。

［ 参考文献 ］
「時間のかかる営みを、時間をかけて学ぶための心理療法入門」小松貴弘・渡辺亘・中村博文　創元社　2019
「新・カウンセリングの話」（朝日選書）平木典子　朝日新聞出版　2020
「初回面接入門ー心理力動フォーミュレーション」妙木浩之　岩崎学術出版　2010
「心理臨床へのまなざし　経験の意味を支えるコンテクストと理念」小川恵　日本評論社　2006

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目。
担当教員それぞれは、公認心理師・臨床心理士として医療・教育・児童・福祉・産業において心理支援の業務の経験がある。それらを通して得た知見を活かし、心理支援に関しての様々な知識、基本的な技能について具体的な事例を提示して演習を行なう。

心理実習Ⅰ

科目ナンバー	ICP 2220-T
2単位：後期1コマ	2年
石川　与志也、青木　絢子、加藤　純、田副　真美、植松　晃子	

［ 科目補足情報 ］
受講定員は30名とする。

［ 到達目標 ］
「心理実習Ⅰ」および「心理実習Ⅱ」において、公認心理師資格の取得に必要な5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）、80時間以上の実習を行う。
「心理実習Ⅰ」においては、特に以下の点を到達目標とする。
1. 実習に臨むための準備として、実習先となる分野の理解を深め、実習に取り組む姿勢と、実習に必要となる知識および技術を養う。
2. 学内実習機関の見学実習を行い、臨床現場における公認心理師の職責の理解を深める。

なお、心理実習Ⅰの学びは、以下の内容を含むものである。
①要支援者へのチームアプローチ
②多職種連携及び地域連携
③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

［ 履修の条件 ］
・公認心理師資格取得のための指定科目です。
・履修条件として、以下の5点を満たす必要があります。
(a) 当該年度前期開講科目までで臨床心理系科目（別表参照）を20単位以上の取得
(b) 2026年度前期までの全履修科目のGPA 2.40以上
(c)「心理学的支援法」「臨床心理学概論」の2科目に関して「良」以上の成績での単位取得
(d) 人物、生活態度が心理実習・心理演習の受講上支障がないと判断されること
(e) 心身ともに心理実習・心理演習に耐えうる健康状態であると判断されること
＊詳しくは、本講義概要の「公認心理師の演習・実習について」の項を参照してください。
＊＊当該年度前期集中講義の科目は、上記の(a)(b)に含まれません。
・上記の5つの条件を満たした者が履修定員の30名を超えた場合は、GPA 上位30名を選抜します。よって、上記の条件を満たしていても心理実習Ⅰが履修できない場合があります。
・心理演習と、心理実習Ⅰは同じ年に履修し、履修登録は必ず前期に行ってください。
・体験型の授業ですので、すべての授業に出席し、積極的な授業参加

［ 講義概要 ］
本科目はまず実習に取り組む姿勢を理解し、つぎに実習先となる分野と機関の理解を深め、そして、実習の記録の書き方をはじめ実習に必要な知識と技能を習得する。その上で、実際に見学実習を行う。
なお、シラバスの内容やスケジュールは、実習先の都合等により変更することがある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション
　公認心理師になるための必要科目としての心理実習の目的と内容の概要を理解する
第2回　心理実習への動機と目標を明確にする
第3回　心理実習の位置づけと取り組む姿勢を理解する
第4回　実習先となる施設の理解①：保健医療（グループワーク）
第5回　実習先となる施設の理解②：保健医療①（発表とディスカッション）
第6回　実習先となる施設の理解③：保険医療②（発表とディスカッション）
第7回　実習先となる施設の理解④：福祉（グループワーク）
第8回　実習先となる施設の理解⑤：福祉①（発表とディスカッション）

第9回　実習先となる施設の理解⑥：福祉②（発表とディスカッション）
第10回　実習先となる施設の理解⑦：教育・司法犯罪・産業労働（グループワーク）
第11回　実習先となる施設の理解⑧：教育（発表とディスカッション）
第12回　実習先となる施設の理解⑧：司法犯罪・産業労働（発表とディスカッション）
第13回　見学実習の準備：観察学習の視点と方法，実習記録の書き方を学ぶ
第14回　心理実習Ⅰのまとめ：見学実習への配属決定；動機と目標の明確化
第15回　レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
その他の評価方法として、毎回のディスカッション・小レポートの評価および受講態度を評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習、復習）を必要とする。準備学習では、ここまでの心理学および公認心理師の資格に関係する必要科目の学びの内容の復習、実習先となる分野に関する知識の習得と情報収集、授業内で出された小レポート課題を求める。

［試験・レポート等のフィードバック］
見学実習のレポートは、担当教員のコメントによるフィードバックを行う。
また、授業時のディスカッションやその他の提出課題については、授業内でフィードバックを行う。
最終課題である実習関連書類については、提出後フィードバックを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場への見学実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

［テキスト］
特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

［参考文献］
特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

［備考］
履修希望者は必ず第1回の授業におけるオリエンテーションに出席すること。
「実務経験のある教員による科目」担当教員は臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、実習の指導を行う。

心理実習 II

科目ナンバー	ICP 2303-T
2単位：前期2・後期1コマ	3年
石川　与志也、笹尾　千津子、青木　絢子、加藤　純、田副　真美、植松　晃子	

［到達目標］
「心理実習Ⅰ」および「心理実習Ⅱ」において、公認心理師資格の取得に必要な5分野（保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働）、80時間以上の実習を行う。
「心理実習Ⅱ」においては、特に以下の点を到達目標とする。
1. 実習施設の見学実習を行い、臨床現場における公認心理師の職責の理解を深める。
2. 見学実習のまとめを行うことで、各施設およびそこにおける公認心理師の仕事に関する理解を深める。
なお、「心理実習Ⅱ」の学びは、以下の内容を含むものである。
①要支援者へのチームアプローチ
②多職種連携及び地域連携
③公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

［履修の条件］
①「心理演習」および「心理実習Ⅰ」の成績が良以上であること。
②履修に当たっては、公認心理師になるための自覚と責任と熱意を持っている者であることを原則とする。
③本科目は公認心理師資格の取得に必要な科目としての実習であり、授業時間が実習の必要時間に含まれるため、全クラスに出席することを求める。
④この科目は、通年開講であるため、前期と後期のクラスを通年で受講すること。

［講義概要］
心理実習Ⅱでは、前期には見学実習を行い、後期には見学実習の体験を整理し、その理解を深めることを行う。特に、実習先となる機関、および、その機関における公認心理師の仕事に対する理解を深める。そのために、前期は実習先の事前学習、学外の実習先への見学実習および見学実習の記録の作成が中心となり、後期には見学実習で学んだことをグループで発表し、クラス全体でディスカッションをすることを中心とした授業となる。
なお、シラバスの内容やスケジュールは、実習先の都合等により変更することがある。

■授業計画
第1回　心理実習Ⅱのオリエンテーション（前期）
第2回　見学実習：大学院附属臨床心理相談センター
第3回　見学実習事前・事後学習
第4回　見学実習：保健医療分野
第5回　見学実習事前・事後学習
第6回　見学実習：福祉分野/産業・労働分野
第7回　見学実習事前・事後学習
第8回　見学実習：司法・犯罪分野
第9回　見学実習事前・事後学習
第10回　見学実習：教育分野
第11回　見学実習事前・事後学習
第12回　グループ学習準備

第13回　グループ学習準備
第14回　前期のまとめ
第15回　心理実習Ⅱのオリエンテーション（後期）
第16回　事後学習：大学院附属臨床心理相談センター
第17回　事後学習：保健医療分野Ⅰ
第18回　事後学習：保健医療分野Ⅱ
第19回　事後学習：保健医療分野Ⅲ
第20回　事後学習：保健医療分野Ⅳ
第21回　事後学習：福祉分野Ⅰ
第22回　事後学習：福祉分野Ⅱ
第23回　事後学習：産業・労働分野Ⅰ
第24回　事後学習：産業・労働分野Ⅱ
第25回　事後学習：司法・犯罪分野Ⅰ
第26回　事後学習：司法・犯罪分野Ⅱ
第27回　事後学習：教育分野
第28回　「心理実習Ⅰ・Ⅱ」のまとめ：実習全体の振り返りと記録の確認
第29回－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－
第30回－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

［成績評価］
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（50%）

［成績評価（備考）］
実習報告のプレゼンテーション、グループワーク、ディスカッションの内容および参加態度を評価する

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習、復習）を必要とする。準備学習では、実習体験の整理と発表の準備、および実習体験の理解を深めるために必要な文献を読むことを求める。また、クラスでの発表とディスカッションを踏まえたレポート課題に取り組むことを求める。

［試験・レポート等のフィードバック］
見学実習のレポートは、担当教員によるコメントでのフィードバックを行う。
また、授業時のディスカッションやその他の提出課題については、授業内でフィードバックを行う。
最終課題である実習関連書類については、提出後フィードバックを行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性、4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力へ該当する。さまざまなヒューマンケアの現場への見学実習を通してケアの実際を理解すると共に、現場でのさまざまな対人関係および大学でのディスカッションを通して他者理解と自己表現の実践に取り組む。

［テキスト］
特に定めない。必要に応じて授業内で資料を配布する。

［参考文献］
特に定めない。必要に応じて文献を紹介する。

［備考］
履修希望者は必ず第1回の授業におけるオリエンテーションに出席すること。
「実務経験のある教員による科目」担当教員は臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、実習の指導を行う。

心理検査技法演習

科目ナンバー	ICP2221-S
2単位：後期1コマ	2〜4年
田副　真美	

［科目補足情報］
「心理的アセスメント」を履修済みでないと、この科目は履修できない。

［到達目標］
1. 心理的アセスメントの目的及び倫理の理解
2. 心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）の理解
3. 心理検査（投映法）の背景にある理論、配慮項目の理解
4. 検査者および被検査者の体験
5. 自己理解を深める
6. 検査結果によるアセスメントやテストバッテリーについての理解
7. 心理検査を実施する際の倫理上の問題への理解を深める

［履修の条件］
1.「心理的アセスメント」を履修済みであること
2. 検査の十分な知識を身につけるために、継続して出席が可能なこと
3. 心理検査の実施における倫理上の問題を十分理解できること
4. 検査所見などのすべてのレポート提出が可能なこと

［講義概要］
心理検査では、投映法を中心に講義する。
各検査の概説、実施方法の説明の後、検査の実施と結果のまとめ方について体験する。
結果のアセスメントやテストバッテリーについてふれ、検査の実際について具体的な事例を提示し説明する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　授業の狙い、講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介
第2回　投映法総論
第3回　SCT
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第4回　P-F スタディ①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第5回　P-F スタディ②
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第6回　バウムテスト①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説

第7回　バウムテスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第8回　HTP テスト①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第9回　HTP テスト②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第10回　風景構成法①
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第11回　風景構成法②：実施方法の説明、検査の体験と解説
第12回　TAT
　　体験
　　実施方法の説明、検査の体験と解説
第13回　ロールシャッハ・テスト
　　実施方法の説明と解説
第14回　テストバッテリーについて
　　相談、助言、指導等への応用の仕方
　　事例提示、全体のまとめ
第15回　期末レポート

［成績評価］
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

［成績評価（備考）］
授業参加態度、小レポート、レポート試験により評価する。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［試験・レポート等のフィードバック］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術ををを身に付けることができる。

［テキスト］
必要な資料を適宜配布する。

［参考文献］
沼　初枝「臨床心理アセスメントの基礎」ナカニシヤ出版（第2版）　2,310円
願興寺礼子、住吉隆弘（編）「心理検査の実際の初歩」ナカニシヤ出版　2,860円

［備考］
「実務経験のある教員による科目」公認心理師および臨床心理士として、主に医療領域等における心理臨床経験を活かして心理検査（投映法）の指導を行う。

質問紙調査法

科目ナンバー	ICP 2304-S
2単位：前期1コマ	3年
谷井　淳一	

［到達目標］
①質問紙調査の方法を実習し理解する。
②因子分析の方法を体験的に学ぶ

［履修の条件］
臨床心理的な学習分野で卒業論文に取り組む予定の人は必ず履修してほしい。原則として3年前期に履修してほしい。卒業研究のためのゼミに所属する前には履修してほしい。「心理学研究法Ⅰ」「心理学実験」を履修済みが望ましいが、並行履修も認める。
3年編入の人は、できるだけ3年で履修してほしい。入学していきなりなので大変ではあるが、頑張ってほしい。

［講義概要］
質問紙調査の方法について体験的に学んでいく。
グループで実際に調査票を作成し、調査実施する。得られたデータをパソコンを用いて入力しデータをチェックする方法を学ぶ。そののち、因子分析を用いて、項目内容を精選する。これら一連の流れを体験的に実習する。この授業を通じて言葉のセンスを磨いてほしい、特に、自分が作成した項目が、調査協力者にどのように受け取られ反応が返ってくるかを体得することが大切である。質問紙に記入している調査対象者がどのように応答しているかを想像できるようにデータを読み取る力をつけてほしい。質問紙を作るまでのプロセスは質的研究に近いものなので、自分は質的な研究をしたいと考えている人も、質問紙作成の体験は是非真剣に取り組んでほしい。
グループ作業なのでグループで助け合って頑張ってほしい。

■授業計画
第1回　因子分析を用いた論文を探す
　　質問紙尺度を用いた研究事例を学ぶ
第2回　因子分析表の見方と理解
第3回　グループ分けと構成概念表の作成1
　　（グループごとに、論文を選び、その論文中の因子分析結果を参考にしながら、質問紙尺度の改訂版、その概念表を作成する）
第4回　グループ分けと構成概念表の作成2
第5回　質問紙調査票の作成
第6回　尺度の水準とワーディング
第7回　Web 調査の方法
第8回　調査の実施
第9回　データ入力の方法
第10回　データチェックの方法
第11回　因子分析結果の整理
第12回　合成変数の作成、相関係数の算出
第13回　下位尺度別に男女別の平均値・標準偏差を算出し t 検定の実施

第14回　レポートの作成
第15回　レポートの作成2

[成績評価]
試験（0%）、レポート（100%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
質問紙調査実施からその結果を分析するまで、グループ作業として実施したことをレポートしてもらう。レポートは個人ごとに書いてもらう。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
復習を中心に定着を図ることが望まれる。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
各段階ごとに進行具合をチェックし、それに対して、フィードバックを行ってすすめていく。

[ディプロマポリシーとの関連性]
この科目はディプロマポリシーに定める「広い学識と、高度な学識を備え、専門性を必要とする職業を担うための優れた能力を身につける」ことを目標とする。特に研究を企画・実施・分析するための方法の習得を目的とする。

[テキスト]
「新版要説心理統計法」山上暁・倉智佐一著　北大路書房、ISBN 978-4-7628-2295-7
（この教科書でなくてもいいが、何か一つ統計の教科書を持っていてほしい）

[参考文献]
「社会心理学研究入門」末永俊郎編　東京大学出版会
「SPSS と Amos による心理・調査データ解析」小塩真司著　東京書籍

[備考]
コロナの時代に、遠隔授業用に、作成した動画が Youtube に置いてある。これらも利用して、繰り返し視聴し、理解を深めてほしい。

質的研究法

科目ナンバー	ICP 2222-L
2単位：集中	2〜4年
薛　海升	

[科目補足情報]
この授業では、学生自らが問題意識を持って課題を発見し、探求し、それを調べ、その課題を深めていく。1つのテーマについて理論を得るグループ実習においては、ディスカッション、協働作業が必要です。

[到達目標]
①質的研究の意義と目的を理解する、②さまざまな質的研究法の特色を知る、③質的心理学の理論について説明できる、④質的データを収集できる、⑤質的研究の分析のプロセスを学ぶ、⑥質的研究の分析を行う自分自身について内省を深めること、⑦自分の研究をまとめ、レポートを作成できる、⑧グループで協働し、実習を行うことができる、⑨研究をまとめて発表できる、⑩日常生活のなかや現場実践での経験を研究に結び付ける意欲とスキルを養う

[履修の条件]
①日常生活のなかに問いや驚きを感じられること、②グループワーク、グループディスカッション、発表を行うため、ほかの受講生と互いに協力したり、自分の意見を述べたりすること、③各回の授業の間で内容的な関連が強い授業であるため、欠席しないこと。これらを十分に理解し行動に移せる学生である必要がある。

[講義概要]
この授業は研究法（つまり、方法）を学ぶ授業であり、方法を実践する自分自身のスタイルを自覚する授業でもある。授業で課される宿題や、研究法の実践、分析プロセスを体験することを通じて、技法の獲得のみならず、自己への覚知を促していきたい。具体的な質的研究法としては、観察法とインタビュー法を取り上げる。実際に質的データに触れ、あるいは質的データを生み出し、得られたデータの分析を行う。分析の技法はステップを分けて細かく解説し、データをまとめあげて文章化する作業を行う。また、テキストや質的研究法を用いた論文を読み、さまざまな質的研究法を概観する。なお、講義を行う際にはパワーポイントの提示や配布資料を用いる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　①受講者の研究的関心、本講義への期待を話し合う　②講義：質的研究とは
第2回　講義：質的研究の特徴、理論的背景について
第3回　講義と演習：様々な質的研究に触れる
第4回　演習：相互作用の観察（分析の視点を見出す）
第5回　演習：相互作用の観察（焦点的にみる）
第6回　①文献購読（発表）：観察法を用いた質的論文を読む
②ディスカッション
第7回　①講義：インタビュー法
②文献購読（発表）：インタビュー法を用いた質的論文を読み込む
③インタビュー法の実習：グループに分かれてインタビューガイドを作成する
第8回　①講義：インタビューでの聞き方、問いの発し方
第9回　①演習：インタビューを実践する
②講義：トランスクリプトの作成
第10回　①演習：インタビューデータの分析
②講義：何を意味ある語りとして選択するか
第11回　①演習：インタビューデータの分析
②講義：グループ編成
第12回　①演習：インタビューデータの分析
②講義：初期的分析と焦点化的分析
第13回　①分析結果の発表と相互評価、教員からの講評
②レポートの書き方

第14回　講義と演習：質的研究と AI
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
グループディスカッションでの積極的な発言や質問、授業への意欲を評価する
グループワークにおける積極的な態度を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。従って、分析資料や参考文献を読んでくること、課題をまとめること（個人作業・グループでの作業）などの課題を行った上で授業を受けることになる。

[試験・レポート等のフィードバック]
①リアクション・ペーパー、課題の報告に対して、その都度、コメントする。
②実習の際は、教室内を周り、学生の作業内容や質問に対して指導、コメント、評価する。
③分析のまとめ発表の際には、課題達成レベルや問題点についてレポート作成の参考になるようなコメントをする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
ヒューマン・ケアに必要な資質は、現場で出会う課題の本質をとらえ、問題点の発見と適切な分析を行って改善・解決への提言を行い、自らも実践と研究の回路を歩むことである。本講義では人間への深い関心と共感に基づき、実践・研究に重要な問題の把握や分析力、コミュニケーション能力を養う。

[テキスト]
指定しない

[参考文献]
○能智正博（2011）臨床心理学をまなぶ6 質的研究法.東京大学出版会
○川喜田二郎（1967）発想法.中公新書.
○無藤隆・南博文・麻生武・やまだようこ・サトウタツヤ（編）（2004）質的心理学−創造的に活用するコツ（ワードマップ）.新曜社

[備考]
観察法の授業ではビデオデータを扱うため、PC を使用する。

交流分析

科目ナンバー	ICP 2223-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
田副　真美、青木　絢子	

[到達目標]
①交流分析の理論を理解する。
②交流分析の理論の学びを日常生活の対人コミュニケーションの理解に活かすことができる。
③交流分析の理論の学びを日常生活のより良い対人コミュニケーションに活用できる。
③交流分析の理論におけるワークやエゴグエラムの体験から自己理解を深める。

[履修の条件]
「心理学」、「臨床心理学概論」などの基礎的な科目を履修した上で、受講することが望ましい。

[講義概要]
交流分析（Transactional　Analysis：TA）は、1950年代米国の精神医学者エリック・バーン（Berne,E.）によって創始されたパーソナリティ理論やコミュニケーション理論で、またその理論による心理療法でもある。TA は、ジークムント・フロイト（Freud,　S.）の創始した精神分析をもとにしているが簡潔でわかりやすい言葉を使って理解しやすいことが特徴である。TA のゴールは、自身の性格・行動パターンや人間関係のダイナミクスをさぐり、ありのままの自己を発見し、障害に感じている現在の不適応の状況の「気づき」を深めることにより、それを修正して、自分らしい生き生きとした日常を送るという自己実現にある。現在は、医療現場のみならず、教育現場、企業・産業現場、司法矯正の場あるいは日常生活の場などで広く利用されている。本講義では、TA の理論、対人援助の場面での活用（アセスメントや介入など）について学ぶ。また、自身の自己理解の一助として、ワークやエゴグラムの体験を予定している。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　授業の狙い、講義の進め方、授業に使用するテキストや参考文献の紹介
第2回　構造分析1
　　①自我状態
　　②自我状態モデル
第3回　構造分析2
　　①エゴグラムの体験と解説
　　②ワーク
第4回　構造分析3
　　自我状態：構造上の病理（汚染と除外）
第5回　やり取りの分析1
　　交流パターンの分類：相補交流、交叉交流、裏面交流
第6回　やり取りの分析2
　　①コミュニケーションの原則
　　②ワーク
第7回　ストローク
　　時間の構造化
　　ストロークと時間の構造化のワーク
第8回　基本的構え
　　①基本的構えとエゴグラム
　　②ワーク（紙上）
第9回　（心理）ゲーム分析1
　　①ゲームとは
　　②ゲームの特徴
　　③ゲームのレベル

第10回　ゲーム分析2
　　①ゲームの過程と分析方法
第11回　ゲーム分析3
　　①ゲームをするのはなぜか
　　②ワーク（紙上）
第12回　脚本分析1
　　①脚本とは
　　②脚本の構成要素：禁止令、拮抗禁止令
　　③脚本のでき方
第13回　脚本分析2
　　①自身の脚本のテーマを知る
　　②脚本の種類
　　②脚本を書き直す
第14回　まとめ
　　①交流分析のゴール
　　②自律性と自律を達成するための3つの能力
第15回　期末レポート

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（10%）

［ 成績評価（備考） ］
授業参加態度、ワークに関する小レポート、レポート試験により評価する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
連続する複数回の授業では、必ず前回の資料や検査に目を通し、講義に臨むこと。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、「3. 総合的・実践的な学習能力」、「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。公認心理師や臨床心理学の専門家としての実践的な知識と技術をを身に付けることができる。

［ テキスト ］
中村延江・田副真美・片岡ちなつ（著）「図解＆ワークでわかる・身につく　初学者のための交流分析の基礎」　金子書房
2,600円　ISBN 9784760823710
あるいは
中村延江・田副真美・片岡ちなつ（著）「図解＆ワークでわかる・身につく　初学者のための　交流分析の基礎（電子書籍）
2,600円

［ 参考文献 ］
必要な資料を適宜配布する。

［ 備考 ］
「実務経験のある教員による科目」
公認心理師および臨床心理士として、特に医療・教育領域等における心理臨床経験を活かして、実践的な講義とワークを行う。

精神分析学

科目ナンバー	ICP 2224-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
石川　与志也	

［ 到達目標 ］
①公認心理師の職責について理解する
②臨床心理専門職の倫理について理解し、専門家として自らの行為の判断、選択、実行の決断をするための基礎を身につける

［ 履修の条件 ］
与えられることを待つのでなく、自らの探究心と自己責任性を持って公認心理師の職責を理解しようとする熱意のある学生の履修を期待する。

［ 講義概要 ］
公認心理師の職責の具体的内容について学ぶ。特に、公認心理師の法律と倫理についての理解を深め、専門職としての考え方の基礎を身につけることができるようディスカッションを重視したい。

本講義は、以下の内容を含む
1公認心理師の役割
2公認心理師の法的義務及び倫理
3心理に関する支援を要する者等の安全の確保
4情報の適切な取扱い
5保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務
6自己課題発見・解決能力
7生涯学習への準備
8多職種連携及び地域連携

■授業計画
第1回　公認心理師の職責とは何か
第2回　公認心理師の役割
第3回　汝自身を知れ：倫理的な行為の主体
第4回　公認心理師の法的義務
第5回　公認心理師の倫理（1）：安全の確保
第6回　公認心理師の倫理（2）：情報の適切な取り扱い
第7回　公認心理師の倫理（3）：専門家としての責任
第8回　職業倫理に関わる実際問題（1）
第9回　職業倫理に関わる実際問題（2）
第10回　公認心理師の具体的業務（1）保健医療分野
第11回　公認心理師の具体的業務（2）教育および福祉分野
第12回　公認心理師の具体的業務（3）司法・犯罪および産業・労働分野
第13回　専門家としての発達：自己課題の発見解決能力および生涯学習への準備
第14回　多職種連携と地域連携

第15回　レポート

[成績評価]
試験(30%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(10%)

[成績評価(備考)]
ディスカッションへの参加を評価する

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。
クラスで提示された課題に取り組み、クラスの内容の復習をすること。教科書および参考文献等の関連文献を自分で読み進め、公認心理師の職責の理解を深めること

[試験・レポート等のフィードバック]
・リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義において行う。
・講義内小テストの解答・解説は、原則としてテストが実施された翌週に行う。
・期末レポートの評価について個別のフィードバックが必要な場合は、個別に対応するので教員にアポイントメントを取ること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
公認心理師の職責を学ぶ本科目は、「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」を基盤とし、「3.総合的・実践的な学習能力」と「4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を習得することで、臨床心理学の専門家になるための基盤として、上記4つのディプロマポリシーと関連する態度、知識、技術の基礎を身につけることができる。

[テキスト]
野島一彦編(2023)公認心理師の職責. 第2版　遠見書房、ISBN-13 ： 978-4866161662
その他、資料を配布する

[参考文献]
Anderson, S.K. & Handelsman, M.M.(2010). Ethics for Psychotherapists and Counselors：A proactive approach. Wiley-Blackwell.
金沢吉展(2006)臨床心理学の倫理を学ぶ. 東京大学出版会.
小谷英文(2006)心理教育的介入の倫理. 小谷英文編著　現代のエスプリ別冊　心の安全空間―価値・地域・学校・社会. 至文堂. pp.268-277.
仲正昌樹(2009)今こそアーレントを読み直す.講談社現代新書.
中山元(2017)アレント入門.ちくま新書.
矢野久美子(2014)ハンナ・アーレント-「戦争の世紀」を生きた政治哲学者.中公新書.

その他、随時紹介する。

[備考]
「実務経験のある教員による科目」臨床心理学の専門家としての実務経験を生かして、公認心理師の職責に関わる具体的内容に関する教育を行う。

サイコドラマⅠ

科目ナンバー	ICP2225-P
1単位：前期1コマ	2～4年
谷井　淳一	

[科目補足情報]
最初の授業でグループ分けを行い、以後、隔週に実施する。Aグループの翌週はBグループとなり、交互に授業を実施する。

[到達目標]
①集団心理療法の1つであるサイコドラマを体験し、その目的を理解する。
②主役や補助自我および観客役割を経験することにより、自己理解や他者理解をすすめる機会とする。
③他者に対する共感性を高め、安心感のあるグループを形成し、癒しの体験を共有する。
④このグループで得た新たなつながりによって、学生の皆さんのキャンパスライフが豊かになって欲しいと考えている。いいキャンパス仲間をこのグループの中で一緒に作り共通の良い体験を味わいましょう。
⑤サイコドラマはこころを扱うので、その適用の限界や実施上の注意点についても理解をする。

[履修の条件]
希望者を2つのグループに分け、全7回を隔週(2週間に1回のペース)で実施する(単位数は1)。サイコドラマを初めて受講するものは原則として前期から始めてほしい。1グループは15人程度としたいので、何らかの方法で、人数制限か人数調整をする。授業開始日にグループ分けを行うので第1日目は必ず出席してください(1回目だけ252などの大きめの教室で行い、2回目からは小さめの教室(161または162)に移動する。掲示に注意してほしい)

[講義概要]
(1)サイコドラマの目的
サイコドラマは、即興的なドラマ表現を媒介として、個人に自己理解あるいは自己洞察をもたらすことを期待した心理療法である。臨床心理学を学ぶものとして、個人を対象にした技法とともに集団を対象としたスキルを身につけることも将来的に必要となる。そこで、集団心理療法の1つである「サイコドラマ」を体験的に学習する。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し体験的に学ぶ。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法について体験的に理解をはかる。

■授業計画

第1回　サイコドラマについての概要を説明する。
グループ分けとグループメンバーを知るワークを実施する。
サイコドラマ実施上の限界や注意点についても理解する。
第2回　サイコドラマの構成の体験的理解
これまでのサイコドラマの記録を読んで、サイコドラマのすすめ方に関する理解を深める。
第3回　「自分にプレゼントをする」のワークから連想するテーマに関するドラマ体験（ただし第3回以降のテーマは変わる可能性もある）
第4回　「もう一度行きたい場所」をテーマにしたドラマ体験
第5回　「エンプティチェア」から連想したテーマに基づくドラマ体験
第6回　「最近の自分に対する評価」をテーマにしたドラマ体験
第7回　「自分にとってベスト月，ワースト月」をテーマにしたドラマ体験
第8回　1単位なので第7回で終了である

［ 成績評価 ］

試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］

授業への積極的参加（主役体験、補助自我体験への立候補）を期待している。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］

本科目では各授業回におよそ200分の復習時間をとって、各授業での体験を自分にあてはめて振り返りをしてください。以下の内容をレポートにしてもらうので、その日の役割やその日感じたことをメモしておいてください。その際の観点をまとめておく。
(1) 各回ごとにどんな役割（主役・補助自我・観客）をして、何を感じたか。
(2) サイコドラマの体験が、自分の日常に影響を与えたか。
(3) 自分の課題に気づいたことがあったか。何らかの課題解決に役立ったか。
(4) 主役体験をする前としたあとのサイコドラマのイメージや自分のことについて違いがあったか。主役をやらなかった場合はどうしてやらなかったか。
(5) 感想など

［ 試験・レポート等のフィードバック ］

毎回、シェアリングの時間をとって、その授業の振り返りを行う。必要に応じてその場でフィードバックを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］

1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。サイコドラマに積極的に参加することにより、他者理解だけでなく自己理解も深めることを目指す。

［ テキスト ］

とくになし、必要に応じて参考文献を読んでください。

［ 参考文献 ］

谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎著「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

サイコドラマII

科目ナンバー	ICP 2226-P
1単位：後期1コマ	2〜4年
谷井　淳一	

［ 科目補足情報 ］

監督としてのドラマの進め方を学び、監督の役割を体験的に理解する。昨年までサイコドラマⅢとサイコドラマⅢ演習の合体科目だったものを名称変更した。今後は、サイコドラマⅡとサイコドラマⅢを合体して実施する

［ 到達目標 ］

①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。
④主役体験についても、同時に参加者が体験するのでよりサイコドラマに関する理解が深まり、癒しの体験を集団で味わうことができると思う。
他の授業でなかなかできない自己表現の機会を提供するので、積極的に参加し自己表現をやってみてください。

［ 履修の条件 ］

サイコドラマⅡとⅢを合体させて2単位の科目として実施する。そのため、サイコドラマⅡとⅢを同時に履修してください。履修登録にあたっては、Ⅲは、後期の集中科目のところにあるので、忘れずに登録してください。

［ 講義概要 ］

(1) 将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校で集団活動の指導の機会を持つ可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
(2) サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
(3) サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画

第1回　ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
第2回　ウォーミングアップのいろいろ
第3回　主役選択の方法とファーストインタビュー
第4回　ロールリバーサルの使い方
第5回　ドラマをどのように展開するか(1)

第6回　ドラマをどのように展開するか(2)
第7回　ウォーミングアップから主役選択・ドラマ進行までの監督体験1(以下の回を通じて、できるだけ1人につき1回は監督体験の機会がもてるようにしたい)
第8回　「第8回から第14回は一人ずつ、監督体験をしてもらう」
ウォーミングアップから主役選択・ドラマまでの監督体験2
第9回　ウォーミングアップから主役選択・ドラマまでの監督体験3～9
(第9回～第14回)一人1回は、主役および監督体験ができることを目指したい

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
授業への積極的参加を期待している。主役のためのテーマを考えてきてほしい

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
この授業を1回履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどういう学びがあったかを復習しながら参加してほしい。社会に出て働くようになって将来サイコドラマのスキルが必要になったときにもう一度学びなおせるように基本的な考え方を体得してもらう。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。授業後に自分が今回の授業でとった役割を振り返り、どのような気づきがあったかをまとめておいてください。

[試験・レポート等のフィードバック]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(復習等)を必要とする。毎回、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、その際に出た質問について、フィードバックを実施する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。監督をすることにより、主役のテーマを把握しどのようにドラマを組み立てるかを学習する。

[テキスト]
必要であれば以下の参考文献を参照してください。谷井の著作は監督としてドラマをどのようにすすめるかを平易に説明しています。サイコドラマの構成の仕方について事例も豊富に取り上げていますので、楽しみながら読めると思います。

[参考文献]
谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

[備考]
レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々にA4判用紙2枚ずつ程度書いてもらう予定である。主役体験はこれまでのサイコドラマIと同じような観点から書いてください。監督体験(ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成)に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含めやってみた感想や考察を書いてください。

サイコドラマIII

科目ナンバー	ICP2227-P
1単位：後期1コマ	2～4年
谷井　淳一	

[科目補足情報]
昨年までは、サイコドラマⅢとⅢ演習という名称であったものが名称変更になっている。1単位のサイコドラマⅢとⅡをまとめて2単位として実施する。必ず、サイコドラマⅡとⅢの両方を履修してください。

[到達目標]
①サイコドラマの監督として、特定のグループに対してサイコドラマを実施する方法を学ぶ。
②ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割を理解し、その流れを会得する。
③ダブル・ミラー・役割交換などの適切な使い方を会得する。
④主役体験についても、同時に参加者が体験するのでよりサイコドラマに関する理解が深まり、癒しの体験を集団で味わうことができると思う。
他の授業でなかなかできない自己表現を積極的にやってみてください。

[履修の条件]
サイコドラマⅡとⅢを合わせて2単位として実施する(前半7コマはサイコドラマⅡ、後半7コマはサイコドラマⅢであると考えてください。)
だから、Ⅱと同時にサイコドラマⅢも必ず履修登録してください。「サイコドラマⅢ」は、登録上の都合で、「集中授業」の場所で履修登録をしてください。登録の仕方が難しいので注意してください。わからない場合は、谷井または事務室で履修登録の方法を聞いてください。

[講義概要]
(1)将来、病院や福祉施設でのデイケアや学校で集団活動の指導の機会を持つ可能性がある。グループを運営する方法の一つとして、サイコドラマの方法は役に立つ技法である。そのためのスキルを学ぶ。
(2)サイコドラマの構成
サイコドラマは、集団のウォームアップ、個人のウォームアップ、主役の選択、ドラマ化、シェアリングという一連の流れをもっている。これらの流れを理解し、監督として実践する。
(3)サイコドラマの要素
サイコドラマは、主役、補助自我、観客などの要素からなり、主役の世界を立体的に表現していく。そのために、ダブルやロールリバーサル、ミラー、などの技法を駆使する。その技法を学ぶ。

■授業計画

第1回　ウォーミングアップ、ドラマ化、シェアリングの役割
第2回　ウォーミングアップのいろいろ
第3回　主役選択の方法とファーストインタビュー
第4回　ロールリバーサルの使い方
第5回　ドラマをどのように展開するか(1)
第6回　ドラマをどのように展開するか(2)
第7回　ウォーミングアップから主役選択までの監督体験1(できるだけ1人につき1回は監督体験の機会がもてるようにしたい)
第8回　「第8回から第14回はサイコドラマⅢとして実施する」ウォーミングアップから主役選択・ドラマまでの監督体験2
第9回　ウォーミングアップから主役選択・ドラマまでの監督体験3

[成績評価]

試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]

授業への積極的参加を期待している。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(復習等)を必要とする。この授業を1回履修しただけで、ただちに監督ができるようになるわけではないが、できるだけ丁寧に手ほどきをしたい。1回1回の積み重ねが大切であるので、セッションごとにどういう学びがあったかを復習しながら参加してほしい。働くようになって将来サイコドラマのスキルが必要になったときにもう一度学びなおせるように基本的な考え方を体得してもらう。授業後に自分が今回の授業でとった役割を振り返り、どのような気づきがあったかをまとめておいてください。

[試験・レポート等のフィードバック]

毎回、シェアリングの時間、レビューの時間を設け、その際に出た質問について、フィードバックを実施する。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(復習等)を必要とする。

[ディプロマポリシーとの関連性]

3. 総合的・実践的な学習能力、及び4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。監督をすることにより、主役のテーマを把握しどのようにドラマを組み立てるかを学習する。

[テキスト]

必要であれば以下の参考文献を参照してください。谷井の著作は監督としてドラマをどのようにすすめるかを平易に説明しています。サイコドラマの構成の仕方について事例も豊富に取り上げていますので、楽しみながら読めると思います。

[参考文献]

谷井淳一著「自己成長のためのサイコドラマ入門」日本評論社
高良聖著「サイコドラマの技法」岩崎学術出版
磯田雄二郎「サイコドラマの理論と実践」誠信書房

[備考]

レポートは、この授業で体験したことを、「主役体験で感じたこと」と「監督体験で感じたこと」を別々にA4判用紙2枚ずつ程度書いてもらう予定である。主役体験はこれまでのサイコドラマⅠの授業と同じ観点から書いてください。監督体験(ウォーミングアップの工夫、主役へのファーストインタビュー、役割交換、ミラーなどの指示や全体の構成)に関しては、うまくできたところ難しかったところなどを含めやってみた感想や考察を書いてください。

卒業演習プレゼミナール

科目ナンバー	ICP2305-S
1単位：前期1コマ	3年
笹尾　千津子、田副　真美、加藤　純、植松　晃子、石川　与志也、青木　絢子	

[科目補足情報]

この授業内でゼミ配属の説明と希望調査を実施する。「卒業演習Ⅰ」(後期)の履修を希望する学生は必ず履修すること。(臨床心理コース、子ども支援コースの学生(2023年度以前入学)の希望者を含む)

[到達目標]

①卒業論文のテーマの設定の仕方を学ぶ。
②卒業論文の書き方の基本を学ぶ。
③卒論に良く使う統計分析に関する理解を深める

[履修の条件]

来年度, 心理学的方法論に基づいて卒業論文を作成するつもりの学生。また, 卒論は書かないが卒業演習のゼミには参加したい場合も履修すること。本学では, 卒業論文は必修科目にしていないが, 将来, 大学院に進学することを考えている学生は, 必修に準ずると考えて, 履修してほしい。学部の段階で卒業論文の作法を会得しておかないと大学院進学ならびに進学後の研究に支障がでるので, 学部の勉強の集大成として取り組んでほしい。
なお, 心理学研究法Ⅰ, 心理学研究法Ⅱ, 心理学実験, 質問紙調査法, などを履修済みか並行履修していることが望ましい。

[講義概要]

卒業論文のテーマを選ぶために先行研究の選び方と, 論文の読み方, 卒業論文の執筆の仕方, 引用文献の表示の仕方などを学ぶ。いくつかの論文を精読し, どのように論を展開しているか, どのような統計分析を用いて結論を出しているかを理解する。

■授業計画

第1回　オリエンテーション：授業の進め方
　　卒業研究の方法
第2回　卒業論文の書き方①
第3回　論文の読み方1：因子分析
第4回　論文の読み方2：因子分析・t検定
第5回　論文の読み方3：相関と1要因分散分析
第6回　論文の読み方4：2要因分散分析
第7回　卒業論文の書き方②

第8回　最終レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(100%)、小テスト(0%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
出席が講義回数の2/3を満たさない場合には単位取得を認めない。各回のリアクションペーパーの提出をもって出席とする。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各自で自身の研究に関連した本や論文を読みすすめること。本科目では各授業回におよそ50分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業の感想・質問などに対するフィードバックを次回の講義において行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的実践的な学習能力」に該当する。これまで学んできた, 仮説を実証する考え方に関して, さらに理解を深める。

[テキスト]
とくに定めない。必要に応じてプリントを配布する。

[参考文献]
とくに定めない。

臨床心理英語論文読解

科目ナンバー	ICP 2229-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
植松　晃子	

[到達目標]
英語で心理学の研究論文を正しく読む力を身に付ける。研究論文がいかに構成されているかを学び、一文、一パラグラフごとにしっかり理解する。また問題、方法、結果、考察で何が表現されているかを適切に読み取ることができるようにする。

[履修の条件]
2年生以上が履修できる。欠席せず参加し、心理学の英語の論文を読めるようになりたいと熱意を持った学生を求める。心理学分野の研究論文を読むため、前年までに臨床心理フレッシュマンゼミ、統計法の授業を受講し、日本語の心理学の専門書や論文に触れていることが望ましい。これらの授業を受講していない場合や聴講の希望がある場合でも受講できるが、事前に相談をしてください。

[講義概要]
通常授業の場合は、英語論文を読んでいく予定である。授業の予習が求められ、毎回の課題がある。基本的にシラバスに従うが、受講生の人数や授業展開によって適宜変更がある。初回授業で使用する論文を紹介する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　：心理学の研究論文の構成・特徴についての解説と授業で読む論文の紹介
第2回　論文を読み構造を掴む1
第3回　論文を読み構造を掴む2
第4回　論文を読み構造を掴む3
第5回　論文を読み構造を掴む4
第6回　論文を読み構造を掴む5
第7回　英語論文を読む1
第8回　英語論文を読む2
第9回　英語論文を読む3
第10回　英語論文を読む4
第11回　英語論文を読む5
第12回　英語論文を読む6
第13回　英語論文を読む7
第14回　英語論文を読む8
第15回　-

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(10%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
試験は英語論文の翻訳課題によって評価する。予習や復習をして積極的に参加することが望ましい。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各自、基本的に毎回の課題として積極的な予習復習を求めます。授業中に修正した点については復習することで英語論文に精通していってください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自が予習してきた箇所については授業で確認する。勉強方法について、クラスの中で情報共有する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。英文の学術論文に触れることで、英語力を用いて心理学研究の方法論や研究によって分かる内容の理解を深めることができる。

[テキスト]
適宜紹介する

[参考文献]
適宜紹介する

臨床心理特講（大学院進学支援講座）

科目ナンバー	ICP 2230-L
1単位：前期1コマ	2〜4年
黒岩　千枝	

［ 到達目標 ］
本講義では，受講者が心理学系または臨床心理学系の大学院の受験準備に主体的に取り組めるようになることを目標とします。また，進路に関する目標を各自で設定できることを目指し，自身の職業適性や関心のある研究テーマについて方向性を深めることを目標とします。
1：大学院の試験の仕組みの基本を理解する。
2：専門試験に向けての基礎知識を身につける。
3：関心のある研究テーマについて考え、理解を深めることができるようになる。

［ 履修の条件 ］
大学卒業後あるいは近い将来，心理学・臨床心理学系の大学院への進学を考えている2〜4年生が対象です。
※大学院の進学を見据え、就職進路相談室による説明会などを活用して進路を考え、目標を持って参加することを期待します。
※大学4年生の履修も可能です。ただし、本授業は受験時期に十分な余裕をもって学習を進めることを目的としているため、直近の受験対策を目的とした内容ではない点をご理解ください。

［ 講義概要 ］
本講義では，心理学・臨床心理学系の大学院進学を目指す受講者の目標設定を支援します。
具体的には，①大学院の試験の仕組み，②心理学の各領域のトピックの学習（専門知識に関する問題への解答），③研究テーマの設定について学びます。
授業はパワーポイントを用いて行います。

■授業計画
第1回　オリエンテーション,大学院受験に向けた心構えと勉強方法
第2回　大学院試験と大学院の選び方について
第3回　重要用語・人物の知識整①：認知心理学
　　大学院についての調査報告①
第4回　重要用語・人物の知識整②：発達心理学
　　大学院についての調査報告②
第5回　重要用語・人物の知識整③：学習心理学
　　大学院についての調査報告③
第6回　重要用語・人物の知識整④：臨床心理学
　　大学院についての調査報告④
第7回　研究計画の立て方と書き方
第8回　-

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（20%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］
レポート（進学候補先となる大学院を調査した結果の報告）と専門知識に関する問題への回答、研究計画書の作成によって成績評価を行います。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
1：関心に応じて進学先候補となる大学院をインターネットや資料請求によって，情報収集を行うこと
2：予習として，「重要用語・人物の知識整理」回では，対応する領域に関して専門用語を確認しておくこと。
3：復習として，正答と解説を示した資料をもとに専門用語を確認すること

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
授業の感想・質問などに対するフィードバックは次回の講義において行います。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。
この科目習得することで，心理職を志す者としての態度，自主的に学ぶ学習能力を身に付けることができるようになることを目指す。

いのち学序説

科目ナンバー	IHS 2101-L
2単位：後期1コマ	1〜2年
宮本　新	

［ 到達目標 ］
「いのち」をめぐるこんにちの諸問題に目を向け理解する。特にキリスト教的人間理解の視座に立ち、人間存在を継続して思索するための基礎的知識と方法を獲得することを目標とする。

［ 履修の条件 ］
「いのち」に関する諸問題に関心を持ち、クラスでのディスカッションならびにグループワークに積極的に取り組む者。

［ 講義概要 ］
現代社会における「いのち」をめぐる諸問題を踏まえ、キリスト教の視座に学び考える授業。毎回の授業では、主体的に考え、「いのち」について自らの考えを他者に伝えたり、また他の意見に耳を傾ける学習を通して、より深い学びを求めることになる。

■授業計画
第1回　序論　いのち学とは
第2回　キリスト教のいのちの理解
第3回　いのちのはじまり
第4回　生きるということ　社会・文化の中で
第5回　いのちと生命倫理①
第6回　いのちと生命倫理②
第7回　いのちと生命倫理③
第8回　障がいを生きる
第9回　いのちの終わりに向かい合う
第10回　いのちと自然
第11回　死後の世界・いのちと宗教
第12回　他者と共に生きる
第13回　求められる和解

第14回　まとめ　いのちのケア
第15回　試験

[成績評価]
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
授業毎のリフレクションペーパーの提出や積極的な授業参加。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では毎授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）を要する。主に授業等で紹介された参考文献にあたり、授業ごとの主題について自分の意見をまとめられるよう学習する。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義に加えて、クラス内のディスカッションや授業毎のリフレクションペーパーを積み重ね、より深い理解に到達することを目指します。学期末はそれぞれの学びの理解をはかる機会となる。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」を養うことに関わる。キリスト教的人間理解を広く学ぶこと、また個別研究をクラス履修者と共同して行う。

[テキスト]
テキストは特にない。適宜、聖書を用いる。

[参考文献]
参考書は、その都度クラスで紹介する。

人間学フレッシュマンゼミ

科目ナンバー	IHS3101-S
2単位：後期1コマ	1年
宮本　新	

[到達目標]
科目としての人間学ならびにキリスト教人間学の内容は幅広くまた深い。その範囲とアプローチについて入門的な知識を習得する。

[履修の条件]
人間学について総合的に取り組むことに関心がある人。

[講義概要]
キリスト教を基盤とした人間学と諸学専門分野の人間学的アプローチから総合的に学ぶオムニバス形式の講座。「キリスト教人間学」を入門的に学び、各自の関心や研究テーマを探究する演習科目となる。

■授業計画
第1回　序論：キリスト教学と人間学～その研究範囲
第2回　聖書とリテラシー①　図書館活用術
第3回　聖書とリテラシー②　読む力、生きる力
第4回　キリスト教といのち①
第5回　キリスト教といのち②
第6回　キリスト教と歴史①
第7回　キリスト教と歴史②
第8回　宗教と文化①
第9回　宗教と文化②
第10回　宗教と文化③
第11回　宗教と文化④
第12回　キリスト教と現代世界①
第13回　キリスト教と現代世界②
第14回　まとめ：研究発表
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
期末レポートと各授業への積極的な参加。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとのディカッションや質問についてはクラス内で深め、フィードバックを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際を批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

[テキスト]
随時配布する。

旧約聖書精読

科目ナンバー	IHS2102-L
2単位：後期1コマ	1～2年
安田　真由子	

[到達目標]
このコースでは、旧約聖書のテキストを丁寧に読み、聖書の登場人物や出来事に親しむことに重点を置く。

[履修の条件]
特になし。旧約聖書に関心を持つ学生の積極的な参加を期待する。

[講義概要]
授業は主にテキストを読み、一緒に議論することで構成される。受講生は質問をし、意見を共有することが要求される。講義では、必要に応じて美術や音楽も取り上げる。

■授業計画
第1回　イントロダクション
　　旧約聖書や授業概要についての説明
第2回　聖書と歴史記述について
　　人類の始まり（創世記）
第3回　アブラハムの召命と「約束の土地」（創世記）
第4回　モーセとヘブライ人：エジプトにおける奴隷時代
第5回　出エジプト：奴隷からの解放（出エジプト記）
第6回　荒野をさまようヘブライ人（出エジプト記）
第7回　カナンへの入植（ヨシュア記）
第8回　士師たちの時代（士師記、サムエル記）
第9回　王政へ（サムエル記）
第10回　ダビデとソロモンの黄金時代（サムエル記、列王記）
第11回　ソロモンの治世：神殿の建設、「背徳」（列王記）
第12回　王国の分裂
第13回　バビロン捕囚と預言者たちの活動
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（40%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（60%）

[成績評価（備考）]
ディスカッションへの参加、毎回のフィードバック、授業内での質問に対する学生の回答及び期末レポートを評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指示された聖書の該当箇所をあらかじめ読むこと。ディスカッション準備も含め各授業回に200分の準備学習（予習・復習など）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
理解できないことについて質問する。面白いと思ったこと、もっと理解したいと思ったことについて、観察する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」及び「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することで、現代社会と人間存在について思考を深めるとともに、全人的なケアにあたって精神的な土台となる神学の専門的な知識を得ることができる。

[テキスト]
旧約聖書（新共同訳、あるいは聖書協会共同訳が望ましい）

[参考文献]
必要に応じて講義中に適宜紹介する。

[備考]
毎回、旧約聖書を持参すること。授業の進捗に応じてシラバス変更の可能性あり。

新約聖書精読

科目ナンバー	IHS 2201-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
黄　大衛	

[到達目標]
歴史と文化に影響を与えた新約聖書を熟読し、その読み方と世界観について学ぶ。またテキストの読解力と自分の考えを表現する力を身につける。

[履修の条件]
聖書に関心があり学ぶ意欲のある人。

[講義概要]
授業毎に新約聖書のテキストを熟読し、おもに以下の3点について学びます。
1）聖書本文を読解し、その読み方を学ぶ。
2）聖書テキストを通して、現代社会と人間存在について考える。
3）学生相互のディスカッションや発題を通じてコミュニケーション能力を磨く。

■授業計画
第1回　概論新約聖書の特徴
第2回　洗礼の意味
第3回　誘惑と試練
第4回　導きについて
第5回　服従について
第6回　神の時・自分の十字架
第7回　幸せについて
第8回　罪について
第9回　赦しについて
第10回　律法と福音
第11回　三位一体について
第12回　隣人愛について
第13回　神の平安
第14回　祈りと祈りの力
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（60%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（40%）

[成績評価（備考）]
期末レポートならびに授業毎のリフレクションペーパーなど。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
1）授業後、当日の内容を復習し、不明な点があれば、次回の授業で聞くこと。
2）授業の終わりに、次回の講義資料を予め配る。講義資料と関連聖書を予め読むこと。
3）ディスカッションの準備を含め各授業回に200分の準備学習（予習100分・復習100分）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
適宜、授業内で口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することを通して、現代社会と人間存在について深く学び、いのちを尊び全人的なケアを実践するための基礎的力を習熟する。

[テキスト]
1）新共同訳聖書
2）毎回レジュメを配布する。

[参考文献]
・「一目で見る四福音書」熊谷定男編著　聖恵授産所出版部出版　1995年
他は適宜紹介する

[備考]
毎回、新共同訳聖書と当日の講義資料を持参すること。

キリスト教の人間観 I

科目ナンバー	IHS2202-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
安田　真由子	

[到達目標]
旧約聖書のさまざまな登場人物を通して、人間や社会の描かれ方について知ること。また、旧約聖書の物語を現代社会の問題と照らし合わせながら、人間が生きるとはどういうことかについて考えを深めること。

[履修の条件]
旧約聖書に興味のある人。

[講義概要]
旧約聖書に登場する人々がどのような文化・価値観・社会の中で生き、自らの信仰と歴史を形成していったのかを学ぶ。旧約聖書と周辺史料を参照しながら、各テーマについて1〜2回の授業時間を使う。基本的に講義形式の授業になるが、一部の題材については視覚教材を活用し、グループディスカッションを行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション―講義の概要、進め方、テキストやその他の参考文献、課題と評価方法などの確認を行う。
第2回　旧約聖書を読むとは―旧約聖書を読む際に必要な知識についての概要と、物語を読んで解釈するとはどういうことかを学ぶ。
第3回　神の似姿としての人間―創造物語（創世記1–2章）を通して、神の形にかたどって人間が造られたとはどういうことかを学ぶ。
第4回　人の悪―いわゆる堕罪の物語（創世記3章）とノアの方舟の物語などを通して、人間の悪とその影響が何かを学ぶ。
第5回　男と女?―創世記とルツ記を通して、人間のジェンダーやセクシュアリティについて考える。
第6回　これまでのまとめ①―これまでの授業で触れられたトピックをディスカッションで掘り下げていく。
第7回　労働と休息―旧約聖書は、人間の罪の報いとして労働の義務が負わされたこと、安息日には休まなければならないことを示している。これらを通して、労働と休息について考える。
第8回　搾取、腐敗、告発―預言者たちの言葉（ミカ書やエレミヤ書など）を通して、経済搾取や政治的腐敗、そしてそれらを告発するということについて学ぶ。
第9回　これまでのまとめ②―授業内容を振り返る記述式のテストを行う。配布された資料やノートを参考にしながら、質問に答えること。課題は授業内で提出を原則とするが、終わらない場合は次回の授業で提出。
第10回　正しい人の苦難―ヨブ記を通して、不条理や神義論について考える。
第11回　語られない人々―ヨブの妻と娘たちの描写から、物語で周縁化されている登場人物と、公正な表象について考える。
第12回　これまでのまとめ③―これまでの授業で触れられたトピックをディスカッションで掘り下げていく。
第13回　女たちのサバイバル―タマルやラハブの物語をとおして、女たちのサバイバルについて、それが物語られていることの意義について学ぶ。
第14回　物語ること、解釈すること―旧約聖書の歴史記述などを通して、現実を物語化（歴史化）することについて考える。
第15回　試験

[成績評価]
試験（40%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
試験と課題を中心に、毎回のフィードバック、授業内での質問に対する学生の回答などを評価する。「その他」にはディスカッションでの貢献が含まれる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業で扱う聖書の箇所および参考文献を、考えながら熟読すること。課題・期末試験の準備を行うこと。ディスカッション回の前には、授業内容を丁寧に復習し、自分の考えをまとめておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーやディスカッションに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題は、訂正やコメントを入れて返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解す

ることによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

[テキスト]
『旧約聖書』(新共同訳あるいは聖書協会共同訳が望ましい)

[参考文献]
必要に応じて授業内で指示。

[備考]
シラバスは、学習の進行具合によって変更の可能性あり。

人間の尊厳と人権

科目ナンバー	IHS 2201-L
2単位：後期1コマ	2〜4年
渡邊　さゆり	

[到達目標]
現代日本において、人間の尊厳/人権が脅かされ続けている現状に気づく。人権課題を概観し、市民運動の歴史や、キリスト教的視点からの取り組みの現状を理解する。現代における「いのちの尊厳」をめぐる議論に接し、隣人性と高い人権意識を持つための基礎知識を得る。

[履修の条件]
講義ではディスカッションなど多様な方法を取り入れる。またレスポンスシートを書くことで自己省察を行う。積極的な講義参与を必要とする。

[講義概要]
「人間の尊厳/人権」の危機とそれに立ち向かう取り組みの具体的な例を取り上げる。特にまず人権とは何かそしてその保障の取り組みを歴史的に概観する。講義後半は、人権課題の各論の観察にとどまらず、人権保障の取り組みを知り、その従事者の動機を探り自己の人権意識を高めてゆくため、学生による発表を展開する。
人種差別問題、ジェンダーとセクシュアリティを特に取り上げ授業を展開する。

■授業計画
第1回　授業の基調と進め方の説明/人権について考えるための基本用語
第2回　人種差別問題：レイシズムとは何か〜BLM、コロナクライシスにおけるヘイトクライム
第3回　日本にもある身分制度、差別について〜インターネット使用による差別の再生産という課題
第4回　アイヌ、琉球の歴史、差別の現状と取り組みから考える〜「多文化共生」
第5回　在日コリアンの歴史、人権回復の取り組みと課題
第6回　在日外国人に対する差別と難民政策について
第7回　民主化運動と人権、人間の尊厳を考える
第8回　ヘイトクライム、ジェノサイドについて
第9回　ジェンダーとセクシュアリティ①概説：女性差別、制度と生活上の差別
第10回　ジェンダーとセクシュアリティ②　フェミニズムの変遷
第11回　ジェンダーとセクシュアリティ③セクシュアルマイノリティ
第12回　ジェンダーとセクシュアリティ④性差別と伝統的キリスト教の信仰理解
第13回　インターセクショナリティとマイクロアグレッションについて
第14回　日常生活の中の人権展(発表)とまとめ
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(40%)、小テスト(0%)、課題提出(60%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
課題提出とは、毎回のレスポンスシート提出のことである。欠席者はこの提出ができないので、注意すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
主に復習を中心に取り組んでもらいたい。基本的な情報を整理し、資料に再度目を通して自分の言葉でテーマについて表現できるように振り返ってもらいたい。本科目では、各授業におよそ200分の準備学習(予習・復習)を必要とする。文献を読むことを含む。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回の講義で、前回のレスポンスシートへの再応答をおこなう。発表、議論への参加に対する口頭での指導を行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本科目を履修することにより、高い人権意識を身につけ、隣人性を養うことができる。

[テキスト]
講義内で資料を配布する。

[参考文献]
適宜提示する

[備考]
受講生は筆記用具、自分の状況に応じたそれに代わるものを持参すること。

生命倫理

科目ナンバー	IHS 2202-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
田島　靖則	

[科目補足情報]
全講義14回のうち、5回以上の欠席で失格となります。

[到達目標]
自由、平等、博愛といった近代以降は自明とされてきた価値観も

また、西欧キリスト教の精神的土台の上に成立した観念である。しかし、そういった近代的価値観の成立は一朝一夕に成ったものではない。本講義は、近現代の人間観を構成するキリスト教的価値観の成立を、歴史的経過を追いながら学び、現代を生きる私たちを支えるキリスト教的人間観について考えてみたい。

[履修の条件]
キリスト教の基礎知識を前提とした講義であるため、1年次で履修すべきキリスト教科目の単位取得者を対象とする。

[講義概要]
キリスト教の価値観に基づいて建国されたアメリカ合衆国においても、「平等」についての考え方は1960年代までは優生思想のパラダイムを脱することは出来なかった。本講義においては、アフリカ系米国人の公民権運動を中心として、それ以前のキリスト教倫理の視点とそれ以後の視点の違いを検証する。また合わせて、人種差別を受けたアフリカ系米国人の多くが、なぜ抑圧者の宗教であったキリスト教を受け入れたのかについても考えたい。アフリカ系米国人の公民権運動は、マーティン・ルーサー・キングJr.牧師と、マルコムXの主張を軸として学びを進める。

■授業計画

第1回　絵本「ちびくろさんぼ」はなぜ廃刊になったのか?
アフリカ系米国人を誕生させた奴隷制度について
米国の国民的画家、ノーマン・ロックウェルの描くアフリカ系米国人の姿
映画「アミスタッド」
第2回　アフリカ系米国人はなぜ、アメリカ合衆国独立宣言(1776年)によって庇護されなかったのか?
「ジム・クロー法」の成立まで
アフリカ系米国人のアイデンティティー
ブッカーT.ワシントン、W. E. B.デュボイスの思想
第3回　デイヴィッド・ウォーカーの指摘
アフリカ系米国人キリスト教徒の誕生
アフリカン・メソジスト・エピスコパル教会の創設
W.E.B.デュボイスの思想1.
第4回　W.E.B.デュボイスの思想2.
米国の教育と人種隔離政策
リトルロックのセントラル高校の事例
ミシシッピ大学のJ.メレディスの事例
第5回　ローザ・パークス事件(1955年)とキング牧師
モンゴメリー・バス・ボイコット運動
第6回　非暴力主義の源泉、マハトマ・ガンジーの「サティヤグラハ」思想
マーティン・ルーサー・キングJr.牧師の生い立ちとキリスト教思想
第7回　キング牧師の「非暴力部隊」とその「入隊誓約」
バス・ボイコット運動から統合教育運動、フリーダムライド運動へ
映画「ミシシッピー・バーニング」
第8回　プロテスト・ソングとしての黒人音楽1
ビリー・ホリディ「Strange Fruit」
もう一人の黒人指導者、マルコムX.映画「マルコムX」
第9回　マルコムXの「民族的威信」と「黒人民族主義」
マルコムXのキング牧師批判
キング牧師は「アンクル・トム」なのか?
「左の頬をも向けなさい式」は正しい方法か?
第10回　アフリカ系米国人と犯罪ロドニー・キング事件
現代の憎悪犯罪(ヘイト・クライム)
社会の縮図であるアメリカ合衆国の軍隊
第11回　民族主義と宗教
プロテスト・ソングとしての黒人音楽2
マヘリア・ジャクソン「Joshua fit the battle of Jericho」「Let the church roll on」
「Come on children, let's sing」
第12回　ジェイムズ・H・コーンの思想1.『黒人霊歌とブルース～アメリカ黒人の信仰と神学～』
第13回　ジェイムズ・H・コーンの思想2.『黒人霊歌とブルース～アメリカ黒人の信仰と神学～』
第14回　ジェイムズ・H・コーンの思想3.『黒人霊歌とブルース～アメリカ黒人の信仰と神学～』
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(100%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
毎授業後に提出するリアクションペーパー(100%)
リアクションペーパーは、当日の講義の振り返り(要点の整理)と感想、意見をその内容とする。
なお、以下に記すとおり各自の自由な研究成果を付け加えることは加点の対象となる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
絵本「ちびくろさんぼ」、ハリエット・ビーチャー・ストウ「アンクルトムの小屋」は事前に読んでおくこと。各自が好みのアフリカ系米国人に関する芸術(文学、音楽)について調べ、授業中にディスカッションできる知識を得ておくことが望ましい。各講義の前後に予習復習を行うこと。合計14回の講義で46時間程度の準備学習時間が求められる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーは、当日の講義の振り返り(要点の整理)と感想、意見をその内容とする。
なお、以下に記すとおり各自の自由な研究成果を付け加えることは加点の対象となる。
リアクションペーパーは講義のあった週の土曜日23時59分までに、指定のメールアドレスに送付すること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この講義で取り上げる事例は、すべて「他者との出会い」と「他者理解」をテーマとしている。

[テキスト]
テキスト購入は不要

[参考文献]
ジェイムズ・H.コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』日本基督教団出版1996年 ISBN4-8184-0250-8

ジェイムズ・H.コーン『黒人霊歌とブルース』新教出版社　1983年　ISBN 4-400-42320-4
Booker T. Washington,"Up from Slavery" Dover Publications, 1995 ISBN 0-486-28738-6
W.E.B. DuBois,"The Souls of Black Folk" Dover Publications, 1994 ISBN 0-486-28041-1

いのちのキリスト教史

科目ナンバー	IHS 2204-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
石居　基夫	

[到達目標]
キリスト教の歴史における「いのち」を守る思想や実践を学び、人間のいのちと尊厳を守る価値観を身につける。

[履修の条件]
履修の前提になる条件は特にないが、グループ、または個人による研究発表も含めて主体的な取り組みに用意のあることが求められる。

[講義概要]
キリスト教の歴史上における人物や出来事における「いのちを守る」取り組みについて、時代を追う形で学ぶ。講義形式と学生（グループ）による発表とを降り重ねて授業を展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション
第2回　旧約聖書：創造といのち
第3回　旧約の民
第4回　新約聖書：イエスの生涯とミニストリー
第5回　初代教会から中世へ
第6回　中世から近代へ
第7回　産業革命と人間①
第8回　産業革命と人間②
第9回　奴隷制から黒人差別
第10回　ヨーロッパとユダヤ人問題
第11回　生命への畏敬
第12回　ジェンダーと多様性
第13回　日本人キリスト者
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（50%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。
さらに、グループなどによって課題に取り組む必要がある。

[試験・レポート等のフィードバック]
毎回の授業リアクションに対して、授業内で応答する。
課題取り組みの評価を教室内で行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」および「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に関係し、キリスト教的視点に立ついのちを守る実践的な知について深く学ぶ。

[テキスト]
特にない

[参考文献]
特にない
必要に応じて、授業内で提示する。

聖書に見るジェンダー

科目ナンバー	IHS 2301-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
梁　熙梅	

[到達目標]
今なおイスラエルの武力行為により、ガザ地区では罪のない多くの人が犠牲になっている。そのイスラエルの暴力的行為を国際社会は止めることが出来ない。ロシア・ウクライナ、ミャンマの場合も同様。また、物価高によって、経済的・身体的に弱い立場に置かれている人々の生活が脅かされ、生きることに混乱を抱えている。武器や経済政策によって傷つけられ、人権が蔑（ないがし）ろにされ、命と自由が奪われている。しかし、人はだれも幸せに生きる権利があり、身体的・精神的にハンディーがあってもなくても、経済的に貧しくても尊い存在である。この授業では、聖書の中の暴力性からくる偏見と差別を暴く。人間は生まれながら尊い存在であり、自分らしく生きる権利をもって造られた者であること。そして、他者や大自然と共に生きるように造られた存在であることを再確認する。

[履修の条件]
まずは、初日のクラスから出席することが求められる。そして、クラスディスカッションに積極的に参加すること。聖書の知識が必要とされるので、提示された聖書個所は事前に読んでくること。視覚教材も用いるので、観たものに対して自分の見解を述べたレポートを提出すること。基本的に欠席は認めない。

[講義概要]
ジェンダー及び性（セックス）についてより具体的に学ぶ。自分の中に築かれているジェンダー概念に気づき、家や社会の中でシステム化されてしまっているがゆえに歪められ失われている人権、または正義について考える。そして、関連のある聖書テキストをいくつか選び、ともに考える。このような学びを通して、本来の人間のあり方、多様性、神と人間の関係、人間と自然界の関係について深く考察する。基本的に講義形式の授業になるが、一部の題材についてはＤＶＤ等の映像や画像を活用する。

■授業計画
第1回　イントロダクション。
　　コースの目的、シラバスの説明、授業の進め方、課題に

ついてなど。
第2回　聖書について①。ヘブル語聖書（旧約聖書）とキリスト教証言書（新約聖書）の神イメージ。
第3回　聖書について②　家父長制・父権制、ジェンダー、セックスをめぐって。
第4回　創世記の創造物語①②
第5回　聖書のテキストを取り上げて考察する。
第6回　聖書のテキストを取り上げて考察する。
第7回　聖書のテキストを取り上げて考察する。
第8回　聖書のテキストを取り上げて考察する。
第9回　ディズニーのＤＶＤを通して考察。
第10回　聖書のテキストを取り上げて考察する。
第11回　イエス・キリストの誕生物語の中のジェンダーと暴力
第12回　ディズニーのＤＶＤを通して考察。
第13回　「平等・共に生きる」ということの考察。
第14回　ルツ記（旧約聖書）の生命共同体としての人間の関わり。
第15回　レポート

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（0％）、課題提出（30％）、その他の評価方法（20％）

［ 成績評価（備考） ］
出席とディスカッションへの積極的な参加と授業の中で出される課題提出とレポート提出。出席は初回の授業から数える。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業の中で示された参考文献や聖書箇所をよく読んでくること。学んだことを自分のものにできるようにしてくること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）が求められる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
考えを深めてディスカッションできるように、授業の中で、次回の授業のために準備してくる課題を伝える。クラスで挙げられたテーマの中から一つ選んでレポートを提出するようにする（最終評価）。文字数は2400字。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
聖書が抱えている課題に関して、積極的にディスカッションへに参与することにより、自己理解っが深められる。それによって、他者を理解し受け入れられる豊かな人間性を身につけ、他者と自然界との共存の大切さを深め、他者の思いや考えの理解と共感、さらには自己思索と思いを言葉化し、状況に応じて適切な発言ができること。

［ テキスト ］
聖書

［ 参考文献 ］
山口里子「虹は私たちの間に」新教出版社、2008年。¥3600+税
山口里子「新しい聖書の学び」新教出版社、2009年。¥1900+税
絹川久子「ジェンダーの視点で読む聖書」、日本キリスト教団出版局、2003年。¥2400+税

人間・いのち・世界

科目ナンバー	IHS1301-L
2単位：前期1・後期1コマ	3〜4年　必修
石居　基夫	

※この科目は、前期又は後期どちらかの履修登録になります。当該年度内で再履修は出来ません。

［ 到達目標 ］
人間とは何か、生きるとはどういうことか。私たちの生を深く掘り下げる視点に触れ、「いのち」の問題に迫っていくためのキリスト教的な思索の基本を身につけることを目標とする。

［ 履修の条件 ］
「キリスト教概論」などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。
また、「いのち学序説」を履修していることが望ましい。

［ 講義概要 ］
関係の存在としての私たち人間のあり方を深く学びながら、生きることの神秘と可能性とを宗教（キリスト教）という地平から探っていく。

■授業計画
第1回　イントロダクション・人間、また宗教に関して学ぶ。
第2回　人間とは何か①
第3回　人間とは何か②
第4回　世界とは何か①
第5回　世界とは何か②
第6回　生きることの意味と価値
第7回　わたしがわたしであること
第8回　心とからだ
第9回　自然の中で
第10回　働くこと
第11回　性と結婚①
第12回　性と結婚②
第13回　人間の罪
第14回　人間・いのち・世界
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（0％）、レポート（80％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることにおよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーや提出物について次回授業内で応答する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」、「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」及び「3.総合的・実践

的な学習能力」に関わり、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

[テキスト]
聖書（日本聖書協会・新共同訳）ISBN：978-4820212058

[参考文献]
パスカル『パンセ』、サン・テグジュペリ『星の王子様』など
授業内で紹介する。

食といのちと環境

科目ナンバー	IHS 2101-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
上村　敏文	

[科目補足情報]
農業、林業、地球温暖化など、環境問題を中心に学びます。あらゆる分野において危機的状況が叫ばれています。有限の地球資源に対して、どのような気持ちで立ち向かっていくのかを真摯に学んでいきます。

[到達目標]
さまざまの文献、資料を参照し、また映像資料を見ながら、食といのちと環境について多角的に学びます。地球の温暖化、原発問題、食糧危機などさまざまな課題について議論をしながら深めていきます。それぞれの立場で、将来の地球をしっかりと他人事ではない議論をして洞察を深めます。それぞれの体力、目標を最大限尊重しますが、自分のハードルをやや高めに設定して、積極的に講義などに取り組み、高い意識をもって環境問題に対応できる能力をしっかりとつけていくことを目標にします。

[履修の条件]
オリエンテーションには必ず出席のこと。アフリカから欧米、そして日本と、将来の地球全体について大きな視野で学んでいきますから、「食」「いのち」「環境」に関心がある人を歓迎しますし、また積極的に意識を高くもってこの重要な課題にチャレンジしてほしいと思います。適宜、学内外の環境調査（学内の植生、近隣の農業など）、また必要に応じて軽い作業（除草など）もします。オンディマンドには対応しません。

[講義概要]
日本の風土と環境、そして世界の環境について、「食といのちと環境」の見地から学んでいきます。いわゆる弥生時代以降、あるいは現代の最新の研究ではすでに縄文時代から行われ始めていたと考えられる稲作と、それにまつわる文化、宗教（神道）の形成と変化、里山の形成と農業とその崩壊。鎮守の森の戦後急激な現象と都市化の影響。化石燃料を中心としたエネルギーの20世紀における消費量の急激な増加と、二酸化炭素の増大、そしてフロンガスとオゾン層の破壊などなど、従来の高度成長、競争的資本主義による根本的な社会構造の変化と危機的状況。いかにそれを克服していくかは、「意識の変化」しかありません。これからの世代が、しっかりと高い「意識」をもち、また世界が注目し始めている、縄文文化と神道の中に、その一つの打開策を見出したいと思います。「うみ　やま　あひだ」という自主映画が、小さな輪から大きな輪になりつつあり、フランスなど海外でも上映の依頼が来始めています。日本だけでなく、欧米諸国でも限られた地球資源をいかに大切に使わせていただくかということがこれからの時代にもっとも求められています。福島の原発問題も含めて、賛否両論のそれぞれの立場を把握しつつ、自然エネルギーのあり方、そして各自の「意識」をしっかりと高くもつための情報提供をしていきます。そして有機農法から自然農法の理念を学びます。栃木県西那須にあるアジア学院の事例を紹介しながら、アジア、アフリカの研修生を受け入れ、現代の最先端の農法ではなく、江戸時代の循環式農法をなぜ教えそして求められているのかを学びます。希望者には研修の情報を適宜供与します。文明社会が栄えたあとに必ず生じている砂漠化について、古代と現代を比較論証していきます。とくにアメリカの農業、そして水資源の争奪戦などを紹介していきます。すでに初代ワシントン大統領の時代からあった土地問題について、学者の間からどのような警鐘が鳴らされてきたかを学びます。最後に「いのち」ということに対して、昨今注目され始めている「平穏死」について多角的に学びます。死は必然的に、そして誰にでも予定されている事実として、徒然草にも記述があるように、生前からしっかりと学んでおく必要があります。前期はその導入をします。「いのち」の観点から、末期がんで余命1ヶ月と宣告された方（アルコール依存症、家庭崩壊など）が一つの出会いにより、新たな「いのち」を授かった実録を学びます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　全体構造と講義の進め方について
第2回　日本と米作り　自然との適応と文化
第3回　稲作文化と神道　農業と祭、儀礼
第4回　森と農業　その密接な関係と歴史
　　森林資源と農業について、南アルプスの自然農法について学ぶ
第5回　環境汚染と地球　微生物と土
第6回　原発と自然エネルギー　両立をはばんできたものと今後
第7回　福島と農業　「農業、やめますか?続けますか?」
第8回　自然農業の可能性　最高かつ手がかからない農業を考える
　　近未来の農業について喫緊の重要課題として討議する
第9回　有機農法とその歴史　その間違えた方向性について
　　会津農民福音学校の立体農業について
第10回　アフリカと農業　過去、現在、そして将来
　　コーヒー園などの試み
第11回　植林文化と日本　そのユニークな取り組み
第12回　砂漠化の現状と将来　アフリカ、中国、そしてアメリカを中心として
第13回　いのちの尊厳と死　だれしもが迎える「その時」をより豊かにするために
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（30%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
積極的な講義の参加（ディスカッション）を望みます。毎回、リアクションペーパーなどで確認すると同時に、しっかりと講義の内容について深めるために課題図書のリーディングを指示します。しっかりとテキストを読んでいることが必要条件として求められています。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義の中で適宜ミニレポートを実施します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」いくかを真剣に学んでいきたいと思っています。

[テキスト]
必要に応じて資料を配布します。

[備考]
参考文献は、講義の中でも適宜紹介していきます。基本的には配布資料。

日本の宗教

科目ナンバー	IHS2102-L
2単位：後期1コマ	1年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
古事記の上巻を中心に読破する。適宜、対応する日本書紀の部分とを比較検討する。また万葉集についても可能な限り導入する。

[履修の条件]
基本的な、日本の宗教の源流、背景について学びます。

[講義概要]
現存する日本最古の書物としての『古事記』の上巻を中心に読んでいきます。中巻、下巻についても適宜取り上げます。また、比較資料として『万葉集』『日本書紀』も参考として使用しつつ、日本の宗教の源流を探訪します。文化、宗教、歴史等多角的に古代の日本を検証し、どのように日本人の宗教観が醸造されたかを学びます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　古事記　序文の構造について
第3回　古事記と日本書紀の共通点と相違
第4回　古事記本文　国生み神話（天地開闢）
第5回　古事記本文　黄泉と中国
第6回　古事記本文　「罪と罰」　スサノヲノミコト
第7回　日本の仏教　黎明期
第8回　日本の仏教　展開
第9回　日本の仏教　鎌倉仏教
第10回　仏教の将来について
第11回　チベット仏教について
第12回　ヨガと仏教
第13回　神道と仏教、キリスト教
第14回　日本宗教のまとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（50%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
積極的に講義とディスカッションに参加すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
古事記の音読をしますから、しっかりと読めるように準備すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートなど、コメントシートを使用して次回の講義で反映します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

[テキスト]
倉野憲司『古事記』岩波文庫12010円　ISBN 078400300013

世界の宗教

科目ナンバー	IHS2203-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格に対応します。

[到達目標]
各宗教の発生と歴史について基本的な考えについて概観する。それぞれの宗教が何を根本的に主張しているかを客観的に学んでいきます。三大宗教としてのキリスト教、イスラーム、仏教を中心に、古代からさまざまな地域における宗教を学び、それぞれの特徴を学ぶことにより敬意を持って理解を深めることができるよう

になることを目標とします。

[履修の条件]
世界の宗教に関心がある学生は参加して下さい。意欲的な学生の参加を希望します。初回のオリエンテーションには必ず出席をする事。

[講義概要]
それぞれの宗教がその起源から今日にいたるまで、どのような価値観を形成してきたのかについて概観します。また前期は特に宗教史の視点から歴史的にどのような変遷を遂げて来たのかに注目して講義を進めていきます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　全体構造を俯瞰する。
第2回　世界の先史・未開社会の宗教　宗教とは何か
第3回　古代宗教　その定義と現在
第4回　ユダヤ人の宗教(1)　伝統と現代
第5回　ユダヤ人の宗教(2)　その教えと誤解
第6回　キリスト教(1)　初代教会とその発展
第7回　キリスト教(2)　日本、アジア、アフリカへの宣教
第8回　イスラーム教(1)　基本構造とその教え
第9回　イスラーム教(2)　アジア、欧米への進展
第10回　ヒンズー教　インドの社会における宗教
第11回　仏教(1)　根本思想と時代背景
第12回　仏教(2)　中国、チベット、そして日本への広がり
第13回　中国人の宗教　道教を中心として
第14回　日本人の宗教　神道を中心として
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価(備考)]
発表を重視します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各宗教について、事前事後にしっかりとフォローすること。予習は課題図書を2時間、復習には2時間を目安にします。

[試験・レポート等のフィードバック]
各主要な三大宗教を中心として、理解を深めるために、適宜簡単な小テストを講義の終わりに実施する。また、基本用語を整理するためにレポートを課す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2、全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。本学の「ルターの宗教改革の精神」に基づき、比較宗教の視座から、特にキリスト教を基軸として、他の宗教との相違、共通点を深く認識し、理解することが出来る。

[テキスト]
村上重良『世界の宗教』岩波書店924円　ISBN 9784005000142

[備考]
発表を適宜課します。

民俗学

科目ナンバー	IHS 2204-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[到達目標]
民俗学の祖の一人である柳田国男を中心に、民俗学の世界を導入します。講義で視聴覚教材などいろいろな情報を提供しますから、各自がそれぞれの到達目標を設定して、簡単なフィールドワークを実施してもらいます。

[履修の条件]
民俗学は、フィールドワークが基盤にありますから、積極的に自分自身でプログラムを構築して実践することが求められます。オンディマンドには対応しません。

[講義概要]
柳田国男の「遠野物語」を手掛かりとして、その方法論を学びつつ、自分自身の身近な地域、特に神社仏閣、、そして隠れキリシタンの痕跡を探ってみます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　　民俗学とは何か
第2回　民俗学の世界と遠野物語
第3回　柳田国男と東北
第4回　東北地方と花巻　宮沢賢治の世界
第5回　遠野地方と河童、座敷童、おしら様他
第6回　語り部と民俗学　隠された伝承の発掘
第7回　隠れキリシタンと東北地方など
第8回　金山と隠れキリシタンの関わり
第9回　水戸と隠れキリシタン
第10回　会津と隠れキリシタン
第11回　十和田湖とキリスト教
第12回　伝説と伝承　平泉に残る民間伝承
第13回　伝承が伝説に移行するプロセス
第14回　まとめ
　　遠野物語の世界
第15回　―

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習(予習、復習)を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
最終回に、小テストを実施しますから、必ず出席すること。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深める。

［ テキスト ］
柳田国男『遠野物語』新潮社、473円 ISBN 9784101047065

［ 備考 ］
指定テキストをできるだけ早く準備すること。毎回、リーディングアサインメントを課します。

キリスト教美術特講

科目ナンバー	IHS2206-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
真下　弥生	

［ 科目補足情報 ］
＊「キリスト教美術特講」は2026年度は前期に開講。「美術史」は開講なし。

［ 到達目標 ］
キリスト教に関わる美術/主に造形芸術表現を、歴史的背景への洞察や複眼的な観察眼を総合的に用いながら、批判的視点を培いつつ鑑賞・分析する。

［ 履修の条件 ］
・高等教育課程の歴史（世界史、日本史等）を履修していることが望ましいが、未履修者も歓迎する。好奇心および柔軟な思考をもって、楽しみながら学ぶ姿勢を歓迎する。
・理由なく遅刻、早退をしないこと。出席が全体の2/3に満たない場合は、評価の対象としない。

［ 講義概要 ］
主に西洋における、キリスト教に関わる美術作品に焦点をあてて学ぶ。作品の検討はスライドを使用する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、デモンストレーション：複眼的にキリスト教美術を見る
第2回　美術とは何か、そして「キリスト教美術」とは何か、キリスト教美術の特徴・他の宗教美術との比較、キリスト教美術の持つ「問題」
第3回　キリスト教美術の時間軸概説1：主に西洋美術の流れ
第4回　キリスト教美術の時間軸概説2
第5回　キリスト教美術の時間軸概説3
第6回　キリスト教美術の時間軸概説4
第7回　日本のキリスト教美術1：16世紀
第8回　日本のキリスト教美術2：19世紀末以降
第9回　大学周辺キリスト教美術フィールド・トリップ（ルーテル学院大学・東京神学大学・国際基督教大学構内を歩き、学内のキリスト教美術や建築を実際に見学する）
第10回　物語とキリスト教美術1（「物語」とは何か、旧約聖書物語）
第11回　物語とキリスト教美術2（旧約聖書物語）
第12回　物語とキリスト教美術3（新約聖書物語：イエスの生涯）
第13回　物語とキリスト教美術4（新約聖書物語：降誕物語）
第14回　物語とキリスト教美術5（聖人伝説）・現代社会とキリスト教美術
第15回　学期末試験

［ 成績評価 ］
試験（50%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（0%）

［ 成績評価（備考） ］
講義内容に関する試験を学期末に実施する。
レポートは、学期中に各自キリスト教美術に関する展覧会/教会建築を見学し、その内容や感想を総合的に記述する。執筆要綱は学期中盤に配布・説明する。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
興味を持った展覧会やキリスト教に関わる建築に、積極的に足を運ぶことを勧める。
毎回の授業前、試験・レポート課題作成前には、講義のノートを見直し、これまで学んだことを復習すること。
→本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
試験・レポートの採点時に、分析・批評の手法や内容についてコメントを付して返却する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」キリスト教圏を主に、さまざまな文化圏の造形表現を通して、それぞれの作品に流れる歴史の蓄積と制作者の息遣いに触れ、踏み込んだ人間理解と共感を深める。
「3. 総合的・実践的な学習能力」「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」作品をさまざまな角度から把握・分析し、そこから導き出される客観的事実を踏まえて自身の意見を培い、またそれを自分の言葉で表現する。

［ テキスト ］
なし（参考図書リストおよびプリントを必要に応じて配布する）

［ 参考文献 ］
なし（第1回の講義で紹介する）

［ 備考 ］
授業計画の内容や順序は、受講生の関心等に合わせて変更する可能性がある。

キリスト教音楽実技Ⅰ

科目ナンバー	IHS2103-P
2単位：通年	1〜4年
湯口　依子、深井　李々子	

［科目補足情報］
実技演習の授業である。

［到達目標］
希望する鍵盤楽器の基礎的な技術を習得し、読譜力と表現力を身につける。

［履修の条件］
ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはJ.S.バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。通年での履修。充分な練習を行うこと。

［講義概要］
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術を学びながら教会音楽の作品を学ぶ。
個人レッスンの授業となるのでそれぞれが必要と思われる指導となる。

■授業計画

第1回　オリエンテーション。各々のレベルを確認し、レッスンの進め方やどのような曲に取り組むか説明し、課題を与える。
第2回　実技演習。初めて学ぶ楽器については（リードオルガンやパイプオルガン）楽器の特性や構造、弾き方などの説明をする。
第3回　実技演習。第3回目以降の授業においてはそれぞれのレベルに合わせてまた進み具合に合わせて練習の仕方なども含めた指導をし、課題を与えて実技演習となる。
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　実技演習。前期の総まとめ、および後期に取り組む課題を与える。
第15回　＿
第16回　＿
第17回　実技演習
第18回　実技演習
第19回　実技演習
第20回　実技演習
第21回　実技演習
第22回　実技演習
第23回　実技演習
第24回　実技演習
第25回　実技演習
第26回　実技演習
第27回　実技演習
第28回　実技演習
第29回　実技演習
第30回　実技演習
第31回　実技試験
第32回　＿

［成績評価］
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（70％）

［成績評価（備考）］
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にして取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分〜40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分ほどの準備で臨むことになる。14回の授業（レッスン）でおよそ56時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
実技試験時に口頭でコメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

［テキスト］
それぞれのレベルに合わせ個別に指定する。
例）ピアノ：「バイエルピアノ教則本」「メトードローズ・ピアノ教則本」「子どもと遊ぶピアノ曲」（音楽之友社）等
オルガン：「教会オルガン基礎教程」（パックスエンタープライズ）「80コラール前奏曲集」「Ｊ．Ｓ．バッハオルガン曲集」（ペータース）「オルガン曲集　やさしい讃美歌前奏曲集」等

［参考文献］
特になし

［備考］
特になし

キリスト教音楽実技 II

科目ナンバー	IHS 2206-P
1単位：前期1コマ	2〜4年
湯口　依子、深井　李々子	

［到達目標］
キリスト教音楽実技Ⅰをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

［履修の条件］
すでにキリスト教音楽実技Ⅰを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、またはJ.S.バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。充分な練習を行うこと。

［講義概要］
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。

■授業計画

第1回　オリエンテーション。キリスト教音楽実技Ⅰで習得した曲を踏まえて各々のレベルに合わせて課題曲を決める。
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　総まとめとして実技試験をする。
第15回　__

［成績評価］
試験（30%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（70%）

［成績評価（備考）］
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

［予習・復習の内容及びそれに必要な時間］
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30〜40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分の準備で臨み、14回の授業（レッスン）で56時間となる。

［試験・レポート等のフィードバック］
実技試験時に口頭でコメントする。

［ディプロマポリシーとの関連性］
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。、音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

［テキスト］
それぞれのレベルに合わせ個別に教師が曲（楽譜）を与える。

［参考文献］
特になし

［備考］
特になし

キリスト教音楽実技 III

科目ナンバー	IHS 2207-P
1単位：後期1コマ	2〜4年
湯口　依子、深井　李々子	

［到達目標］
キリスト教音楽実技Ⅱをすでに履修した者が更に演奏技術を向上させ、音楽的な表現力やレパートリーを広げる。また実際に実習や礼拝などで奉仕ができるようにする。

［履修の条件］
すでにキリスト教音楽実技Ⅱを履修した者。ピアノは保育士試験の準備を目的にする者、または教会や施設で奉仕を目的にする者が履修することができる。
リードオルガンはバイエルまたは同程度の教材終了者の履修が望ましい。
パイプオルガンはリードオルガン課程修了者、またはJ.S.バッハ「インヴェンション2声」程度が弾ける者が望ましい。
面接による担当者による許可が必要である。充分な練習を行うこと。

［講義概要］
ピアノは保育士試験準備を目的にする者は、「バイエル教則本」や子どもの歌の曲等のレッスンとなる。リードオルガンやパイプオ

ルガンの実技指導は教会や諸施設での礼拝、その他の奉仕に必要な音楽技術の習得ができるようそれぞれのレベルに合わせたレッスンとなる。自分が学ぶ楽器に対する理解を深め、基本的な技術及び更なるテクニックを身につけ、教会音楽の作品を中心にレベルアップを目指し学ぶ。また音楽的表現力を高めることを目標にする。

■授業計画

第1回　オリエンテーション。キリスト教音楽実技Ⅱで習得した曲を踏まえて各々のレベルに合わせて課題曲を決める。
第2回　実技演習
第3回　実技演習
第4回　実技演習
第5回　実技演習
第6回　実技演習
第7回　実技演習
第8回　実技演習
第9回　実技演習
第10回　実技演習
第11回　実技演習
第12回　実技演習
第13回　実技演習
第14回　奏まとめとして実技試験を行う。
第15回　__

[成績評価]
試験（30％）、レポート（0％）、小テスト（0％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（70％）

[成績評価（備考）]
平常点：毎回のレッスンのための準備、練習を充分にし向上心を持って取り組むかどうかの平常評価を重んじる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
個人レッスンなので与えられた課題を充分に練習してレッスンに臨むこと。一日に30分から40分程度の練習を重ねれば各レッスン毎におよそ240分の準備で臨み、14回の授業（レッスン）で56時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
実技試験時に口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。音楽の基礎的なことを学びながら実技レッスンを受けることにより楽譜の読み方や技術的な向上を身につけることができる。また、音楽を奏することにより感性を磨くことができる。、音楽を通しての奉仕やコミュニケーションなどの幅が広がる可能性が期待できる。

[テキスト]
それぞれのレベルに合わせて個別に教師が曲（楽譜）を与える。

[参考文献]
特になし

[備考]
特になし

現代スピリチュアルケア序論

科目ナンバー	ISC 2201-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
石居　基夫	

[到達目標]
20世紀後半に始まるホスピス運動の流れの中で見出されてきた「スピリチュアルケア」について、人間論、また死生学的な学びと合わせて、その理論と実際について概論的に学ぶ。

[履修の条件]
特にない。スピリチュアルケア科目群」で学びを深めていただくための基礎的な学びとして強いモチベーションを持って学んでほしい。

[講義概要]
対人援助職においては全人的理解がスタンダードとなり、その中で人間のスピリチュアリティに視点を持ったケアが求められるようになってきている。その意味でスピリチュアルケアのキリスト教的、あるいは宗教的なケアの背景を押さえながら、一般的な専門職におけるケアの理論と実践について入門的な講義を行う。

■授業計画

第1回　イントロダクション
第2回　ターミナルケアとスピリチュアルケア
第3回　人間学的基礎①
第4回　人間学的基礎②
第5回　死を考える①
第6回　死を考える②
第7回　宗教におけるケア①
第8回　宗教におけるケア②
第9回　対人援助におけるスピリチュアリティの理解
第10回　スピリチュアルペインの理解・評価と実際のケア①
第11回　スピリチュアルペインの理解・評価と実際のケア②
第12回　スピリチュアルペインの理解・評価と実際のケア③
第13回　スピリチュアルケアとパストラルケア
第14回　まとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（0％）、レポート（80％）、小テスト（0％）、課題提出（20％）、その他の評価方法（0％）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
講義に加え、並行的にテキストによる学びを深めること。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーや提出物については、個別に応答し、また必要に応じて次回授業の中で応答する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」について学ぶ。

［ テキスト ］
窪寺俊之『スピリチュアルケア学序説』（三輪書店・2004年）、ISBN：978-4895902991

［ 参考文献 ］
小澤竹俊『医療者のための実践　スピリチュアルケア』（日本医事新報社・2008年）
聖書、その他授業内で紹介

［ 備考 ］
「実務経験のある教員の科目」。牧師として死の臨床、またグリーフなどに関わる経験があり、その経験を理論的にスピリチュアルケアという概念に落とし込んでの授業となっている。

現代日本人のスピリチュアリティ

科目ナンバー	ISC2301-L
2単位：前期1コマ	3〜4年
石居　基夫	

［ 到達目標 ］
現代日本人のスピリチュアリティがどのように形成されているか。歴史から紐解きつつ、今を生きる私たちのスピリチュアリティを深く探る。

［ 履修の条件 ］
特になし。

［ 講義概要 ］
現代社会の精神性、宗教性を問うことを一つの柱とし、他方日本の宗教・文化に見られる霊的ニーズのあり方を今一つの柱とし、私たち自身のスピリチュアリティのあり方に迫る。

■授業計画

第1回　イントロダクション
第2回　スピリチュアリティとは何か〜死生学をふまえて〜
第3回　現代日本の精神性とスピリチュアリティ①
　　脱宗教の時代に
第4回　現代日本の精神性とスピリチュアリティ②
　　情報化社会を生きる
第5回　現代日本の精神性とスピリチュアリティ③
　　「虚しさ」の問題
第6回　現代日本の宗教性①
第7回　現代日本の宗教性②
第8回　日本の宗教性と死生観①
第9回　日本の宗教性と死生観②
第10回　自然と歴史
第11回　祖先儀礼
第12回　死と向かい合う
第13回　このいのちは誰のものか
第14回　まとめ
第15回　ー

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
日頃から、新聞や雑誌、小説などの題材をとおして「死と生」に関わる現代的スピリチュアリティに関心を持つように務める。授業の復習と読書やノート作成に毎週各授業におよそ200分の準備学習を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーには次回の授業で応答する。提出のレポートの返還。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
現代日本人のスピリチュアリティと死と生についての理解を学ぶことによって、「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。

［ テキスト ］
特になし。

［ 参考文献 ］
加藤周一他『日本人の死生観　上・下』（岩波新書）、柳田邦男『犠牲』（文春文庫）、石居基夫『キリスト教における死と葬儀〜現代の日本的霊性との出会い』（キリスト新聞社）
その他、授業内で参考文献を紹介する。

キリスト教とスピリチュアルケアの実際

科目ナンバー	ISC2401-L
2単位：後期1コマ	4年
河村　従彦	

［ 到達目標 ］
一般的なカウンセリングとキリスト教カウンセリングの異同を理解し、キリスト教の理念に基づく援助のあり方の基本を学びます。スピリチュアルケアの実際に焦点を合わせ、将来、心理援助に関わることも視野に、自己洞察を深めることを目標とします。

［ 履修の条件 ］
特になし

［ 講義概要 ］
毎回講義形式で授業を進めます。質問やコメントがある方は挙手してください。ディスカッションを歓迎します。知識を情報（information）として受け取るだけでなく、自己洞察を深め、自らのスタンスを構築する（formation）時間としてください。

■授業計画

第1回　オリエンテーション、キリスト教カウンセリングの意味、臨床心理学との異同
第2回　聖書の人間観　自立してゆく人間、信仰発達論

第3回　親子の臨床　キリスト論的視座
第4回　援助者の資質　傾聴・共感、自己洞察の深化、人格的責任範囲
第5回　援助関係の心理　投影、投影性同一視、転移・逆転移
第6回　苦難の臨床　聖書の視点とケア
第7回　スピリチュアリティ　存在の根拠への目線
第8回　スピリチュアル・ペインとケア
第9回　グリーフの理解と喪失への寄り添い
第10回　スピリチュアルケアの事例①　▼ビデオ視聴　「See You in the Morning」
第11回　ターミナルケア　たましいへの究極の援助、葬儀の意味
第12回　スピリチュアルケアの事例2　▼ビデオ視聴　「ヤコブへの手紙」
第13回　いのちの臨床、自死、出生前診断、安楽死
第14回　神さまイメージ理論　神さまイメージの内在化
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（20%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。参考図書の講読とともに、学期末の課題・レポート作成に役立つように、自己洞察について与えられた「気づき」は、ノートにまとめておくことをお勧めします。

[試験・レポート等のフィードバック]
リポートはコメントを加えて返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリスト教理念に土台を置いた心理の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、総合的な人間理解に立って、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。

[テキスト]
特に指定しない。毎回講義ノートを配布

[参考文献]
ハロルド・クシュナー著『なぜ私だけが苦しむのか』　岩波現代文庫　1080円+税
『ヨブ記に見る試練の意味』　いのちのことば社　1300円+税
『神さまイメージ豊かさ再発見　聖書から心理臨床まで』イムマヌエル出版事業部　1500円+税
『神さまイメージと恵みの世界』いのちのことば社　1000円+税
『ボクはこんなふうにして恵みを知った』　いのちのことば社　1400円+税
『悲しみとともに生きる　グリーフワークとスピリチュアルケア』清田直人、窪寺俊之著、いのちのことば社　1700円+税
その他、授業の中で提示します。

保育原理と保育士の専門性

科目ナンバー	ICF 2201-L
2単位：前期1コマ	2年
山梨　有子	

[到達目標]
保育の原理的体系的な知識及び考え方について理解する。また、保育の内容と方法の基本について理解する。
保育士の専門性について理解する。

[履修の条件]
履修の条件は特にありません。

[講義概要]
保育の概念と今日の保育の実態の概要を総合的に知る。
保育の目標や方法を知り、保育の総合的理解の上に保育者の役割について知る。
上記、保育の基本的な知識を基に保育の実際についての学びを深める。
基本的には講義形式だが、一部題材によっては、DVD や画像を活用する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　授業のねらい、方針について
保育とは
第2回　現在の保育の周辺状況
第3回　日本の保育の思想と歴史
第4回　諸外国の保育の思想と歴史
第5回　保育の意義①　児童の最善の利益とは
第6回　保育の意義②　保育所保育の理念と概念
第7回　保育の意義③　保育の社会的意義
第8回　保育所保育指針における保育の基本①　養護と教育の一体性・環境を通して行う保育
第9回　保育所保育指針における保育の基本②　発達過程に応じた保育
第10回　保育所保育指針における保育の基本③　保護者との密接な連携
第11回　保育の目標と方法①　保育の目標
第12回　保育の目標と方法②　生活と遊びを通して総合的に行う保育
第13回　保育の目標と方法③　保育の計画と評価
第14回　保育の現状と課題/保育士の専門性とは
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（50%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
最終レポートに加え，毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
身近な保育に関する時事情報に関心を持ちまとめておく。各自の積極的な予習・復習が望まれる。紹介文献を読んでおくこと。

本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計14回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回講義内容において行う。
課題レポートについては、次の授業の際にコメントを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。
この科目を履修することにより、子ども理解を深め、保育者のありかたについて検討し、子どもと保育を総合的に考えることができる。

［ テキスト ］
指定しない。適宜資料を配布する。

［ 参考文献 ］
①ISBN 978-4-577-81448-2厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（2018）フレーベル館320円+税

保育士特講 I

科目ナンバー	ICF 2101-L
2単位：前期1コマ	1〜4年
山梨　有子	

［ 到達目標 ］
保育の原理的体系的な知識及び考え方について理解する。また、保育の内容と方法の基本について理解する。
保育士の専門性について理解する。

［ 履修の条件 ］
履修の条件は特にありません。保育士資格を取得することを目指す方が対象です。

［ 講義概要 ］
保育の概念と今日の保育の実態の概要を総合的に知る。
保育の目標や方法を知り、保育の総合的理解の上に保育者の役割について知る。
上記、保育の基本的な知識を基に保育の実際についての学びを深める。
保育士資格取得に関わる基本的な科目の基本を学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　授業のねらい、方針について
　　保育とは
第2回　保育原理の基礎
第3回　保育原理を学ぶ
第4回　保育原理のまとめ
第5回　教育原理の基礎
第6回　教育原理を学ぶ
第7回　教育原理のまとめ
第8回　保育実習理論の基本①
第9回　保育実習理論の基本②
第10回　事例検討
第11回　保育の心理学の基礎
第12回　保育の心理学を学ぶ
第13回　保育の心理学のまとめ
第14回　これまでのまとめ
　　事例検討
第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（10%）

［ 成績評価（備考） ］
最終試験に加え，毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
身近な保育に関する時事情報に関心を持ちまとめておく。各自の積極的な予習・復習が望まれる。紹介文献を読んでおくこと。
各科目の過去3年分の過去問をまとめておく。
本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計14回の授業で60時間となる。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回講義内容において行う。
小テストに対するフィードバックを行う。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。
この科目を履修することにより、子ども理解を深め、保育者のありかたについて検討し、子どもと保育を総合的に考えることができる。

［ テキスト ］
①ISBN 978-4-577-81448-2厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（2018）フレーベル館320+税
②ISBN 978-4-7935-1304-6最新保育士養成講座「保育原理ー保育原理/乳児保育」（2019）全国社会福祉協議会　2090円
③ISBN 978-4-7935-1305-3最新保育士養成講座「教育原理」（2019）全国社会福祉協議会　2090円
④ISBN 978-4-7935-1312-1最新保育士養成講座「保育専門職と保育実践」（2019）全国社会福祉協議会　2090円
⑤ISBN 978-4-7935-1309-1最新保育士養成講座「子どもの発達理解と援助」2020

保育士特講 II

科目ナンバー	ICF 2102-L
2単位：後期1コマ	1〜4年
山梨　有子	

［ 到達目標 ］
保育の原理的体系的な知識及び考え方について理解する。ま

た、保育の内容と方法の基本について理解する。
保育士の専門性について理解する。

[履修の条件]
履修の条件は特にありません。保育士資格を取得することを目指す方が対象です。

[講義概要]
保育の概念と今日の保育の実態の概要を総合的に知る。
保育の目標や方法を知り、保育の総合的理解の上に保育者の役割について知る。
上記、保育の基本的な知識を基に保育の実際についての学びを深める。
保育士資格取得に関わる基本的な科目の基本を学ぶ。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　保育士特講Ⅰについて振り返る
　　授業のねらい、方針について
第2回　社会福祉の基礎
第3回　社会福祉を学ぶ
第4回　社会保育のまとめ
第5回　子ども家庭福祉の基礎
第6回　子ども家庭福祉/子ども家庭支援を学ぶ
第7回　子ども家庭福祉のまとめ
第8回　社会的養護の基礎
第9回　社会的養護を学ぶ
第10回　社会的養護のまとめ
第11回　子どもの健康と安全の基礎
第12回　子どもの健康と安全のまとめ
第13回　子どもの食と栄養の基礎
第14回　子どもの食と栄養のまとめ/全体まとめ
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（10%）

[成績評価（備考）]
最終試験に加え，毎回の授業の感想の記入および授業中に課す課題の提出によって成績評価を行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
身近な保育に関する時事情報に関心を持ちまとめておく。各自の積極的な予習・復習が望まれる。紹介文献を読んでおくこと。各科目の過去3年分の過去問をまとめておく。省庁発の関連資料などをまとめておく。
本科目では各授業回に200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。合計14回の授業で60時間となる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回講義内容において行う。
小テストに対するフィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。
この科目を履修することにより、子ども理解を深め、保育者のありかたについて検討し、子どもと保育を総合的に考えることができる。

[テキスト]
①ISBN 978-4-7935-1381-7「社会福祉」（2022）全国社会福祉協議会　2090円
②ISBN 978-4-7935-1380-0「子ども家庭福祉」（2022）全国社会福祉協議会　2090円
③ISBN 978-4-7935-1313-8「子ども家庭支援」（2019）全国社会福祉協議会　2090円
④ISBN 978-4-7935-1408-1「社会的養護と障害児保育」（2023）全国社会福祉協議会　2090円
⑤ISBN 978-4-7935-1311-7「子どもの健康と安全」（2019）2090円
⑥ISBN 978-4-7935-1311-4「子どもの食と栄養」（2019）2090

[参考文献]
①ISBN 978-4-577-81448-2厚生労働省編『保育所保育指針解説書』（2018）フレーベル館320+税

子どもと家族の心理福祉の諸課題

科目ナンバー	ICF 2202-L
2単位：前期1コマ	2年
加藤　純	

[科目補足情報]
2023年度以降に1年次入学した学生と、同カリキュラムに該当する編入生が対象です。

[到達目標]
1）子どもや家族の心理的課題と生活課題について各自が関心を持つ専門分野と関連付けて理解して、子どもと家族への総合的な支援について関心を持つ。
2）子どもの幸せに関わる課題を家族の状況と関連付けて理解する。
3）子どもや家族の心理的課題と生活課題を、さらに広く、社会の状況と関連付けて理解する。

[履修の条件]
参考図書を読んだりレポートを書いたり、授業外の時間をかなり必要とするので、十分な意欲を持って履修してください。

[講義概要]
子どもが成長の過程で体験する様々な心理的課題や社会生活の課題を把握し理解する視点について学ぶ科目です。
この科目では課題に関する子どもや家族への支援までは学びません。
・社会生活の課題に対する制度政策的な対策は「児童・家庭福祉論」で学びます。
・対人的な支援方法は「子どものグリーフワークとプレイセラピー」「福祉心理学」などで学びます。
社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格取得に必要な指定科目ではありませんが、児童福祉論（社会福祉士の指定科目）

を理解するために重要な内容を学びます。

■授業計画

第1回　「児童福祉」と「児童臨床心理」
オリエンテーション（授業の目標、授業の進め方と内容、カリキュラム上の位置づけ、課題と成績評価）
第2回　児童福祉の目的（子どもの幸せ、ニーズ階層説）
役割理論（養育者の役割）と役割遂行に必要な資源（養育条件と養育環境）
第3回　ニーズの連続性（普通の育児～育児不安～児童虐待などを例に）
援助の連続性（子育て支援～補完～保護～家庭代替）
第4回　家族構成の変化とニーズ（親の離婚と子どもの心理的課題）
第5回　養育条件の変化（ひとり親家庭の生活課題）
第6回　家族の多様性と子どもの心理・生活課題1（里親・養子縁組）
第7回　家族の多様性と子どもの心理・生活課題2（里親・養子縁組）
第8回　社会状況の変化とニーズ（養護ニーズ発生理由の変遷）
第9回　家族内の課題と子どもの心理・生活課題1（アルコール依存症と家族）
第10回　家族内の課題と子どもの心理・生活課題2（家族内暴力のメカニズム）
第11回　家族内の課題と子どもの心理・生活課題3（家族内暴力への社会的な対応）
第12回　学校での課題と子どもの心理・生活課題1（いじめの理解と法律）
第13回　学校での課題と子どもの心理・生活課題2（不登校：医学・心理・社会福祉の視点から）
第14回　社会状況の変化と子どもの権利思想の展開
第15回　期末試験

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（70%）、その他の評価方法（30%）

［ 成績評価（備考） ］
「課題」はグーグルフォームによる課題です。
「その他の評価方法」は期末の自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は3点、遅刻は1点の減点とします。

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
授業時間内に必要な内容の全てを紹介できないので、参考文献の関連箇所を読んでください。
新聞やニュース、テレビドラマ、映画などを観ながら、子どもの気持ちや子どもの幸せについて考えてみてください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
課題はグーグルフォームにより提出してください。提出すると正誤の判断や解説が表示されます。
希望する場合は、提出内容を確認する自動返信メールをお送りします。課題提出時にメールアドレスを記入してください。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に特に関わる科目です。この科目を履修することにより、対人援助職として子どもや家族の心理面と社会生活の課題を包括的に理解する能力を身に付けることを目指します。

［ テキスト ］
1.ポータルを通して授業資料を提供します。
2.グーグルフォームにより資料と課題を提示します。
3.特定の教科書は使いません。ぜひ、下記の参考文献の中から関心を持った書籍をお読みください。

［ 参考文献 ］
参考文献は図書館でリザーブブックとします。その他、必要に応じて授業の中で文献を紹介します。
白澤政和、岡田喜篤、高橋重宏他編（2003）『社会福祉士のための基礎知識 II』第3章と第4章（ISBN 978-4805824160）絶版
春日キスヨ（1989）『父子家庭を生きる』勁草書房（ISBN 978-4326651023）3,080円
庄司洋子他（2002）『家族・児童福祉（改訂）』有斐閣（ISBN 978-4641071995）絶版
北川清一（2005）『児童福祉施設と実践方法［三訂］』中央法規（ISBN 978-4805825778）絶版
小松江里子（1996）『若葉のころ』講談社（ISBN 978-4062649049）998円
小林桜児（2016）『人を信じられない病』日本評論社（ISBN 978-4535984370）2,090円
正高信男（1998）『いじめを許す心理』岩波書店（ISBN 978-4000027830）絶版

［ 備考 ］
実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および教育相談室での教育相談員としての経験を活かして、子どもや家族の生活課題や学校問題について指導します。

小児と高齢者の栄養

科目ナンバー	ICF 2203-L
2単位：前期1コマ	2～4年
江草　愛	

［ 科目補足情報 ］
オンデマンド授業形式で開講する

［ 到達目標 ］
1.健康な体と心を育むために必要不可欠な「栄養」の基礎について理解できるようになる。
2. ライフステージの中でも特にケアが必要な小児期と老齢期の栄養管理に関する知識の習得を通して、自己の食生活にも応用できる能力を身につける。

[履修の条件]
高校で生物基礎を履修した者は、「細胞とエネルギー」、「遺伝情報とタンパク質合成」、「体内環境の維持のしくみ」の単元について復習をしておくことが望ましい。

[講義概要]
栄養と栄養素の基本について学んだ上で、小児(胎児期～学童期)、妊婦、高齢者の各ステージで必要となる栄養サポートについて掘り下げて解説を行う。授業終了時にリアクションペーパーを介して質問を受け付け、その次の授業時に解説を行う。

■授業計画
第1回　オリエンテーション(講義概要の解説と参考書の紹介)、「食品のおいしさと栄養・機能」に関する講義−その1−
第2回　「食品のおいしさと栄養・機能」に関する講義−その2−
第3回　「食品のおいしさと栄養・機能」に関する講義−その3−
第4回　身体のしくみと栄養素の消化・吸収
第5回　代謝と代謝調節
第6回　糖質・脂質・タンパク質の栄養
第7回　糖質・脂質・タンパク質の栄養
第8回　ビタミン・ミネラル・非栄養素の働き
第9回　遺伝子発現と栄養−時間栄養学−
第10回　胎児期(妊婦)と乳児期の食と栄養
第11回　幼児期と学童期の食と栄養
第12回　高齢者の食と栄養−身体機能の変化−
第13回　高齢者の食と栄養−低栄養と認知症−
第14回　「小児と高齢者の栄養」の総括
第15回　試験
第16回　-

[成績評価]
試験(70%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(30%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回あたり予習プリントの学習を含む事前学習が100分間、復習を含めた事後学習が100分間必要であり、計200分(約3時間半)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
試験の解答・解説は実施した最終回に行う。課題のフィードバックは、授業回毎に行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
本科目の履修を通して、小児から高齢者までの全人的なヒューマン・ケアに必要な栄養に関する専門知識を習得し、自身や周りの方の栄養管理についても実践出来るような総合的な能力を身につける。

[テキスト]
講義に必要な資料を適宜配布する。

[参考文献]
(予復習に活用したい人のみ購入)
1. 五明紀春、渡邉早苗、山田哲雄編「スタンダード人間栄養学基礎栄養学」朝倉書店　2700円
2. 堤ちはる、土井正子　編著「子どもの食と栄養」萌文書林　2400円
3. 下田妙子　編集「高齢者の栄養管理ガイドブック」文光堂　2600円

[備考]
特になし

卒業演習 I

科目ナンバー	IAD2301-S
2単位：後期1コマ	3年
石川　与志也、植松　晃子、田副　真美、石居　基夫、上村　敏文、宮本　新、加藤　純、青木　絢子	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的方法論を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

[履修の条件]
キリスト教領域・キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理領域・臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。3年生前期の6月頃にコース毎にゼミ配属の説明会がありますので必ず出席してください。説明会ののち希望調査を行い、ゼミの担当教員が前期の間に決まります。臨床心理コース担当教員の「卒業演習」を希望する場合は、「心理学研究法Ⅰ」、「心理学研究法Ⅲ」、「心理学基礎実験」、「質問紙調査法実習」を履修済みか並行履修することが必要です。そのため、後期の時間割では、担当教員が開設している「卒業演習Ⅰ」の曜日時間に履修をすることになります。子ども分野・子ども支援コースで本科目を履修したい学生は、子ども支援コース担当教員にご相談下さい。

[講義概要]
ゼミ形式で、卒業研究・論文の取り組みについて学びます。各自の専門分野に基づいた問題関心を掘り起こし、研究のテーマ設定、さらに具体的なテーゼの立て方を学びます。

■授業計画
第1回　イントロダクション

第2回　テーマの設定の仕方1
第3回　テーマの設定の仕方2
第4回　テーマの設定の仕方3
第5回　文献研究1
第6回　文献研究2
第7回　文献研究3
第8回　研究企画書の作成1
第9回　研究企画書の作成2
第10回　研究企画書の作成3
第11回　研究テーマの発表1
第12回　研究テーマの発表2
第13回　研究テーマの発表3
第14回　研究の総括
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業演習 II

科目ナンバー	IAD2401-S
2単位：前期1コマ	4年
石川　与志也、植松　晃子、田副　真美、石居　基夫、上村　敏文、宮本　新、加藤　純、青木　絢子	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習 I・II・III」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
先行研究にあたり学術論文の取り組みについて学びを深め、テーマに即した議論の深め方や専門分野における方法論に具体的に習熟し、論文執筆のための論述を展開する力を養う。

[履修の条件]
キリスト教領域・キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理領域・臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。原則的に卒業演習 I に引き続き、同じ指導教員に指導を受けます。

[講義概要]
原則的に卒業演習 I に引き続き、同じ指導教員に指導を受けながら、研究をすすめます。
論文やプレゼンテーションの構成を考え、計画に基づいて研究と調査を実施し、結果の分析を行い、考察を経て論文を完成させる。また、執筆に伴う新たな課題の整理方法についても学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回　研究指導①
第3回　研究指導②
第4回　研究指導③
第5回　研究指導④
第6回　研究指導⑤
第7回　研究指導⑥
第8回　研究指導⑦
第9回　研究指導⑧
第10回　研究指導⑨
第11回　研究指導⑩
第12回　研究指導⑪
第13回　研究指導⑫
第14回　まとめ
第15回　－

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります

卒業演習 III

科目ナンバー	IAD 2402-S
2単位：後期1コマ	4年
石川　与志也、植松　晃子、田副　真美、石居　基夫、上村　敏文、宮本　新、加藤　純、青木　絢子	

[科目補足情報]
※4年生で「卒業論文」を執筆する場合は、必ず「卒業論文」を履修登録してください。「卒業演習Ⅲ」だけでは、「卒業論文」の履修登録にはなりません。

[到達目標]
研究資料としての第一次、第二次資料の収集、先行研究の学び方から論文の書き方についての基本的方法論を学んでいきます。また、必要に応じて共同研究や量的調査の具体化、研究倫理の課題についての基礎的知識を習得します。自分の問題関心を具体的な研究へと前進させ、スケジューリングを行い、指導を受けながら論文執筆へと結びつけていくプロセスを学びます。

[履修の条件]
キリスト教領域・キリスト教人間学コースでは、特に必須ではありませんが、卒論を執筆する学生は必ず受講してください。特に、大学院あるいは神学校に進学を考えている学生にとっては、卒論を書いていることが要求される場合がありますから、受講を勧めます。
臨床心理領域・臨床心理コースで卒業論文を作成予定の学生は必須です。卒業論文は書かないがゼミに参加したい学生も履修可能です。還俗的に「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」と同じ教員に指導を受けます。

[講義概要]
卒業論文の書き方を学び、完成に向かって研究をすすめる方法を学ぶ。自分で企画した研究を、確実に前進させ、中間発表をへて最終的に論文として完成させるプロセスを学ぶ。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　研究指導は、研究方法によって、進め方は異なるので、指導教員と相談しながらすすめること。
第2回　研究指導①
第3回　研究指導②
第4回　研究指導③
第5回　研究指導④
第6回　研究指導⑤
第7回　研究指導⑥
第8回　研究指導⑦
第9回　研究指導⑧
第10回　研究指導⑨
第11回　研究指導⑩
第12回　研究指導⑪
第13回　研究指導⑫
第14回　まとめ
第15回　–

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は、学生主体で進めていくものです。その時点までの研究の進捗を資料を含めて、ゼミの時間に提示し、それに対するコメントを指導教員やメンバーからフィードバックされて少しずつ研究が進みます。そういう意味で論文作成のプロセスすべてが予習であり、復習です。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
発表やレジュメに関しては、その場で適宜コメントします。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」と「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この科目を履修することでものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになる。そして他者の思いや考えの理解と抱えている問題への共感、自己の思索の深化と思いの言語化。人間関係の構築、意見の交換、社会への考えの表明などを、状況に応じて行うことができるようになる。

[テキスト]
特になし

[参考文献]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

卒業論文

科目ナンバー	IAD2401-S
4単位：通年1コマ	4年
福島　喜代子、原島　博、髙山　由美子、山口　麻衣、石川　与志也、植松　晃子、加藤　純、田副　真美、青木　絢子、石居　基夫、上村　敏文、宮本　新	

[到達目標]
卒業論文を作成することにより、大学における専門科目および一般教養科目その他学習の総合として、一定の分野において自分の研究をし、それをまとめて発表できる能力を持つことを目標とする。

[履修の条件]
「卒業演習（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）」、又は「ソーシャルワーク演習Ⅴ、Ⅵ」において指導教員の指導のもと論文の作成方法を学ぶこと。

[講義概要]
指導教員の指導のもと、学生ごとのペースで研究を進める。論文執筆に関しては、「執筆要項」に従うこと。ゼミでの発表、2回の中間発表会で、その時点での研究の進展具合を報告する。特別な事情のない限り、2回の中間発表ができなかった場合は、卒業論文の提出はできない（ただし、ゼミ論として、指導教員に提出することは可能である）。提出前に指導教員に読了してもらい、定められた日までに卒業論文を提出する。

■授業計画
第1回　個別指導
第2回　個別指導
第3回　個別指導
第4回　個別指導
第5回　個別指導
第6回　個別指導
第7回　個別指導
第8回　個別指導
第9回　個別指導
第10回　個別指導
第11回　個別指導
第12回　個別指導
第13回　個別指導
第14回　個別指導
第15回　個別指導
第16回　個別指導
第17回　個別指導
第18回　個別指導
第19回　個別指導
第20回　個別指導
第21回　個別指導
第22回　個別指導
第23回　個別指導
第24回　個別指導
第25回　個別指導
第26回　個別指導
第27回　個別指導
第28回　まとめ
第29回　ー
第30回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（100%）

[成績評価（備考）]
中間発表、最終発表、口頭試問等による合議評価

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
研究は学生が主体的に進めるものである。その中にあって、論文テーマは受講する演習に関連するものであることが望ましく、指導教員とよく相談の上、論文執筆を進める。指導教員その他の教員からのコメントや情報提供などをもとに進めることが大切である。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自の卒業論文の内容について、常に修正・訂正を行い指導する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「3. 総合的・実践的な学習能力」でものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言をし、実行できるようになること。

[テキスト]
研究の進捗に応じて適宜指導教員よりアドバイス、指示があります。

総合人間学

科目ナンバー	GFR1101-L
2単位：前期1コマ	1年　必修
原島　博、ジャン・プレゲンズ、上村　敏文、加藤　純、石居　基夫、田副　真美、髙山　由美子、山口　麻衣	

[到達目標]
(1) 人間とは何か、人間の尊厳とは何かを多面的に考察し理解することができる。
(2) 地域、日本、世界を構成する私たちはどのような社会づくりをめざすべきなのか。それを学際的に考察し理解することができる。
(3) 大学の理念、5つのコースの内容、アプローチ、連携のシステムを理解し、自らの職業選択などに活かすことができる。

[履修の条件]
総合人間学部の必修科目です。

[講義概要]
人間を魂とこころと生活、家族や地域社会と関わる存在として総合的に理解し、対人援助に関わる高度専門職業人としての基礎を培う。そのために、キリスト教の人間理解と世界への洞察を軸と

して、人間存在を包括的・総合的に理解する。特に、「いのち」を巡る諸問題を探求する力と人間の存在を重んじる心を涵養し、他者との関係性に生きること、その倫理について学ぶ。さらに、総合人間学としての学びを具体的なキャリアに結びつけながら、学びをふかめていく。

■授業計画

第1回　総合人間学とは
第2回　キリスト教と人間理解
第3回　宗教・文化と人間理解
第4回　福祉と人間
第5回　地域と人間
第6回　臨床心理から見た人間理解
第7回　こころと人間
第8回　言語習得とコミュニケーション
第9回　総合人間学　演習①
第10回　総合人間学　演習②
第11回　総合人間学　演習③
第12回　総合人間学　演習④
第13回　総合人間学　演習⑤
第14回　総合人間学　演習⑥
第15回　総合人間学をふりかえって　　レポート・テスト

[成績評価]
試験（0%）、レポート（80%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
「その他の評価方法」とは、毎回提出するリアクションペーパーの内容や、授業時における質疑応答などの内容により評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
指定テキストの各単元の要約と重要語句について、また、毎回配布される講義資料により予習・復習をすること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを原則として次回の講義内容において行う。また、授業内での質問等はその都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性、3.総合的・実践的な学習能力、4.他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力に該当する。宗教、生活、子ども、こころ、いのち、言語、文化など学際的に人間理解を進めることにより、人間を包括的にとらえることができる価値・知識・技術を身につける。

[テキスト]
授業の中で各教員により資料が配布される。

[参考文献]
授業の中で各担当教員より参考文献が紹介される。

児童福祉の諸問題

科目ナンバー	ICF3201-L
2単位：前期1コマ	2年
加藤　純	

[科目補足情報]
2022年度以前に1年次入学した学生、2023年度に2年次編入、2024年度に3年次編入学をした学生が対象です。

[到達目標]
1)「各自が関心を持つ専門領域」と「子どもや家族の生活課題」との関連を理解して、児童福祉への関心を高める。
2)子どもの幸せに関わる課題を家族の状況と関連付けて理解する。
3)子どもや家族の生活課題を、さらに広く、社会の状況と関連付けて理解する。

[履修の条件]
参考図書を読んだりレポートを書いたり、授業外の時間をかなり必要とするので、十分な意欲を持って履修してください。

[講義概要]
子どもや家族が直面する「諸問題」を理解する視点を学ぶ科目です。
「問題」に対する制度政策的な対策は「児童・家庭福祉論」、実践的支援方法は「福祉心理学」などで学びます。
社会福祉士や精神保健福祉士の受験資格取得に必要な指定科目ではありませんが、児童・家庭福祉論（社会福祉士の指定科目）を理解するために重要な内容を学びます。

■授業計画

第1回　「児童福祉」とは何か。
　　オリエンテーション（授業の目標、授業の進め方と内容、カリキュラム上の位置づけ、課題と成績評価）
第2回　児童福祉の目的（子どもの幸せ、ニーズ階層説）
　　役割理論（養育者の役割）と役割遂行に必要な資源（養育条件と養育環境）
第3回　ニーズの連続性（普通の育児～育児不安～児童虐待などを例に）
　　援助の連続性（子育て支援～補完～保護～家庭代替）
第4回　家族構成の変化とニーズ（親の離婚と子どもの心理的課題）
第5回　養育条件の変化（ひとり親家庭の生活課題）
第6回　家族の多様性と児童福祉1（里親・養子縁組）
第7回　家族の多様性と児童福祉2（里親・養子縁組）
第8回　社会状況の変化とニーズ（養護ニーズ発生理由の変遷）
第9回　家族内の課題と児童福祉1（アルコール依存症と家族）
第10回　家族内の課題と児童福祉2（家族内暴力のメカニズム）
第11回　家族内の課題と児童福祉3（家族内暴力への社会的な対応）
第12回　学校での課題と児童福祉1（いじめの理解と法律）

第13回　学校での課題と児童福祉2(不登校：医学・心理・社会福祉の視点から)
第14回　社会状況の変化と福祉理念(子どもの権利思想の展開)
第15回　期末試験

[成績評価]
試験(0%)、レポート(0%)、小テスト(0%)、課題提出(70%)、その他の評価方法(30%)

[成績評価(備考)]
「課題」はグーグルフォームによる課題です。
「その他の評価方法」は期末の自己評価などです。すべての授業に出席することを前提として、欠席は3点、遅刻は1点の減点とします。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業時間内に必要な内容の全てを紹介できないので、参考文献の関連箇所を読んでください。
新聞やニュース、テレビドラマ、映画などを観ながら、子どもの気持ちや子どもの幸せについて考えてみてください。
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
課題はグーグルフォームにより提出してください。提出すると正誤の判断や解説が表示されます。
希望する場合は、提出内容を確認する自動返信メールをお送りします。課題提出時にメールアドレスを記入してください。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」にに特に関わる科目です。この科目を履修することにより、対人援助職として子どもや家族の心理面と社会生活の課題を包括的に理解する能力を身に付けることを目指します。

[テキスト]
1.ポータルを通して授業資料を提供します。
2.グーグルフォームにより資料と課題を提示します。
3.特定の教科書は使いません。ぜひ、下記の参考文献の中から関心を持った書籍をお読みください。

[参考文献]
参考文献は図書館でリザーブブックとします。その他、必要に応じて授業の中で文献を紹介します。
白澤政和、岡田喜篤、高橋重宏他編(2003)『社会福祉士のための基礎知識 II』中央法規出版、第3章と第4章(ISBN978-4805824160)絶版
ウィンチェスター(2015訳)『だいじょうぶ！親の離婚』日本評論社(ISBN978-4535563384)絶版
春日キスヨ(1989)『父子家庭を生きる』勁草書房(ISBN978-4326651023)3,080円
庄司洋子他(2002)『家族・児童福祉(改訂)』有斐閣(ISBN978-4641071995)絶版
北川清一(2005)『児童福祉施設と実践方法[三訂]』中央法規(ISBN978-4805825778)絶版
小松江里子(1996)『若葉のころ』講談社(ISBN978-4062649049)998円
小林桜児(2016)『人を信じられない病』日本評論社(ISBN978-4535984370)2,090円
正高信男(1998)『いじめを許す心理』岩波書店(ISBN978-4000027830)絶版

[備考]
実務経験のある教員による科目。児童養護施設での児童指導員および教育相談室での教育相談員としての経験を活かして、子どもや家族の生活課題や学校問題について指導します。

人間・いのち・世界 I

科目ナンバー	ICP 3301-L
2単位：前期1・後期1コマ	3〜4年
石居　基夫	

※この科目は、前期又は後期どちらかの履修登録になります。当該年度内で再履修は出来ません。

[到達目標]
人間とは何か、生きるとはどういうことか。私たちの生を深く掘り下げる視点に触れ、「いのち」の問題に迫っていくためのキリスト教的な思索の基本を身につけることを目標とする。

[履修の条件]
「キリスト教概論」などキリスト教関連科目の基礎科目を履修していることが条件となる。
また、「いのち学序説」を履修していることが望ましい。

[講義概要]
関係の存在としての私たち人間のあり方を深く学びながら、生きることの神秘と可能性とを宗教(キリスト教)という地平から探っていく。

■授業計画
第1回　イントロダクション・人間、また宗教に関して学ぶ。
第2回　人間とは何か①
第3回　人間とは何か②
第4回　世界とは何か①
第5回　世界とは何か②
第6回　生きることの意味と価値
第7回　わたしがわたしであること
第8回　心とからだ
第9回　自然の中で
第10回　働くこと
第11回　性と結婚①
第12回　性と結婚②
第13回　人間の罪
第14回　人間・いのち・世界
第15回　-

[成績評価]
試験(0%)、レポート(80%)、小テスト(0%)、課題提出(20%)、

その他の評価方法（0%）

［ 予習・復習の内容及びそれに必要な時間 ］
各クラスで紹介する聖書、本等を出来る限り読むこと、とりあげるトピックに関して、自分の考察を深めることにおよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

［ 試験・レポート等のフィードバック ］
リアクションペーパーや提出物について次回授業内で応答する。

［ ディプロマポリシーとの関連性 ］
「1.いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」、「2. 全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」及び「3.総合的・実践的な学習能力」に関わり、キリスト教的視点に立って、人間といのちの本質を深く学ぶ。

［ テキスト ］
聖書（日本聖書協会・新共同訳）ISBN：978-4820212058

［ 参考文献 ］
パスカル『パンセ』、サン・テグジュペリ『星の王子様』など
授業内で紹介する。

キリスト教の倫理

科目ナンバー	ICP 3208-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
田島　靖則	

［ 科目補足情報 ］
全講義14回のうち、5回以上の欠席で失格となります。

［ 到達目標 ］
自由、平等、博愛といった近代以降は自明とされてきた価値観もまた、西欧キリスト教の精神的土台の上に成立した観念である。しかし、そういった近代的価値観の成立は一朝一夕に成ったものではない。本講義は、近現代の人間観を構成するキリスト教的価値観の成立を、歴史的経過を追いながら学び、現代を生きる私たちを支えるキリスト教的人間観について考えてみたい。

［ 履修の条件 ］
キリスト教の基礎知識を前提とした講義であるため、1年次で履修すべきキリスト教科目の単位取得者を対象とする。

［ 講義概要 ］
キリスト教の価値観に基づいて建国されたアメリカ合衆国においても、「平等」についての考え方は1960年代までは優生思想のパラダイムを脱することは出来なかった。本講義においては、アフリカ系米国人の公民権運動を中心として、それ以前のキリスト教倫理の視点とそれ以後の視点の違いを検証する。また合わせて、人種差別を受けたアフリカ系米国人の多くが、なぜ抑圧者の宗教であったキリスト教を受け入れたのかについても考えたい。アフリカ系米国人の公民権運動は、マーティン・ルーサー・キングJr.牧師と、マルコムXの主張を軸として学びを進める。

■授業計画

第1回　絵本「ちびくろさんぼ」はなぜ廃刊になったのか?
アフリカ系米国人を誕生させた奴隷制度について
米国の国民的画家、ノーマン・ロックウェルの描くアフリカ系米国人の姿
映画「アミスタッド」

第2回　アフリカ系米国人はなぜ、アメリカ合衆国独立宣言（1776年）によって庇護されなかったのか?
「ジム・クロー法」の成立まで
アフリカ系米国人のアイデンティティー
ブッカーT.ワシントン、W. E. B.デュボイスの思想

第3回　デイヴィッド・ウォーカーの指摘
アフリカ系米国人キリスト教徒の誕生
アフリカン・メソジスト・エピスコパル教会の創設
W.E.B.デュボイスの思想1.

第4回　W.E.B.デュボイスの思想2.
米国の教育と人種隔離政策
リトルロックのセントラル高校の事例
ミシシッピ大学のJ.メレディスの事例

第5回　ローザ・パークス事件（1955年）とキング牧師
モンゴメリー・バス・ボイコット運動

第6回　非暴力主義の源泉、マハトマ・ガンジーの「サティヤグラハ」思想
マーティン・ルーサー・キングJr.牧師の生い立ちとキリスト教思想

第7回　キング牧師の「非暴力部隊」とその「入隊誓約」
バス・ボイコット運動から統合教育運動、フリーダムライド運動へ
映画「ミシシッピー・バーニング」

第8回　プロテスト・ソングとしての黒人音楽1
ビリー・ホリディ「Strange Fruit」
もう一人の黒人指導者、マルコムX.映画「マルコムX」

第9回　マルコムXの「民族的威信」と「黒人民族主義」
マルコムXのキング牧師批判
キング牧師は「アンクル・トム」なのか?
「左の頬をも向けなさい式」は正しい方法か?

第10回　アフリカ系米国人と犯罪ロドニー・キング事件
現代の憎悪犯罪（ヘイト・クライム）
社会の縮図であるアメリカ合衆国の軍隊

第11回　民族主義と宗教
プロテスト・ソングとしての黒人音楽2
マヘリア・ジャクソン「Joshua fit the battle of Jericho」「Let the church roll on」
「Come on children, let's sing」

第12回　ジェイムズ・H・コーンの思想1.『黒人霊歌とブルース〜アメリカ黒人の信仰と神学〜』

第13回　ジェイムズ・H・コーンの思想2.『黒人霊歌とブルース〜アメリカ黒人の信仰と神学〜』

第14回　ジェイムズ・H・コーンの思想3.『黒人霊歌とブルース〜アメリカ黒人の信仰と神学〜』

第15回　-

［ 成績評価 ］
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（100%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
毎授業後に提出するリアクションペーパー（100%）
リアクションペーパーは、当日の講義の振り返り（要点の整理）と感想、意見をその内容とする。
なお、以下に記すとおり各自の自由な研究成果を付け加えることは加点の対象となる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
絵本「ちびくろさんぼ」、ハリエット・ビーチャー・ストウ「アンクルトムの小屋」は事前に読んでおくこと。各自が好みのアフリカ系米国人に関する芸術（文学、音楽）について調べ、授業中にディスカッションできる知識を得ておくことが望ましい。各講義の前後に予習復習を行うこと。合計14回の講義で46時間程度の準備学習時間が求められる。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーは、当日の講義の振り返り（要点の整理）と感想、意見をその内容とする。
なお、以下に記すとおり各自の自由な研究成果を付け加えることは加点の対象となる。
リアクションペーパーは講義のあった週の土曜日23時59分までに、指定のメールアドレスに送付すること。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」「他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」に該当する。この講義で取り上げる事例は、すべて「他者との出会い」と「他者理解」をテーマとしている。

[テキスト]
テキスト購入は不要

[参考文献]
ジェイムズ・H.コーン『夢か悪夢か・キング牧師とマルコムX』日本基督教団出版1996年 ISBN 4-8184-0250-8
ジェイムズ・H.コーン『黒人霊歌とブルース』新教出版社　1983年　ISBN 4-400-42320-4
Booker T. Washington,"Up from Slavery" Dover Publications, 1995 ISBN 0-486-28738-6
W.E.B. DuBois,"The Souls of Black Folk" Dover Publications, 1994 ISBN 0-486-28041-1

臨床心理英語論文読解 I

科目ナンバー	ICP 2203-S
2単位：前期1コマ	2〜4年
植松　晃子	

[到達目標]
英語で心理学の研究論文を正しく読む力を身に付ける。研究論文がいかに構成されているかを学び、一文、一パラグラフごとにしっかり理解する。また問題、方法、結果、考察で何が表現されているかを適切に読み取ることができるようにする。

[履修の条件]
2年生以上が履修できる。欠席せず参加し、心理学の英語の論文を読めるようになりたいと熱意を持った学生を求める。心理学分野の研究論文を読むため、前年までに臨床心理フレッシュマンゼミ、統計法の授業を受講し、日本語の心理学の専門書や論文に触れていることが望ましい。これらの授業を受講していない場合や聴講の希望がある場合でも受講できるが、事前に相談をしてください。

[講義概要]
通常授業の場合は、英語論文を読んでいく予定である。授業では予習が求められ、毎回の課題がある。基本的にシラバスに従うが、受講生の人数や授業展開によって適宜変更がある。初回授業で使用する論文を紹介する。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
　：心理学の研究論文の構成・特徴についての解説と授業で読む論文の紹介
第2回　論文を読み構造を掴む1
第3回　論文を読み構造を掴む2
第4回　論文を読み構造を掴む3
第5回　論文を読み構造を掴む4
第6回　論文を読み構造を掴む5
第7回　英語論文を読む1
第8回　英語論文を読む2
第9回　英語論文を読む3
第10回　英語論文を読む4
第11回　英語論文を読む5
第12回　英語論文を読む6
第13回　英語論文を読む7
第14回　英語論文を読む8
第15回　-

[成績評価]
試験（70%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（10%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
試験は英語論文の翻訳課題によって評価する。予習や復習をして積極的に参加することが望ましい。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各自、基本的に毎回の課題として積極的な予習復習を求めます。授業中に修正した点については復習することで英語論文に精通していってください。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。

[試験・レポート等のフィードバック]
各自が予習してきた箇所については授業で確認する。勉強方法について、クラスの中で情報共有する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
3. 総合的・実践的な学習能力に該当する。英文の学術論文に触れることで、英語力を用いて心理学研究の方法論や研究によって分かる内容の理解を深めることができる。

[テキスト]
適宜紹介する

[参考文献]
適宜紹介する

キリスト教フレッシュマンゼミ

科目ナンバー	ICS 2101-S
2単位：後期1コマ	1年
宮本　新	

[到達目標]
科目としての人間学ならびにキリスト教人間学の内容は幅広くまた深い。その範囲とアプローチについて入門的な知識を習得する。

[履修の条件]
人間学について総合的に取り組むことに関心がある人。

[講義概要]
キリスト教を基盤とした人間学と諸学専門分野の人間学的アプローチから総合的に学ぶオムニバス形式の講座。「キリスト教人間学」を入門的に学び、各自の関心や研究テーマを探究する演習科目となる。

■授業計画
第1回　序論：キリスト教学と人間学～その研究範囲
第2回　聖書とリテラシー①　図書館活用術
第3回　聖書とリテラシー②　読む力、生きる力
第4回　キリスト教といのち①
第5回　キリスト教といのち②
第6回　キリスト教と歴史①
第7回　キリスト教と歴史②
第8回　宗教と文化①
第9回　宗教と文化②
第10回　宗教と文化③
第11回　宗教と文化④
第12回　キリスト教と現代世界①
第13回　キリスト教と現代世界②
第14回　まとめ：研究発表
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（70%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（30%）

[成績評価（備考）]
期末レポートと各授業への積極的な参加。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。主に授業等で紹介された参考文献にあたること、また学期末のレポートにいたる予備的考察にあてる。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業ごとのディカッションや質問についてはクラス内で深め、フィードバックを行います。また発表やレポートについては授業内で適宜口頭でコメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1. いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。本学ディプロマ1はキリスト教総体の理念と接点がある。キリスト教とその文献を考察し、その思想と実際を批判的に検討し、多面的かつ総合的な思考する術を学習する。

[テキスト]
随時配布する。

キリスト教特講ゼミⅠ

科目ナンバー	ICS 2203-S
2単位：前期又は後期	2～4年
石居　基夫、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。また、インディペンデントスタディ等で、各自の関心領域について、指導教員とよく協議をして、内容を決定していくことになりますが、全体のバランス上、必ずしも希望に添うことは難しいこともあります。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース主任などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。基本的には、神学校の講義を受講することが前提ですが、神学校のカリキュラムにシークエンスもありますから、履修登録前に、必ず担当の教員と相談をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識2
第10回　神学の基礎知識3
第11回　神学の基礎知識4
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ

第14回　神学の学びについて
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミII

科目ナンバー	ICS2204-S
2単位：前期又は後期	2〜4年
石居　基夫、宮本　新、上村　敏文	

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。また、インディペンデントスタディ等で、各自の関心領域について、指導教員とよく協議をして、内容を決定していくことになりますが、全体のバランス上、必ずしも希望に添うことは難しいこともあります。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース主任などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。基本的には、神学校の講義を受講することが前提ですが、神学校のカリキュラムにシークエンスもありますから、履修登録前に、必ず担当の教員と相談をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画
第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識2
第10回　神学の基礎知識3
第11回　神学の基礎知識4
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

キリスト教特講ゼミIII

科目ナンバー	ICS2205-S
2単位：前期又は後期	2〜4年
石居　基夫、宮本　新、上村　敏文	

[科目補足情報]
基本的には神学校の講義を受講する場合に、事前に担当教員と必ず了解を得ること。また、インディペンデントスタディの場合にも同様に希望する教員の了解を得ること。了解がない場合には受講出来ない場合もあります。

[到達目標]
キリスト教神学の基礎的な学びを深めること。特に、聖書、キリスト教神学の基礎的力と専門的知識を身に付けることを目標とする。

[履修の条件]
学部のキリスト教概論は履修済み、聖書入門なども履修していることが望ましい。必ずコース長などの履修指導を受け、具体的な学習方法について確認をすること。

[講義概要]
キリスト教神学の基礎的な力をつける。聖書神学、教義学、神学史など受講生の関心に応じて学びを展開する。

■授業計画

第1回　イントロダクション・学びについての全体的計画とテキスト、方法などについて
第2回　聖書と神学
第3回　聖書と神学2
第4回　聖書と神学3
第5回　聖書と神学4
第6回　聖書と神学5
第7回　聖書と神学6
第8回　神学の基礎知識
第9回　神学の基礎知識2
第10回　神学の基礎知識3
第11回　神学の基礎知識4
第12回　教会と神学
第13回　学びのまとめ
第14回　神学の学びについて
第15回　ー

[成績評価]

試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(0%)、課題提出(50%)、その他の評価方法(0%)

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

聖書及びテキストの読書などの予習と講義録の確認と復習など各授業回200分の準備学習を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]

担当教員があらかじめ面談の上、リアクションペーパー、レポート、提出物などに対応を伝える。

[ディプロマポリシーとの関連性]

「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」、及び「3.総合的・実践的な学習能力」を養う。特にキリスト教についての専門的、歴史的理解を深めつつ、それを通して神学的思考と分析の力をつける。

食といのちと環境 I

科目ナンバー	ICS 2205-L
2単位：前期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]

前期は農業、林業、地球温暖化など、環境問題を中心に学びます。あらゆる分野において危機的状況が叫ばれています。有限の地球資源に対して、どのような気持ちで立ち向かっていくのかを真摯に学んでいきます。

[到達目標]

さまざまの文献、資料を参照し、また映像資料を見ながら、食といのちと環境について多角的に学びます。地球の温暖化、原発問題、食糧危機などさまざまな課題について議論をしながら深めていきます。それぞれの立場で、将来の地球をしっかりと他人事ではない議論をして洞察を深めます。それぞれの体力、目標を最大限尊重しますが、自分のハードルをやや高めに設定して、積極的に講義などに取り組み、高い意識をもって環境問題に対応できる能力をしっかりとつけていくことを目標にします。

[履修の条件]

前期の間に2回、週末などを利用して、郊外の農地(埼玉県坂戸近郊、学内)の農業体験の実習を行う(軍手を各自準備のこと)。オリエンテーションには必ず出席のこと。アフリカから欧米、そして日本と、将来の地球全体について大きな視野で学んでいきますから、「食」「いのち」「環境」に関心がある人を歓迎しますし、また積極的に意識を高くもってこの重要な課題にチャレンジしてほしいと思います。適宜、学内外の環境調査(学内の植生、近隣の農業など)、また必要に応じて軽い作業(除草、ガーデニング)もします。軍手を各自用意すること。オンディマンドには対応しません。

[講義概要]

日本の風土と環境、そして世界の環境について、「食といのちと環境」の見地から学んでいきます。いわゆる弥生時代以降、あるいは現代の最新の研究ではすでに縄文時代から行われ始めていたと考えられる稲作と、それにまつわる文化、宗教(神道)の形成と変化、里山の形成と農業とその崩壊。鎮守の森の戦後急激な現象と都市化の影響。化石燃料を中心としたエネルギーの20世紀における消費量の急激な増加と、二酸化炭素の増大、そしてフロンガスとオゾン層の破壊などなど、従来の高度成長、競争的資本主義による根本的な社会構造の変化と危機的状況。いかにそれを克服していくかは、「意識の変化」しかありません。これからの世代が、しっかりと高い「意識」をもち、また世界が注目し始めている、縄文文化と神道の中に、その一つの打開策を見出したいと思います。「うみ　やま　あひだ」という自主映画が、小さな輪から大きな輪になりつつあり、フランスなど海外でも上映の依頼が来始めています。日本だけでなく、欧米諸国でも限られた地球資源をいかに大切に使わせていただくかということがこれからの時代にもっとも求められています。福島の原発問題も含めて、賛否両論のそれぞれの立場を把握しつつ、自然エネルギーのあり方、そして各自の「意識」をしっかりと高くもつための情報提供をしていきます。そして有機農法から自然農法の理念を学びます。栃木県西那須にあるアジア学院の事例を紹介しながら、アジア、アフリカの研修生を受け入れ、現代の最先端の農法ではなく、江戸時代の循環式農法をなぜ教えそして求められているのかを学びます。希望者には研修の情報を適宜供与します。文明社会が栄えたあとに必ず生じている砂漠化について、古代と現代を比較論証していきます。とくにアメリカの農業、そして水資源の争奪戦などを紹介していきます。すでに初代ワシントン大統領の時代からあった土地問題について、学者の間からどのような警鐘が鳴らされてきたかを学びます。最後に「いのち」ということに対して、昨今注目され始めている「平穏死」について多角的に学びます。死は必然的に、そして誰にでも予定されている事実として、徒然草にも記述があるように、生前からしっかりと学んでおく必要があります。前期はその導入をします。「いのち」の観点から、末期がんで余命1ヶ月と宣告された方(アルコール依存症、家庭崩壊など)が一つの出会いにより、新たな「いのち」を授かった実録を学びます。

■授業計画

第1回　オリエンテーション　全体構造と講義の進め方につい

て
第2回　日本と米作り　自然との適応と文化
第3回　稲作文化と神道　農業と祭、儀礼
第4回　森と農業　その密接な関係と歴史
森林資源と農業について、南アルプスの自然農法について学ぶ
第5回　環境汚染と地球　微生物と土
第6回　原発と自然エネルギー　両立をはばんできたものと今後
第7回　福島と農業　「農業、やめますか?続けますか?」
第8回　自然農業の可能性　最高かつ手がかからない農業を考える
近未来の農業について喫緊の重要課題として討議する
第9回　有機農法とその歴史　その間違えた方向性について
会津農民福音学校の立体農業について
第10回　アフリカと農業　過去、現在、そして将来
コーヒー園などの試み
第11回　植林文化と日本　そのユニークな取り組み
第12回　砂漠化の現状と将来　アフリカ、中国、そしてアメリカを中心として
第13回　いのちの尊厳と死　だれしもが迎える「その時」をより豊かにするために
第14回　今後の「生き方」についてのまとめと同時にリアクションペーパーなどで各自の意見などを書いてもらいます。
第15回　ー

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(20%)、その他の評価方法(0%)

[成績評価(備考)]
積極的な講義の参加(ディスカッション)を望みます。毎回、リアクションペーパーなどで確認すると同時に、しっかりと講義の内容について深めるために課題図書のリーディングを指示します。しっかりとテキストを読んでいることが必要条件として求められています。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習(予習・復習等)を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
講義の中で適宜ミニレポート、試験を実施します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「1、いのちを尊び、他者を喜んで支える人間性」に該当する。この科目を履修することにより自然、社会、文化、環境に対して、人間として特に「生きる意味、意義」を中心として、総合的に考え、学んでいくことができるようにします。「食」「いのち」「環境」をキーワードとして、この困難な世の中にいかに力強く「生きて」いくかを真剣に学んでいきたいと思っています。

[テキスト]
正木高志『木を植えましょう』南方新社　1000円(自費出版なので、著者に直接まとめて注文致します)

[参考文献]

[備考]
参考文献は、講義の中でも適宜紹介していきます。基本的には配布資料。

世界の宗教 I

科目ナンバー	ICS 2207-L
2単位：前期1コマ	2〜4年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格に対応します。

[到達目標]
各宗教の発生と歴史について基本的な考えについて概観する。それぞれの宗教が何を根本的に主張しているかを客観的に学んでいきます。三大宗教としてのキリスト教、イスラーム、仏教を中心に、古代からさまざまな地域における宗教を学び、それぞれの特徴を学ぶことにより敬意を持って理解を深めることができるようになることを目標とします。

[履修の条件]
世界の宗教に関心がある学生は参加して下さい。意欲的な学生の参加を希望します。初回のオリエンテーションには必ず出席をする事。

[講義概要]
それぞれの宗教がその起源から今日にいたるまで、どのような価値観を形成してきたのかについて概観します。また前期は特に宗教史の視点から歴史的にどのような変遷を遂げて来たのかに注目して講義を進めていきます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション　全体構造を俯瞰する。
第2回　世界の先史・未開社会の宗教　宗教とは何か
第3回　古代宗教　その定義と現在
第4回　ユダヤ人の宗教(1)　伝統と現代
第5回　ユダヤ人の宗教(2)　その教えと誤解
第6回　キリスト教(1)　初代教会とその発展
第7回　キリスト教(2)　日本、アジア、アフリカへの宣教
第8回　イスラーム教(1)　基本構造とその教え
第9回　イスラーム教(2)　アジア、欧米への進展
第10回　ヒンズー教　インドの社会における宗教
第11回　仏教(1)　根本思想と時代背景
第12回　仏教(2)　中国、チベット、そして日本への広がり
第13回　中国人の宗教　道教を中心として
第14回　日本人の宗教　神道を中心として
第15回　レポート

[成績評価]
試験(0%)、レポート(50%)、小テスト(30%)、課題提出(0%)、その他の評価方法(20%)

[成績評価（備考）]
発表を重視します。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
各宗教について、事前事後にしっかりとフォローすること。予習は課題図書を2時間、復習には2時間を目安にします。

[試験・レポート等のフィードバック]
各主要な三大宗教を中心として、理解を深めるために、適宜簡単な小テストを講義の終わりに実施する。また、基本用語を整理するためにレポートを課す。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2、全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。本学の「ルターの宗教改革の精神」に基づき、比較宗教の視座から、特にキリスト教を基軸として、他の宗教との相違、共通点を深く認識し、理解することが出来る。

[テキスト]
村上重良『世界の宗教』岩波書店924円　ISBN 9784005000142

[備考]
発表を適宜課します。

キリスト教カウンセリング

科目ナンバー	ICS 2308-L
2単位：後期1コマ	3〜4年
河村　従彦	

[到達目標]
一般的なカウンセリングとキリスト教カウンセリングの異同を理解します。臨床心理学の知見をベースに、キリスト教の神学と理念に基づく心理援助のあり方を学びます。将来、心理援助に関わることも視野に、自己洞察を深めることを目標とします。

[履修の条件]
特になし

[講義概要]
毎回講義形式で授業を進めます。質問やコメントがある方は挙手してください。ディスカッションを歓迎します。知識を情報（information）として受け取るだけでなく、自己洞察を深め、自らのスタンスを構築する（formation）時間としてください。

■授業計画
第1回　オリエンテーション、キリスト教カウンセリングの意味、臨床心理学との異同
第2回　聖書の人間観　自立してゆく人間、信仰発達論
第3回　親子の臨床　キリスト論的視座
第4回　援助者の資質　傾聴・共感、自己洞察の深化、人格的責任範囲
第5回　援助関係の心理　投影、投影性同一視、転移・逆転移
第6回　苦難の臨床　聖書の視点とケア
第7回　スピリチュアリティ　存在の根拠への目線
第8回　スピリチュアル・ペインとケア
第9回　グリーフの理解と喪失への寄り添い
第10回　スピリチュアルケアの事例①　♪ビデオ視聴　「See You in the Morning」
第11回　ターミナルケア　たましいへの究極の援助、葬儀の意味
第12回　スピリチュアルケアの事例2　♪ビデオ視聴　「ヤコブへの手紙」
第13回　いのちの臨床、自死、出生前診断、安楽死
第14回　神さまイメージ理論　神さまイメージの内在化
第15回　レポート

[成績評価]
試験（0%）、レポート（40%）、小テスト（20%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（0%）

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とします。参考図書の講読とともに、学期末の課題・レポート作成に役立つように、自己洞察について与えられた「気づき」は、ノートにまとめておくことをお勧めします。

[試験・レポート等のフィードバック]
リポートはコメントを加えて返却します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリスト教理念に土台を置いた心理の高度な専門職に必要とされる価値、知識、技術を身につけ、総合的な人間理解に立って、人間性豊かな人生を送ることができるよう援助できるようになること。

[テキスト]
特に指定しない。毎回講義ノートを配布

[参考文献]
ハロルド・クシュナー著『なぜ私だけが苦しむのか』　岩波現代文庫　1080円+税
『ヨブ記に見る試練の意味』　いのちのことば社　1300円+税
『神さまイメージ豊かさ再発見　聖書から心理臨床まで』イムマヌエル出版事業部　1500円+税
『神さまイメージと恵みの世界』いのちのことば社　1000円+税
『ボクはこんなふうにして恵みを知った』　いのちのことば社　1400円+税
『悲しみとともに生きる　グリーフワークとスピリチュアルケア』清田直人、窪寺俊之著、いのちのことば社　1700円+税
その他、授業の中で提示します。

旧約聖書の人間観

科目ナンバー	ICS2313-L
2単位：後期1コマ	3年
安田　真由子	

[到達目標]
旧約聖書のさまざまな登場人物を通して、人間や社会の描かれ方について知ること。また、旧約聖書の物語を現代社会の問題と照らし合わせながら、人間が生きるとはどういうことかについて考えを深めること。

[履修の条件]
旧約聖書に興味のある人。

[講義概要]
旧約聖書に登場する人々がどのような文化・価値観・社会の中で生き、自らの信仰と歴史を形成していったのかを学ぶ。旧約聖書と周辺史料を参照しながら、各テーマについて1〜2回の授業時間を使う。基本的に講義形式の授業になるが、一部の題材については視覚教材を活用し、グループディスカッションを行う。

■授業計画

第1回　オリエンテーション―講義の概要、進め方、テキストやその他の参考文献、課題と評価方法などの確認を行う。
第2回　旧約聖書を読むとは―旧約聖書を読む際に必要な知識についての概要と、物語を読んで解釈するとはどういうことかを学ぶ。
第3回　神の似姿としての人間―創造物語（創世記1−2章）を通して、神の形にかたどって人間が造られたとはどういうことかを学ぶ。
第4回　人の悪―いわゆる堕罪の物語（創世記3章）とノアの方舟の物語などを通して、人間の悪とその影響が何かを学ぶ。
第5回　男と女?―創世記とルツ記を通して、人間のジェンダーやセクシュアリティについて考える。
第6回　これまでのまとめ①―これまでの授業で触れられたトピックをディスカッションで掘り下げていく。
第7回　労働と休息―旧約聖書は、人間の罪の報いとして労働の義務が負わされたこと、安息日には休まなければならないことを示している。これらを通して、労働と休息について考える。
第8回　搾取、腐敗、告発―預言者たちの言葉（ミカ書やエレミヤ書など）を通して、経済搾取や政治的腐敗、そしてそれらを告発するということについて学ぶ。
第9回　これまでのまとめ②―授業内容を振り返る記述式のテストを行う。配布された資料やノートを参考にしながら、質問に答えること。課題は授業内で提出を原則とするが、終わらない場合は次回の授業で提出。
第10回　正しい人の苦難―ヨブ記を通して、不条理や神義論について考える。
第11回　語られない人々―ヨブの妻と娘たちの描写から、物語で周縁化されている登場人物と、公正な表象について考える。
第12回　これまでのまとめ③―これまでの授業で触れられたトピックをディスカッションで掘り下げていく。
第13回　女たちのサバイバル―タマルやラハブの物語をとおして、女たちのサバイバルについて、それが物語られていることの意義について学ぶ。
第14回　物語ること、解釈すること―旧約聖書の歴史記述などを通して、現実を物語化（歴史化）することについて考える。
第15回　試験

[成績評価]
試験（40%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（40%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
試験と課題を中心に、毎回のフィードバック、授業内での質問に対する学生の回答などを評価する。「その他」にはディスカッションでの貢献が含まれる。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
授業で扱う聖書の箇所および参考文献を、考えながら熟読すること。課題・期末試験の準備を行うこと。ディスカッション回の前には、授業内容を丁寧に復習し、自分の考えをまとめておくこと。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーやディスカッションに対するフィードバックを次回の講義において行う。課題は、訂正やコメントを入れて返却する。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「4. 他者理解と自己表現のためのコミュニケーション能力」新約聖書の本文を通して、古代の人々の信仰と発想と思想を理解することによって、現代に生きる人々の価値観、言動を支えているものをより深く理解することができる。

[テキスト]
『旧約聖書』（新共同訳あるいは聖書協会共同訳が望ましい）

[参考文献]
必要に応じて授業内で指示。

[備考]
シラバスは、学習の進行具合によって変更の可能性あり。

日本の宗教 I

科目ナンバー	ICS2216-L
2単位：後期1コマ	2〜3年
上村　敏文	

[科目補足情報]
宗教文化士の資格試験に対応します。

[到達目標]
古事記の上巻を中心に読破する。適宜、対応する日本書紀の部分とを比較検討する。また万葉集についても可能な限り導入する。

[履修の条件]
基本的な、日本の宗教の源流、背景について学びます。

[講義概要]
現存する日本最古の書物としての『古事記』の上巻を中心に読んでいきます。中巻、下巻についても適宜取り上げます。また、比較資料として『万葉集』『日本書紀』も参考として使用しつつ、日本の宗教の源流を探訪します。文化、宗教、歴史等多角的に古代の日本を検証し、どのように日本人の宗教観が醸造されたかを学びます。

■授業計画
第1回　オリエンテーション
第2回　古事記　序文の構造について
第3回　古事記と日本書紀の共通点と相違
第4回　古事記本文　国生み神話（天地開闢）
第5回　古事記本文　黄泉と中国
第6回　古事記本文　「罪と罰」　スサノヲノミコト
第7回　日本の仏教　黎明期
第8回　日本の仏教　展開
第9回　日本の仏教　鎌倉仏教
第10回　仏教の将来について
第11回　チベット仏教について
第12回　ヨガと仏教
第13回　神道と仏教、キリスト教
第14回　日本宗教のまとめ
第15回　ー

[成績評価]
試験（0%）、レポート（30%）、小テスト（50%）、課題提出（20%）、その他の評価方法（0%）

[成績評価（備考）]
積極的に講義とディスカッションに参加すること。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
古事記の音読をしますから、しっかりと読めるように準備すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
レポートなど、コメントシートを使用して次回の講義で反映します。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。キリストの風土と、日本の宗教がいかに融合できるかをより深く理解できるようになる。

[テキスト]
倉野憲司『古事記』岩波文庫 12010円　ISBN 078400300013

権利擁護と成年後見制度

科目ナンバー	ISW2105-L
2単位：前期1コマ	1〜2年
戸井　宏紀	

[到達目標]
1.権利擁護を支える法の基礎を理解するとともに、成年後見制度の手続きについて具体的に説明できる。
2.権利擁護の意義と支える仕組みについて理解し、その主な担い手の活動と特徴、および専門職の役割について説明できる。
3.社会福祉専門職としてどのように権利擁護活動にかかわるか、自らの視点を述べられる。

[履修の条件]
本科目は、社会福祉士国家試験の指定科目であり、国家試験受験希望者は「憲法」とあわせて必ず履修すること。

[講義概要]
権利擁護とは、判断能力が不十分な人や意思や権利を主張することが困難なため、社会的に不利益を被っている人の自己決定や権利の主張を支援したり代弁したりすることにより、本人の権利を擁護することである。具体的には、成年後見制度やオンブズマン、日常生活自立支援事業などを通して行われる実践活動である。
本科目では、権利擁護と成年後見制度に関する基本的な知識を習得するとともに、社会福祉専門職として権利擁護実践上必要となる、視点を身につけることを目標とする。

■授業計画
第1回　コース概要、ソーシャルワークと権利擁護実践
第2回　法の基礎および日本国憲法の理解
第3回　行政法の理解
第4回　民法の理解
第5回　成年後見制度（1）　成年後見制度の概要
第6回　成年後見制度（2）　成年後見
第7回　成年後見制度（3）　保佐・補助
第8回　成年後見制度（4）　任意後見制度
第9回　成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業、および意思決定支援
第10回　権利擁護にかかわる組織・団体
第11回　権利擁護にかかわる専門職の役割1（弁護士、司法書士、医師等）
第12回　権利擁護にかかわる専門職の役割2（社会福祉士：新たな倫理綱領と行動規範から）
第13回　権利擁護の意義と支える仕組み1（障害福祉事例）
第14回　権利擁護の意義と支える仕組み2（高齢福祉事例）
第15回　試験
第16回　-

[成績評価]
試験（80%）、レポート（0%）、小テスト（0%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（20%）

[成績評価（備考）]
授業中の質問に対して答える姿勢がとれていること。正答でな

ければ評価対象とならない訳ではなく、質問を正確に聞き、講義資料・新聞・TV 等で予習・復習した範囲で答える努力を示すことが大切である。それに対して評価する。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
少子高齢社会における高齢者の実態、知的障がい者や精神障がい者を取り巻く状況などについて、新聞記事やＴＶニュース等に関心を持つこと。また、授業中に配布された資料で必ず復習すること。本科目では各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習等）を必要とする。

[試験・レポート等のフィードバック]
リアクションペーパーに対するフィードバックを次回の講義内容において行う。授業中の口頭質問に対する解答については、その都度コメントする。

[ディプロマポリシーとの関連性]
「2.全人的なヒューマンケアに必要な高度な専門性」および「3.総合的・実践的な学習能力」に該当する。本科目を学ぶことにより、人権と生活を守り、人間性豊かな人生を送ることが出来るよう援助するために福祉の専門職に必要な価値、知識を得ることができる。また、ものごとの本質を把握し、問題点の発見、分析、事態の改善、解決策の提言・実行できる学習能力を得ることができる。

[テキスト]
テキストは使用しない。毎回講義資料を配布する。

[参考文献]
『権利擁護を支える法制度』（中央法規）
その他参考文献は、授業内にて紹介します。

社会福祉特講 A

科目ナンバー	ISW2412-L
2単位：後期1コマ	4年
山口　麻衣、福島　喜代子、岸　千代、鈴木　喜子、西原　雄次郎、浅野　貴博	

[到達目標]
社会福祉士国家試験受験科目のうち、主に専門科目についての必要な知識を獲得する。

[履修の条件]
社会福祉士国家試験の受験を予定していること。

[講義概要]
社会福祉士国家試験の受験に必要な知識を獲得することを目的として、社会福祉士の国家試験科目の中から、主に専門科目を取り上げる。なお、取り上げる科目の順序は変更する場合がある。

■授業計画

第1回　オリエンテーション/社会福祉士国家試験受験の心構え
第2回　小テスト（模擬試験）①
第3回　ソーシャルワークの基盤と専門職①
第4回　ソーシャルワークの基盤と専門職②
第5回　ソーシャルワークの理論と方法①
第6回　ソーシャルワークの理論と方法②
第7回　高齢者福祉
第8回　児童・家庭福祉
第9回　福祉サービスの組織と経営
第10回　社会福祉調査の基礎
第11回　小テスト（模擬試験）②
第12回　小テスト（模擬試験）③
第13回　小テスト（模擬試験）④
第14回　小テスト（模擬試験）⑤
第15回　-

[成績評価]
試験（0%）、レポート（0%）、小テスト（50%）、課題提出（0%）、その他の評価方法（50%）

[成績評価（備考）]
評価は授業内に実施する小テストと授業時の応答によって行う。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]
本科目では、各授業回におよそ200分の準備学習（予習・復習）が必要となる。社会福祉士国家試験に合格するためには講義以外での自主的な学びが不可欠であるので、自身の受験勉強計画をしっかりと立て、継続的な学びをすることを前提に出席すること。次回取り上げる科目については、必ず予習をしておくこと。研究を自ら行うこと。そして、本講義で再確認したこと、理解できなかったこと、あらたに発見したこと等についても自ら研究し、その上で必要に応じて教員と質疑応答を行うこと。

[試験・レポート等のフィードバック]
授業時の質問等については適宜対応し、フィードバックを行う。

[ディプロマポリシーとの関連性]
2「全人的なヒューマン・ケアに必要な高度な専門性」に該当する。この科目を履修することによって社会福祉専門職に必要な知識と技術、課題解決力を身につける。

[テキスト]
テキストは使用しない。

[参考文献]
参考文献は授業で紹介する。

[備考]
実務経験のある教員による科目
ソーシャルワーカーとしての経験を活かして、社会福祉士国家試験の受験に必要な科目に関する講義を行う。

臨床心理特講 A（大学院進学支援講座）

科目ナンバー	ICP 2227-L
1単位：前期1コマ	2〜4年
黒岩　千枝	

[到達目標]

本講義では，受講者が心理学系または臨床心理学系の大学院の受験準備に主体的に取り組めるようになることを目標とします。また，進路に関する目標を各自で設定できることを目指し，自身の職業適性や関心のある研究テーマについて方向性を深めることを目標とします。

1：大学院の試験の仕組みの基本を理解する。

2：専門試験に向けての基礎知識を身につける。

3：関心のある研究テーマについて考え、理解を深めることができるようになる。

[履修の条件]

大学卒業後あるいは近い将来，心理学・臨床心理学系の大学院への進学を考えている2〜4年生が対象です。

※大学院の進学を見据え、就職進路相談室による説明会などを活用して進路を考え、目標を持って参加することを期待します。

※大学4年生の履修も可能です。ただし、本授業は受験時期に十分な余裕をもって学習を進めることを目的としているため、直近の受験対策を目的とした内容ではない点をご理解ください。

[講義概要]

本講義では，心理学・臨床心理学系の大学院進学を目指す受講者の目標設定を支援します。

具体的には，①大学院の試験の仕組み，②心理学の各領域のトピックの学習（専門知識に関する問題への解答），③研究テーマの設定について学びます。

授業はパワーポイントを用いて行います。

■授業計画

第1回　オリエンテーション,大学院受験に向けた心構えと勉強方法

第2回　大学院試験と大学院の選び方について

第3回　重要用語・人物の知識整①：認知心理学
　　大学院についての調査報告①

第4回　重要用語・人物の知識整②：発達心理学
　　大学院についての調査報告②

第5回　重要用語・人物の知識整③：学習心理学
　　大学院についての調査報告③

第6回　重要用語・人物の知識整④：臨床心理学
　　大学院についての調査報告④

第7回　研究計画の立て方と書き方

第8回　-

[成績評価]

試験（0％）、レポート（50％）、小テスト（20％）、課題提出（0％）、その他の評価方法（30％）

[成績評価（備考）]

レポート（進学候補先となる大学院を調査した結果の報告）と専門知識に関する問題への回答、研究計画書の作成によって成績評価を行います。

[予習・復習の内容及びそれに必要な時間]

1：関心に応じて進学先候補となる大学院をインターネットや資料請求によって，情報収集を行うこと

2：予習として，「重要用語・人物の知識整理」回では，対応する領域に関して専門用語を確認しておくこと。

3：復習として，正答と解説を示した資料をもとに専門用語を確認すること。

[試験・レポート等のフィードバック]

授業の感想・質問などに対するフィードバックは次回の講義において行います。

[ディプロマポリシーとの関連性]

「3. 総合的・実践的な学習能力」に該当する。

この科目習得することで，心理職を志す者としての態度，自主的に学ぶ学習能力を身に付けることができるようになることを目指す。